

資 料 編

最終報告資料集

1. 高校・学科の設置状況
2. 高校の概要
3. 学科の概要
4. 将来の学校数
5. 活力と魅力ある学校づくり
6. 高校教育のあり方
7. 地域の望ましい再編の姿
8. 中山間地域の高校のあり方
9. 地域協議会の設置
10. 再編の視点
 - (1) 生徒数の減少
 - (2) 高校の統合基準と適正規模
 - (3) 生徒の進学希望と適正配置
 - (4) 地理的条件と地域バランス
 - (5) 魅力ある学校づくり
 - (6) 効率的な施設整備
11. パブリックコメントの概要
12. 地域別説明会の概要
13. 用語解説
14. 審議経過
 - (1) 審議日程
 - (2) 審議内容
 - (3) 設置要綱・委員名簿

1. 高校・学科の設置状況

全日制公立高校の設置状況

【県立高校】

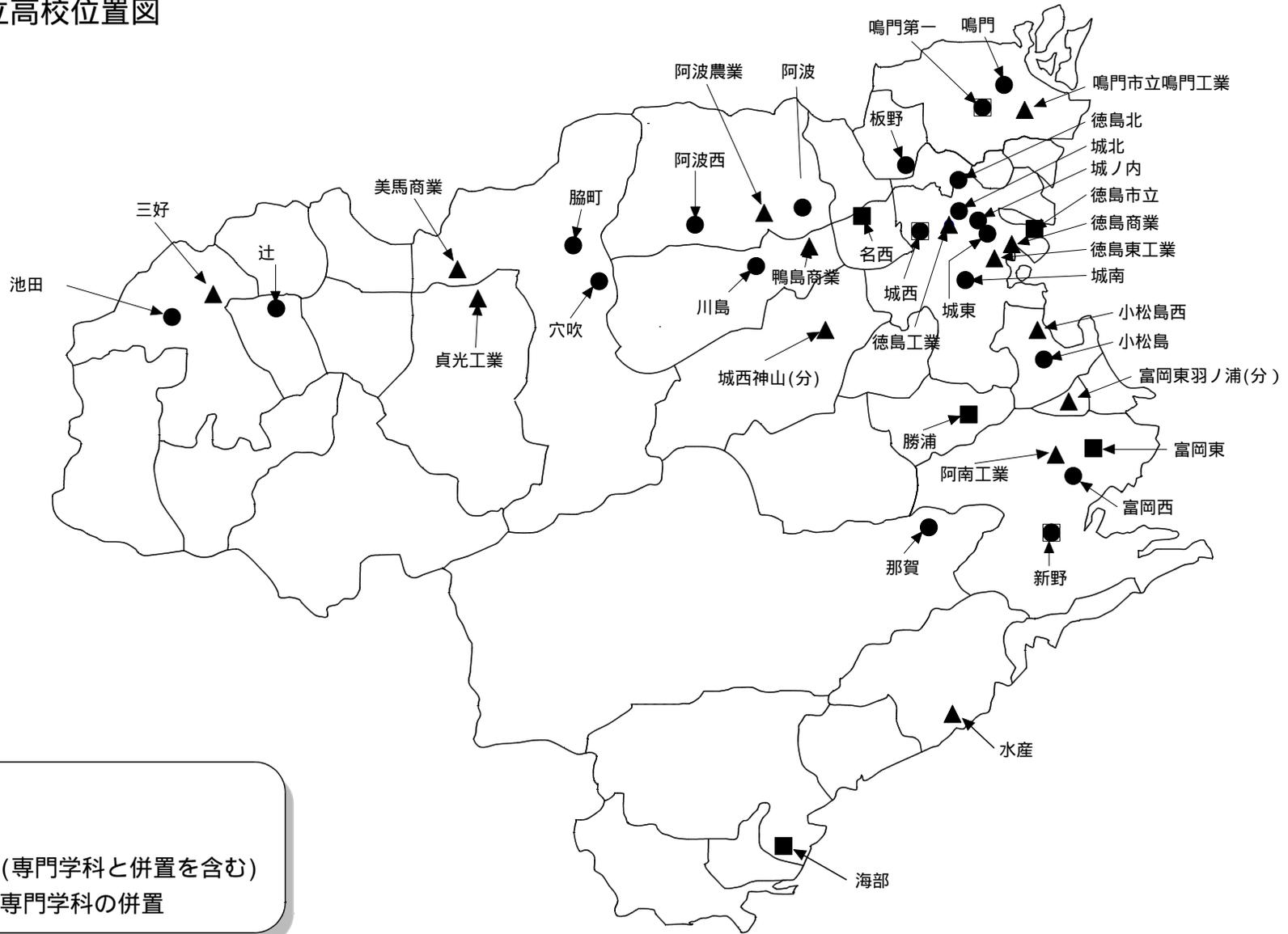
	学 校 名	所 在 地
1	海 部 高校	海部郡海南町大里字古畑58-2
2	水 産 高校	海部郡日和佐町奥河内字弁財天23-1
3	富岡西 高校	阿南市富岡町小山18-3
4	富岡東 高校	阿南市領家町走寄102-2
5	阿南工業高校	阿南市宝田町今市中新開10-6
6	新 野 高校	阿南市新野町室ノ久保12
7	富岡東 高校羽ノ浦分校	那賀郡羽ノ浦町大字中庄字市50-1
8	那 賀 高校	那賀郡那賀町小仁字大坪179-1
9	小松島 高校	小松島市日開野町字高須47-1
10	小松島西高校	小松島市中田町字原ノ下28-1
11	勝 浦 高校	勝浦郡勝浦町大字久国字屋原1
12	城 東 高校	徳島市中徳島町1-5
13	城 南 高校	徳島市城南町2-2-88
14	城 北 高校	徳島市北田宮4-13-6
15	城ノ内 高校	徳島市北田宮1-9-30
16	徳島北 高校	徳島市応神町吉成字中ノ瀬40-6
17	徳島商業高校	徳島市城東町1-4-1
18	城 西 高校	徳島市鮎喰町2-1
19	徳島工業高校	徳島市北矢三町2-1-1
20	徳島東工業高校	徳島市大和町2-2-15
21	板 野 高校	板野郡板野町川端字関ノ本47
22	鳴 門 高校	鳴門市撫養町斎田字岩崎135-1
23	鳴門第一高校	鳴門市撫養町南浜字馬目木58
24	名 西 高校	名西郡石井町石井字石井21-11
25	城 西 高校神山分校	名西郡神山町神領字北399
26	阿 波 高校	阿波市柿原字ヒ口ナカ180
27	阿波西 高校	阿波市下喜来南228-1
28	阿波農業高校	阿波市成当515-1
29	川 島 高校	吉野川市川島町桑村字岡山367
30	鴨島商業高校	吉野川市鴨島町喜来681-9
31	脇 町 高校	美馬市脇町大字脇町1270-2
32	穴 吹 高校	美馬市穴吹町穴吹字岡33
33	美馬商業高校	美馬市美馬町字大宮西100-4
34	貞光工業高校	美馬郡つるぎ町貞光字馬出63-2
35	池 田 高校	三好郡池田町字ウエノ2834
36	辻 高校	三好郡井川町御領田61-1
37	三 好 高校	三好郡池田町字州津大深田720

【市立高校】

	学 校 名	所 在 地
38	徳島市立高校	徳島市北沖洲1-15-60
39	鳴門市立鳴門工業高校	鳴門市大津町吉永595

平成17年度に生徒募集を行った全日制公立高校

全日制公立高校位置図

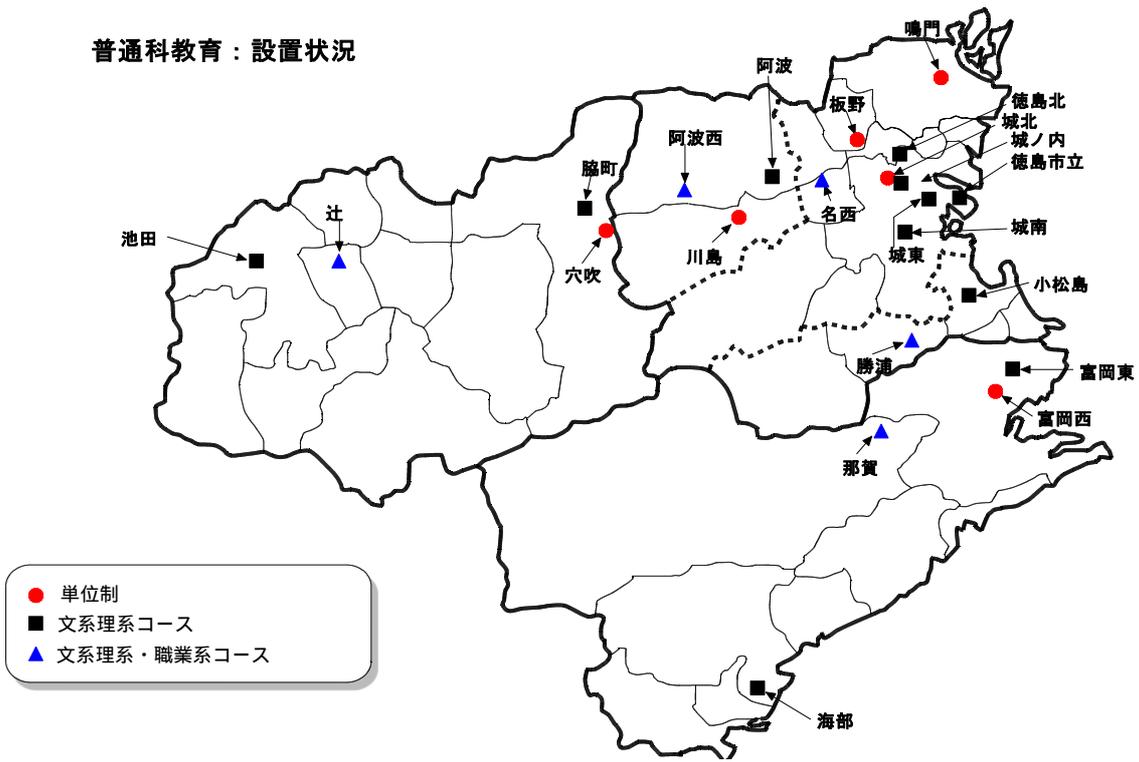


普通科，専門学科，総合学科の設置状況

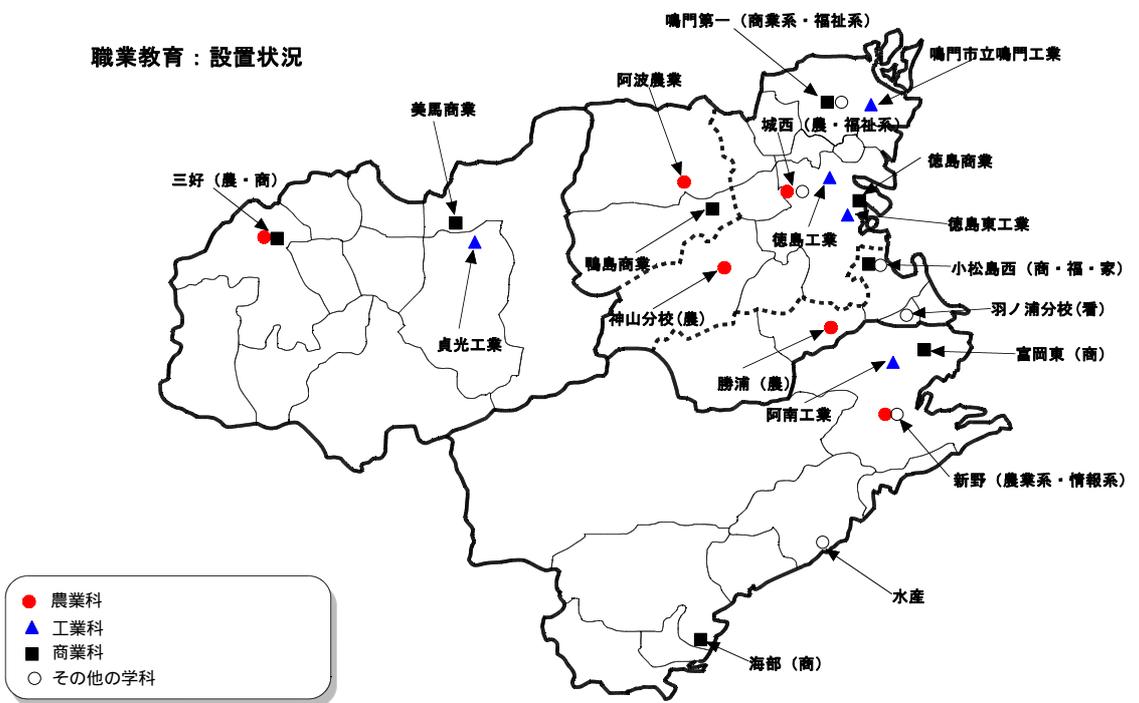
ブロック		県南部			県中部						県西部					
所属都市名		海部郡 阿南市 那賀郡			小松島市 勝浦郡		徳島市 名東郡 板野郡 鳴門市 名西郡			吉野川市 阿波市			美馬市 美馬郡 三好郡			
普通科	単位制	富岡西	普	260			鳴門	普	350	川島	普	195	穴吹	普	145	
							城北	普	340							
							板野	普	215							
	文系 理系 コース	富岡東	普	190	小松島	普	245	城東	普	360	阿波	普	230	池田	普	235
		海部	普	110				徳島北	普	360				脇町	普	230
								城南	普	340						
								市立	普	320						
	文系 理系 職業系 コース							城ノ内	普	240						
		那賀	普	80	勝浦	普	40	名西	普	155	阿波西	普	105	辻	普	170
普通科系 専門学科		海部	理	30			名西	芸	45							
職業学科	農業				勝浦	農	20	城西	農	45	阿波農	農	80	三好	農	45
								城西神	農	30						
	工業	阿南工	工	130				徳島工	工	170				貞光工	工	160
								東工業	工	170						
								鳴門工	工	130						
	商業	富岡東	商	50	松西	商	65	徳島商	商	315	鴨島商	商	110	美馬商	商	70
		海部	商	30										三好	商	45
	水産	水産	水	30												
	看護	羽ノ浦	看	40												
	家庭				松西	家	100									
福祉				松西	福	40										
総合学科		新野	総	95			鳴一	総	155							
							城西	総	125							

(平成17年度募集定員による)

普通科教育：設置状況



職業教育：設置状況



高校の規模（平成17年度募集定員）

80名未満（3校）

学校名	学科	定員
水産	水産	30
勝浦	普通・農業	60
美馬商業	商業	70

80名以上160名未満（10校）

学校名	学科	定員
那賀	普通	80
阿波農業	農業	80
三好	農業・商業	90
新野	総合	95
阿波西	普通	105
鴨島商業	商業	110
阿南工業	工業	130
鳴門工業	工業	130
穴吹	普通	145
鳴門第一	総合	155

分校

学校名	学科	定員
城西（神山）	農業	30
富岡東（羽ノ浦）	看護	40

総計

本校：37校

分校：2校

定員総数：7,280名

160名以上（24校）

学校名	学科	定員
貞光工業	工業	160
海部	普通・商業 数理科学	170
城西（本校）	総合・農業	170
徳島工業	工業	170
徳島東工業	工業	170
辻	普通	170
川島	普通	195
名西	普通・芸術	200
小松島西	商業・家庭 福祉	205
板野	普通	215
阿波	普通	230
脇町	普通	230
池田	普通	235
富岡東（本校）	普通・商業	240
城ノ内	普通	240
小松島	普通	245
富岡西	普通	260
徳島商業	商業	315
城南	普通	340
城北	普通	340
鳴門	普通	350
城東	普通	360
徳島北	普通	360
徳島市立	普通・理数	360

2. 高校の概要

目次

海部郡	
海部高等学校	(1 0)
水産高等高校	(1 1)
阿南市・那賀川町・羽ノ浦町	
富岡西高等高校	(1 2)
富岡東高等高校	(1 3)
阿南工業高等学校	(1 4)
新野高等学校	(1 5)
富岡東高等学校羽ノ浦分校	(1 6)
那賀町	
那賀高等学校	(1 7)
小松島市	
小松島高等学校	(1 8)
小松島西高等学校	(1 9)
勝浦郡	
勝浦高等学校	(2 0)
徳島市，名東郡	
城東高等学校	(2 1)
城南高等学校	(2 2)
城北高等学校	(2 3)
城ノ内高等学校	(2 4)
徳島北高等学校	(2 5)
徳島市立高等学校	(2 6)
徳島商業高等学校	(2 7)
城西高等学校	(2 8)
徳島工業高等学校	(2 9)
徳島東工業高等学校	(3 0)
板野郡	
板野高等学校	(3 1)
鳴門市	
鳴門高等学校	(3 2)
鳴門第一高等学校	(3 3)
鳴門市立工業高等学校	(3 4)
名西郡	
名西高等学校	(3 5)
城西高等学校神山分校	(3 6)
阿波市	
阿波高等学校	(3 7)
阿波西高等学校	(3 8)
阿波農業高等学校	(3 9)
吉野川市	
川島高等学校	(4 0)
鴨島商業高等学校	(4 1)
美馬市	
脇町高等学校	(4 2)
穴吹高等学校	(4 3)
美馬商業高等学校	(4 4)
つるぎ町	
貞光工業高等学校	(4 5)
三好郡	
池田高等学校	(4 6)
辻高等学校	(4 7)
三好高等学校	(4 8)

沿革	各校のホームページ，平成16年度学校要覧より抜粋
アクセス	最寄りJR駅から徒歩で15分より時間がかかる場合は距離で表示 バス路線は学校周辺に停留所がある場合記載
通学方法	平成16年度学校要覧より抜粋
通学距離	平成15年度徳島県教育委員会の調査より算出
校地面積	平成15年度徳島県教育委員会の調査より算出
校舎平均築年数	校舎毎に建築経過年数と面積を考慮し算出した値の平均年数（平成16年度）
生徒数	平成17年度学校基本調査より抜粋，大学科毎に記載，（ ）内は定員
職員数	教員数は校長，副校長，教頭，教諭，養護教諭，養護助教諭，講師の実数 （ ）内は内数，外部講師，兼務教員，非常勤講師，ALTは非常勤としている 実習助手は実習主任，実習助手の数 事務他は事務職員，司書，技師，非常勤司書事務，臨時職員の数 すべて全日制高校の実職員数を記載（総合寄宿舎関係職員は含まない）
学習形態	設置されている学科・類名，各学年における選択コース等を記載 （平成17年度入学者の学習形態である）
進路状況	平成17年度徳島県教育委員会の調査より算出 大学 ...大学進学者数（通信課程を含む） 短大 ...短大進学者数（通信課程を含む） 専修等...専攻科，専修学校（専門課程），高等専門学校4年編入学等 就職 ...就職者 その他...専修学校（一般課程），各種学校，公共職業能力開発施設等， 一時的な仕事に就いた者，家事手伝い等，死亡・不詳の者
部活	平成16年度学校要覧より抜粋
教育方針等	平成16年度各校のホームページ，平成16年度学校要覧，平成15年度徳島 県高等学校ガイドブックより抜粋
学校の特色	上記の資料をもとに徳島県教育委員会が記載 進学率（高等教育機関への進学率），就職率（一時的な就職を除く） 運動部は平成14年度から平成16年度の高校総体徳島県大会の優勝校，野球 ・軟式野球は県選手権大会優勝校，駅伝は全国高校駅伝出場校より選出 文化部は平成15年度徳島県高等学校ガイドブックで特に記載されている部の うち平成16年度全国高校文化祭に出場した部より選出 運動部，文化部とも2つまで記載
進学希望	平成15年6月，平成16年6月実施の公立高等学校進学希望者調べにおける 仮倍率の平均値
地域性	平成16年度入学生における地域占有率
主な出身中学校	平成16年度入学生における主な出身中学別人数
生徒減による 学校の規模の目安	平成17年度定員を用いて，全県，及び地域における推移率をもとに算出した 定員

徳島県立海部高等学校

所在地	海部郡海南町大里字古畑58-2				アクセス	JR阿波海南駅から徒歩8分 バス路線有				
沿革	H16 穴喰商業高校，日和佐高校，海南高校を統合再編し開校 創立1年				通学方法	徒歩 28	自転車 80	バス 1	JR 78	バイク 3
					通学距離	10km未満 53.7%		10km以上 46.3%		
					校地面積	41,076 m ²				
					校舎平均築年数	28年				
学科	1年	2年	3年	計	学習形態	学科及び類名				
普通科	(110) 110	(125) 121	(80) 78	(315) 309		普通科	1年 共通	2・3年 自然科学 人文社会		
商業科	(30) 30	(30) 29		(60) 59		商業	情報ビジネス科		情報ビジネス	
数理科学科	(30) 30	(35) 35		(65) 65		数理科学科		数理科学		
合計	(170) 170	(190) 185	(80) 78	(440) 433		進路状況	大学 38	就職 0	短大 11	その他 4
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	部活	運動部	9部		合計	
	41(7)		1	6		文化部	12部			21部
教育方針等	一人ひとりの人権を尊重し，豊かな心と確かな学力を持ち，社会の変化に主体的に対応できる実践力のある調和のとれた人間を育成します。 < 絆 > 心のふれあいを大切に，豊かな人間性を育てます。 < 学 > 多様な個性と能力を伸ばし，生きる力を育みます。 < 夢 > 夢を持ち，自己実現に向けて努力する人間を育てます。									
学校の特色	(1) 海部郡海南町に設置された普通科，商業科，数理科学科を持つ新設高校である。 (2) 普通科では1学年は共通の科目を履修し，2学年で各コースを選択する。商業科(情報ビジネス)，数理科学科では，3年間を通じ専門科目を学習する。また，普通科と商業科では学科の枠を越えて一部履修が可能である。									
進学希望(仮倍率)	地域性		主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)				
0.82倍	93%		海南	51		全県	H17	H30	H45	
			牟岐	43			170	138	102	
			穴喰	34						
			海部	30						
			日和佐	19		地域	170	112	73	
(備考) 3学年の生徒数，進路状況は海南高校										

徳島県立水産高等学校

所在地	海部郡日和佐町奥河内字弁財天23-1				アクセス	JR日和佐駅から徒歩5分 バス路線有				
沿革	S11 県水産学校を県立海部中学校に併設 S23 徳島県水産高等学校と改称 S30 徳島県立水産高等学校と改称 創立69年				通学方法	徒歩 22	自転車 1	バス	他	
					通学距離	10km未満 20.5%		10km以上 79.5%		
					校地面積	34,846 m ²				
					校舎平均築年数	28年				
学 科	1年	2年	3年	計	学 習 形 態	学科及び類名 1・2・3年				
水産科	(30) 30	(40) 33	(40) 28	(110) 91		水 産	海洋生産科	海洋生産		
							海洋工学科	海洋工学		
							水産食品科	水産食品		
合 計	(30) 30	(40) 33	(40) 28	(110) 91	進 路 状 況	大学 1	就職 11			
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	部 活	短大 1	その他 11			
	31(2)		13	17		専修等 6	合計 30			
	運動部 7部				文化部 4部	同好会 3部				
						合計 14部				
教育方針等	(1) 水産高等学校としてふさわしい特色ある学校づくりに取り組む。 (2) 人権の尊重と人間としての正しい生き方を身につけさせ、差別に対する科学的認識を深め、差別を解決する能力と実践力を持った人づくりに努める。 (3) 国際化・情報化など時代の変化と生徒の多様化に対応した教育内容の精選と指導の実現を図る。 (4) 家庭や地域社会と連携し、生きる力を育むとともに地域に開かれた水産高等学校をめざす。									
学校の特色	(1) 海部郡日和佐町に設置された水産学科の小規模専門高校である。進学率は26.7%で、就職率は36.7%である。部活動は運動部、文化部など14部が活動している。 (2) 海洋生産科、海洋工学科、水産食品科があり、3年間を通じて専門科目を学習する。専攻科(漁業科、通信技術科、機関科)を併設している。									
進学希望(仮倍率)	地域性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)					
0.34倍	25%	阿南	4	全 県	H17	H30	H45			
		牟岐	4		30	301	223			
		阿南第一	3							
那賀川・新野	3	地 域	30	308	233					
県外	7									
(備考) 平成21年度に総合技術高校(仮称)に統合予定										

徳島県立富岡西高等学校

所在地	阿南市富岡町小山18-3				アクセス	JR阿南駅から徒歩15分 バス路線有			
沿革	M29 徳島県尋常中学校第二分校を設置 M32 徳島県富岡中学校となる S23 徳島県富岡第一高等学校を設置 S31 徳島県立富岡西高等学校と改称 S43 理数科を設置 S55 理数科の募集を停止 H16 単位制を導入				通学方法	徒歩 16 自転車 553 バス 53 JR 155 バイク 20 他 20			
					通学距離	10km未満 72.5% 10km以上 27.5%			
					校地面積	41,069 m ²			
	創立109年				校舎平均築年数	29年			
学科	1年	2年	3年	計	学 習 形 態	学科及び類名 1・2・3年			
普通科	(260) 260	(280) 282	(260) 254	(800) 796		普通科	単位制		
合計	(260) 260	(280) 282	(260) 254	(800) 796		進路状況	大学 194 短大 19 専修等 30	就職 13 その他 20 合計 276	
職員数	教員(非常勤等) 54(6)		実習助手 1	事務他 9		部活	運動部 13部 文化部 17部	同好会 4部 合計 34部	
教育方針等	<p>(1) 「質実剛健」の校訓のもと、真理と正義を追求し、人権尊重の精神を基盤として、「生きる力」をはぐくむ教育を推進する。</p> <p>(2) 「確かな学力」と「輝く個性」「共生の精神」を有する知的創造性に富んだ、人間の育成を図る。</p>								
学校の特色	<p>(1) 阿南市に設置された旧制富岡中学校を前身とする普通科高校である。進学率は88%で、特に大学進学率が70.3%と高い。部活動はホッケー部、剣道部、文芸部、美術部などが盛んである。</p> <p>(2) 平成16年度より単位制を導入し、科目選択の幅を広げ、興味・関心、進路に応じた履修ができる。</p>								
進学希望(仮倍率)	地域性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)				
1.47倍	75%	阿南	76	H17	H30	H45			
		羽浦	38						
		阿南第一	35						
		那賀川	31	全県	260	212	157		
		坂野	18	地域	260	221	160		
(備考)									

徳島県立富岡東高等学校

所在地	阿南市領家町走寄102-2				アクセス	JR阿南駅から徒歩10分 バス路線有						
沿革	M45	徳島県那賀郡立那賀実科高等女学校を設立				通学方法	徒歩	12	自転車	479	バス	48
	T10	徳島県立富岡高等女学校と改称し、県営に移管					JR	232	バイク		他	6
	S23	学制改革により徳島県立富岡高等女学校を廃し、 徳島県富岡第二高等学校を開設				通学距離	10km未満		73.2%			
	S24	県高等学校再編成により、徳島県富岡東高等学校と改称					10km以上		26.8%			
S31	徳島県立富岡東高等学校と改称				校地面積	49,133 m ²						
S45	普通科の募集を停止し、商業科を設置											
S58	普通科を設置											
創立93年					校舎平均築年数		35年					
学 科	1 年	2 年	3 年	計	学 習 形 態	学科及び類名						
普通科	(190)	(200)	(190)	(580)		普通科	共通	2 年		3 年		
	190	200	187	577				文系	応用文系			
商業科	(50)	(60)	(60)	(170)		商業 商業科	共通	進学		進学		
	50	59	61	170	シブ			シブ				
合 計	(240)	(260)	(250)	(750)	進 路 状 況	大学	170	就職	26			
	240	259	248	747		短大	23	その他	13			
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	部 活	運動部	15部	同好会	2部			
	54(6)		1	9		文化部	18部	合計	35部			
教育方針等	(1) 一人ひとりの自立をめざす視点から 自主的精神に充ち、自ら真理を求め正義を愛する調和のとれた人間の育成 【自主】 (2) 人々との共生をめざす視点から 人権を尊重し、連帯性を高め合う豊かな心をもった人間の育成 【協同】 (3) 個性・多様性を重視する視点から 個性や多様性を重視し、常に向上心をもって臨む勤勉を尊ぶ人間の育成 【研学】											
学校の特色	(1) 阿南市に設置された普通科と商業科を持つ高校である。進学率は85.4%で、特に大学進学率が63.7%と高い。部活動では剣道部、陸上部などが盛んである。 (2) 普通科、商業科毎に、1学年では共通の科目を履修し、学年が進行するに従って興味・関心、進路に応じて各コースを選択するとともに、学科の枠を越えて一部履修が可能である。また、65分授業を実施することにより、授業の深化など多彩な授業展開に努めている。											
進学希望 (仮倍率)	地 域 性		主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)						
1.35倍	73%		阿南	51			H17	H30	H45			
			羽浦	36		全 県	240	195	145			
			阿南第一	30								
			那賀川	24								
阿南第二	13		地 域	240	204						147	
(備考)												

徳島県立阿南工業高等学校

所在地	阿南市宝田町今市中新開10-6				アクセス	JR阿南駅から2.3km バス路線有				
沿革	S37 開校 機械科，工業化学科を設置 S38 電気科，土木科を設置 S63 電子機械科を設置 H15 学科を再編し，工業類を設置 創立43年				通学方法	徒歩 4 自転車 333 バス 30 JR 36 バイク 他				
					通学距離	10km未満 76.0% 10km以上 24.0%				
					校地面積	84,701 m ²				
					校舎平均築年数		35年			
学科	1年	2年	3年	計	学習形態	学科及び類名				
工業科	(130) 131	(145) 142	(125) 118	(400) 391		1年		2・3年		
						工業	工業類	共通	機械電子	
									電気	
									情報土木 理数	
合計	(130) 131	(145) 142	(125) 118	(400) 391	進路状況	大学	19	就職	87	
						短大 専修等	6 18	その他 合計	4 134	
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	部活	運動部	15部	同好会	3部	
	45(5)		5	7		文化部	6部	合計	24部	
教育方針等	(1) 生徒に基礎的・基本的学力の定着を図るとともに，主体的な学習を促し，一人ひとりの個性を伸長するための教育を推進する。 (2) 地域の産業界の要望に対応できる技能教育を進めるとともに，高等教育機関への接続を促進する。 (3) 実験・実習などの体験的学習を通し，自ら学び，自ら考える学校教育を推進し，意欲を持って問題解決にあたる人材を育成する。									
学校の特色	(1) 阿南市に設置された工業科の専門高校である。進学率は32.1%で，就職率は64.9%である。部活動ではバレーボール部，ホッケー部などが盛んである。 (2) 1学年では共通の科目を履修し，2学年で機械電子，電気，情報土木，理数の各コースから興味・関心，進路に応じて選択する。									
進学希望(仮倍率)	地域性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)					
0.94倍	66%	阿南	27	全県	H17	H30	H45			
		阿南第一	24		130	106	78			
		羽浦	14		地域	130	110	80		
		坂野	13							
		小松島，福井	8							
(備考)										

徳島県立新野高等学校

所在地	阿南市新野町室ノ久保12				アクセス	JR新野駅から徒歩5分 バス路線有				
沿革	S18 徳島県立那賀農林学校を設立 S23 徳島県那賀農業高等学校と改称 S24 高等学校再編成で徳島県新野高等学校と改称 普通，農業，林業を設置 S31 徳島県立新野高等学校と改称 S41 農業科の募集を停止し，園芸科，生活科を設置 S60 園芸科，生活科，林業科の募集を停止し，生産流通科，産業技術科を設置 H15 生産流通科，産業技術科，普通科の募集を停止し 総合学科を設置 創立62年				通学方法	徒歩 9 自転車 128 バス 6 JR 162 バイク 6 他 17				
					通学距離	10km未満 82.8% 10km以上 17.2%				
					校地面積	40,421 m ² 実習地 11,394 m ²				
					校舎平均築年数	28年				
学科	1年	2年	3年	計	学習形態	学科及び類名 1年 2・3年				
総合学科	(95) 95	(110) 106	(110) 105	(315) 306		総合学科	共通	情報理数系列		
								コミュニケーション人文系列		
						暮らしクリエイト系列				
合計	(95) 95	(110) 106	(110) 105	(315) 306	進路状況	大学 8 短大 17 専修等 20	就職 46 その他 15 合計 106			
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	部活	運動部 9部 文化部 14部 合計 23部				
	41(9)		3	11						
教育方針等	<p>(1) 生徒一人ひとりの個性や可能性を伸ばす教育を推進する。</p> <p>(2) 望ましい生活習慣の育成を図るとともに，生徒と教職員の温かい人間関係の確立に努める。</p> <p>(3) 全ての教育活動において，人権教育を推進し，人権尊重の精神の涵養を図る。</p> <p>(4) 保護者・地域社会との連携を密にし，開かれた学校づくりに努める。</p> <p>(5) 国際化・情報化社会に対応できるよう，コミュニケーション能力や情報活用能力の向上に努める。</p>									
学校の特色	<p>(1) 阿南市に設置された総合学科高校である。進学率は42.5%で，就職率は43.4%である。部活動は運動部，文化部合わせて23部が活動している。</p> <p>(2) 平成15年度より普通科，農業科を総合学科(情報理数系列，コミュニケーション人文系列，暮らしクリエイト系列)に改編し，専門科目を含めた多くの選択科目を設けて興味・関心，進路に応じた履修ができる。また，2学期制を導入し，定期考査の回数を減らすなど授業時間の確保に努めている。</p>									
進学希望(仮倍率)	地域性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)					
0.60倍	90%	阿南	19		全県	H17	H30	H45		
		阿南第二	19			地域	95	77	57	
		新野	18							
		阿南第一	15							
福井，那賀川	10			95	81	58				
(備考) 進路状況は普通科，農業科の状況である。										

徳島県立富岡東高等学校羽ノ浦分校

所在地	那賀郡羽ノ浦町大字中庄字市50-1				アクセス	JR羽ノ浦駅から徒歩2分 バス路線有			
沿革	S23 富岡第二高等学校の定時制分校として設置 S25 農業課程を設置 S30 農業課程の募集を停止し、普通課程を設置 S38 全日制となる S42 普通科の募集を停止し、衛生看護科を設置 H14 衛生看護科の募集を停止し、看護科を設置 創立57年				通学方法	徒歩 3 自転車 52 バス 4 JR 58 バイク 他 2			
					通学距離	10km未満 55.8% 10km以上 44.2%			
					校地面積	8,969 m ²			
					校舎平均築年数	31年			
学 科	1年	2年	3年	計	学 習 形 態	学科及び類名 1・2・3年			
看護科	(40) 40	(40) 40	(40) 39	(120) 119		看 護 科	看 護		
合 計	(40) 40	(40) 40	(40) 39	(120) 119		高校卒業後、専攻科で2年間学習する			
進路状況	大学 0 就職 0		短大 0			専修等 39		その他 0 合計 39	
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	部 活	運動部 4部 文化部 10部 合計 14部			
	23(10)		1	2					
教育方針等	(1) 人権尊重の精神に基づき、人々の生命と健康を守り、生涯にわたり「学び」の姿勢を持った社会に貢献できる看護師の育成をめざす。 (2) 看護に関する高度な専門知識・技術を習得させ、実践力を養うとともに豊かな心を育み、人間性を培う。 (3) 保健、医療、福祉の場に対応し、理論に基づいた看護実践ができるよう研究的態度を養う。 (4) 教職員の研修の充実をはかり、専門性の質の維持・向上をめざした実践研究に努める。								
学校の特色	(1) 那賀郡羽ノ浦町に設置された看護科の分校である。看護師合格率は97%と高い。部活動は運動部、文化部合わせて14部が活動している。 (2) 平成14年度より県内唯一の5年一貫看護師養成教育実施校となり、最短で看護師受験資格を修得できる。2学期制を導入し、定期考査の回数を減らすなど授業時間の確保に努めている。								
進学希望(仮倍率)	地 域 性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)				
1.74倍	35%	羽浦	6			H17	H30	H45	
		坂野	3		全 県	40	33	24	
江原	3		地 域	40		34	25		
加茂名、阿南、牟岐、加茂谷	2								
阿南第一、北島	2								
(備考)									

徳島県立那賀高等学校

所在地	那賀郡那賀町小仁宇字大坪179-1				アクセス	JR桑野駅から15km バス路線有				
沿革	S23 徳島県那賀農業高等学校（現新野高校）の驚敷分校及び延野分校として設立 S27 徳島県那賀高等学校として独立 S31 農林科，家政科を設置 S48 農林科，家政科の募集を停止し，普通科を設置 H13 連携型中高一貫教育を導入 創立53年				通学方法	徒歩 54 自転車 77 バス 83 JR バイク 8 他 15				
					通学距離	10km未満 52.6% 10km以上 47.4%				
					校地面積	31,118 m ²				
					校舎平均築年数	24年				
学 科	1年	2年	3年	計	学 習 形 態	学科及び類名 1年 2・3年				
普通科	(80) 80	(80) 79	(84) 78	(244) 237		普通科	共 通	理系応用		
								文系応用		
								国際		
							福祉			
							環境			
							情報			
合 計	(80) 80	(80) 79	(84) 78	(244) 237	進路状況	大学	12	就職	33	
						短大	7			
						専修等	19	その他	0	
								合計	71	
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	部 活	運動部	7部	同好会	2部	
	46(21)		1	7		文化部	7部	合計	16部	
教育方針等	(1) 人権教育を学校の教育活動全体を通じて推進し，真の民主主義社会を実現するための実践力を持った人材を育成する。 (2) 丹生谷地域中高一貫教育を推進し，地域の教育力を生かし，地域に開かれた学校経営を行う。 (3) 環境の整備を図り，地域に根ざした学校づくりに努めるとともに生徒一人ひとりの個性の伸展を図る。 (4) 明朗で自立的に物事に取り組む姿勢と社会の変化に主体的に対応できる人材の育成に努める。 (5) 生きる力と豊かな心を育む教育の推進に努める。									
学校の特色	(1) 那賀郡那賀町に設置された小規模普通科高校である。進学率は53.5%で，就職率は46.5%である。部活動はカヌー部などが盛んである。 (2) 平成13年度より連携型中高一貫教育（驚敷中，相生中，上那賀中，木頭中）を導入している。1学年は共通の科目を履修し，2学年で理系応用，文系応用，国際，福祉，環境，情報の各コースから興味・関心，進路に応じて選択する。学生寮が設置されており遠距離の生徒に対応している。									
進学希望（仮倍率）	地 域 性		主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安（試算）				
0.67倍	71%		相生	19			H17	H30	H45	
			驚敷	16		全 県	80	65	48	
			木頭	13						
			羽浦	5		地 域	80	59	37	
			木沢，加茂谷	4						
（備考）										

徳島県立小松島高等学校

所在地	小松島市日開野町字高須47-1				アクセス	JR南小松島駅から徒歩5分 バス路線有				
沿革	S6 徳島県立小松島高等女学校を開校 S9 小松島町立小松島実業学校を開校 農業、商業部を設置 S19 徳島県立小松島農学校と改称 S24 徳島県立小松島高等学校と改称 S32 農業課程の募集を停止 S38 家庭科の募集を停止 S47 理数科を設置 S55 理数科の募集を停止 H15 新校舎完成 創立74年				通学方法	徒歩 17 自転車 540 バス 57 JR 222 バイク 他 4				
					通学距離	10km未満 78.9% 10km以上 21.1%				
					校地面積	41,590 m ²				
					校舎平均築年数	1年				
学 科	1年	2年	3年	計	学 習 形 態	学科及び類名 1年 2・3年				
普通科	(245) 246	(280) 277	(280) 259	(805) 782		普 通 科	共 通	アカデミック		
								アカデミック		
								ヒューマン		
							カルチャー			
							サイエンス			
合 計	(245) 246	(280) 277	(280) 259	(805) 782	進 路 状 況	大学	125	就職	30	
						短大	33			
						専修等	62	その他	38	
								合計	288	
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	部 活	運動部	15部	同好会	3部	
	53(6)		1	8		文化部	14部	合計	32部	
教育方針等	教育基本法・学校教育法及び本県教育の基本目標に基づき、人権を尊重し、自主自律と親和共同の精神を養い、わが国及び国際社会の民主的かつ文化的な発展に貢献しうる創造性豊かな人間を育成する。									
学校の特色	(1) 小松島市に設置された普通科高校である。進学率は76.4%で、大学進学率は43.4%となっている。部活動はライフル部、新体操部などが盛んである。 (2) 1学年では共通の科目を履修し、2学年でアカデミック、アカデミック、ヒューマン、カルチャー、サイエンスの各コースから興味・関心、進路に応じて選択する。また、コースの枠を越えて一部履修が可能である。									
進学希望(仮倍率)	地域性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)					
0.65倍	56%	小松島	97	全 県	H17	H30	H45			
		坂野	39							
		羽浦	24		地 域	245	199	148		
		立江	20							
南部	20									
(備考)										

徳島県立小松島西高等学校

所在地	小松島市中田町字原ノ下28-1				アクセス	JR中田駅から徒歩15分 バス路線有							
沿革	S26 徳島県中央高等学校を設立（定時制独立校） 昼間部に農業科，家庭科を設置				通学方法	徒歩	13	自転車	386	バス	68		
	S27 昼間部に商業科を設置					JR	164	バイク		他	9		
	S30 農業科の募集を停止し，普通科を設置				通学距離	10km未満		70.5%					
	S31 徳島県立小松島西高等学校と校名改称，全日制課程となり，商業科，食物科を設置					10km以上		29.5%					
革	S38 家政科を設置				校地面積	28,296 m ²							
	S48 家政科の募集を停止し，被服科を設置					校舎平均築年数		31年					
H10 被服科の募集を停止し，生活文化科を設置													
H11 福祉科を設置													
創立54年													
学 科	1 年	2 年	3 年	計	学 習 形 態	学科及び類名							
商業科	(65)	(70)	(70)	(205)		商 業	商業科	共 通	1 年			2・3 年	
	65	71	65	201							国際ビジネス		情報会計
家庭科	(100)	(110)	(110)	(320)		家 庭	食物科	共 通	食 物				
	101	108	106	315					生活文 化科		アパレルデザイン		インテリアデザイン
福祉科	(40)	(40)	(30)	(110)		福 祉	福祉科	福 祉					
合 計	(205)	(220)	(210)	(635)	進 路 状 況	大学	15	就職	116				
	206	220	200	626		短大	21	その他	27				
						専修等	35	合計	214				
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	部 活	運動部	9部	同好会	3部				
	62(17)		3	7		文化部	13部	合計	25部				
教育方針等	<p>(1) 生徒一人一人の個性や能力を生かす教育を推進するとともに，知・徳・体の調和のとれた人間を育成する。</p> <p>(2) 自ら進んで心身を錬磨し，誠実で活力ある創造性豊かな人間を育成する。</p> <p>(3) 人間尊重の精神を基盤として，奉仕と友愛あふれる豊かな心を育み，社会に貢献できる実践力のある人間を育成する。</p> <p>(4) 人権教育を教育計画の中に明確に位置づけ，学校教育の全領域において積極的に取り組む。</p>												
学校の特色	<p>(1) 小松島市に設置された商業科，家庭科，福祉科の専門高校である。進学率は33.2%で，就職率は54.2%である。部活動は弓道部，吹奏楽部などが盛んである。</p> <p>(2) 県内唯一の家庭科（食物科，生活文化科），福祉科のほか，商業科（国際ビジネス，情報会計，進学）が設置されており，それぞれの学科，コースで専門科目を学習する。食物科は調理師養成所の認可を受けており，福祉科は介護福祉士の受験資格が得られる。</p>												
進学希望 (仮倍率)	地 域 性		主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安（試算）							
1.18倍	30%		小松島	43	全 県	H17		H30	H45				
			南部	30		205		167	123				
			津田	22		205		194	130				
			坂野	17		205		194	130				
			八万	17	地 域	205		194	130				
（備考）													

徳島県立勝浦高等学校

所在地	勝浦郡勝浦町大字久国字屋原 1				アクセス	JR南小松島駅から15km バス路線有						
沿革	S元	勝浦郡生比奈村横瀬町組合立高等農業補習学校開校				通学方法	徒歩	9	自転車	98	バス	61
	S24	小松島高等学校園芸科教室となる					JR		バイク	6	他	23
	S32	徳島農業高等学校園芸科教室（全日制）となる				通学距離	10km未満		39.8%			
	S35	徳島県立徳島農業高等学校勝浦分校と改称					10km以上		60.2%			
S39	徳島県立勝浦園芸高等学校に独立昇格し，園芸科と生活科を設置する				校地面積	24,408		㎡				
H 6	徳島県立勝浦高等学校と改称 生活科の募集を停止し，普通科を設置					実習地	4,094		㎡			
創立 79 年					校舎平均築年数		2 4 年					
学 科	1 年	2 年	3 年	計	学 習 形 態	学科及び類名 1 年 2・3 年						
普通科	(40) 40	(45) 41	(50) 43	(135) 124		普通科	共通	文理				
農業科	(20) 20	(20) 20	(20) 19	(60) 59				農業	園芸科	共通	生活福祉	
						情報処理						
								ふれあい				
								バイオ				
								社会園芸				
合 計	(60) 60	(65) 61	(70) 62	(195) 183	進 路 状 況	大学	5	就職	31			
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他		短大	7	その他	6			
	3 1 (7)		3	6	専修等	17	合計		66			
部 活					運動部	8 部						
					文化部	5 部		合 計 1 3 部				
教育方針等	<p>教育基本法に基づき、心豊かな人間の育成、基礎・基本の重視と個性を生かす教育の充実、自己教育力の育成、文化と伝統の尊重と国際理解を推進し、生徒の人格の完成、健全な心身の発達及び国際化時代を担う人間を育成する。</p> <p>(1) 知・徳・体の調和のとれた感性豊かで至誠の心をもつ人間を育てる。</p> <p>(2) 人権を尊重し、民主的かつ協和の精神に富んだたくましい人間を育てる。</p> <p>(3) 地域社会の実態に基づき、総合高校としての教育を行い、勤労と責任を重んじ、心身ともに健全な人間を育てる。</p>											
学校の特色	<p>(1) 勝浦郡勝浦町に設置された普通科と農業科を持つ小規模高校である。進学率は43.9%で、就職率は47%である。部活動は運動部，文化部など13部が活動している。</p> <p>(2) 1学年は，普通科，農業科毎に共通の科目を履修し，2学年より各コースを選択する。学生寮が設置されており，遠距離の生徒に対応している。</p>											
進学希望（仮倍率）	地 域 性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安（試算）							
0.37倍	26%	勝浦	16			H17	H30	H45				
		南部	10		全 県	60	49	36				
		小松島	9			地 域	60	41	38			
		津田	7									
		立江，坂野	5									
（備考）												

徳島県立城東高等学校

所在地	徳島市中徳島町1-5				アクセス	JR徳島駅から徒歩15分 バス路線有			
沿革	M35 徳島県立高等女学校を開校 S24 徳島県城東高等学校と改称 S31 徳島県立城東高等学校と改称 S47 総選校となる H16 新校舎完成，総合選抜制を廃止				通学方法	徒歩 20 自転車 953 バス 18 JR 81 バイク 他 6			
					通学距離	10km未満 89.6% 10km以上 10.4%			
					校地面積	20,413 m ² 第2グラウンド 15,439 m ²			
	創立103年				校舎平均築年数	0年			
学科	1年	2年	3年	計	学習形態	学科及び類名 1年 2・3年			
普通科	(360) 362	(400) 397	(320) 320	(1080) 1079		普通科	文理	文 理	
							人文		
							数理		
合計	(360) 362	(400) 397	(320) 320	(1080) 1079	進路状況	大学 233	就職 10		
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	短大 15	専修等 38	その他 55	合計 351	
	66(5)		2	10	部活	運動部 17部	同好会 7部	文化部 19部 合計 43部	
教育方針等	生徒一人ひとりの夢や目標を大切にしながら，学力と人間力を鍛えることを通して，生きる力・未来を切り拓く力を育てるとともに，将来の徳島や日本を担い，広く国際社会に羽ばたけるリーダーシップのある人間を育てる。								
学校の特色	(1) 徳島市に設置された旧制徳島高等女学校を前身とする普通科高校である。進学率は81.5%で，特に大学進学率は66.4%と高い。部活動はバドミントン部，空手部，邦楽部，オーケストラ部などが盛んである。 (2) 1学年より文理コース，人文コース，数理コースに分かれ興味・関心，進路に応じた学習を行うとともに，2学期制を導入し，定期考査の回数を減らすなど授業時間の確保に努めている。また，徳島大学との高大連携による学修制度がある。								
進学希望(仮倍率)	地域性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)				
1.80倍	86%	徳島	66			H17	H30	H45	
		附属	48		全県	360	293	217	
		城東	41		地域	360	299	227	
		南部	40						
		富田	35						
(備考)									

徳島県立城南高等学校

所在地	徳島市城南町2-2-88				アクセス	JR二軒屋駅から徒歩10分 バス路線有				
沿革	M11 徳島中学校を開設 M34 徳島県立徳島中学校と改称 S24 徳島県城南高等学校を創設 S31 徳島県立城南高等学校と改称 S47 総選校となる H15 スーパーサイエンスハイスクールに指定 H16 総合選抜制を廃止				通学方法	徒歩 72 自転車 919 バス 17 JR 71 バイク 他 2				
	創立130年				通学距離	10km未満 86.7% 10km以上 13.3%				
					校地面積	42,585 m ²				
					校舎平均築年数	35年				
学科	1年	2年	3年	計	学習形態	学科及び類名 1年 2・3年				
普通科	(340) 341	(360) 359	(360) 359	(1060) 1059		普通科 共通	A(文)			
							B(理)			
							B(理)			
						SSH				
合計	(340) 341	(360) 359	(360) 359	(1060) 1059	進路状況	大学 220 短大 19 専修等 58	就職 3 その他 54 合計 354			
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	部活	運動部 18部	同好会 4部			
	66(5)		2	8		文化部 20部	合計 42部			
教育方針等	民主主義社会を支える国民にふさわしい正しい判断力と行動力を持ち、自主自立の精神に富み、自らを律し、他人を思いやる心を持つ豊かな人間性を備えた我が国の未来を担える人材の育成を図る。また、理数教育を中心として、高等学校で学ぶ人文科学、社会科学、自然科学の各分野に関する基礎的基本的な幅広い教養を身につけ、それを将来発展的に学ぼうとする意欲を持った生徒を育てる。さらに、これからの社会で生きていく上で必要な体力、精神力を持ち、みずみずしい感性を持つ人材を育成するため、文化、芸術活動にも取り組んでいく。									
学校の特色	(1) 徳島市に設置された旧制徳島中学校を前身とする普通科高校である。進学率は83.9%であり、特に大学進学率は62.1%と高い。部活動はテニス部、囲碁部、吹奏楽部などが盛んである。 (2) 平成15年度に文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールに指定され、理科教育の充実に力を入れている。1学年では共通の科目を履修し、2学年より各コースを選択する。また、2学期制を導入し、定期考査の回数を減らすなど授業時間の確保に努めている。徳島大学との高大連携による学修制度がある。									
進学希望(仮倍率)	地域性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)					
1.14倍	9.2%	八万	102			H17	H30	H45		
		南部	66		全県	340	277	205		
		富田	62							
		上八万 津田	36 15		地域	340	283	214		
(備考) 平成18年度に応用数理科を設置予定										

徳島県立城北高等学校

所在地	徳島市北田宮4-13-6				アクセス	JR佐古駅から1.3km バス路線有			
沿革	S16 岡田勢一氏の寄付金により徳島県立渭城中学校を設立				通学方法	徒歩 24 自転車 940 バス 12 JR 56 バイク 他 7			
	S24 徳島県城北高等学校を設立 S31 徳島県立城北高等学校と改称 S47 総選校となる					通学距離	10km未満 87.7% 10km以上 12.3%		
	H16 単位制を導入 H16 総合選抜制を廃止				校地面積		50,402 m ²		
	創立64年				校舎平均築年数	35年			
学 科	1年	2年	3年	計	学 習 形 態	学科及び類名 1・2・3年			
普通科	(340) 340	(360) 358	(320) 321	(1020) 1019		普通科	単位制		
合 計	(340) 340	(360) 358	(320) 321	(1020) 1019		進路状況	大学 253 短大 9 専修等 55	就職 3 その他 35 合計 355	
職員数	教員(非常勤等) 65(4)		実習助手 1	事務他 8		部 活	運動部 18部 文化部 16部	同好会 3部 合計 37部	
教育方針等	<p>(1) 知性に充ち優れた人格をもつ、个性的かつ人間性豊かな人材を育てる。</p> <p>(2) 自主・自律の精神に富み、創造性にあふれ行動力あるたくましい人材を育てる。</p> <p>(3) 基本的人権を尊重し、人を大切にするとともに、社会の矛盾を見抜き改善の意欲をもつ人材を育てる。</p> <p>(4) 「為せば成る」を校是とし、教職員、生徒、保護者等が一致協力して、自由で秩序ある魅力的な学園づくりに努める。</p>								
学校の特色	<p>(1) 徳島市に設置された普通科高校である。進学率は89.3%であり、特に大学進学率は71.3%と高い。部活動では女子バスケットボール部、射撃部、民芸部などが盛んである。</p> <p>(2) 平成16年度より単位制を導入し、科目選択の幅を広げ、興味・関心、進路に応じた履修ができる。また、徳島大学との高大連携による学修制度がある。</p>								
進学希望(仮倍率)	地域性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)				
1.18倍	83%	城西	100			H17	H30	H45	
		国府	66		全 県	340	277	205	
		加茂名	56						
石井	17		地 域	340	283	214			
藍住	15								
(備考)									

徳島県立城ノ内高等学校

所在地	徳島市北田宮1-9-30				アクセス	JR佐古駅から1.8km バス路線有				
沿革	S55 開校 H16 中高一貫教育を実施 城ノ内中学校を開校 総合選抜制を廃止 創立26年				通学方法	徒歩 19 自転車 772 バス 7 JR 113 バイク 他 3				
					通学距離	10km未満 89.2% 10km以上 10.8%				
					校地面積	52,193 m ²				
					校舎平均築年数	22年				
学科	1年	2年	3年	計	学習形態	学科及び類名 1年 2年 3年				
普通科	(240) 243	(240) 235	(320) 314	(800) 792		普通科	共通	文系	文 (ヒューマニティーズ)	
				理系				文・理 (アドバンス)		
								理 (サイエンス)		
合計	(240) 243	(240) 235	(360) 314	(800) 792	進路状況	大学	232	就職	10	
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	部活	短大	16	その他	44	
	57(10)		2	9		専修等	52	合計	354	
						運動部	17部	合計	32部	
						文化部	15部			
教育方針等	<p>(1) 生徒の能力・適性、興味・関心などをふまえ、個に応じた指導を推進し、個性の伸長を図る。</p> <p>(2) 夢の実現に向かって、進取の気概(フロンティア・スピリッツ)とチャレンジ精神を発揮し、互いに切磋琢磨する雰囲気のもと、清新で明朗、規律ある校風を樹立する。</p> <p>(3) 中高の教職員が一体となって、6年間の計画的・継続的な指導を行い、主体的に問題を解決する態度を育成するとともに、豊かな創造性を養い、変化の激しい国際社会をたくましく生きていく資質の育成に努める。</p> <p>(4) 身の回りの具体的な人権問題を見逃さない鋭い感性を育み、様々な人権問題について認識を深め、積極的に解決しようとする実践力を養う。</p> <p>(5) 幅広い特別活動を展開し、豊かな教養と情操、連帯感や奉仕の精神を育むとともに、たくましい心身を鍛練する。</p>									
学校特色	<p>(1) 徳島市に設置された普通科高校である。進学率は84.7%であり、特に大学進学率は65.5%と高い。部活動は陸上部、フェンシング部、器楽部、囲碁・将棋部などが盛んである。</p> <p>(2) 平成16年度より併設型中高一貫教育を導入している。1学年は共通の科目を履修し、学年が進行するに従って興味・関心、進路に応じてコースを選択する。また、2学期制を導入し、定期考査の回数を減らすなど授業時間の確保に努めている。</p>									
進学希望(仮倍率)	地域性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)					
0.85倍	59%	城西	30			H17	H30	H45		
		附属	24		全 県	240	195	145		
		徳島	21							
		石井	20		地 域	240	200	151		
加茂名	16									
(備考)										

徳島県立徳島北高等学校

所在地	徳島市応神町吉成字中ノ瀬40-6				アクセス	JR勝瑞駅から徒歩5分 バス路線有				
沿革	H9 開校 H15 スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール(SELHi)に指定される H16 総合選抜制を廃止				通学方法	徒歩 20 JR 127	自転車 962 バイク	バス 2 他 1		
					通学距離	10km未満 91.4% 10km以上 8.6%				
					校地面積	52,631 m ²				
	創立 9年				校舎平均築年数	6年				
学 科	1年	2年	3年	計	学 習 形 態	学科及び類名 1年 2・3年				
普通科	(360) 367	(400) 397	(360) 354	(1120) 1118		普通科	共通	人文		
								理数A		
						理数B			外国語	
合 計	(360) 367	(400) 397	(360) 354	(1120) 1118	進路状況	大学 237 短大 23 専修等 45	就職 12 その他 34 合計 351			
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	部 活	運動部	15部	同好会	4部	
	72(8)		2	9		文化部	19部	合計	38部	
教育方針等	次の基本方針のもとに、厳しくも活力のある学校づくりに努める。 (1) 自ら学ぶ姿勢および自主的・自律的な行動力の育成 (2) 人権を尊重する豊かな心と友愛精神の涵養 (3) 生徒一人ひとりの個性と創造性の伸長 (4) 国際社会の中で主体的に生きる資質の育成 (5) 家庭および地域社会と連携した教育活動の推進									
学校の特色	(1) 徳島市に設置された普通科高校である。進学率は86.9%で、特に大学進学率は67.5%と高い。部活動は水泳部、空手部、吹奏楽部、合唱部などが盛んである。 (2) 平成15年度に文部科学省のスーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクールに指定され、英語教育の充実に力を入れている。1学年で共通の科目を履修し、2学年より人文、理数、外国語の各コースから興味・関心、進路に応じて選択する。また、コースの枠を越えて一部履修が可能であるほか、徳島大学との高大連携による学修制度がある。									
進学希望(仮倍率)	地域性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)					
1.34倍	20%	北島	106			H17	H30	H45		
		藍住東	74		全 県	360	293	217		
		藍住	68							
		松茂	37		地 域	360	299	227		
		応神	21							
(備考) 平成18年度に国際英語科を設置予定										

徳島市立高等学校

所在地	徳島市北沖洲1-15-60				アクセス	JR徳島駅から3.2km バス路線有			
沿革	S36 開校 S43 理数科を新設 S47 徳島市内普通科4校で総合選抜制を実施 H16 総合選抜制を廃止 創立43年				通学方法	徒歩 15 自転車 959 バス 16 JR 90 バイク 他			
					通学距離	10km未満 85.3% 10km以上 14.7%			
					校地面積	45,150 m ²			
					校舎平均築年数	42年			
学科	1年	2年	3年	計	学習形態	学科及び類名 1年 2・3年			
普通科	(320) 321	(320) 319	(320) 321	(960) 961		普通科	共通	国際文化 人文社会 科学	
理数科	(40) 40	(40) 40	(40) 40	(120) 120		理数科	理 数		
合計	(360) 361	(360) 359	(360) 361	(1080) 1081		進路状況	大学 短大 専修等	218 21 65	就職 その他 合計
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	部活	運動部	20部	同好会	7部
	77(3)		4	10		文化部	24部	合計	51部
教育方針等	<p>人権を尊重し、人間性豊かな生徒を育てるとともに、我が国及び国際社会の一員としての自覚に立ち、自主的・自律的・創造的能力に富んだたくましい人間を育成する。</p> <p>(1) 自主・自律を尊ぶ、清新な校風の創造を目指す。</p> <p>(2) 基本的人権を尊重し、人権社会の実現に貢献できる生徒を育成する。</p> <p>(3) 学問・スポーツ・芸術を本校教育の重要な3本柱とし、それぞれの分野における生徒の多様な能力を育成する。</p> <p>(4) 家庭・関係機関・地域社会との連携を密にし、開かれた学校づくりに努める。</p>								
学校の特色	<p>(1) 徳島市に設置された市立の普通科と理数科を持つ高校である。進学率は86.4%で、特に大学進学率は61.9%と高い。部活動は卓球部、ボート部、放送部、オーケストラ部などが盛んである。</p> <p>(2) 昭和43年度より理数科を設置し、理数教育の充実に努めている。普通科は1学年で共通の科目を履修し、2学年で国際文化、人文社会、科学の各コースから興味・関心、進路に応じて選択する。また、徳島大学との高大連携による学修制度がある。</p>								
進学希望 (仮倍率)	地域性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)				
1.13倍	90%	城東	114			H17	H30	H45	
		附属	47		全 県	360	293	217	
		川内	40						
		徳島	34						
		津田	18		地 域	360	299	227	
(備考)									

徳島県立徳島商業高等学校

所在地	徳島市城東町1-4-1				アクセス	JR徳島駅から2.5km バス路線有						
沿革	M42 徳島県立商業学校を開校	S23 学制改革により徳島県徳島商業高等学校と改称 S24 高等学校統合により徳島県城東高等学校商業課程となる S25 高等学校商業課程再編成により城北高等学校商業課程となる S27 独立して徳島県徳島商業高等学校となる S31 徳島県立徳島商業高等学校と改称 H15 学科を再編し総合情報ビジネス類を設置 創立96年			通学方法	徒歩 10	自転車 693	バス 24				
	JR 233				バイク	他 12						
	通学距離				10km未満	60.2%	10km以上	39.8%				
	校地面積				49,945 m ²			校舎平均築年数	29年			
学科	1年	2年	3年	計	学習形態	学科及び類名						
商業科	(315) 316	(340) 342	(305) 301	(960) 959		商業	総合情報ビジネス類	共通	1年	2・3年		
									OAビジネス			
									流通ビジネス			
								国際ビジネス				
								会計ビジネス				
								情報ビジネス				
								情報システム				
合計	(315) 316	(340) 342	(305) 301	(960) 959	進路状況	大学	44	就職	136			
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	短大	35	その他	20				
	67(5)		3	8	専修等	78	合計	313				
部活	運動部		17部		文化部		19部		合計	36部		
教育方針等	(1) 一人一人の個性を大切にし、基礎的・基本的な知識・技術を習得させ、専門高校生としての望ましい資質や態度を備えた人間を育成する。 (2) 自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、問題解決に向けて主体的に判断・行動できる人間を育成する。 (3) 健康や体力の向上を図り、豊かな人間性と高い人権意識を身に付け、自らを律しつつ他人と協調できる人間を育成する。											
学校の特色	(1) 徳島市に設置された商業科の専門高校である。進学率は50.2%で、就職率は43.5%である。部活動はバスケットボール部、柔道部などが盛んである。 (2) 1学年は全員共通してビジネスの基礎・基本を学習し、2学年から興味・関心、進路に応じ、各コースに分かれて専門科目を学習する。											
進学希望(仮倍率)	地域性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)							
1.24倍	69%	城東	61			H17	H30	H45				
		八万	32		全県	315	256	190				
徳島	22		地域	315					262	198		
津田, 加茂名, 南部	20											
(備考)												

徳島県立城西高等学校

所在地	徳島市鮎喰町2-1				アクセス	JR鮎喰駅から徒歩14分 バス路線有				
沿革	M37	徳島県立農業学校を開校				通学方法	徒歩 31 自転車 418 バス 49 JR 30 バイク 他 10			
	S23	徳島県徳島農業高等学校と改称					通学距離	10km未満 77.4% 10km以上 22.6%		
	S24	徳島県城西高等学校と改称 普通科を設置				校地面積		42,486 m ² 実習地 147,846 m ²		
	S31	徳島県立徳島農業高等学校と改称，農業専門校となる					校舎平均築年数		24年	
	S52	家政科を新設								
	H9	徳島県立城西高等学校と改称，家政科の募集を停止し総合学科を新設								
	H16	学科再編により，農業科学類の募集を停止し，農業科学科を設置								
	創立101年									
学 科	1年	2年	3年	計	学 習 形 態	学科及び類名 1年 2・3年				
農業科	(45) 47	(50) 48	(50) 50	(145) 145		農 業	農 業 科 学	農 業 科 学		
総合学科	(125) 126	(130) 128	(130) 120	(385) 374		総 合 学 科	共 通	ヒューマン系列 サイエンス系列 ケア・メディカル系列		
合 計	(170) 173	(180) 176	(180) 170	(530) 519		進 路 状 況	大学 短大 専修等	26 23 33	就 職 その他 合計	71 29 182
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	部 活	運動部	14部	同好会	1部	
	58(6)		8	14		文化部	18部	合計	33部	
教育方針等	<p>(1) 生命と人権を尊重し，豊かな心と創造性をもち，人間性にあふれたたくましい生徒を育成する。</p> <p>(2) 自ら学ぶ意欲を高揚し，社会の変化や国際社会に対応できる生徒を育成する。</p> <p>(3) すべての教育活動を通して生き方を考え，他人を大切にす姿勢を養い，知・徳・体の調和のとれた人間を育成する。</p>									
学校の特色	<p>(1) 徳島市に設置された農業科と総合学科を持つ高校である。進学率は45.1%で，就職率は39.0%である。部活動はフェンシング部，登山部，阿波踊り部などが盛んである。</p> <p>(2) 平成9年度より総合学科が設置されており，情報や福祉などの新しい教育を導入するなど，多くの選択科目を設けている。また農業科は，平成16年度に農業科学類から農業科学科に学科再編されている。2学期制を導入し，定期考査の回数を減らすなど授業時間の確保に努めている。</p>									
進学希望(仮倍率)	地域性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)					
0.74倍	81%	城西	27	全 県	H17	H30	H45			
		城東	21		170	138	102			
		加茂名	20		地 域	170	141	107		
国府	13									
		上八万	12							
(備考)										

徳島県立徳島工業高等学校

所在地	徳島市北矢三町2-1-1				アクセス	JR佐古駅から1.3km バス路線有						
沿革	M37	徳島県立工業学校を開校 染織科，木工科を設置				通学方法	徒歩	8	自転車	470	バス	3
	S23	徳島県徳島工業高等学校と改称					JR	46	バイク		他	6
	S27	徳島県立徳島工業高等学校と改称				通学距離	10km未満		81.2%			
	H7	工業7科の募集を停止					10km以上		18.8%			
	H7	学科再編により工業I類・II類を設置				校地面積	29,192		m ²			
創立101年				第2グラウンド他			52,656		m ²			
						校舎平均築年数		34年				
学 科	1年	2年	3年	計	学 習 形 態	学科及び類名						
工業科	(170)	(180)	(170)	(520)		工 業 類	共通	工業デザイン				
	176	174	160	510				建築				
						工 業 類	共通	土木工学				
								機械				
					電子機械							
					電気応用システム							
合 計	(170)	(180)	(170)	(520)	進路状況	大学	27	就職	98			
	176	174	160	510		短大	13					
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	部 活	専修等	34	その他	8			
	65(9)		7	8		運動部	19部	同好会	6部			
					文化部	6部	合 計	31部				
教育方針等	(1) 校訓「礼儀・勤労・責任」の実践を図り，工業技術立国を推進する実践的な技術者となりうる人材を育てる。											
	(2) 学校教育活動全ての中で人権尊重の精神の涵養を目的とする教育を推進し，人権尊重の理念に対する理解を深め，これを体得できる人材を育てる。											
学校の特徴	(3) 部活動の奨励や，自然的・社会的体験学習の実践などで環境に対する豊かな感受性を持ち，循環型社会に対応できる見識を持った人材を育てる。											
	(4) 地域社会との連携を深め，開かれた学校づくりを目指す。											
進学希望(仮倍率)	地 域 性		主な出身中学校				生徒減による学校規模の目安(試算)					
								H17	H30	H45		
1.10倍	72%		城西	23	全 県	170	301	223				
			加茂名	17								
			徳島	14	地 域	170	308	233				
			上八万	11								
			国府	10								
(備考) 平成21年度に総合技術高校(仮称)に統合予定												

徳島県立徳島東工業高等学校

所在地	徳島市大和町2-2-15				アクセス	JR徳島駅から2.7km バス路線有						
沿革	S12	徳島市福島尋常小学校内に徳島市立工芸青年学校を設置				通学方法	徒歩	6	自転車	427	バス	7
	S24	徳島県立工業高等学校と統合されて、徳島県徳島工業高等学校として発足					JR	94	バイク		他	1
	S31	徳島県立徳島東工業高等学校として独立				通学距離	10km未満		66.7%			
	創立68年				校地面積	28,417 m ²						
		校舎平均築年数				3		4		年		
学 科	1 年	2 年	3 年	計	学 習 形 態	学科及び類名 1・2・3年						
工業科	(170)	(180)	(170)	(520)		工 業	インテリア科		インテリア			
	170	184	161	515			機械科	機械				
							電気科	電気				
					電子科		電子					
					情報技術科		情報技術					
					電子機械科	電子機械						
合 計	(170)	(180)	(170)	(520)	進 路 状 況	大学	37	就職	96			
	170	184	161	515		短大	6					
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	部 活	専修等	35	その他	11			
	63(8)		7	8		合計				185		
					運動部	16	同好会	5				
					文化部	6	合計	27				
教育方針等	<p>(1) 他人も自分も大切にし、国際社会や地域社会で生き生きと活動できる人間を育成する。</p> <p>(2) 勉学・礼儀・責任・勤労の調和のとれた教育を推進し、心豊かな人間を育成する。</p> <p>(3) 工業に関する知識と技術を身につけ、地域社会に貢献できる技術者を育成する。</p>											
学校の特色	<p>(1) 徳島市に設置された工業科の専門高校である。進学率は42.2%で、就職率は51.9%である。部活動ではアーチェリー部、空手部などが盛んである。</p> <p>(2) インテリア・機械・電気・電子・情報技術・電子機械の6学科があり、各科で3年間を通じて専門科目を学習する。</p>											
進学希望(仮倍率)	地 域 性		主な出身中学校		生徒減による学校規模の目安(試算)							
1.44倍	66%		城東	35	全 県		H17	H30	H45			
			南部	12		地 域						
			川内	12				170	301	223		
			八万	11								
富田	10		170	308	233							
(備考) 平成21年度に総合技術高校(仮称)に統合予定												

徳島県立板野高等学校

所在地	板野郡板野町川端字関ノ本47				アクセス	JR板野駅から徒歩5分 バス路線有			
沿革	M39 蚕業学校を設立 T 2 実科女学校を付設 T12 県立移管, 徳島県立板西農蚕学校, 同校付設実業女学校となる				通学方法	徒歩 11	自転車 624	バス 2	他 5
	S24 両校を母体として板野高等学校を設置 S57 普通科単独校となる H16 単位制を導入し, 2学期制となる				通学距離	10km未満	96.0%		
	創立99年				校地面積	39,790 m ²			
					校舎平均築年数	32年			
学科	1年	2年	3年	計	学習形態	学科及び類名 1・2・3年			
普通科	(215) 218	(230) 228	(210) 192	(655) 638		普通科	単位制		
合計	(215) 218	(230) 228	(210) 192	(655) 638		進路状況	大学 74 短大 29 専修等 61	就職 30 その他 19 合計 213	
職員数	教員(非常勤等) 49(7)		実習助手 1	事務他 8		部活	運動部 15部 文化部 9部	同好会 7部 合計 31部	
教育方針等	地域に根ざした, 清新で活力ある校風の樹立に努める。 全ての教育活動を通じて, 人権教育の推進を図る。 生徒の特性や個性等に応じた進路指導の充実に努める。 健康安全教育の充実に努める。 情報教育の充実に努める。				研学の気風を高め, 基礎学力の向上に努める。 生徒指導を徹底し, 基本的な生活習慣の確立に努める。 特別教育活動を活性化し, 心身の調和のとれた人間形成を図る。 環境教育を推進し, 公共心の育成を図る。 国際教育を推進し, 豊かな国際感覚を育成する。				
学校の特色	(1) 板野郡板野町に設置された普通科高校である。進学率は77.0%で, 大学進学率は34.7%となっている。部活動は相撲部などが盛んである。 (2) 平成16年度より単位制, 2学期制を導入し, 科目の選択の幅を広げるほか, 定期考査の回数を減らすなど授業時間の確保に努めている。								
進学希望(仮倍率)	地域性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)				
1.04倍	93%	藍住	69			H17	H30	H45	
		板野	55		全県	215	175	129	
		上板	42		地域	215	212	160	
		藍住東	39						
		大麻	13						
(備考)									

徳島県立鳴門高等学校

所在地	鳴門市撫養町斎田字岩崎135-1				アクセス	JR撫養駅から徒歩 8 分 バス路線有					
沿革	M42 徳島県立撫養中学校を開校 S23 徳島県鳴門高等学校を設立 S31 徳島県立鳴門高等学校と改称 S46 理数科を設置 S55 理数科の募集を停止 H13 新校舎完成				通学方法	徒歩 35	自転車 850	バス 23	JR 77	船 63	他 28
	創立 9 6 年				通学距離	10km未満	84.8%		10km以上	15.2%	
					校地面積	48,181 m ² (校舎とグラウンドは100m離れている)					
					校舎平均築年数	5 年					
学 科	1 年	2 年	3 年	計	学 習 形 態	学科及び類名 1・2・3年					
普通科	(350) 353	(360) 351	(360) 351	(1070) 1055		普通科	単位制				
						(平成17年度入学生より)					
合 計	(350) 353	(360) 351	(360) 351	(1070) 1055		進路状況	大学 175	就職 26	短大 36	その他 36	専修等 86
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	部 活	運動部	1 7 部	同好会	2 部		
	6 5 (5)		2	9		文化部	1 3 部	合 計	3 2 部		
教育方針等	(1) 個性を尊重し、勉学と部活動の両立を図り、調和のとれた豊かな人間性の育成。 (2) 自主的・自立的精神に富み、たくましい創造力を持った人間の育成。 (3) 郷土の文化や伝統の尊重と国際理解を図り、常に自ら学び続け、社会の変化に対応できる能力の育成。 (4) 社会生活に必要な知識・技能・態度や「生きる力」を培う全ての教育活動をとおした人権尊重の精神の涵養。										
学校の特色	(1) 鳴門市に設置された普通科高校である。進学率は82.7%であり、大学進学率は48.7%となっている。部活動は体操部、なぎなた部、百人一首部などが盛んである。 (2) 平成17年度より単位制、2学期制を導入予定で、科目選択の幅を広げるほか、定期考査の回数を減らすなど授業時間の確保に努める。										
進学希望 (仮倍率)	地 域 性	主な出身中学校				生徒減による学校規模の目安(試算)					
1.07倍	80%	鳴門市第一	1 3 4				H17	H30	H45		
		鳴門市第二	5 7			全 県	350	285	211		
		大麻	3 2								
		瀬戸	3 0			地 域	350	298	199		
北島	2 1										
(備考)											

徳島県立鳴門第一高等学校

所在地	鳴門市撫養町南浜字馬目木58				アクセス	JR撫養駅から徒歩8分 バス路線有					
沿革	T2 板野郡立実科高等女学校を設立 T12 撫養商業補習学校を撫養小学校内に併設 S24 学制改革により徳島県撫養高等学校(女子校)と 徳島県鳴門商業高等学校が統合し徳島県撫養高等 学校となる S46 徳島県立鳴門商業高等学校と改称 H5 徳島県立鳴門第一高等学校と改称 H15 普通科, 国際教養科, 商業科の募集を停止し, 総 合学科を設置 創立92年				通学方法	徒歩	5	自転車	381	バス	18
					通学距離	10km未満		68.0%			
					校地面積	25,741 m ²					
					校舎平均築年数	33年					
学 科	1年	2年	3年	計	学 習 形 態	学科及び類名 1年 2・3年					
総合学科	(155) 156	(175) 173	(155) 144	(485) 473		総 合 学 科	共 通	自然科学系列			
								人文科学系列			
								福祉系列			
					情報マネジメント系列						
合 計	(155) 156	(175) 173	(155) 144	(485) 473	進 路 状 況	大学	10	就職	72		
						短大	23				
						専修等	35	その他	7		
								合計	147		
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	部 活	運動部	11部	同好会	3部		
	53(9)		1	7		文化部	16部	合計	30部		
教育方針等	(1) 確かな学力をつけ, 生徒の進路実現を図る。 (2) 生徒一人ひとりの個性や可能性を伸ばす教育を推進する。 (3) 心に届く生徒指導の実現を図る。 (4) 教育の全領域において人権教育を推進し, 人権尊重の精神の涵養を図る。 (5) 国際理解教育, 情報処理教育, 福祉ボランティア教育を特色ある教育活動として推進し, 清新で活力ある校風の確立に努める。 (6) 保護者・地域社会との連携を密にし, 開かれた学校づくりを推進する。										
学校の特色	(1) 鳴門市に設置された総合学科高校であり, 進学率は46.3%で, 就職率は49.0%である。部活動では野球部などが盛んである。 (2) 平成15年度より普通科, 国際教養科, 商業科を総合学科に改編し, 専門科目を含めた多くの選択科目を設けて興味・関心, 進路に応じた履修ができる。また, 2学期制を導入し, 定期考査の回数を減らすなど授業時間の確保に努めている。										
進学希望(仮倍率)	地 域 性		主な出身中学校		生徒減による学校規模の目安(試算)						
0.75倍	55%		鳴門市第一	35		H17	H30	H45			
			北島	27							
			松茂	18	全 県	155	126	93			
			鳴門市第二	17							
		大麻	16	地 域	155	132	88				
(備考) 進路状況は普通科, 国際教養科, 商業科の状況である。											

鳴門市立鳴門工業高等学校

所在地	鳴門市大津町吉永595				アクセス	JR撫養駅から1.3km バス路線有				
沿革	S38 開校 機械科，工業化学科を設置				通学方法	徒歩 3 自転車 392 バス 17 JR 39 バイク 他				
	S46 情報技術科を設置 S49 建築科を設置 S61 建築科の募集を停止 H11 機械科，工業化学科，情報技術科の募集を停止 工業類を一括募集					通学距離	10km未満 61.7% 10km以上 38.3%			
	創立42年				校舎平均築年数		校地面積 46,466 m ² 第2グラウンド 19,463 m ² 40年			
学科	1年	2年	3年	計	学習形態	学科及び類名 1年 2・3年				
工業科	(130) 130	(145) 143	(150) 141	(425) 414		工業	工業類	共通	機械	
									環境	
								情報理数 (情報ネットワーク専攻)		
							情報理数 (理数専攻)			
合計	(130) 130	(145) 143	(150) 141	(425) 414	進路状況	大学	17	就職	74	
						短大	18	その他	19	
						専修等	27	合計	155	
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	部活	運動部	15部	同好会	6部	
	55(4)		7	5		文化部	10部	合計	31部	
教育方針等	<p>(1) 個人の尊厳を重んじ，人権教育を教育の全領域で徹底し，真に差別のない社会の実現のため，意欲と実践力をもった民主的な人間を育成する。</p> <p>(2) 環境や福祉に対する正しい理解と認識を持ち，国際理解と協調心のある心豊かな人間を育成する。</p> <p>(3) 勤労と責任を重んじ，自主的・創造的な能力を持った，次代を担う優秀な技術者を育成する。</p> <p>(4) 学科再編の趣旨を生かし，生徒にとって魅力ある学校づくりに努め，学校の活性化を図る。</p>									
学校の特色	<p>(1) 鳴門市に設置された市立の工業科の専門高校である。進学率は40.0%で，就職率は47.7%である。部活動は野球部，ウエイトリフティング部などが盛んである。</p> <p>(2) 1学年では共通の科目を履修し，2学年から機械，環境，情報理数の各コースから興味・関心，進路に応じて選択する。</p>									
進学希望 (仮倍率)	地域性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)					
0.64倍	50%	鳴門市第一	23	H17	H30	H45	全県	130	106	78
		鳴門市第二	20							
		大麻	16							
		松茂	13							
		瀬戸	9	地域	130	111	74			
(備考)										

徳島県立名西高等学校

所在地	名西郡石井町石井字石井21-11				アクセス	JR石井駅から徒歩10分 バス路線有					
沿革	T12 徳島県立名西高等女学校を開校 S24 徳島県名西高等学校と改称 S25 全日制に家庭技芸課程を設置 S31 徳島県立名西高等学校と改称 S44 芸術科（音楽，美術）を設置 S52 家政科の募集を停止 H10 芸術科に書道を設置 創立82年				通学方法	徒歩 17 自転車 493 バス 23 JR 132 バイク 1 他 19					
					通学距離	10km未満 80.7% 10km以上 19.3%					
					校地面積	31,965 m ²					
					校舎平均築年数	27年					
学 科	1年	2年	3年	計	学 習 形 態	学科及び類名					
普通科	(155) 162	(180) 177	(190) 185	(525) 524		普通科	共通	1年		2・3年	
芸術科	(45) 47	(45) 42	(45) 39	(135) 128				数理応用		人文応用	
合 計	(200) 209	(225) 219	(235) 224	(660) 652		芸術科		音楽		美術	
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	進 路 状 況	大学	85	就職	13		
	69(22)		2	9		短大	29	その他	32		
教育方針等	(1) 個人の尊厳と基本的人権を尊重し，民主社会の実現に貢献できる人間を育てる。 (2) 生徒一人一人の特性の伸長を図るとともに，知・徳・体の調和がとれ，誠実で自主的・創造的な実践力ある心身ともにたくましい人間を育てる。 (3) 国際理解を深め，我が国の文化と伝統を尊重する態度の育成を図る。										
学校の特色	(1) 名西郡石井町に設置された普通科と芸術科を持つ高校である。進学率は80.1%で，大学進学率は37.6%である。部活動は相撲部，弓道部，合唱部，美術部などが盛んである。 (2) 普通科は数理応用，人文応用，文化情報の各コースがあり2学年より興味・関心，進路に応じて選択する。芸術科には音楽，美術，書道があり3年間を通じて専門科目を学習する。また，学科の枠を越えて一部履修が可能である。										
進学希望(仮倍率)	地域性		主な出身中学校		生徒減による学校規模の目安(試算)						
0.73倍	48%		石井	66	全 県	H17	H30	H45			
			高浦	28		200	163	120			
			国府	17		地 域	200	152	119		
神山	10	鴨島東	10								
(備考)											

徳島県立城西高等学校神山分校

所在地	名西郡神山町神領字北399				アクセス	JR鮎喰駅から23km バス路線有								
沿革	S23 開校，農林科を設置 S38 定時制を廃し全日制となる 農村家庭課程を生活科と改称 S49 農林科の募集を停止し，造園土木科を設置 H9 校名を徳島農業高校神山分校から城西高等学校神山分校に改称				通学方法	徒歩	1	自転車	11	バス	65			
						JR		バイク	19	他	2			
					通学距離	10km未満		17.0%		10km以上		83.0%		
	創立57年				校地面積	13,657 m ²		実習地		8,486 m ²		校舎平均築年数		20年
学科	1年	2年	3年	計	学習形態	学科及び類名		1・2・3年						
農業科	(30) 30	(30) 27	(31) 31	(91) 88		農業	造園土木科	造園土木						
							生活科	生活						
合計	(30) 30	(30) 27	(31) 31	(91) 88		進路状況	大学	0	就職	14				
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	短大	2	専修等	10	その他	7				
	16(2)		1	2	合計				33					
部活	運動部		8部		文化部		3部		合計 11部					
教育方針等	<p>創立57周年を迎える農業の専門高校で，県下で唯一の造園土木科と生活科があり，「環境」をキーワードに教育活動を行っている。恵まれた環境の中で，専門的な知識・技術の習得を通して将来のスペシャリストを育成する。生命と人権を尊重し，豊かな心と創造性を持つ生徒，環境にやさしく潤いのある生活空間の創造や自然との共生を図ることができる人材の育成を目指す。</p> <p>また，小規模校の特性を生かして，人間的触れ合いを大切にし，一人ひとりの個性や可能性を最大限引き出すため，全教育活動を通して一貫性のある指導に努める。</p>													
学校の特色	<p>(1) 名西郡神山町に設置された農業科の分校である。進学率は36.4%で，就職率は42.4%である。部活動は運動部，文化部合わせて11部が活動している。</p> <p>(2) 造園土木科と生活科を設置しており，3年間を通じて専門科目を学習する。</p>													
進学希望(仮倍率)	地域性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)									
0.58倍	40%	石井	4			H17	H30	H45						
		神山東	3		全県	30	24	18						
神山	3		地域	30		23	18							
国府	3													
鴨島第一	3													
(備考)														

徳島県立阿波高等学校

所在地	阿波市柿原字ヒロナカ180				アクセス	JR鴨島駅から4km バス路線有											
沿革	T12 徳島県立阿波中学校を設立 S24 徳島県阿波高等学校と改称 S31 徳島県立阿波高等学校と改称 S47 理数科を設置 S55 理数科の募集を停止 創立82年				通学方法	徒歩 6 自転車 602 バス JR 44 バイク 63 他 6											
					通学距離	10km未満 81.2% 10km以上 18.8%											
					校地面積	47,380 m ²											
					校舎平均築年数	30年											
学 科	1年	2年	3年	計	学 習 形 態	学科及び類名 1・2年 3年 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>普通科</td> <td>共 通</td> <td colspan="2">文系</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="2">理系</td> </tr> </table>				普通科	共 通	文系				理系	
普通科	共 通	文系															
		理系															
普通科	(230) 230	(240) 240	(240) 240	(710) 710													
合 計	(230) 230	(240) 240	(240) 240	(710) 710	進路状況	大学 171 就職 3 短大 8 専修等 38 その他 18 合計 238											
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	部 活	運動部 11部 同好会 2部 文化部 16部 合計 29部											
	47(6)		1	8													
教育方針等	生きる力と豊かな心を育み、人間性豊かで、かつ鋭い人権感覚と生涯にわたり学び続ける自主性、創造性に富んだたくましい人間を育成する。																
学校の特色	(1) 阿波市に設置された普通科高校である。進学率は91.2%で、特に大学進学率は71.8%と高い。部活動は柔道部、演劇部、将棋部などが盛んである。 (2) 1,2学年は共通で、3学年で文系、理系を選択する。2学期制を導入し、定期考査の回数を減らすなど授業時間の確保に努めている。																
進学希望(仮倍率)	地域性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)												
1.23倍	47%	吉野	49			H17	H30	H45									
		上板	42		全 県	230	187	138									
		鴨島第一	38														
		土成	36		地 域	230	176	124									
		市場	18														
(備考)																	

徳島県立阿波西高等学校

所在地	阿波市下喜来南228-1				アクセス	JR学駅から5km				
沿革	S33 徳島県立川島高等学校阿波分教室とし設置 阿北高等学校分校校舎において開校				通学方法	徒歩	4	自転車	323	バス
	S37 徳島県立阿波商業高等学校として独立					JR	1	バイク	8	他
	H9 徳島県立阿波西高等学校と改称 商業科の募集を停止し、普通科を設置				通学距離	10km未満		95.5%		
	H13 連携型中高一貫教育を導入					10km以上		4.5%		
	創立47年				校地面積	29,847 m ²				
				校舎平均築年数	27年					
学科	1年	2年	3年	計	学習形態	学科及び類名				
普通科	(105) 98	(110) 108	(130) 124	(345) 330		普通科	1年		2・3年	
							共通	アカデミックA	アカデミックB	
							OAビジネス		福祉ボランティア	
							進路状況		就職	
合計	(105) 98	(110) 108	(130) 124	(345) 330		大学	15	就職	41	
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他		短大	20	その他	15	
	43(13)		1	6		専修等	27	合計	118	
部活	運動部		10部			文化部	11部		合計	21部
教育方針等	<p>一人ひとりの人権を尊重し、豊かな心と確かな学力を持ち、社会の変化に主体的に対応できる調和のとれた人間を育成する。</p> <p>(1) 生徒一人ひとりが自分の目標を見つけ、それに向けてチャレンジする学校。 (2) 基礎学力を身につけさせ、社会に通用する人材を育成する学校。 (3) 一人ひとりの人権を尊重し、豊かな人間性を育む教育を重視する学校。 (4) 規範意識と社会性を身につけた人間を育成する学校。 (5) 中高一貫校として、地域社会に開かれ、信頼される教育活動を推進する学校。</p>									
学校の特色	<p>(1) 阿波市に設置された普通科高校である。進学率は52.5%で、就職率は34.7%である。部活動は運動部、文化部合わせて21部が活動している。</p> <p>(2) 平成13年度より連携型中高一貫教育(阿波中、市場中)を導入している。1学年は共通の科目を履修し、2学年からはアカデミックA、アカデミックB、OAビジネス、福祉ボランティアの各コースから興味・関心、進路に応じて選択する。</p>									
進学希望(仮倍率)	地域性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)					
0.69倍	89%	阿波	55			H17	H30	H45		
		市場	39		全県	105	85	63		
		山川	9			地域	105	80	56	
		土成	3							
川島	2									
(備考)										

徳島県立阿波農業高等学校

所在地	阿波市成当515-1				アクセス	JR鴨島駅から5km					
沿革	S20 徳島県立名西高等女学校阿波分校を土成国民学校に併置				通学方法	徒歩 3 自転車 161 バス JR 6 バイク 49 他 11					
	S26 徳島県立阿北高等学校として独立 普通課程，農業課程，家庭課程を設置					通学距離	10km未満 52.9% 10km以上 47.1%				
	S31 徳島県立阿北高等学校と改称				校地面積		27,682 m ² 実習地 28,074 m ²				
	S57 園芸科の募集を停止し，農業科を設置 H3 農業科，家政科の募集を停止し，生活経営科，生物生産科，生物工学科を設置					校舎平均築年数		23年			
H10 徳島県立阿波農業高等学校と改称し，農業科学類に再編 H16 学科再編で農業科学科，園芸科学科に再編				創立60年							
学 科	1年	2年	3年	計	学 習 形 態	学科及び類名					
農業科	(80) 74	(80) 74	(80) 74	(240) 222		農 業	農業科学科		1年	2・3年	
							共通	農業生産 環境技術 食品技術			
							園芸科学科		共通	園芸生産 園芸活用	
合 計	(80) 74	(80) 74	(80) 74	(240) 222	進路状況	大学	0	就職	39		
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	短大	9	その他	12			
	37(10)		5	10	専修等	13	合計	73			
部 活	運動部		6部	同好会	4部	文化部		7部	合計	17部	
教育方針等	<p>教育基本法，本県の教育目標に基づき，人間性豊かな生徒の育成を図るとともに，人権教育を基盤として，共生の視点に立った国際理解のための教育や環境教育を推進し，生きる力を身につけた人間を育成する。</p> <p>(1) 自主・自律の精神をもった個性豊かな人間を育成する。</p> <p>(2) 国際理解のための教育をすすめる中で，我が国及び国際社会の一員として行動できる人間を育成する。</p> <p>(3) 人間としての生き方あり方を学ぶことから自己の進路の決定をはかり，生涯にわたる「学び」を実現できる課題解決能力を持った心豊かな人間を育成する。</p>										
学校の特色	<p>(1) 阿波市に設置された農業科の小規模専門高校である。進学率は30.1%で，就職率は53.4%である。部活動は運動部，文化部など17部が活動している。</p> <p>(2) 農業科学科（農業生産系列，環境技術系列，食品技術系列），園芸科学科（園芸生産系列，園芸活用系列）が設置されており，2学年より興味・関心，進路に応じて系列を選択する。</p>										
進学希望（仮倍率）	地域性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安（試算）						
0.85倍	43%	土成	15	全 県	80	65	48	H17	H30	H45	
		上板	13					地 域	80	61	43
		吉野	9								
		板野	8								
		藍住，阿波	7								
（備考）											

徳島県立川島高等学校

所在地	吉野川市川島町桑村字岡山367				アクセス	JR川島駅から徒歩10分 バス路線有						
沿革	T13 徳島県立麻植中学校を設立 S23 徳島県麻植高等学校と改称 S24 徳島県川島高等学校と改称 S31 徳島県立川島高等学校と改称 創立81年				通学方法	徒歩 53 自転車 305 バス 6 JR 265 バイク 24 他						
					通学距離	10km未満 77.0% 10km以上 23.0%						
					校地面積	41,237 m ²						
					校舎平均築年数	29年						
学科	1年	2年	3年	計	学習形態	学科及び類名 1・2・3年						
普通科	(195) 198	(215) 209	(220) 218	(630) 625		普通科	単位制					
合計	(195) 198	(215) 209	(220) 218	(630) 625		(平成17年度入学生より)						
進路状況	大学 83		就職 24			短大 35		その他 13		専修等 61		合計 216
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	部活	運動部	11部	同好会	4部			
	44(5)		1	7		文化部	12部	合計	27部			
教育方針等	個人の尊厳と基本的な人権を尊重し、我が国および国際社会の一員として創造性に富み、自主性と実践力を持った心豊かな人材を育成する。 (1) 確かな学力をつけ、生徒の自己実現を図る。 (2) 校訓「至誠無息」の精神を涵養し、心豊かな思いやりのある人物を育てる。 (3) 生徒一人ひとりの個性や能力を引き出し伸ばす。 (4) 国際化、情報化に対応する教育を行う。 (5) 活力溢れ地域や保護者に信頼される学校づくりを行う。											
学校の特色	(1) 吉野川市に設置された普通科高校である。進学率は82.9%で、大学への進学率は38.4%となっている。部活動は剣道部、音楽部などが盛んである。 (2) 平成17年度より単位制、2学期制を導入予定で、科目選択の幅を広げるとともに、定期考査の回数を減らすなど授業時間の確保に努める。また、平成18年度より併設型中高一貫教育を導入する。											
進学希望(仮倍率)	地域性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)							
0.88倍	59%	山川	50			H17	H30	H45				
		鴨島第一	26									
		川島	24	全県	195	159	117					
		鴨島東	21	地域	195	146	114					
		市場	15									
(備考)												

徳島県立鴨島商業高等学校

所在地	吉野川市鴨島町喜来681-9				アクセス	JR鴨島駅から徒歩15分 バス路線有				
沿革	S32 鴨島町立鴨島商業高等学校を開校 S37 県に移管し徳島県立鴨島商業高等学校と改称 H4 経営情報科を設置 創立48年				通学方法	徒歩 12 自転車 241 バス JR 114 バイク 2 他				
					通学距離	10km未満 76.1% 10km以上 23.9%				
					校地面積	52,015 m ²				
					校舎平均築年数	30年				
学科	1年	2年	3年	計	学習形態	学科及び類名 1年 2・3年				
商業科	(110) 113	(120) 117	(130) 121	(360) 351		商業	商業科 経営情報科	共通	商業	
								進学		
								経営情報		
合計	(110) 113	(120) 117	(130) 121	(360) 351	進路状況	大学	6	就職	60	
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	部活	短大	12	その他	15	
	42(7)		2	7		専修等	28	合計	121	
						運動部	11部	合計	22部	
						文化部	11部			
教育方針等	<ol style="list-style-type: none"> (1) 基礎・基本を重視し、確かな学力を育成する。 (2) 一人ひとりの個性の伸長と可能性を引き出す進路実現を図る。 (3) 人間的ふれあいのある生徒指導を実践する。 (4) 教育の全領域で人権尊重の精神の涵養を図る。 (5) 創造性に富み、幅広い視野や逞しい実践力を兼ね備えた、豊かな人間性を持つ「ビジネス・スペシャリスト」を育成する。 (6) 家庭および地域社会と連携した教育活動を推進し、清新で活力ある校風の樹立に努める。 									
学校の特色	<ol style="list-style-type: none"> (1) 吉野川市に設置された商業科の専門高校である。進学率が38.0%で、就職率は49.6%である。部活動はボクシング部などが盛んである。 (2) 商業科(商業コース、進学コース)と経営情報科が設置されており、商業科では1学年に共通の科目を履修し、2学年から興味・関心、進路に応じ各コースを選択する。経営情報科は3年間を通じて専門科目を学習する。 									
進学希望(仮倍率)	地域性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)					
0.84倍	53%	鴨島第一	28	全県	H17	H30	H45			
		山川	14		110	89	66			
		石井	12		地域	110	82	64		
		鴨島東	11							
土成	11									
(備考)										

徳島県立脇町高等学校

所在地	美馬市脇町大字脇町1270-2				アクセス	JR穴吹駅から2.6km バス路線有				
沿革	M29 徳島県立尋常中学校第一分校として開校 M32 徳島県立脇町中学校として独立 S31 徳島県立脇町高校と改称 S43 理数科を設置 S57 理数科を廃止				通学方法	徒歩 60 自転車 313 バス 5 JR 184 バイク 94 他 64				
					通学距離	10km未満 55.7% 10km以上 44.3%				
					校地面積	36,962 m ²				
	創立109年				校舎平均築年数	29年				
学科	1年	2年	3年	計	学習形態	学科及び類名 1年 2年 3年				
普通科	(230) 230	(240) 239	(240) 240	(710) 709		進路状況	普通科	共通	文系	文系1
										文系2
										文系3
					理系					
									理系医	
合計	(230) 230	(240) 239	(240) 240	(710) 709		大学	173	就職	7	
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	部活	短大	9	その他	30	
	46(5)		1	8		専修等	21		合計	240
						運動部	14部			
						文化部	14部	合計	28部	
教育方針等	教育基本法ならびに本県の教育目標に基づき、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、自主的・創造的能力及び人権尊重の精神に富んだ人材を育てる。									
学校の特色	(1) 美馬市に設置された旧制脇町中学校を前身とする普通科高校である。進学率は84.6%で、特に大学進学率が72.1%と高い。部活動はソフトテニス部、ラグビー部などが盛んである。 (2) 1学年は全員共通の教育課程で、学年が進行するに従って生徒の興味・関心、進路に応じて各コースを選択する。また、1日45分7時限の授業を展開している。									
進学希望(仮倍率)	地域性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)					
1.29倍	61%	脇町	33	全県	H17	H30	H45			
		美馬	27		230	187	138			
		江原	27		地域	230	168	128		
		阿波	27							
山川	19									
(備考)										

徳島県立穴吹高等学校

所在地	美馬市穴吹町穴吹字岡33				アクセス	JR穴吹駅から徒歩7分 バス路線有			
沿革	T12 徳島県立美馬高等女学校を開校 S24 高校再編成により徳島県穴吹高等学校と改称 S31 徳島県立穴吹高等学校と改称 S46 英語科，保育科を新設 S60 英語科，保育科の募集を停止 H 4 家政科の募集を停止 H12 単位制を導入				通学方法	徒歩 70 自転車 175 バス 1 JR 158 バイク 11 他 51			
					通学距離	10km未満 66.6% 10km以上 33.4%			
					校地面積	30,909 m ²			
	創立82年				校舎平均築年数	32年			
学科	1年	2年	3年	計	学 習 形 態	学科及び類名 1・2・3年			
普通科	(145) 148	(165) 154	(165) 142	(475) 444		普通科	単位制		
合計	(145) 148	(165) 154	(165) 142	(475) 444	進路状況	大学 24 短大 18 専修等 32	就職 50 その他 18 合計 142		
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	部 活	運動部	11部	同好会	5部
	45(5)		1	8		文化部	9部	合計	25部
教育方針等	(1) 個人の尊厳と基本的人権を尊重し，民主社会の実現に貢献できる生徒を育成する。 (2) 知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな全人教育を推進する。 (3) 自主・自律の精神に富み，創造性と実践力のある心身ともにたくましい生徒を育成する。 (4) 生徒と教師の温かい人間関係を確立し，楽しく活力のある学校づくりに努める。								
学校の特色	(1) 美馬市に設置された普通科高校である。進学率は52.1%で，就職率は35.2%である。部活動はレスリング部，少林寺拳法部などが盛んである。 (2) 平成12年度に単位制を導入し，科目の選択の幅を広げるほか，2学期制を導入することによって，定期考査の回数を減らすなど授業時間の確保にも努めている。								
進学希望 (仮倍率)	地域性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)				
		江原	42			H17	H30	H45	
0.58倍	80%	脇町	19		全 県	145	118	87	
		穴吹	18			地 域	145	106	81
		美馬	13						
		三島	10						
(備考)									

徳島県立美馬商業高等学校

所在地	美馬市美馬町字大宮西100-4				アクセス	JR貞光駅から1.6km バス路線有									
沿革	S31 徳島県立美馬商業高等学校を開校 S33 徳島県立美馬商工高等学校と改称 S42 工業科が独立し徳島県立美馬商業高等学校と改称				通学方法	徒歩 8 自転車 148 バス 2 JR 24 バイク 27 他 21									
	創立49年				通学距離	10km未満 80.1% 10km以上 19.9%									
					校地面積	30,555 m ²									
					校舎平均築年数	26年									
					学 科	1年 2年 3年 計									
		商業科		(70) 71	(80) 75	(80) 74	(230) 220	学 習 形 態	学科及び類名		1年		2・3年		
									商 業	商 業 科	共 通	ビジネス会計		ビジネス情報	
合 計				(70) 71	(80) 75	(80) 74	(230) 220	進 路 状 況	大学	4	就職	37			
									短大	10	その他	6			
								専修等	16	合計	73				
職員数		教員(非常勤等)		実習助手		事務他		部 活	運動部		8部				
		26(5)		1		6			文化部		10部		合計 18部		
教育方針等	<p>(1) 人間尊重の精神に基づいた、心身ともに健康な人材を育成する。</p> <p>(2) すべての教育活動において人権教育を推進し、人権尊重の精神の涵養を図る。</p> <p>(3) 勤労と責任を重んじ、国家社会に貢献できる職業人を育成する。</p> <p>(4) 生徒と教職員の温かい人間関係を確立し、楽しく活力ある学園を創造する。</p>														
学校の特色	<p>(1) 美馬市に設置された商業科の小規模専門高校である。進学率は41.1%で、就職率は50.7%である。部活動は陸上競技部などが盛んである。</p> <p>(2) 商業科にビジネス会計コースとビジネス情報コースを設け、2学年より生徒の興味・関心、進路に応じて各コースを選択する。</p>														
進学希望(仮倍率)	地域性		主な出身中学校				生徒減による学校規模の目安(試算)								
0.77倍	90%		美馬	29				H17	H30	H45					
			半田	12			全 県	70	57	42					
			貞光	7											
			脇町	6			地 域	70	51	39					
			江原	5											
(備考)															

徳島県立貞光工業高等学校

所在地	美馬郡つるぎ町貞光字馬出63-2				アクセス	JR貞光駅から徒歩5分 バス路線有				
沿革	S33 徳島県立美馬商業高等学校に工業課程を併設し、校名を徳島県立美馬商工高等学校と改称 電気科を設置				通学方法	徒歩 21 自転車 151 バス JR 329 バイク 13 他				
	S37 工業課程に機械科を設置 S38 工業課程に土木科を設置 S42 分離独立し、徳島県立貞光工業高等学校と改称 S49 建築科を設置				通学距離	10km未満 37.3% 10km以上 62.7%				
	創立47年				校地面積	32,158 m ²				
					校舎平均築年数	24年				
学 科	1年	2年	3年	計	学 習 形 態	学科及び類名 1・2・3年				
工業科	(160) 162	(175) 171	(165) 158	(500) 491		工業	電気科	電気		
							機械科	機械		
							土木科	土木		
							建築科	建築		
合 計	(160) 162	(175) 171	(165) 158	(500) 491	進路状況	大学	25	就職	116	
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他		短大	5	その他	5	
	58(7)		4	8		専修等	30	合計	181	
部 活						運動部	12部	同好会	10部	
						文化部	6部	合計	28部	
教育方針等	(1) 基本的人権を尊重し、友愛と協調の精神を重んじる人間を育成する。 (2) 平和で豊かな国際社会の創造に貢献できる人間を育成する。 (3) 勤労と責任を重んじ、自主・自律の精神を備えた人間を育成する。 (4) 自然環境保護への関心を深め、公共心や奉仕精神を備えた心豊かな人間を育成する。 (5) 時代の変化や技術の進展に対応できるたくましい実践力と創造性に富む技術者を育成する。									
学校の特色	(1) 美馬郡つるぎ町に設置された工業科の専門高校である。進学率は33.1%で、就職率は64.1%である。部活動はラグビー部、ウェイトリフティング部などが盛んである。 (2) 電気科、機械科、土木科、建築科の4学科を設置し、3年間を通して専門科目を学習する。									
進学希望(仮倍率)	地域性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)					
1.15倍	42%	美馬	21			H17	H30	H45		
		山川	15		全 県	160	130	96		
		貞光	14							
川島	10		地 域	160	117	89				
山城	10									
(備考)										

徳島県立池田高等学校

所在地	三好郡池田町字ウエノ2834				アクセス	JR池田駅から徒歩8分 バス路線有							
沿革	T11 徳島県立池田中学校を設立 S23 学制改革により徳島県池田高等学校と改称 S31 徳島県立池田高等学校と改称 S46 理数科を設置 S55 理数科の募集を停止				通学方法	徒歩	149	自転車	38	バス	34		
						JR	411	バイク	13	他	48		
					通学距離	10km未満		49.6%		10km以上		50.4%	
					校地面積	32,242 m ²							
	創立83年				校舎平均築年数	29年							
学科	1年	2年	3年	計	学習形態	学科及び類名							
普通科	(235) 236	(220) 217	(240) 235	(695) 688		普通科	共通	1年		2年		3年	
								人文	人文		人文		
								理数	理数		理数		
合計	(235) 236	(220) 217	(240) 235	(695) 688		進路状況	大学	116	就職	14			
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	短大	20	専修等	66	その他	21			
	45(4)		1	9	合計	237							
部活	運動部		13部	同好会	2部		文化部	8部	合計	23部			
教育方針等	<p>(1) 知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育てる。</p> <p>(2) 基本的人権を尊重し、自主性・自律的精神に富み、創造性と実践力のあるたくましい人間を育てる。</p>												
学校の特色	<p>(1) 三好郡池田町に設置された普通科高校である。進学率は85.2%で、特に大学進学率が48.9%と高い。部活動はハンドボール部、登山部、吹奏楽部などが盛んである。</p> <p>(2) 1学年は共通の科目を履修し、学年が進行するに従って生徒の興味・関心、進路に応じて各コースを選択する。また、2学期制を導入し、定期考査の回数を減らすなど授業時間の確保に努めている。</p>												
進学希望(仮倍率)	地域性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安(試算)								
1.12倍	87%	池田	52			H17	H30	H45					
		三加茂	44		全県	235	191	141					
		三好	26			地域	235	124	95				
		三野	21										
		池田第一	14										
(備考)													

徳島県立辻高等学校

所在地	三好郡井川町御領田61-1				アクセス	JR辻駅から徒歩2分 バス路線有				
沿革	T 5 徳島県三好郡立女子実業学校を開校 T12 徳島県立三好高等女学校と改称 S23 徳島県三好高等学校と改称(全日制普通) S24 徳島県辻高等学校と改称 S28 全日制家庭課程を設置 S31 徳島県立辻高等学校と改称 S44 商業科と家庭科となる H 8 商業科, 家庭科の募集を停止, 普通科高校となる				通学方法	徒歩 38 自転車 145 バス 3 JR 256 バイク 10 他 24				
					通学距離	10km未満 64.6% 10km以上 35.4%				
					校地面積	31,511 m ²				
	創立89年				校舎平均築年数	32年				
学 科	1年	2年	3年	計	学 習 形 態	学科及び類名 1年 2・3年				
普通科	(170) 173	(150) 149	(165) 155	(485) 477		普通科	共通	文理		
								人文教養		
								情報科学		
					体育健康					
							福祉			
合 計	(170) 173	(150) 149	(165) 155	(485) 477	進路状況	大学 33	就職 37			
						短大 23				
						専修等 59	その他 11			
							合計 163			
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	部 活	運動部 14部	文化部 12部	合計 26部		
	44(10)		1	7						
教育方針等	「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな全人教育を推進すると共に、人権を尊重しかつ自主的・自律的・創造的能力に富んだ人間を育成する」という教育目標を達成するため、生徒の個性や適性・能力に応じた教育を推進する。また、地域社会に密着した特色のある学校運営をしながら、自主自律の精神の涵養と社会の変化に対応できる調和のとれた人材を育成し、教師と生徒、生徒相互の温かい人間関係の確立と明るく楽しい学園の創造に取り組む。									
学校の特色	(1) 三好郡井川町に設置された普通科高校である。進学率は70.6%で、就職率は22.7%である。部活動はソフトボール部などが盛んである。 (2) 1学年では共通の科目を履修し、2学年で文理、人文教養、情報科学、体育健康、福祉の各コースから興味・関心、進路に応じて選択する。また、コースの枠を越えて一部履修が可能である。									
進学希望(仮倍率)	地 域 性		主な出身中学校		生徒減による学校規模の目安(試算)					
1.07倍	89%		三加茂	36		H17	H30	H45		
			三好	23	全 県	170	138	102		
			井川	19						
			池田第一	17						
池田	13	地 域	170	89					69	
(備考)										

徳島県立三好高等学校

所在地	三好郡池田町字州津大深田720				アクセス	J R 箆蔵駅徒歩 5 分 バス路線有				
沿革	S21 三好郡町村学校組合立徳島県三好農林学校を開校 S23 三好農業高等学校と改称 S24 池田高校の分校となる S27 徳島県三好農林高等学校として独立再発足 S31 徳島県立三好農林高等学校と改称 S58 畜産科，生活科の募集を停止，食品製造科を新設 H 8 徳島県立三好高等学校と改称，生物資源科とビジネス科の 2 科となる H9 生物資源類，ビジネス類と改称				通学方法	徒歩 24 自転車 68 バス 2 J R 135 バイク 13 他 53				
	創立 5 9 年				通学距離	10km未満 61.5% 10km以上 38.5%				
					校地面積	26,238㎡ 実習地 228,444㎡				
					校舎平均築年数	2 2 年				
学 科	1 年	2 年	3 年	計	学 習 形 態	学科及び類名		1 年	2・3 年	
農業科	(45) 46	(45) 43	(55) 52	(145) 141		農 業	生物資源類	共通	生物生産 森林環境 食品発酵	
商業科	(45) 46	(45) 42	(50) 46	(140) 134	商 業	ビジネス類	共通	情報 会計		
合 計	(90) 92	(90) 85	(105) 98	(285) 275	進路状況	大学	3	就職	62	
職員数	教員(非常勤等)		実習助手	事務他	短大	8	専修学校	22	その他	7
	4 0 (8)		5	1 0	合計				合計	102
部 活					運動部	7 部	文化部	7 部		
					同好会	5 部	合計	1 9 部		
教育方針等	<p>(1) 知・徳・体・食の調和のとれた人間性豊かな生徒を育てる。</p> <p>(2) 基本的人権を尊重し，民主的で，かつ我が国及び国際社会に貢献できる自主的・自律的・創造的能力に富んだ心豊かなたくましい人間を育てる。</p> <p>(3) 農業と商業に関する知識と理解を深め，技術革新の進展，国際化，情報化社会に対して主体的に対応できる職業人を育てる。</p>									
学校の特色	<p>(1) 三好郡池田町に設置された農業科と商業科を持つ専門高校である。進学率は 3 2 . 4 % で，就職率は 6 0 . 8 % である。部活動は軟式野球部などが盛んである。</p> <p>(2) 生物資源類（生物生産コース，森林環境コース，食品発酵コース）とビジネス類（情報コース，会計コース）が設置されており，1 学年は類毎に共通の科目を履修し，2 学年より興味・関心，進路に応じて各コース選択をする。</p>									
進学希望（仮倍率）	地 域 性	主な出身中学校			生徒減による学校規模の目安（試算）					
0 . 7 7 倍	9 7 %	池田	2 0	全 県	H17	H30	H45			
		三好	1 6		90	73	54			
		山城	1 3		地 域	90	47	36		
三野	9									
		池田第一	9							
(備考)										

3. 学科の概要

1. 普通科の設置状況

学校名	学科	H17 入学 定員	学 科 の 内 容
城東	普通	360	コース制（文理，人文，数理） 2学期制
城南	普通	340	コース制（文系，理系，SSH） 2学期制 平成18年度 応用数理科新設
城北	普通	340	単位制 2学期制
城ノ内	普通	240	コース制（文系，理系） 2学期制 併設型中高一貫教育校
徳島北	普通	360	コース制（人文，理数，外国語） 2学期制 平成18年度 国際英語科新設
徳島市立	普通 理数	320 40	コース制（国際文化，人文社会，科学） 2学期制
小松島	普通	245	コース制（アカデミック ，アカデミック ，ヒューマン，カルチャー，サイエンス）
勝浦	普通	40	コース制（文理，生活福祉，情報処理，ふれあい）
富岡東	普通	190	コース制（文系，理系） 併設されている商業科との総合選択制
富岡西	普通	260	単位制 2学期制
那賀	普通	80	コース制（文系応用，理系応用，国際，福祉，環境，情報） 連携型中高一貫教育校
海部	普通 数理科学	110 30	コース制（自然科学，人文社会） 併設されている情報ビジネス科との総合選択制
鳴門	普通	350	単位制 2学期制
板野	普通	215	単位制 2学期制
名西	普通 芸術	155 45	コース制（数理応用，人文応用，文化情報） 併設されている芸術科との総合選択制

学校名	学科	H17 入学 定員	学 科 の 内 容
川島	普通	195	単位制 2学期制 平成18年度 併設型中高一貫教育校導入
阿波	普通	230	コース制(文系,理系) 2学期制
阿波西	普通	105	コース制(OAビジネス,福祉ボランティア,アカデミックA,アカデミックB) 連携型中高一貫教育校
穴吹	普通	145	単位制 2学期制
脇町	普通	230	コース制(文系,理系) 45分×7時限授業の実施
辻	普通	170	コース制(文理,人文教養,情報科学,体育健康,福祉)
池田	普通	235	コース制(人文,理数) 2学期制

2. 農業科の設置状況

学校名	学科・類	H17 入学 定員	学 科 の 内 容	将来の進路 めざす資格
城西	農業科学科	45	次代の農業を担う高度技術者や研究者を養成するため、園芸を中心に、体験的な学習を通して科学的な思考力を育て、農業系大学への進学や関連産業において活躍できる技術者を育成する。	農業系大学等への進学 農業自営や農業関連への就職
城西	造園土木科	20	自然と人間とのかかわりの中で、調和のとれた共生をめざし、より豊かな環境を創造できる知識と技術を持った造園技術者を育成する。	造園技能士 造園施工管理技士 ビオトープ管理士
神山	生活科	10	農業と人間生活のかかわりを科学的にとらえ、地域社会に潤いを与え、生活の向上を図ることができる人材を育成する。	園芸装飾技能士 フラワー装飾士 福祉住環境コーディネーター
勝浦	園芸科	20	植物バイオテクノロジー、園芸セラピーなどの分野の学習を通して、関連産業において専門技術を活用できる人材を育成する。	農業自営や農業関連への就職 園芸装飾技能士
阿波	農業科学科	50	動植物の飼育や栽培を中心に、生産から加工、販売まで一貫した教育内容を学習するとともに、安全な食生活と自然との共生など、健康や環境に配慮できる人材を育成する。	農業自営や農業関連への就職
農業	園芸科学科	30	花きなどの生産と利用を中心に、生産から加工、販売まで一貫した教育内容を学習するとともに、これらを活用した快適な生活空間の創造ができる人材を育成する。	園芸装飾技能士 グリーンアドバイザー フラワーデザイナー
三好	生物 生産 コース	45	動植物の飼育や栽培に関する知識や技術を学び、将来農業経営や関連産業等、ものづくりに関わる仕事に従事する人材を育成する。	農業自営や農業関連への就職
	資 森林環境 コース		森林の持つ機能について学び、環境緑化に関する知識と技術を習得し、林業者として、環境保全に貢献できる人材を育成する。	林業関連への就職
	類 食品発酵 コース		食品製造や食品化学、食品微生物などの学習を通して醸造技術などの基礎的な技術を習得し、食品関連産業で活躍できる人材を育成する。	食品関連産業への就職

3. 工業科の設置状況

学校名	学科・類	H17 入学 定員	学 科 の 内 容	将来の進路 めざす資格
徳 島 工 業	工業デザインコース	90	デザインの基礎・基本を身につけるとともに、デザインを表現する手法としてのコンピュータを活用できる技術者を育成する。	トレース技能検定 レタリング技能検定
	工業建築コース		建築の基礎・基本を身につけるとともに、建築技術や建築設計製図についての専門的な知識や技術を身につけた技術者を育成する。	建築施工技術者 建築士 施工管理技術者
	土木工学コース		土木の基礎・基本を身につけるとともに、施工現場で実践されている最新の技術についての理解を深め、その専門性を生かし活躍できる技術者を育成する。	測量士補 土木施工技術者 火薬類取扱保安責任者
	工業電気応用システムコース	80	電気工学の基礎から電力、制御、電子、情報、無線通信等について実践的に学び、電気設備の設計、施工、保守を行うことができる技術者を育成する。	工事担任者 電気工事士 陸上特殊無線技師
	工業機械コース		機械のしくみや作り方、使い方など、機械と生産について幅広く学習し、機械についての知識と技術を身につけた技術者を育成する。	電気工事士 ボイラー技士 アーク溶接技能講習
	電子機械コース		機械、電子、情報技術を融合したメカトロニクスについて学び、工作機械やロボットをコンピュータで制御する技術者を育成する。	電気工事士 工事担任者 情報処理技術者
徳 島 東 工 業	機械科	35	機械技術者として必要な基礎・基本となる知識や技術を身につけ、機械の設計、製造、管理などの分野で活躍できる技術者を育成する。	ボイラー技士 危険物取扱者 電気工事士
	電子機械科	30	機械、電子、情報技術を融合したメカトロニクスに関する基礎・基本となる知識や技術を身につけた技術者を育成する。	マイコンシステム技術者 デジタル技能検定 電気工事士
	インテリア科	25	店舗などの計画、設計、施工の基礎・基本を身につけるとともに、家具などの企画、設計、生産の分野でも活躍できる技術者を育成する。	トレース技能検定 レタリング技能検定 インテリア設計士
	電気科	30	電気技術に関する基礎・基本を身につけ、電気設備の製造、管理などの分野で活躍できる技術者を育成する。	電気主任技術者 電気工事士 工事担任者
	電子科	20	通信機器やコンピュータなど電子技術に関する基礎・基本を身につけ、電子工業や関連する分野で活躍できる技術者を育成する。	無線従事者 電気工事士 オーディオ・ラボ技能検定
	情報技術科	30	コンピュータに関する基礎・基本を身につけるとともに、将来の技術革新に対応できるコンピュータ技術者を育成する。	情報処理技術者 システムアドミニストレータ 無線技術者

学校名	学科・類	H17 入学 定員	学 科 の 内 容	将来の進路 めざす資格
阿 南 工 業	機械電子 コース	130	電子技術を取り入れた機械に関する知識や技術を習得し、豊かな社会基盤づくりに貢献できる実践的な技術者を育成する。	情報処理技術者 ボイラー技士 電気工事士
	電気 コース		情報技術を取り入れた電気に関する知識や技術を習得し、豊かな社会基盤づくりに貢献できる実践的な技術者を育成する。	電気主任技術者 電気工事士 情報処理技術者
	情報土木 コース		情報技術を取り入れた土木に関する知識や技術を習得し、豊かな社会基盤づくりに貢献できる実践的な技術者を育成する。	土木施工技術者 測量士補 火薬類取扱保安 責任者
	理数 コース		技術系大学への進学を目的とし、普通科目を重視しながら、機械電子、電気、情報土木の専攻に対応した専門科目を学び、大学等においてより高度な知識や技術の習得をめざす人材を育成する。	技術系大学等への進学
貞 光 工 業	電気科	60	電気技術全般に関する基礎的な知識と技術を習得し、電気に関連する幅広い分野の業務に携わることのできる能力を育てるとともに、各種の資格取得を通して、実践的な能力を身につけた技術者を育成する。	電気主任技術者 電気工事士 工事担任者
	機械科	60	機械に関する知識と技術についての理解を深め、技術革新の時代に対応できる能力と実践力を身につけた技術者を育成する。	ボイラー技士 電気工事士 危険物取扱者
	土木科	20	土木に関する基礎的な知識や技術を身につけ、土木工事の計画、設計、施工、管理などの業務に従事できる技術者を育成する。	測量士補 火薬類取扱保安 責任者 危険物取扱者
	建築科	20	実習等の体験的学習を通して基礎的な知識や技術を学び、情報化時代に向けて、建築産業への勤労意欲と豊かな創造力を持った技術者を育成する。	建築士 建築施工技術者 測量士補
鳴 門 工 業	機械 コース	130	機械工業の各分野に関する基礎的な知識と技術を習得し、機械技術の諸問題を主体的に解決する能力を身につけた技術者を育成する。	ボイラー技士 危険物取扱者 ガス溶接技術者
	環境 コース		環境に関する基礎的な知識と技術を習得し、地球環境に関する調査、管理、環境保全において、応用力を身につけた技術者を育成する。	公害防止管理者 危険物取扱者 毒物・劇物取扱責任者
	情報理数 コース		コンピュータネットワークや関連分野についての基礎的な知識と技術を習得し、実践的に活用できる能力を身につけた技術者を育成する。	基本情報技術者 システムアドミニストレータ マルチメディア検定

4. 商業科の設置状況

学校名	学科・類	H17 入学 定員	学 科 の 内 容	将来の進路 めざす資格
徳島商業	情報システムコース	315	電子投票システム，電子商取引システム等の開発や各種資格の取得をめざした学習を通して，プログラマーやシステムエンジニアなど情報産業で活躍できる人材を育成する。	情報処理技術者 全商情報処理検定
	情報ビジネスコース		表計算，データベースを活用した販売や財務情報の分析，マルチメディア機器の活用など，情報活用能力を基本に，ITビジネスで活躍できる人材を育成する。	情報処理技術者 全商情報処理検定
	流通ビジネスコース		商品流通，マーケティング，接客マナー等の販売促進技術を，模擬会社「徳商デパート」の運営等を通して学び，起業家や経営者を育成する。	日商販売士検定 全商情報処理検定 全商商業経済検定
	国際ビジネスコース		英語によるコミュニケーション学習を通して，国際的なビジネス活動に適切に対応できる知識や技術を学び，国際社会で活躍できる人材を育成する。	実用英語検定 全商英語検定 全商商業経済検定
	会計ビジネスコース		企業会計・コンピュータ会計などについての知識や技術を学び，情報化・国際化社会に対応した会計処理能力と経営分析力を身につけた人材を育成する。	日商簿記検定 全商簿記検定 全商情報処理検定
	OAビジネスコース		情報処理，簿記会計，マーケティングなどビジネスに関する知識と技術を学び，幅広い分野で活躍できる人材を育成する。	秘書検定 全商簿記検定 全商情報処理検定
小松島西	商業科	65	2年次より，「国際ビジネス」「情報会計」のコースに分かれ，企業との連携によるオリジナル商品の開発や商標登録による知的財産権の学習などを通して，地域産業の発展に貢献できる人材を育成する。	全商英語検定 全商情報処理検定 全商商業経済検定 秘書検定
富岡東	商業科	50	商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけ，さらに商業の諸活動を合理的，実践的に行う応用力をもった人材を育成する。	全商簿記検定 全商情報処理検定 全商英語検定
海部	情報ビジネス科	30	ビジネスの基礎・基本を学ぶとともに，ビジネスに関する情報を管理，分析，活用できる専門的な知識や技術を習得し，情報化社会に対応した人材を育成する。	全商情報処理検定 全商簿記検定 全商商業経済検定
鴨島商業	商業科	80	英語，国際金融などビジネスの国際化に対応した学習や，模擬会社の経営など実践的な学習を通して，ビジネスの諸活動に適切に対応し，活躍できる人材を育成する。	全商簿記検定 全商情報処理検定 全商商業経済検定
	経営情報科	30	経営・販売情報の分析と活用，ビジネス情報システムの開発など，経営情報分野の専門性の高い学習を通して，情報化社会で活躍できる人材を育成する。	情報処理技術者 全商情報処理検定
美馬商業	商業科	70	2年次より，「ビジネス会計」「ビジネス情報」のコースに分かれ，会計事務や情報処理の学習を通して，各種の資格取得やコミュニケーション能力を身につけ，ビジネス社会で活躍できる人材を育成する。	情報処理技術者 全商情報処理検定 全商簿記検定
三好	情報コース	45	高度情報化社会に対応した，コンピュータに関する知識や利用技術を身につけるとともに，コミュニケーション能力に優れ，創造性豊かな人材を育成する。	日商文書技能検定 全商情報処理検定 全商簿記検定
	会計コース		企業経営，簿記会計についての知識と技術を身につけ，ビジネス社会において必要な会計処理，経営分析ができる人材を育成する。	日商簿記検定 全商簿記検定 全商情報処理検定

5 . 水産科・家庭科・福祉科・看護科の設置状況

学校名	学科	H17 入学 定員	学 科 の 内 容	将来の進路 めざす資格
水産	水産科	30	海洋生産，海洋工学，水産食品の分野に分かれての学習を通して，水産及び水産に関する工業についての知識と技術を身につけ，水産関連産業等で活躍できる人材を育成する。	海技士 小型船舶操縦士
小松島西	食物科	70	日本料理・中国料理・西洋料理の調理実習や集団給食実習を通して，調理に関する知識と技術を身につけ，外食産業等で活躍できる人材を育成する。	調理師免許 (卒業時に取得) 外食産業への就職
	生活文化科	30	生活文化に関する専門的な知識や技術を習得するとともに，服飾に対する感性を磨き，アパレル関連産業で活躍できる人材を育成する。	被服製作技術検定 ファッションコーディネート 色彩能力検定
	福祉科	40	福祉や介護に関する実習等を通して，社会福祉についての知識と技術を身につけ，将来，介護福祉士など福祉の専門職として活躍できる人材を育成する。	介護福祉士 訪問介護員2級 (卒業時に取得)
富岡東羽ノ浦	看護科	40	高校3年間と専攻科2年間を通して，看護に関する高度な知識や技術，生命の尊さなどを学び，看護の分野で活躍できる人材を育成する。	看護師

6. 総合学科の設置状況

学校名	系列	H17 入学 定員	学 科 の 内 容	将来の進路 めざす資格
城西	ヒューマン 系列	1 2 5	国語，英語，地歴公民など人文科学や，芸術，体育の学習を通して，幅広い視野，国際感覚，コミュニケーション能力や豊かな感性を身につけた人材を育成する。	文系，芸術系，体育系の大学等への進学
	サイエンス 系列		数学，理科など自然科学や，情報の学習を通して，ものごとを科学的，論理的に考える態度や情報社会で活躍できる能力を身につけた人材を育成する。	理系の大学等への進学
	ケア・メディカル 系列		医療・看護，福祉サービスに関する学習を通して，必要な知識や技術，人を大切にする心を学び，健康で豊かな生活が提供できる人材を育成する。	看護系，福祉関連の大学等への進学 介護福祉士 訪問介護員2級 (卒業時に取得)
新野	情報理数 系列	9 5	ネットワーク技術を中心に情報技術の学習を通して，コンピュータを有効に活用し，情報活用能力を身につけた人材を育成する。	理系の大学等への進学 CISCO技術者認定
	コミュニケーション 人文系列		国語，英語，地歴公民など人文科学を中心に学習し，国際交流などを通してコミュニケーション能力を高め，日本文化にも親しむことのできる人材を育成する。	文系の大学等への進学 実用英語技能検定
	暮らしクリエイティブ 系列		バイオ技術や地球環境についての学習を通して，人と自然のあり方について考え，豊かな暮らしが創造できる能力を持った人材を育成する。	農業・環境系の大学等への進学 園芸デザイン検定 森林インストラクター
鳴門第一	自然科学 系列	1 5 5	数学や理科など自然科学の学習を通して，ものごとを科学的に探求しようとする姿勢や能力を身につけた人材を育成する。	理系，看護・医療系の大学等への進学
	人文科学 系列		国語，英語，地歴公民など人文科学や，芸術，体育の学習を通して，地域社会などで幅広く活躍できる人材を育成する。	文系の大学等への進学
	福祉系列		福祉や介護に関する専門科目の学習を通して，高齢社会に対応できる知識と心構え，実践力を身につけた人材を育成する。	介護福祉士 訪問介護員2級 (卒業時に取得)
	情報マネジメント 系列		情報処理，会計処理，マーケティングなど商業に関する学習を通して，ビジネスの現場で即戦力として活躍できる人材を育成する。	情報処理検定 簿記検定 ワープロ検定 秘書検定

4. 将来の学校数

将来の学校数

(1) 海部郡

入学年度	17年度	30年度	45年度
対象生徒	245	161	105
募集定員	200	112 ~ 138	73 ~ 102
適正規模	1.3	0.7 ~ 0.9	0.5 ~ 0.6
学校数	2	1	1

高校名	進学希望 (仮倍率)	地域性 (%)	生徒減による学校規模の目安		
			17年度	30年度	45年度
海部高校 (普・商・理)	0.82	93	170	125	90
水産高校 (水)	0.34	25	30	0	0

(現 状)

平成16年度，日和佐高校，海南高校，宍喰商業高校を統合し，海部高校を開校したところであり，水産高校は，平成21年度開校予定の総合技術高校（仮称）に統合再編される予定である。

(将来の学校数)

平成21年度までに2校から1校（既）

(備 考)

30年度の対象生徒数は，住民基本台帳による実人員であり，45年度は国の推計や過去15年間の生徒の減少率から試算したものである。

30年度，45年度の募集定員は，17年度の募集定員をもとに，県全体と各地域の生徒の減少率から試算したものである。

適正規模は，各地域の募集定員を適正規模の160名で割り戻した数値で，学校数の目安であり，0.5で統合基準の定員80名となる。

進学希望は，毎年6月実施の進学希望調査の仮倍率であり，地域性は，各学校における地元生徒の進学割合である。

30年度，45年度の学校規模は，生徒数の減少が各学校の定員に与える影響を示したものであるが，今後の生徒の進学希望等により増減する。

(2) 阿南市・那賀川町・羽ノ浦町

入学年度	17年度	30年度	45年度
対象生徒	809	687	497
募集定員	765	623～650	461～470
適正規模	4.8	3.9～4.1	2.9
学校数	4	4	3

高校名	進学希望 (仮倍率)	地域性 (%)	生徒減による学校規模の目安		
			17年度	30年度	45年度
富岡西高校 (普)	1.47	75	260	215	160
富岡東高校 (普・商)	1.35	73	240	200	145
阿南工業高校 (工)	0.94	66	130	110	80
新野高校 (総)	0.60	90	95	80	60
富岡東羽ノ浦 分校(看)	1.74	35	40	35	25

(現 状)

この地域には、高校が4校のほか、分校が1校設置されているが、適正規模では平成30年度は4校、平成45年度には3校となるなど、長期的な視点から統合再編が必要となる。

(将来の学校数：分校を除く)

平成30年度までに4校から3校

(3) 那賀町

入学年度	17年度	30年度	45年度
対象生徒	101	74	47
募集定員	80	59～65	37～48
適正規模	0.5	0.4	0.2～0.3
学校数	1	0	0

高校名	進学希望 (仮倍率)	地域性 (%)	生徒減による学校規模の目安		
			17年度	30年度	45年度
那賀高校 (普)	0.67	71	80	60	45

(現 状)

この地域には、那賀高校が1校設置されているが、既に定員80名となっている。

(将来の学校数)

那賀高校は、将来の生徒数等から、現状での存続が困難な状況が予測されるため、地元生徒の進学動向等を踏まえ、方向性を検討する。

(4) 小松島市

入学年度	17年度	30年度	45年度
対象生徒	396	375	252
募集定員	450	366 ~ 426	271 ~ 286
適正規模	2.8	2.3 ~ 2.7	1.7 ~ 1.8
学校数	2	2	2

高校名	進学希望 (仮倍率)	地域性 (%)	生徒減による学校規模の目安		
			17年度	30年度	45年度
小松島高校 (普)	0.65	56	245	215	150
小松島西高校 (商・家・福)	1.18	30	205	180	125

(現 状)

この地域には、高校が2校設置されているが、適正規模では平成30年度、平成45年度とも2校となる。

(将来の学校数)

現状維持の2校

(5) 勝浦郡

入学年度	17年度	30年度	45年度
対象生徒	71	49	45
募集定員	60	41～49	36～38
適正規模	0.4	0.3	0.2
学校数	1	0	0

高校名	進学希望 (仮倍率)	地域性 (%)	生徒減による学校規模の目安		
			17年度	30年度	45年度
勝浦高校 (普・農)	0.37	26	60	45	35

(現 状)

この地域には、勝浦高校が1校設置されているが、既に定員80名を3年連続下回っている。

(将来の学校数)

勝浦高校は、将来の生徒数等から、現状での存続が困難な状況となっているため、地元生徒の進学動向等を踏まえ、方向性を検討する。

(6) 徳島市・名東郡

入学年度	17年度	30年度	45年度
対象生徒	2834	2356	1784
募集定員	2825	2323 ~ 2374	1721 ~ 1798
適正規模	17.7	14.5 ~ 14.8	10.8 ~ 11.2
学校数	10	9	9

高校名	進学希望 (仮倍率)	地域性 (%)	生徒減による学校規模の目安		
			17年度	30年度	45年度
城東高校 (普)	1.80	86	360	295	220
城南高校 (普)	1.14	92	340	280	210
城北高校 (普)	1.18	83	340	280	210
城ノ内高校 (普)	0.85	59	240	200	150
徳島北高校 (普)	1.34	20	360	295	220
徳島市立高校 (普・理)	1.13	90	360	295	220
徳島商業高校 (商)	1.24	69	315	260	195
城西高校 (農・総)	0.74	81	170	140	105
徳島工業高校 (工)	1.10	72	170	305	230
徳島東工業高 校(工)	1.44	66	170	0	0

(現 状)

この地域には、公立高校が10校設置されているが、徳島工業高校、徳島東工業高校は、平成21年度開校予定の総合技術高校(仮称)に統合再編される予定である。

(将来の学校数)

平成21年度までに10校から9校(既)

(7) 板野郡

入学年度	17年度	30年度	45年度
対象生徒	1032	1017	769
募集定員	215	175～212	129～160
適正規模	1.3	1.1～1.3	0.8～1.0
学校数	1	1	1

高校名	進学希望 (仮倍率)	地域性 (%)	生徒減による学校規模の目安		
			17年度	30年度	45年度
板野高校 (普)	1.04	93	215	195	145

(現 状)

松茂町，北島町，藍住町については，徳島市の通学区の重複区域となっている。この地域には，板野高校1校が設置されているが，適正規模では平成30年度，平成45年度とも1校となる。

(将来の学校数)

現状維持の1校

(8) 鳴門市

入学年度	17年度	30年度	45年度
対象生徒	625	532	356
募集定員	635	517～541	361～382
適正規模	4.0	3.2～3.4	2.3～2.4
学校数	3	3	2

高校名	進学希望 (仮倍率)	地域性 (%)	生徒減による学校規模の目安		
			17年度	30年度	45年度
鳴門高校 (普)	1.07	80	350	290	205
鳴門第一高校 (総)	0.75	55	155	130	90
鳴門工業高校 (工)	0.64	50	130	110	75

(現 状)

この地域には、公立高校が3校設置されているが、適正規模では平成30年度は3校、平成45年度には2校となるなど、長期的な視点から統合再編が必要となる。

(将来の学校数)

平成30年度までに3校から2校

(9) 名西郡

入学年度	17年度	30年度	45年度
対象生徒	292	222	174
募集定員	230	175 ~ 187	137 ~ 138
適正規模	1.4	1.1 ~ 1.2	0.9
学校数	1	1	1

高校名	進学希望 (仮倍率)	地域性 (%)	生徒減による学校規模の目安		
			17年度	30年度	45年度
名西高校 (普・芸)	0.73	48	200	160	120
城西神山分校 (農)	0.58	40	30	25	20

(現 状)

この地域には、高校が1校のほか、分校が1校設置されているが、適正規模では、平成30年度、平成45年度とも1校となる。

(将来の学校数：分校を除く)

現状維持の1校

(1 0) 阿波市

入学年度	17年度	30年度	45年度
対象生徒	404	309	217
募集定員	415	317～337	223～249
適正規模	2.6	2.0～2.1	1.4～1.6
学校数	3	2	2

高校名	進学希望 (仮倍率)	地域性 (%)	生徒減による学校規模の目安		
			17年度	30年度	45年度
阿波高校 (普)	1.23	47	230	180	130
阿波西高校 (普)	0.69	89	105	85	60
阿波農業高校 (農)	0.85	43	80	65	45

(1 1) 吉野川市

入学年度	17年度	30年度	45年度
対象生徒	441	330	257
募集定員	305	228～248	178～183
適正規模	1.9	1.4～1.6	1.1
学校数	2	2	1

高校名	進学希望 (仮倍率)	地域性 (%)	生徒減による学校規模の目安		
			17年度	30年度	45年度
川島高校 (普)	0.88	59	195	155	115
鴨島商業高校 (商)	0.84	53	110	85	65

(現 状)

阿波市と吉野川市は、吉野川の対岸にある隣接地域であり、高校の設置場所も近いことから、地域バランスに配慮しながら、両地域を合わせて検討する必要がある。

この地域には、高校が5校設置されているが、適正規模では平成30年度は4校、平成45年度には3校となるなど、統合再編が必要となる。

(将来の学校数)

平成30年度までに5校から4校(阿波市2校、吉野川市2校)

(1 2) 美馬市・つるぎ町

入学年度	17年度	30年度	45年度
対象生徒	450	328	251
募集定員	605	442～492	337～363
適正規模	3.8	2.8～3.1	2.1～2.3
学校数	4	3	2

高校名	進学希望 (仮倍率)	地域性 (%)	生徒減による学校規模の目安		
			17年度	30年度	45年度
脇町高校 (普)	1.29	61	230	180	135
穴吹高校 (普)	0.58	80	145	110	85
貞光工業高校 (工)	1.15	42	160	125	95
美馬商業高校 (商)	0.77	90	70	55	40

(現 状)

この地域には、高校が4校設置されているが、適正規模では平成30年度は3校、平成45年度には2校となるなど、統合再編が必要となる。

(将来の学校数)

平成30年度までに4校から3校

(1 3) 三好郡

入学年度	17年度	30年度	45年度
対象生徒	593	312	240
募集定員	495	260～402	200～297
適正規模	3.1	1.6～2.5	1.3～1.9
学校数	3	2	2

高校名	進学希望 (仮倍率)	地域性 (%)	生徒減による学校規模の目安		
			17年度	30年度	45年度
池田高校 (普)	1.12	87	235	160	120
辻高校 (普)	1.07	89	170	115	85
三好高校 (農・商)	0.77	97	90	60	45

(現 状)

この地域には、高校が3校設置されているが、適正規模では、平成30年度、平成45年度とも2校となるなど、統合再編が必要である。

(将来の学校数)

平成30年度までに3校から2校

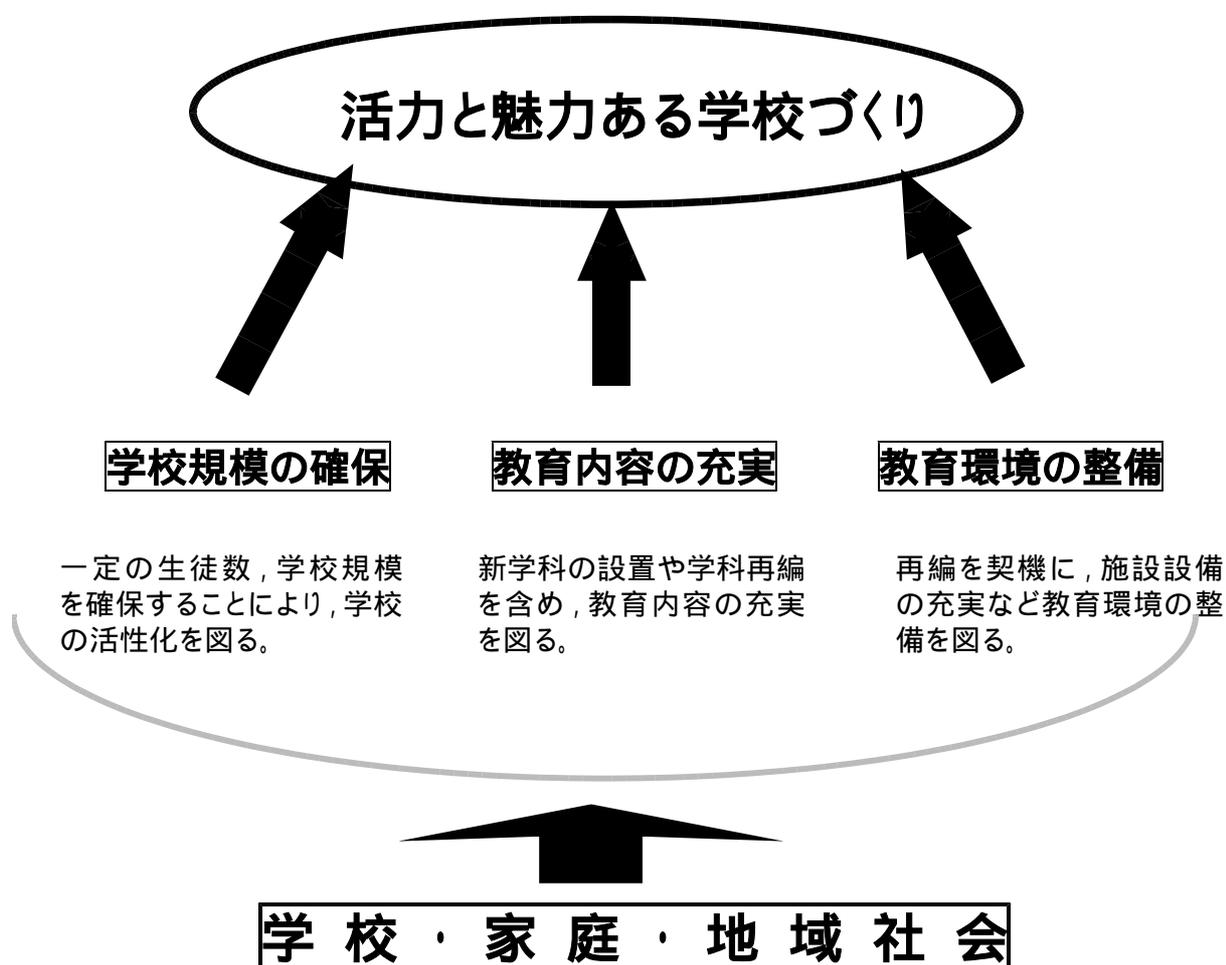
5. 活力と魅力ある学校づくり

活力と魅力ある学校づくり

1. 基本的な考え方

活力と魅力ある学校づくりに当たっては、まず、多様な教育や部活動など、活力ある教育活動の基盤となる学校規模を確保し、生徒の興味、関心、進路に応じた教育内容を充実するとともに、施設設備の整備を図ることが必要である。

また、このような新しい学校づくりについては、各学校が主体的に取り組むことはもとより、家庭、地域社会の連携協力が不可欠であることから、生徒や保護者、地域の方々が参加し、共に進めていく必要があると考えている。



新しい学校づくりについては、各学校が主体的に取り組むとともに、生徒や保護者、地域の方々が参加し、共に考えながら進めていく必要がある。

2. 地域の高校教育の考え方

再編による新しい学校づくりに当たっては、生徒の進学希望に応え、普通科の適正配置に努めるとともに、できるだけ多くの専門学科などを選択することができるよう、検討していく必要がある。

そして、普通科、専門学科などに関わらず、各高校が、それぞれ特色ある学校づくりを進め、創意工夫を凝らし、互いに切磋琢磨することにより、地域全体として、生徒たちに多様な教育やより良い教育環境を提供し、高校教育の充実を図っていきたいと考えている。

3. 教育内容の充実

活力と魅力ある学校づくりを進めていくためには、学校規模の確保 教育内容の充実 教育環境の整備の3つの要素が必要となる。

特に、教育内容の充実は、保護者や学校関係者、地域の方々の要望も多く、各学校にとって何よりも重要であり、それぞれがどのような教育を担い、どのような特色ある教育を行っていくのが、活力と魅力ある学校づくりの鍵を握るものである。

そこで、進学希望に応じた普通科、専門学科の配置や、既存学科の連携再編、さらには新学科の設置などを総合的に検討し、各学校の教育内容の充実に努めていきたいと考えている。

4. 新学科の設置・再編

普通科については、生徒の進学希望の7割を占めているため、再編後においても、地域に必要な普通科高校を設置し、それぞれ特色ある学校づくりを進め、生徒の多様な進路に応じた教育内容を展開し、地域の方々の高校教育に対する期待に応えていくべきである。

また、これまで培ってきた農業、工業、商業などの職業教育については、地域の貴重な教育財産として継承し、今後とも特色ある教育として発展させて行くとともに、学科全体の適正配置にも配慮していく必要がある。

再編に当たっては、例えば生産から流通、消費まで、特定の専門分野にとらわれない幅広い職業教育を展開できるよう、専門学科と専門学科、専門学科と総合学科などを併設し、連携を図ることにより、新たな時代に対応した人材の育成に努めていきたいと考えている。

また、保護者や学校関係者、地域の方々の要望などを踏まえながら、生徒たちの視点に立って、新たな高校教育の魅力づくりを進めるため、新学科の設置を積極的に検討し、地域における多様な教育の実現を図っていきたいと考えている。

6. 高校教育のあり方

高校教育のあり方

高校教育においては、一人ひとりの個性や能力を伸ばし、知・徳・体の調和のとれた人間形成を目指していくべきであり、教育内容の充実や、学科全体のあり方を検討し、社会の変化に対応した多様な教育の実現を図っていくことが必要である。

本県では、高校進学率が98パーセントに達しており、生徒の学習ニーズが多様化する一方、学力の向上をはじめ、豊かな人間性や社会人として必要な職業観の育成など、総合的な人間教育の場としての役割が求められている。

また、高校卒業後の進路についても、普通科は進学、専門学科は就職という、かつての固定的な進路状況とは異なってきており、それぞれの学科の特徴を活かした教育や学科を越えた幅広い教育も求められている。

このようなことから、普通科、専門学科の特色づくりや、普通科目から専門科目まで幅広く学べる総合学科の充実に努めるとともに、学科再編や新学科の設置などを通じて、社会の変化や生徒の多様な学習ニーズに柔軟に対応していく必要がある。

そして、普通科、専門学科、総合学科に関わらず、生徒の主体的な進路選択を可能にするため、それぞれの進路希望に応じた確かな学力を育成するとともに、将来の目標や職業意識を持たせるため、キャリア教育を積極的に推進していくべきである。

また、学科全体のあり方については、県南部、県央部、県西部といったブロックごとに、適正配置に努め、生徒が普通科はもとより、農業、工業、商業などの職業教育を選択できるよう配慮していくべきである。

さらに、新たな教育制度として、連携型、併設型の中高一貫教育を導入してきたところであるが、中等教育の一層の多様化を図るため、その成果や義務教育改革の動向などを見極めながら、今後のあり方を引き続き検討していく必要がある。

1. 普通科教育

普通科教育については、生徒の高校進学率が高く、とりわけ普通科志向が強い中、生徒一人ひとりの能力や適性、興味や関心、進路希望に応じた選択が可能となるよう、特色ある学校づくりを進めるとともに、各地域における適正配置に努めていく必要がある。

また、普通科では、生徒の6割以上が大学へ進学している状況であることから、各高校においては、教科指導の充実を図り、基礎学力の定着や発展的な学習などを通じて、より一層学力の向上に努めていくべきである。

そして、最近では、大学のほか、専修学校等への進学が増加傾向にあり、進学から就職まで、生徒たちの幅広い進路希望への対応はもとより、将来の目標や職業意識を持たせるため、高大連携や進路ガイダンスなどを活用し、キャリア教育の充実を図っていく必要がある。

そこで、各普通科高校においては、今後とも生徒の多様な学習ニーズに対応するため、単位制やコース制を活用し、教育課程の工夫や教育内容の充実を図るとともに、応用数理科、国際英語科、体育科など、普通科系の専門学科の設置を通じて、特色ある学科、学校づくりを積極的に推進していくべきである。

2. 職業教育

職業教育については，科学技術が進展し，高度情報化，国際化などにより，社会が変化する中，生徒一人ひとりの能力や適性，興味や関心，進路希望に応じて，できるだけ多くの学科が地域で選択できるよう，適切な配置に努めていく必要がある。

また，専門学科における高校卒業後の進路は，従来より就職が中心ではあるが，最近では，異業種への就職や，大学，専修学校等への進学が増加傾向にあり，大学進学に対応した教育やスペシャリストの養成に必要な教育をはじめ，一般教養としての教育など，より幅広い教育内容が求められている。

そして，生徒たちに将来の目標や職業意識を持たせるため，インターンシップなどを通じて，仕事の大切さ，素晴らしさを教え，豊かな人間性や社会人として必要な職業観，コミュニケーション能力を育成していく必要がある。

そこで，農業，工業，商業教育については，産業構造が変化し，高度化する中，今後とも第1次産業から第3次産業まで，地域産業を担う人材育成が必要なことから，これまで培ってきた特色ある職業教育を，さらに進化発展させていくとともに，各学校の機能分担とネットワーク化を積極的に図っていく必要がある。

また，各地域においては，専門学科と専門学科，専門学科と総合学科などを併設し，学科連携や学科再編を推進し，これまでの分野にとらわれない，地域に根ざした幅広い職業教育を展開することにより，教育内容の充実を図っていくべきである。

本県には，この他，水産，家庭，看護，福祉の職業系の専門学科が設置されており，水産教育については，水産業の変化に伴い，今後，総合技術高校において，海洋科学など，新たな教育を展開することとしており，家庭科教育においても，最近の生活関連産業の高度化，サービス化に対応した教育内容の充実を図っていく必要がある。

看護，福祉教育については，高齢社会の中，医療福祉サービスが増加し，必要な資格取得に向けて，より専門性の高い職業教育が求められており，生徒や保護者のニーズ，専門技術者の需給状況，地域バランスを考慮しながら，県西部への配置などについて，引き続き検討していく必要がある。

(1) 農業教育

産業構造の変化に伴い、農業など第1次産業については、就業者数が全産業の約1割となり、輸入自由化等の影響を受け、厳しい状況が続いているが、食料自給率が低下し、その重要性が増す中、本県は、自然環境や立地条件に恵まれており、食料供給基地として期待されている。

また、環境問題への関心が高まる中、豊かな自然は、本県の貴重な財産であり、農業、林業は県土の保全や環境を守る重要な役割を担っているとともに、人々に安らぎや潤いを与える生活空間の創造という面からも注目されている。

さらに、農業への会社組織等の参入拡大、食の安全安心に対する消費者意識の変化、ITを活用した流通販売の多様化など、農業を取り巻く社会環境が変化する中、農業や農業関連の分野を担う人材の育成が求められている。

このようなことから、農業教育については、安全で安定した食料生産はもとより、人や環境に優しい社会づくりに対応した教育が求められており、農業や環境などについて、必要な知識と技術の習得に努めるとともに、豊かな人間性や社会性を育てていく必要がある。

そこで、各高校においては、これまで培ってきた特色ある農業教育を、さらに発展させていくとともに、食料供給、バイオテクノロジー、環境創造と素材生産、ヒューマンサービスの農業4分野について機能分担とネットワーク化を図るほか、長期インターンシップの活用や、大学や企業との連携などを積極的に推進していくべきである。

(2) 工業教育

工業など第2次産業については、総生産額、就業者数とも、全産業の約3割を占めており、製造業については、生産額は増加しているものの、企業の海外移転により、空洞化が進んでおり、今後、地域産業の高度化、活性化を図っていく必要がある。

また、本県には、独自の技術開発により、新たな産業分野を開拓した起業家や、先駆的な取り組みにより大きく成長した企業があり、科学技術が進展する中、ものづくりを担う人材の育成が求められている。

このようなことから、工業教育については、総合技術高校を中心に、技術の高度化、複合化に対応した教育を展開し、県南部、県西部に工業科を設置することにより、ものづくりに必要な知識と技術の習得に努めるとともに、豊かな人間性や社会性を育てていく必要がある。

そこで、各高校においては、これまで培ってきた特色ある工業教育を、さらに発展させていくとともに、機械、電気、建設等の分野について、機能分担とネットワーク化を図るほか、長期インターンシップの活用や、大学や企業との連携などを積極的に推進していくべきである。

(3) 商業教育

商業など第3次産業については、総生産額、就業者数とも、全産業の約6割を占めており、就業者の比率では、第1次産業と第2次産業の減少を、第3次産業が吸収した形となっており、サービス業の拡大が顕著となっている。

また、経済社会のグローバル化や高度情報化が進展し、消費者ニーズはもとより、商品の流通や販売などが多様化する中、将来の地域経済を担う人材の育成が求められている。

このようなことから、商業教育については、情報処理能力やコミュニケーション能力、さらには起業家精神の育成が必要となっており、商業や金融、経営などについての知識と技術の習得に努めるとともに、豊かな人間性や社会性を育てていく必要がある。

そこで、各高校においては、これまで培ってきた特色ある商業教育を、さらに発展させていくとともに、流通ビジネス、国際経済、簿記会計、経営情報の商業4分野について機能分担とネットワーク化を図るほか、長期インターンシップの活用や、大学や企業との連携などを積極的に推進していくべきである。

普通科教育の特色

	単位制	文系理系コース	文系理系・職業系コース
県南部		海部高校	
	富岡西高校	富岡東高校	那賀高校
県央部		小松島高校	勝浦高校
	城北高校	城東高校，城南高校 城ノ内高校，徳島北高校 徳島市立高校	
	鳴門高校，板野高校 川島高校	阿波高校	名西高校 阿波西高校
県西部	穴吹高校	脇町高校	
		池田高校	辻高校

職業教育の特色

農業教育

	学 校 名	特色ある教育
県南部	新野高校	B（バイオ） C（草花） D（園芸デザイン）
県央部	勝浦高校	A（果樹） B（バイオ） D（セラピー）
	城西高校	A（野菜，果樹） B（バイオ） C（草花）
	城西高校神山分校	C（造園） D（園芸デザイン）
	阿波農業高校	A（作物，果樹，食品製造） C（草花） D（セラピー，園芸デザイン）
県西部	三好高校	A（畜産） B（醸造） C（林業）

城西高校には進学対応のコースを設置
 A：食料供給（作物，野菜，果樹，畜産，食品製造等）
 B：バイオテクノロジー（バイオ，醸造等）
 C：環境創造と素材生産（林業，造園，草花等）
 D：ヒューマンサービス（セラピー，園芸デザイン等）

工業教育

	学 校 名	特色ある教育
県 南 部	阿南工業高校	A (機械, 生産システム) B (電気) C (土木)
県 央 部	総合技術高校	A (機械, 生産システム) B (電気, 情報通信) C (建築, 土木, デザイン) D (情報科学, 環境科学)
	鳴門工業高校	A (機械) D (情報科学, 環境科学)
県 西 部	貞光工業高校	A (機械) B (電気) C (建築, 土木)

A : 機械 (機械, 生産システム)
B : 電気 (電気, 情報通信)
C : 建設 (建築, 土木, デザイン)
D : 総合科学 (情報科学, 環境科学)

商業教育

	学 校 名	特色ある教育
県 南 部	海部高校	D (ビジネス情報処理)
	富岡東高校	B (ビジネス法規) C (経理会計実務)
県 央 部	小松島西高校	A (マーケティング) D (情報デザイン)
	徳島商業高校	A (マーケティング, 起業家育成) B (ビジネス英語, 金融・貿易) C (経営マネジメント) D (情報デザイン, システム開発)
	鳴門第一高校	D (ビジネス情報処理)
	鴨島商業高校	A (起業家育成) B (金融・貿易) D (ビジネス情報処理)
県 西 部	美馬商業高校	C (経理会計実務) D (情報デザイン)
	三好高校	C (経理会計実務) D (ビジネス情報処理)

A : 流通ビジネス (マーケティング, 起業家育成)
B : 国際経済 (ビジネス英語, ビジネス法規, 金融・貿易)
C : 簿記会計 (経理会計実務, 経営マネジメント)
D : 経営情報 (ビジネス情報処理, 情報デザイン, システム開発)

7. 地域の望ましい再編の姿

地域の望ましい再編の姿

全県的な高校再編に当たっては、生徒の約7割が普通科を希望し、約3割が専門学科や総合学科を希望しており、地域ごとに専門学科などが小規模化している状況を踏まえ、具体の再編を進めていく必要がある。

このため、普通科教育については、今後とも地域に必要な普通科を配置し、特色ある学校づくりを進め、生徒の多様な進路に応じた教育内容を展開し、地域の期待にしっかりと応えていくべきである。

また、農業、工業、商業などの職業教育については、地域の貴重な教育財産として継承し、特色ある教育として発展させていくとともに、新学科の設置や学科再編に積極的に取り組み、新たな魅力づくりを進めていく必要がある。

そこで、各地域においては、普通科高校と複数学科を有する複合型の新しいタイプの学校を設置し、活力と魅力ある学校づくりを進めることにより、新たな時代に対応した人材の育成に努めていくべきである。

1. 鳴門市

高校名	進学希望 (仮倍率)	地域性 (%)	生徒減による学校規模の目安		
			17年度	30年度	45年度
鳴門高校 (普)	1.07	80	350	290	205
鳴門第一高校 (総)	0.75	55	155	130	90
鳴門工業高校 (工)	0.64	50	130	110	75

(1) 現 状

この地域には、公立高校が3校設置されているが、鳴門高校については、地元からの進学希望が多く、既に施設改築を終えており、鳴門第一高校、鳴門工業高校については、生徒数の減少により小規模化が進むことが予測される。

また、鳴門工業高校については、設置者である鳴門市から、県立高校との再編の要望がある。

(2) 望ましい再編の姿

将来の学校数が3校から2校となることから、普通科教育については、鳴門高校の教育を基本に、職業教育等については、鳴門第一高校、鳴門工業高校の教育を基本に、地元から要望のある新学科の設置も含め、特色ある学校づくりを進めていくことが望ましいと考える。

そこで、総合学科に設置されている自然科学、人文科学、福祉、情報マネジメントの4系列と工業科の情報理数コースを再編し、総合学科の教育内容の充実を図っていく必要がある。工業科の機械コース、環境コースについては、総合技術高校において対応することとする。

また、鳴門市は、野球、サッカー、陸上といったスポーツ活動が、地域全体で盛んであることから、本県の体育振興、競技力の向上を図るため、体育科などを新設し、スポーツや健康に関する専門教育を展開していくことが望ましいと考える。

2. 阿南市・那賀川町・羽ノ浦町

高校名	進学希望 (仮倍率)	地域性 (%)	生徒減による学校規模の目安		
			17年度	30年度	45年度
富岡西高校 (普)	1.47	75	260	215	160
富岡東高校 (普・商)	1.35	73	240	200	145
阿南工業高校 (工)	0.94	66	130	110	80
新野高校 (総)	0.60	90	95	80	60

(1) 現 状

この地域には、高校が4校設置されているが、富岡西高校や施設改築を進めている富岡東高校については、周辺地域からも進学希望が多いが、阿南工業高校を含め、全体として生徒数の減少により小規模化が進み、新野高校については、平成30年度までに統合基準の定員80名に達することになる。

(2) 望ましい再編の姿

将来の学校数が4校から3校となることから、普通科教育については、富岡西高校、富岡東高校の教育を基本に、職業教育等については、阿南工業高校、新野高校の教育を基本に、地元から要望のある新学科の設置も含め、特色ある学校づくりを進めていくことが望ましいと考える。

そこで、総合学科に設置されている情報理数、コミュニケーション人文、暮らしクリエイティブの3系列と工業科の理数コースを再編し、総合学科の教育内容の充実を図っていく必要がある。

また、工業科を再編し、実践的な知識や技能を持った専門技術者の育成を図るため、ものづくり科などを新設し、地元企業との長期インターンシップを積極的に導入することにより、地域連携による職業教育を展開していくことが望ましいと考える。

3 . 吉野川市・阿波市

高 校 名	進学希望 (仮倍率)	地域性 (%)	生徒減による学校規模の目安		
			1 7 年度	3 0 年度	4 5 年度
川島高校 (普)	0 . 8 8	5 9	1 9 5	1 5 5	1 1 5
鴨島商業高校 (商)	0 . 8 4	5 3	1 1 0	8 5	6 5
阿波高校 (普)	1 . 2 3	4 7	2 3 0	1 8 0	1 3 0
阿波西高校 (普)	0 . 6 9	8 9	1 0 5	8 5	6 0
阿波農業高校 (農)	0 . 8 5	4 3	8 0	6 5	4 5

(1) 現 状

この地域には、高校が5校設置されているが、阿波高校については、周辺地域からも進学希望が多く、阿波西高校については、平成13年度より、地元中学校と連携型中高一貫教育を実施しており、川島高校についても、平成18年度から併設型中高一貫教育を導入する予定である。

また、阿波農業高校については、既に統合基準の定員80名となっており、鴨島商業高校を含め、全体として生徒数の減少により、小規模化が進むことが予測される。

(2) 望ましい再編の姿

将来の学校数が5校から4校となることから、普通科教育については、川島高校、阿波高校、阿波西高校の教育を基本に、職業教育等については、鴨島商業高校、阿波農業高校の教育を基本に、地元から要望のある新学科の設置も含め、特色ある学校づくりを進めていくことが望ましいと考える。

そこで、商業科と農業科を併設し、それぞれの専門教育を実施するとともに、学校設定科目や総合選択制を積極的に導入し、連携を図ることにより、農業生産から流通、消費まで、幅広い教育を展開していく必要がある。

また、商業教育や農業教育を活かし、地産地消や食の安全安心の観点から食物科などを新設し、調理に関する知識や技能の習得を含め、新たな時代に対応した職業教育を展開していくことが望ましいと考える。

4. 美馬市・つるぎ町

高校名	進学希望 (仮倍率)	地域性 (%)	生徒減による学校規模の目安		
			17年度	30年度	45年度
脇町高校 (普)	1.29	61	230	180	135
穴吹高校 (普)	0.58	80	145	110	85
貞光工業高校 (工)	1.15	42	160	125	95
美馬商業高校 (商)	0.77	90	70	55	40

(1) 現 状

この地域には、高校が4校設置されているが、脇町高校、貞光工業高校については、周辺地域からも進学希望が多いが、穴吹高校を含め、全体として生徒数の減少により小規模化が進み、美馬商業高校については、平成17年度より統合基準の定員80名を下回り、定員70名となっている。

(2) 望ましい再編の姿

将来の学校数が4校から3校となることから、普通科教育については、脇町高校、穴吹高校の教育を基本に、職業教育等については、貞光工業高校、美馬商業高校の教育を基本に、地元から要望のある新学科の設置も含め、特色ある学校づくりを進めていくことが望ましいと考える。

そこで、工業科と商業科を併設し、それぞれの専門教育を実施するとともに、学校設定科目や総合選択制を積極的に導入し、連携を図ることにより、工業生産から流通、消費まで、幅広い教育を展開していく必要がある。

また、複雑多様化する産業社会に対応し、総合的な実践力を身に付けた人材を育成するため、産業経営科などを新設し、地元企業との長期インターンシップを実施し、地元連携による職業教育を展開していくことが望ましいと考える。

5 . 三好郡

高 校 名	進学希望 (仮倍率)	地域性 (%)	生徒減による学校規模の目安		
			1 7 年度	3 0 年度	4 5 年度
池田高校 (普)	1 . 1 2	8 7	2 3 5	1 6 0	1 2 0
辻高校 (普)	1 . 0 7	8 9	1 7 0	1 1 5	8 5
三好高校 (農・商)	0 . 7 7	9 7	9 0	6 0	4 5

(1) 現 状

この地域には、高校が3校設置されているが、池田高校、辻高校については、地元からの進学希望が多いが、三好高校を含め、全体として生徒数の減少により小規模化が進むことが予測される。

(2) 望ましい再編の姿

将来の学校数が3校から2校となることから、普通科教育については、池田高校の教育を基本に、職業教育等については、辻高校、三好高校の教育を基本に、地元から要望のある新学科の設置も含め、特色ある学校づくりを進めていくことが望ましいと考える。

そこで、辻高校の普通科に設置されている文理、人文教養、情報科学、体育健康、福祉の5コースと商業科を再編し、進学や就職など、生徒の多様な進路に応じた、特色ある教育を展開していく必要がある。

また、農業科を再編し、林業に関する基礎知識はもとより、自然環境の保全や、地域産業と環境の関わりを考えていくため、森林環境科などを新設し、地域連携による特色ある環境教育を展開していくことが望ましいと考える。

再編が必要な5地域の高校の状況

(1) 鳴門市

地域	学校名	設置学科	1学年 生徒数	設置学科の特徴	進路状況 ()内は、進学者就職者のうち専門教育を活かした割合						
鳴門市	鳴門高校	普通科	350	単位制	<table border="1"> <tr> <td>進学</td> <td>就職</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>82.7%</td> <td>7.2%</td> <td>10.0%</td> </tr> </table>	進学	就職	その他	82.7%	7.2%	10.0%
	進学	就職	その他								
	82.7%	7.2%	10.0%								
鳴門第一高校	総合学科	155	自然科学系列,人文科学系列,福祉系列 情報マネジメント系列の4系列を設定	<table border="1"> <tr> <td>進学</td> <td>就職</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>46.3%</td> <td>49.0%</td> <td>4.8%</td> </tr> </table>	進学	就職	その他	46.3%	49.0%	4.8%	
進学	就職	その他									
46.3%	49.0%	4.8%									
鳴門工業高校	工業科	130	工業類で募集 2年次より4コースを設定 機械,環境,情報理数(情報ネットワーク専攻)情報理数(理数専攻)	<table border="1"> <tr> <td>進学</td> <td>就職</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>40.0% (37.1%)</td> <td>47.7% (67.6%)</td> <td>12.3%</td> </tr> </table>	進学	就職	その他	40.0% (37.1%)	47.7% (67.6%)	12.3%	
進学	就職	その他									
40.0% (37.1%)	47.7% (67.6%)	12.3%									

(2) 阿南市, 那賀川町, 羽ノ浦町

地域	学校名	設置学科	1学年 生徒数	設置学科の特徴	進路状況 ()内は、進学者就職者のうち専門教育を活かした割合						
阿南市 那賀川町 羽ノ浦町	富岡西高校	普通科	260	単位制	<table border="1"> <tr> <td>進学</td> <td>就職</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>88.0%</td> <td>4.7%</td> <td>7.2%</td> </tr> </table>	進学	就職	その他	88.0%	4.7%	7.2%
	進学	就職	その他								
	88.0%	4.7%	7.2%								
	富岡東高校	普通科	190	2年次より 文系,理系の2コースを設定	<table border="1"> <tr> <td>進学</td> <td>就職</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>93.0%</td> <td>3.0%</td> <td>4.0%</td> </tr> </table>	進学	就職	その他	93.0%	3.0%	4.0%
		進学	就職	その他							
93.0%	3.0%	4.0%									
商業科	50	2年次より 進学,ビジネスの2コースを設定	<table border="1"> <tr> <td>進学</td> <td>就職</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>63.2% (46.5%)</td> <td>29.4% (80.0%)</td> <td>7.4%</td> </tr> </table>	進学	就職	その他	63.2% (46.5%)	29.4% (80.0%)	7.4%		
進学	就職	その他									
63.2% (46.5%)	29.4% (80.0%)	7.4%									
阿南工業高校	工業科	130	工業類で募集 2年次より4コースを設定 機械電子,電気,情報土木,理数	<table border="1"> <tr> <td>進学</td> <td>就職</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>32.1% (74.4%)</td> <td>64.9% (95.4%)</td> <td>3.0%</td> </tr> </table>	進学	就職	その他	32.1% (74.4%)	64.9% (95.4%)	3.0%	
進学	就職	その他									
32.1% (74.4%)	64.9% (95.4%)	3.0%									
新野高校	総合学科	95	情報理数系列,コミュニケーション人文系列 暮らしクリエイティブ系列の3系列を設定	<table border="1"> <tr> <td>進学</td> <td>就職</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>42.5%</td> <td>43.4%</td> <td>14.2%</td> </tr> </table>	進学	就職	その他	42.5%	43.4%	14.2%	
進学	就職	その他									
42.5%	43.4%	14.2%									

(3) 吉野川市, 阿波市

地 域	学校名	設置学科	1 学 年 生 徒 数	設置学科の特徴	進路状況 ()内は, 進学者就職者のうち専門教育を活かした割合						
吉野川市 阿波市	川島高校	普通科	195	単位制 併設型中高一貫教育(H18より)	<table border="1"> <tr> <td>進学</td> <td>就職</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>82.9%</td> <td>11.1%</td> <td>6.0%</td> </tr> </table>	進学	就職	その他	82.9%	11.1%	6.0%
	進学	就職	その他								
	82.9%	11.1%	6.0%								
	鴨島商業高校	商業科	110	商業科(80)と経営情報科(30)の2学科を設置 商業科は2年次より2コースを設定 商業, 進学	<table border="1"> <tr> <td>進学</td> <td>就職</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>38.0% (23.9%)</td> <td>49.6% (73.3%)</td> <td>12.4%</td> </tr> </table>	進学	就職	その他	38.0% (23.9%)	49.6% (73.3%)	12.4%
	進学	就職	その他								
38.0% (23.9%)	49.6% (73.3%)	12.4%									
阿波高校	普通科	230	3年次より 文系, 理系の2コースを設定	<table border="1"> <tr> <td>進学</td> <td>就職</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>91.2%</td> <td>1.3%</td> <td>7.6%</td> </tr> </table>	進学	就職	その他	91.2%	1.3%	7.6%	
進学	就職	その他									
91.2%	1.3%	7.6%									
阿波西高校	普通科	105	連携型中高一貫教育を実施 2年次より4コースを設定 アカデミックA, アカデミックB, OABビジネス 福祉ボランティア	<table border="1"> <tr> <td>進学</td> <td>就職</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>52.5%</td> <td>34.7%</td> <td>12.7%</td> </tr> </table>	進学	就職	その他	52.5%	34.7%	12.7%	
進学	就職	その他									
52.5%	34.7%	12.7%									
阿波農業高校	農業科	80	農業科学科(50)と園芸科学科(30)の2学科を設置 農業科学科は2年次より3コースを設定 農業生産, 環境技術, 食品技術 園芸科学科は2年次より2コースを設定 園芸生産, 園芸活用	<table border="1"> <tr> <td>進学</td> <td>就職</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>30.1% (27.3%)</td> <td>53.4% (2.6%)</td> <td>16.4%</td> </tr> </table>	進学	就職	その他	30.1% (27.3%)	53.4% (2.6%)	16.4%	
進学	就職	その他									
30.1% (27.3%)	53.4% (2.6%)	16.4%									

(4) 美馬市, つるぎ町

地 域	学校名	設置学科	1 学 年 数 生 徒 数	設置学科の特徴	進路状況 ()内は, 進学者就職者のうち専門教育を活かした割合						
美馬市 つるぎ町	脇町高校	普通科	230	2年次より 文系, 理系の2コースを設定	<table border="1"> <tr> <td>進学</td> <td>就職</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>84.6%</td> <td>2.9%</td> <td>12.5%</td> </tr> </table>	進学	就職	その他	84.6%	2.9%	12.5%
	進学	就職	その他								
	84.6%	2.9%	12.5%								
	穴吹高校	普通科	145	単位制	<table border="1"> <tr> <td>進学</td> <td>就職</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>52.1%</td> <td>35.2%</td> <td>12.7%</td> </tr> </table>	進学	就職	その他	52.1%	35.2%	12.7%
進学	就職	その他									
52.1%	35.2%	12.7%									
美馬商業高校	商業科	70	2年次より2コースを設定 ビジネス会計, ビジネス情報	<table border="1"> <tr> <td>進学</td> <td>就職</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>41.1% (30.0%)</td> <td>50.7% (78.4%)</td> <td>8.2%</td> </tr> </table>	進学	就職	その他	41.1% (30.0%)	50.7% (78.4%)	8.2%	
進学	就職	その他									
41.1% (30.0%)	50.7% (78.4%)	8.2%									
貞光工業高校	工業科	160	電気科(60), 機械科(60), 土木科(20), 建築科(20)の4学科を設置	<table border="1"> <tr> <td>進学</td> <td>就職</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>33.1% (45.0%)</td> <td>64.1% (87.9%)</td> <td>2.8%</td> </tr> </table>	進学	就職	その他	33.1% (45.0%)	64.1% (87.9%)	2.8%	
進学	就職	その他									
33.1% (45.0%)	64.1% (87.9%)	2.8%									

(5) 三好郡

地 域	学校名	設置学科	1 学 年 数 生 徒 数	設置学科の特徴	進路状況 ()内は, 進学者就職者のうち専門教育を活かした割合						
三好郡	池田高校	普通科	235	2年次より 人文, 理数の2コースを設定	<table border="1"> <tr> <td>進学</td> <td>就職</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>85.2%</td> <td>5.9%</td> <td>8.9%</td> </tr> </table>	進学	就職	その他	85.2%	5.9%	8.9%
	進学	就職	その他								
	85.2%	5.9%	8.9%								
	三好高校	農業科	45	生物資源類で募集 2年次より3コースを設定 生物生産, 森林環境, 食品発酵	<table border="1"> <tr> <td>進学</td> <td>就職</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>32.0% (6.3%)</td> <td>60.0% (30.0%)</td> <td>8.0%</td> </tr> </table>	進学	就職	その他	32.0% (6.3%)	60.0% (30.0%)	8.0%
進学		就職	その他								
32.0% (6.3%)	60.0% (30.0%)	8.0%									
商業科	45	ビジネス類で募集 2年次より2コースを設定 情報, 会計	<table border="1"> <tr> <td>進学</td> <td>就職</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>32.7% (17.6%)</td> <td>61.5% (31.3%)</td> <td>5.8%</td> </tr> </table>	進学	就職	その他	32.7% (17.6%)	61.5% (31.3%)	5.8%		
進学	就職	その他									
32.7% (17.6%)	61.5% (31.3%)	5.8%									
辻高校	普通科	170	2年次より5コースを設定 文理, 人文教養, 情報科学, 体育健康福祉	<table border="1"> <tr> <td>進学</td> <td>就職</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>70.6%</td> <td>22.7%</td> <td>6.7%</td> </tr> </table>	進学	就職	その他	70.6%	22.7%	6.7%	
進学	就職	その他									
70.6%	22.7%	6.7%									

地域から要望のある学科

	学 科 名	学科の内容	地 域	設置の有無
1	体育科	スポーツや健康に関する専門科目を学習するとともに、高度な運動技能を習得し、スポーツの振興・発展に貢献できる人材を育成する。	鳴門市	未設置
2	ものづくり科 (工業系)	ものづくりの基本である機械、制御、電気の基礎知識を学び、地域産業との連携の中で実践的技術を深め、主体的、創造的に諸課題を解決できる人材を育成する。	阿南市・那賀川町 ・羽ノ浦町	未設置
3	国際英語科	英語に関する専門科目を広く深く学び、国際化時代に対応できる高い英語能力と豊かな国際感覚を身につけた人材を育成する。	阿南市・那賀川町 ・羽ノ浦町	徳島北高校 国際英語科 (平成18年度設置)
4	食物科	日本料理・中国料理・西洋料理の調理実習や集団給食実習を通して、調理に関する知識と技術を身につけ、外食産業等で活躍できる人材を育成する。	阿南市・那賀川町 ・羽ノ浦町 吉野川市・阿波市	小松島西高校 食物科
5	産業経営科 (商業系)	多様化する産業社会の変化に対応するため、商業、工業の双方の専門知識や技術を幅広く身につけ、総合的、実践的な能力を持った人材を育成する。	美馬市・つるぎ町	未設置
6	看護科	高校3年間と専攻科2年間を通して、看護に関する高度な知識と技術、生命の尊さなどを学び、看護の分野で活躍できる人材を育成する。	鳴門市 美馬市・つるぎ町 三好郡	富岡東高校 羽ノ浦分校看護科
7	福祉科	福祉や介護に関する実習等を通して、社会福祉についての知識や技術を身につけ、将来、介護福祉士など福祉の専門職として活躍できる人材を育成する。	阿南市・那賀川町 ・羽ノ浦町 美馬市・つるぎ町 三好郡	小松島西高校 福祉科
8	林業科 (農業系)	木材の生産と利用、林業経営及び測量などに関する基本的な知識、技術を習得し、国土の緑化・保全と維持管理に必要な能力を持った人材を育成する。	三好郡	三好高校 生物資源類
9	環境科学科 (農業系)	科学的な視点で、森林などの地球環境を学び、環境問題について関心を深めるとともに、豊かな森林資源を守り、その総合的な活用が考えられる人材を育成する。	三好郡	三好高校 生物資源類

8. 中山間地域の高校のあり方

中山間地域の高校のあり方

中山間地域の高校については、過疎化や少子化などの影響により、小規模化が進んでおり、今後、さらに大幅な生徒数の減少が見込まれることから、現状の存続が困難となることが予測されている。

勝浦高校、那賀高校については、中山間地域に唯一設置された高校であり、地域の特性があるものの、活力ある教育活動を継続していくには、一定の学校規模が必要であることから、周辺高校への分校化を含め、集約化を検討せざるを得ない状況である。

しかしながら、両地域においては、高校教育に対する期待は高く、これまでの両校の取り組みを活かした、特色ある教育活動の展開が求められている。

そこで、勝浦高校、那賀高校については、地域のニーズや生徒の進学実態などを勘案し、それぞれの地域の実情に応じたかたちで、今後より一層、学校・家庭・地域社会が連携し、地域に根ざした学校づくりを進めていく必要がある。

1 . 勝浦郡

高 校 名	進学希望 (仮倍率)	地域性 (%)	生徒減による学校規模の目安		
			1 7 年 度	3 0 年 度	4 5 年 度
勝浦高校 (普 ・ 農)	0 . 3 7	2 6	6 0	4 5	3 5

(1) 現 状

勝浦高校については，平成 1 5 年度より統合基準の定員 8 0 名を下回り，定員 6 0 名となるなど，小規模化が進んでおり，既に本校の学校規模を維持することが困難な状況となっている。

また，勝浦高校には，農業科，普通科が設置されているが，生徒の進学希望については，農業科が比較的高い状況であり，小松島市，徳島市などから勝浦郡への利便性も良いこともあり，地元生徒が 3 割，周辺地域の生徒が 7 割を占める状況となっている。

(2) 勝浦高校のあり方

今後の勝浦高校のあり方については，これまで培ってきた特色ある農業教育を基本に，関係する学科を有する高校と連携を行い，勝浦分校として存続を図ることとし，普通科については，周辺高校に集約化し，地域の生徒の普通科教育を担っていくことが望ましいと考える。

その際，多様な教育活動の展開などが懸念されることから，学校間連携によるネットワーク化を図るとともに，地域の教育力を結集し，生徒たちにとってより良い教育環境の確保に努めていくべきである。

2 . 那賀町

高 校 名	進学希望 (仮倍率)	地域性 (%)	生徒減による学校規模の目安		
			1 7 年度	3 0 年度	4 5 年度
那賀高校 (普)	0 . 6 7	7 1	8 0	6 0	4 5

(1) 現 状

那賀高校については、定員が80名となるなど、小規模化が進んでおり、さらに生徒数が減少することから、今後、本校の学校規模を維持することが困難となることが予測される。

また、那賀高校は、普通科高校として地元中学校と連携型中高一貫教育を実施し、地域に根ざした教育活動を展開しており、地元生徒の半数が那賀高校に進学し、高校の地元生徒割合が、7割近くに達している。

(2) 那賀高校のあり方

今後の那賀高校のあり方については、これまで以上に地元中学校との連携を図ることにより、地元生徒を確保し、できる限り本校規模を維持することとし、地域の普通科教育を担っていくことが望ましいと考える。

また、那賀町は、丹生谷地域の広大な面積を有しており、他地域への通学が困難な生徒が多数生じる状況であるため、那賀高校が、生徒数の減少により、本校規模を確保できなくなった場合には、周辺高校との連携を行い、分校として存続を図っていく必要がある。

中山間の2地域の高校の状況

(1) 勝浦郡

地 域	学校名	設置学科	1 学 年 生 徒 数	設置学科の特徴	進路状況 ()内は、進学者就職者のうち専門教育を活かした割合						
勝浦郡	勝浦高校	普通科	40	2年次より4コースを設定 文理,生活福祉,情報処理,ふれあい	<table border="1"> <tr> <td>進学</td> <td>就職</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>50.0%</td> <td>38.1%</td> <td>11.9%</td> </tr> </table>	進学	就職	その他	50.0%	38.1%	11.9%
		進学	就職	その他							
50.0%	38.1%	11.9%									
農業科	20	園芸科 2年次より2コースを設定 バイオ,社会園芸	<table border="1"> <tr> <td>進学</td> <td>就職</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>33.3% (37.3%)</td> <td>62.5% (6.7%)</td> <td>4.2%</td> </tr> </table>	進学	就職	その他	33.3% (37.3%)	62.5% (6.7%)	4.2%		
進学	就職	その他									
33.3% (37.3%)	62.5% (6.7%)	4.2%									

(2) 那賀町

地 域	学校名	設置学科	1 学 年 生 徒 数	設置学科の特徴	進路状況 ()内は、進学者就職者のうち専門教育を活かした割合				
那賀町	那賀高校	普通科	80	連携型中高一貫教育を実施 2年次より6コースを設定 理系応用,文系応用,国際,福祉 環境,情報	<table border="1"> <tr> <td>進学</td> <td>就職</td> </tr> <tr> <td>53.5%</td> <td>46.5%</td> </tr> </table>	進学	就職	53.5%	46.5%
進学	就職								
53.5%	46.5%								

勝浦高等学校の現状

1 所在地	勝浦郡勝浦町大字久国字屋原 1										
2 地理的条件 アクセス等	<p>小松島市から約 1.5 km，勝浦川の中流域にあり，中山間農業地帯である。気候が温暖で，自然環境に恵まれており，県下有数のミカン産地を形成している。</p> <p>公共交通機関は小松島市，徳島市方面の路線バスが開設されており，特に社会経済面では小松島市，徳島市との結びつきが強い。</p>										
3 沿革	<p>昭和元年 勝浦郡生比奈村横瀬町組合立高等農業補習学校開校</p> <p>昭和 24 年 小松島高等学校園芸科教室</p> <p>昭和 32 年 徳島農業高等学校園芸科教室（全日制）</p> <p>昭和 35 年 徳島県立徳島農業高等学校勝浦分校</p> <p>昭和 39 年 徳島県立勝浦園芸高等学校に独立昇格し，園芸科 2 学級，生活科 1 学級を設置</p> <p>平成 6 年 徳島県立勝浦高等学校と改称 普通科 2 学級を設置し園芸科は 1 学級，生活科は募集停止</p>										
4 施設 校地面積等	<p>校地面積 28,502 m²（内農業実習地 4,094 m²）</p> <p>教室棟，体育館等に加え，園芸科の実験実習棟や温室が整備されている。また，単独寮（収容定員 32 名）が設置されている。</p>										
5 教職員体制	教 員							事務職員			合計
	校長	教頭	教諭	養護 助教諭	実習 助手等	講師 ほか	小計	事務 職員	その他	臨時 職員	
	1	2	19	1	3	8	34	3	2	1	
6 教育方針	<p>教育基本法に基づき，心豊かな人間の育成，基礎・基本の重視と個性を生かす教育の充実，自己教育力の育成，文化と伝統の尊重と国際理解を推進し，生徒の人格の完成，健全な心身の発達及び国際化時代を担う人間を育成する。</p> <p>（1）知・徳・体の調和のとれた感性豊かで至誠の心をもつ人間を育てる。</p> <p>（2）人権を尊重し，民主的かつ協和の精神に富んだたくましい人間を育てる。</p> <p>（3）地域社会の実態に基づき，総合高校としての教育を行い，勤労と責任を重んじ，心身ともに健全な人間を育てる。</p>										

7 学科等	普通科	文 理 (類 型)	大学，短大，専門学校（医療系）への進学指導を行う。			
		情報処理 (類 型)	商業・経済系の大学・短大及び専門学校への進学や一般企業への就職に対応した指導を行う。			
		生活福祉 (類 型)	家庭科系大学・短大及び専門学校への進学や一般企業への就職に対応した指導を行う。			
		ふれあい (類 型)	心のふれあいを大切に，生涯学習の基礎を作り，各種専門学校への進学や一般企業への就職に対応した指導を行う。			
	園芸科	バイオ コース	バイオ技術（植物）を中心に，農業技術の指導を行う。			
社会園芸 コース		草花の栽培，園芸装飾技術等を学び，園芸活動を活用した園芸セラピーについても指導を行う。				
<p>【特色ある教育活動】</p> <p>『普通科』</p> <p>各教科の基礎科目を重視，生徒の個性を伸ばし多様な進路希望に対応するため，2年次より4つの類型を設けている。</p> <p>園芸科併設の高校の特色を生かし，農業科目の履修も可能となっている。</p> <p>『園芸科』</p> <p>地域の実態，生徒の進路等を考慮した科目を設置している。</p> <p>1年次は共通履修，2年次から生徒の適性や進路希望に応じて選択できるコース制を設けている。</p> <p>地域に根ざした教材（上勝町のリンドウ等）を取り上げ，地域に貢献できる農業教育を展開している。</p>						
8 生徒数	学科		1 年	2 年	3 年	計
	園芸科	男	1 4	1 7	1 3	4 4
		女	6	3	6	1 5
	普通科	男	2 5	2 6	2 2	7 3
		女	1 5	1 5	2 1	5 1
計		6 0	6 1	6 2	1 8 3	
地域の少子化や進学希望数の減少により，生徒数は減少している。						

9 部活動	部活動名	人数	部活動名	人数																																																																																																																						
	野球部	11	二美の会（人権）	4																																																																																																																						
	ライフル射撃部	11	バイテク部	4																																																																																																																						
	卓球部	7	民芸部	11																																																																																																																						
	陸上部	0	情報処理部	16																																																																																																																						
	バレー部	12	芸術部	4																																																																																																																						
	テニス部	11																																																																																																																								
	サッカー部	3																																																																																																																								
	バスケット部	8																																																																																																																								
	体育系部活動 8部 文化系部活動 5部 計13部 野球部では本来の部活動だけでなく、あいさつ運動等に積極的に取り組み、地域からも高い評価がある。民芸部では、地域の方に指導を受け、全国総合文化祭福井大会に参加し優秀賞を得るなど活躍している。バイテク部は日頃のバイテク学習を活用して、地域の希少植物の増殖や保護活動に取り組んでいる。																																																																																																																									
10 進学・就職 状況	(平成16年度卒業生)																																																																																																																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">卒業者数</th> <th colspan="2">就 職</th> <th colspan="3">進 学</th> <th rowspan="2">家事手伝等</th> </tr> <tr> <th>県内</th> <th>県外</th> <th>四年制大学</th> <th>短期大学</th> <th>各種専門学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>男</td> <td>48</td> <td>25</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>18</td> <td>7</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td>8</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>66</td> <td>32</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>17</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>比率(%)</td> <td></td> <td colspan="2">55%</td> <td colspan="3">44%</td> <td>2%</td> </tr> </tbody> </table>								卒業者数	就 職		進 学			家事手伝等	県内	県外	四年制大学	短期大学	各種専門学校	男	48	25	3	5	6	9		女	18	7	1		1	8	1	計	66	32	4	5	7	17	1	比率(%)		55%		44%			2%																																																																						
	卒業者数	就 職		進 学			家事手伝等																																																																																																																			
		県内	県外	四年制大学	短期大学	各種専門学校																																																																																																																				
男	48	25	3	5	6	9																																																																																																																				
女	18	7	1		1	8	1																																																																																																																			
計	66	32	4	5	7	17	1																																																																																																																			
比率(%)		55%		44%			2%																																																																																																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">業種</th> <th>農業</th> <th>林業</th> <th>漁業</th> <th>鉱業</th> <th>建設</th> <th>製造</th> <th>水ガ電 道ス気</th> <th>通運 信輸</th> <th>飲小卸 食売売</th> <th>保金 険融</th> <th>不動産</th> <th>サー ビス</th> <th>公務</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="2">性別</th> <th>県内外</th> <td></td> </tr> <tr> <th>県内</th> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>4</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td>12</td> <td></td> </tr> <tr> <th>県外</th> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>女</th> <th>県内</th> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>5</td> <td></td> </tr> <tr> <th>県外</th> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <th>計</th> <td>36</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>4</td> <td>7</td> <td></td> <td>1</td> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td>19</td> </tr> <tr> <th>比率(%)</th> <td></td> <td>3%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>11%</td> <td>19%</td> <td></td> <td>3%</td> <td>11%</td> <td></td> <td></td> <td>53%</td> </tr> </tbody> </table>								業種		農業	林業	漁業	鉱業	建設	製造	水ガ電 道ス気	通運 信輸	飲小卸 食売売	保金 険融	不動産	サー ビス	公務	性別	県内外														県内	1				4	5			3			12		県外							2		1					女	県内									1			5		県外													2	計	36	1				4	7		1	4			19	比率(%)		3%				11%	19%		3%	11%			53%
業種		農業	林業	漁業	鉱業	建設	製造	水ガ電 道ス気	通運 信輸	飲小卸 食売売	保金 険融	不動産	サー ビス	公務																																																																																																												
性別	県内外																																																																																																																									
	県内	1				4	5			3			12																																																																																																													
県外							2		1																																																																																																																	
女	県内									1			5																																																																																																													
県外													2																																																																																																													
計	36	1				4	7		1	4			19																																																																																																													
比率(%)		3%				11%	19%		3%	11%			53%																																																																																																													
大学・短大・専門学校への進学が4割程度で、就職が約5割程度である。就職先は県内志向が強く、サービス業等が5割を占めている。																																																																																																																										
11 現状・課題	・地域の少子化や進学希望数の減少により、生徒数は減少しているが、多様化した生徒に、家庭的な雰囲気の中で教職員一丸となった教育を展開している。 ・更に小規模化が進むと多様な教育課程の展開や部活動の種類が限られるなど、現状の教育環境を維持できないことが懸念されるが、今後も地域に根ざした教育を推進していく必要がある。																																																																																																																									

勝浦高等学校を取り巻く状況

1 生徒数の推移

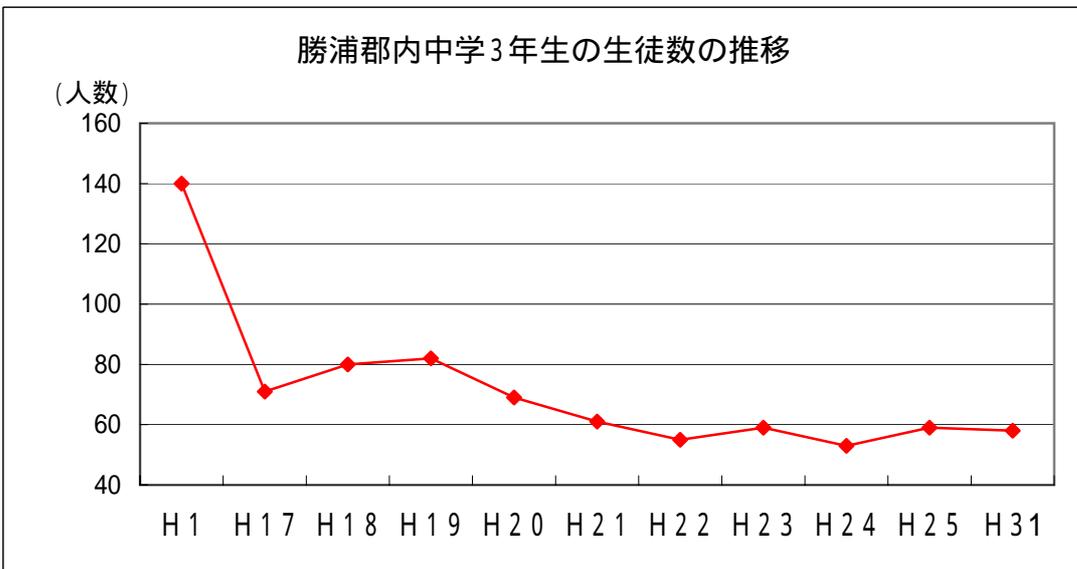
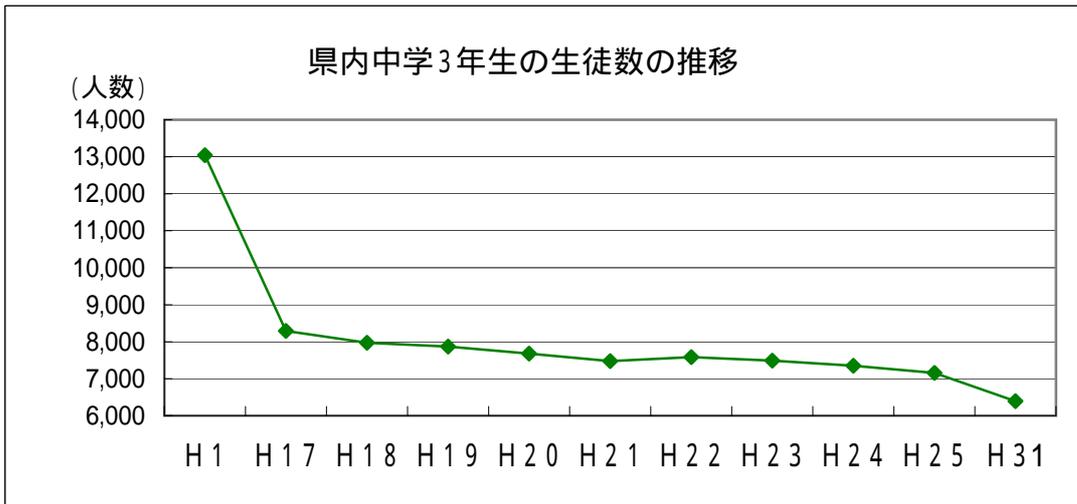
表1は県内、表2は勝浦郡内の中学3年生の生徒数を推計したものです。少子化などの影響により、県下全体で生徒数が大幅に減少し、勝浦郡内でも同様の減少傾向が予想されます。

表1 県内中学3年生の生徒数の推移

入学年度	H1	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H31
県全体 中3生	13,040	8,293	7,974	7,868	7,677	7,475	7,584	7,489	7,349	7,156	6,394

表2 勝浦郡内中学3年生の生徒数の推移

入学年度	H1	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H31
勝浦郡 中3生	140	71	80	82	69	61	55	59	53	59	58



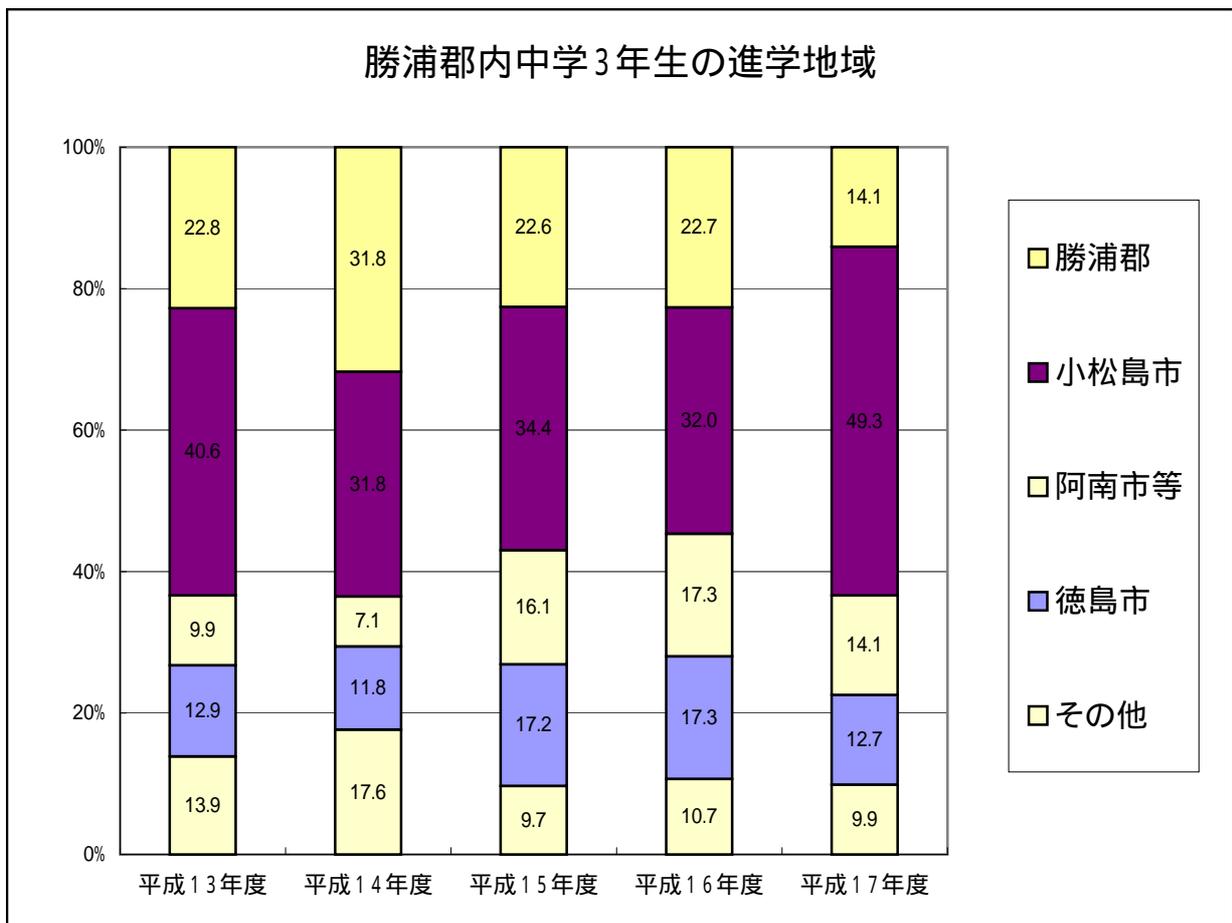
2 勝浦郡内の生徒の進学状況

表3は、勝浦郡内の中学3年生が、どの地域に進学等をしたかを示すものです。
最近5年間では、郡内中学3年生の約8割の生徒が、勝浦郡外に進学している状況です。

表3 勝浦郡内中学3年生の進学地域

地 域	平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		5年間の平均	
	人数	(%)										
勝 浦 郡	23	22.8	27	31.8	21	22.6	17	22.7	10	14.1	19.6	23.1
小 松 島 市	41	40.6	27	31.8	32	34.4	24	32.0	35	49.3	31.8	37.4
阿 南 市 等	10	9.9	6	7.1	15	16.1	13	17.3	10	14.1	10.8	12.7
徳 島 市	13	12.9	10	11.8	16	17.2	13	17.3	9	12.7	12.2	14.4
そ の 他	14	13.9	15	17.6	9	9.7	8	10.7	7	9.9	10.6	12.5
計(卒業生数)	101	100	85	100	93	100	75	100	71	100	85.0	100

* 阿南市等・富岡東高校羽ノ浦分校を含む



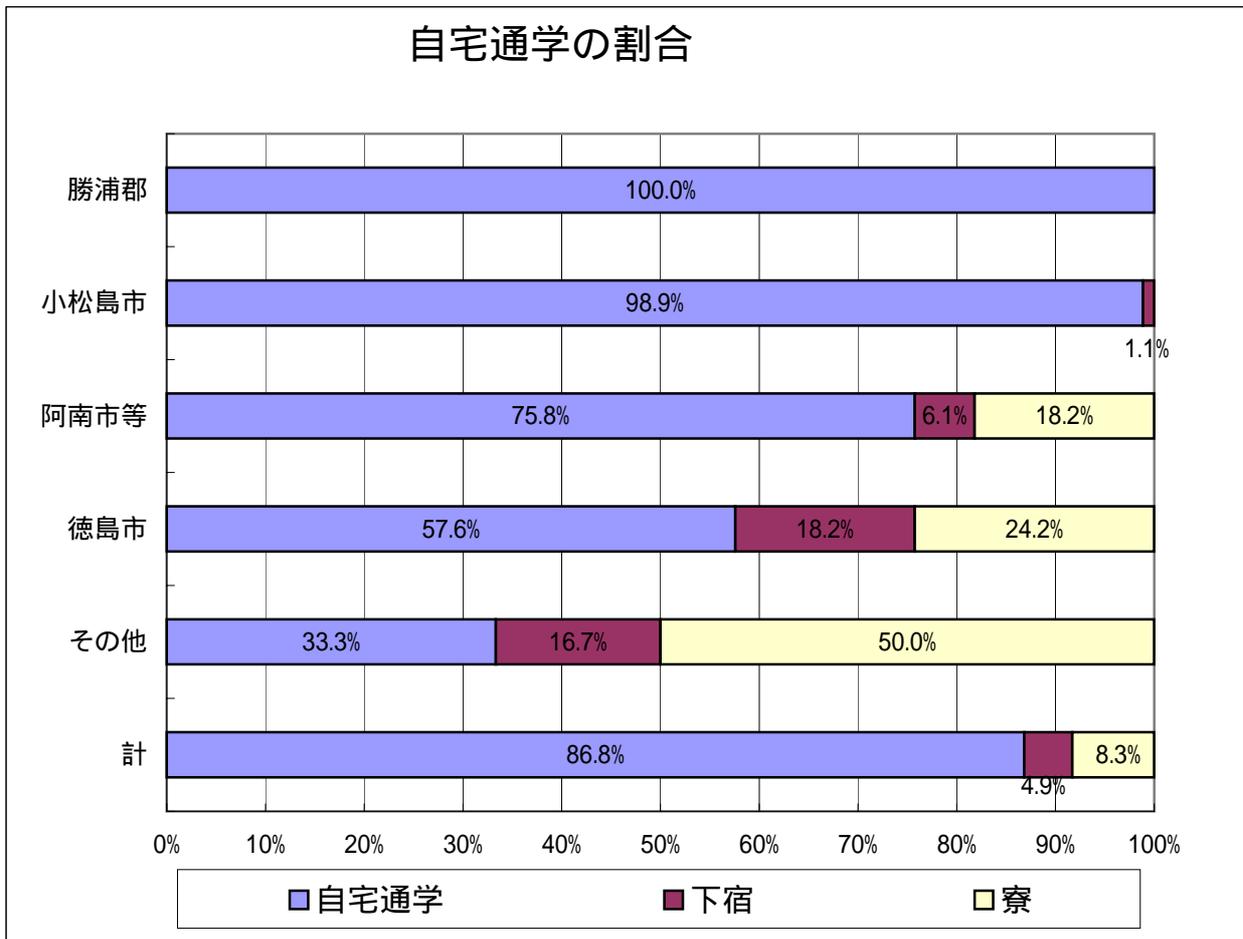
3 勝浦郡内の生徒の通学状況

表4は、勝浦郡内生徒の各高校への通学状況を示したものです。
 自宅通学が8割以上を占め、郡内及び小松島市内へはほとんどの生徒が自宅から通学している状況です。

表4 勝浦郡から公立高校への通学状況

(平成17年度)

高校の所在地	自宅通学				下宿				寮				合計
	1年生	2年生	3年生	計	1年生	2年生	3年生	計	1年生	2年生	3年生	計	
勝浦郡	10	17	18	45	0	0	0	0	0	0	0	0	45
小松島市	35	23	29	87	0	1	0	1	0	0	0	0	88
阿南市等	7	9	9	25	0	1	1	2	1	2	3	6	33
徳島市	4	5	10	19	2	2	2	6	3	2	3	8	33
その他	1	1	0	2	1	0	0	1	1	1	1	3	6
計	57	55	66	178	3	4	3	10	5	5	7	17	205
比率(%)	86.8				4.9				8.3				100



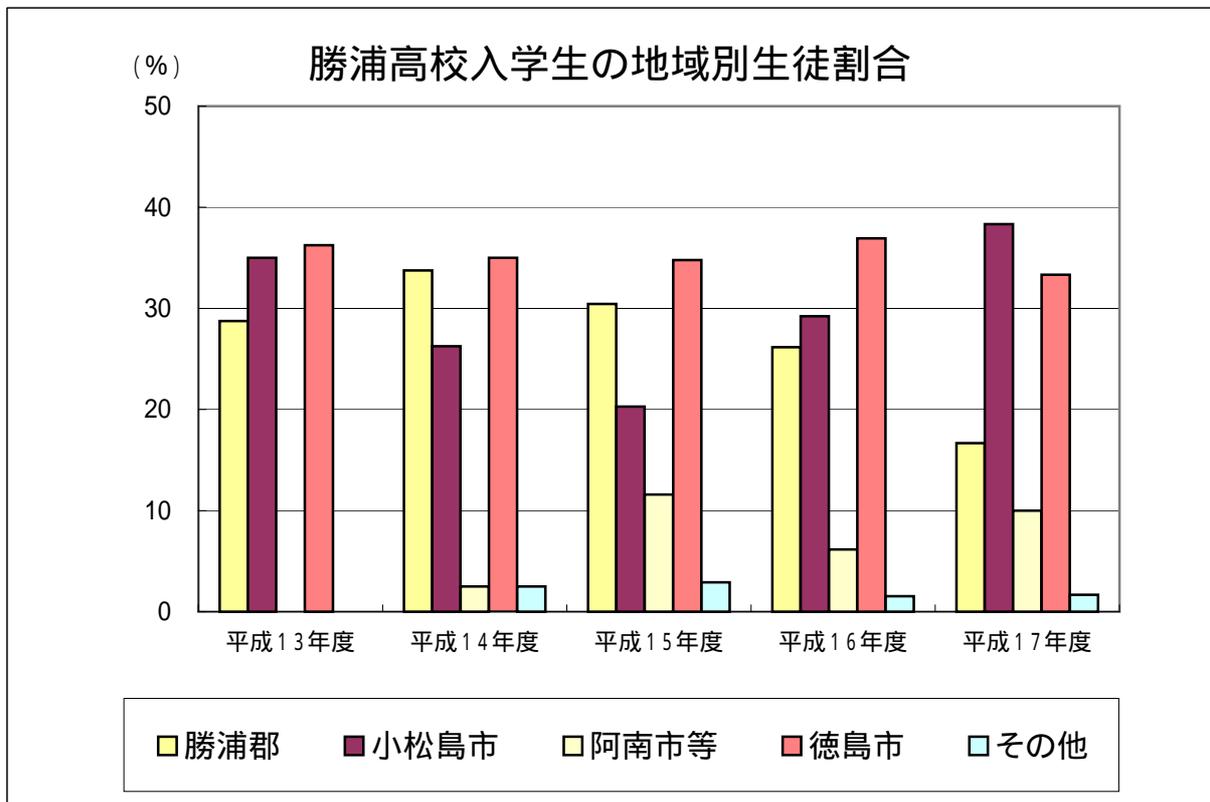
4 勝浦高校への入学状況

表5は、勝浦高校入学者の出身中学校を地域別にまとめたものです。
最近5年間では、郡内から3割、郡外から7割前後の生徒が入学しており、今年度、郡内からの入学は10名(16.7%)となっています。

表5 勝浦高校入学生の地域別生徒割合

地 域	平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		5年間の平均	
	人数	(%)										
勝 浦 郡	23	28.8	27	33.8	21	30.4	17	26.2	10	16.7	19.6	27.7
小 松 島 市	28	35.0	21	26.3	14	20.3	19	29.2	23	38.3	21.0	29.7
阿 南 市 等	0	0.0	2	2.5	8	11.6	4	6.2	6	10.0	4.0	5.6
徳 島 市	29	36.3	28	35.0	24	34.8	24	36.9	20	33.3	25.0	35.3
そ の 他	0	0.0	2	2.5	2	2.9	1	1.5	1	1.7	1.2	1.7
勝浦高校入学者数	80	100	80	100	69	100	65	100	60	100	70.8	100

阿南市等:那賀川町と羽ノ浦町を含む



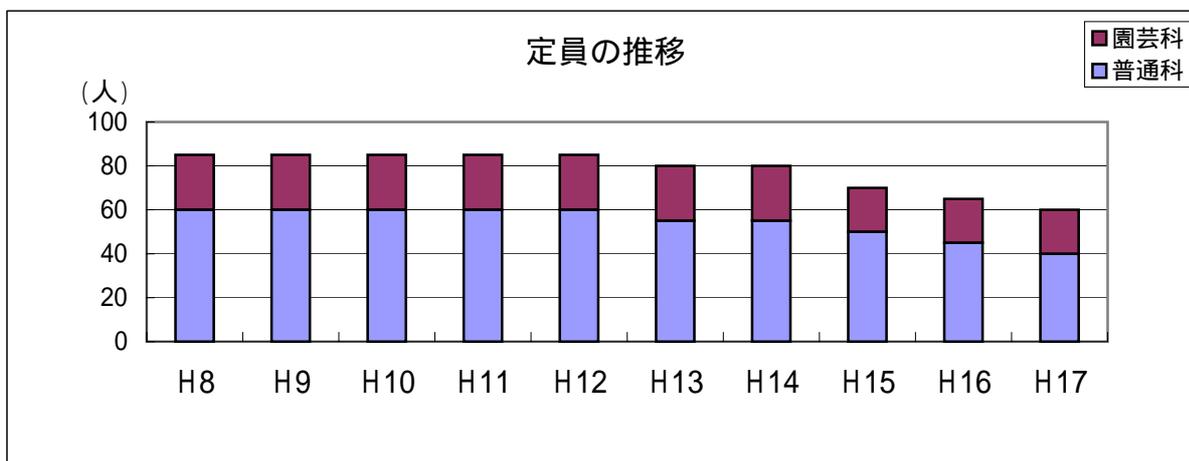
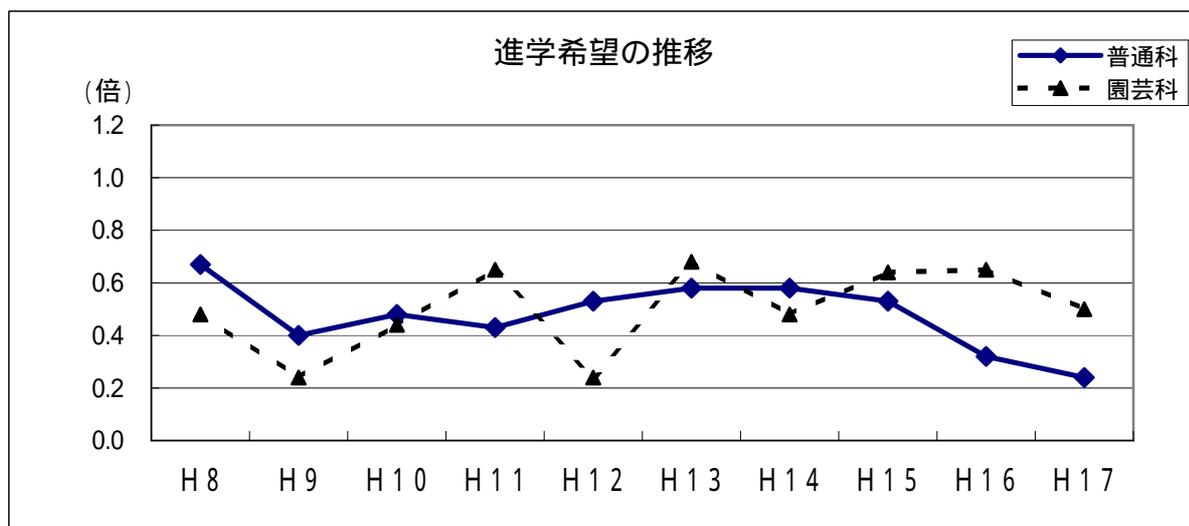
5 勝浦高校の定員と進学希望

表6は、勝浦高校の定員と進学希望の推移をまとめたものです。
勝浦高校への進学希望が、低迷していることなどに伴い、定員の減員が続いており、高校の小規模化が進んでいます。

表6 勝浦高校の定員と進学希望の推移

入学年度		H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
普通科	定員	60	60	60	60	60	55	55	50	45	40
	希望者数	40	24	29	26	32	35	32	29	16	11
	仮倍率	0.67	0.40	0.48	0.43	0.53	0.58	0.58	0.53	0.32	0.24
園芸科	定員	25	25	25	25	25	25	25	20	20	20
	希望者数	12	6	11	15	6	17	12	16	13	10
	仮倍率	0.48	0.24	0.44	0.60	0.24	0.68	0.48	0.64	0.65	0.50
学校全体	定員	85	85	85	85	85	80	80	70	65	60
	希望者数	52	30	40	41	38	52	44	45	29	21
	仮倍率	0.61	0.35	0.47	0.48	0.45	0.61	0.55	0.56	0.41	0.32

- ・希望者数は、前年6月実施の中学3年生への進学希望調査によるものです。
- ・仮倍率は、前年の定員に対する進学希望者の倍率です。



那賀高等学校の現状

1 所在地	那賀郡那賀町小仁宇字大坪 1 7 9 - 1										
2 地理的条件 アクセス等	<p>阿南市のJR桑野駅から約 1 5 km , 那賀川中流域にあり , 自然環境に恵まれた中山間地帯 (那賀町) に設置された唯一の高校である。</p> <p>公共交通機関は阿南市 , 小松島市方面の路線バスが開設されており , 特に社会経済面では阿南市との結びつきが強い。</p>										
3 沿革	<p>昭和 23 年 徳島県那賀農業高等学校 (現新野高校) の驚敷分校及び延野分校として設立</p> <p>昭和 27 年 徳島県那賀高等学校として独立</p> <p>昭和 31 年 農林科 , 家政科を設置</p> <p>昭和 48 年 農林科 , 家政科の募集を停止し , 普通科を設置</p> <p>平成 13 年 連携型中高一貫教育を導入</p>										
4 施設 校地面積等	<p>校地面積 3 1 , 1 1 8 m²</p> <p>教室棟 , 体育館等に加え , 福祉コース等の総合実習棟が整備されている。また , 単独寮 (収容定員 4 0 名) が設置されている。</p>										
5 教職員体制	教 員						事務職員			合 計	
	校長	副校長 教 頭	教諭	養護 助教諭	実習 主任	講師 ほか	小計	事務 職員	その他 (技師)	臨時 職員	
	1	2	2 0	1	1	2 2	4 7	4	2	1	5 4
6 教育方針	<p>教育基本法 , 学校教育法ならびに本県教育の基本目標を基本とするとともに , 学校・家庭・地域社会と連携・協力し , 知・徳・体の調和のとれた人材を育成する。</p> <p>(1) 人権教育を学校の教育活動全体を通じて推進し , 真の民主主義社会を実現するための実践力を持った人材を養成する。</p> <p>(2) 那賀町地域中高一貫教育を推進し , 地域の教育力を生かし , 地域に開かれた学校経営を行う。</p> <p>(3) 環境の整備を図り , 地域に根ざした学校づくりに努めるとともに生徒一人ひとりの個性の伸展を図る。</p> <p>(4) 明朗で自立的に物事に取り組む姿勢と社会の変化に主体的に対応できる人材の育成に努める。</p> <p>(5) 生きる力と豊かな心を育む教育の推進に努める。</p>										

7 学科等	普通科	情報コース	情報を中心に資格取得をめざした学習や実習を行う。			
		環境コース	農業や理科を中心に資格取得をめざした学習や実習を行う。			
		福祉コース	家庭・福祉を中心に資格取得をめざした学習や実習を行う。			
		国際コース	英語を中心に資格取得や大学進学をめざした学習を行う。			
		文系応用コース	文系教科・科目を中心に大学進学をめざした学習を行う。			
		理系応用コース	理系教科・科目を中心に大学進学をめざした学習を行う。			
<p>【特色ある教育活動】</p> <p>生徒の個性を伸ばし多様な進路希望に対応するため、2年次より6つのコースを設けている。</p> <p>平成13年度より連携型中高一貫教育（鷲敷中，相生中，上那賀中，木頭中）を導入している。</p> <p>平成15年度より文部科学省から「学力向上フロンティアハイスクール」の指定を受け，学力向上に向けた取り組みを行っている。</p> <p>オーストラリアでのホームステイなど国際交流も盛んに行っている。</p> <p>学生寮が設置されており遠距離の生徒に対応している。</p>						
8 生徒数	学科		1年	2年	3年	計
	普通科	男	35	31	25	91
		女	45	48	53	146
		計	80	79	78	237
地域の少子化や過疎化のため，生徒数は減少している。						

9 部活動	部活動名	人数	部活動名	人数																																																																																																																		
	ソフトテニス	24	書道	8																																																																																																																		
	硬式野球	17	美術	9																																																																																																																		
	卓球	15	人権問題研究	4																																																																																																																		
	カヌー	9	文芸・新聞	11																																																																																																																		
	弓道	14	青少年赤十字	32																																																																																																																		
	剣道	9	華道	13																																																																																																																		
	バレーボール	25	茶道	11																																																																																																																		
	体育系部活動 7部 文化系部活動 7部 計 14部 部活動への加入率が90%であり、部活動が盛んである。ワールドカップに出場しているカヌー部をはじめ、バレーボール、弓道、ソフトテニス、剣道、卓球、硬式野球、バドミントンなどが県内外で活躍している。文化部も青少年赤十字部による老人ホーム訪問など活発に活動している。																																																																																																																					
	10 進学・就職 状況	(平成16年度卒業生)																																																																																																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">卒業者数</th> <th colspan="2">就 職</th> <th colspan="3">進 学</th> <th rowspan="2">家事手伝等</th> </tr> <tr> <th>県内</th> <th>県外</th> <th>四年制大学</th> <th>短期大学</th> <th>各種専門学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>男</td> <td>34</td> <td>8</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>3</td> <td>8</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>37</td> <td>15</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>71</td> <td>23</td> <td>5</td> <td>12</td> <td>7</td> <td>19</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>比率(%)</td> <td colspan="2">39.4%</td> <td colspan="3">53.5%</td> <td colspan="2">7.0%</td> </tr> </tbody> </table>							卒業者数	就 職		進 学			家事手伝等	県内	県外	四年制大学	短期大学	各種専門学校	男	34	8	4	8	3	8	3	女	37	15	1	4	4	11	2	計	71	23	5	12	7	19	5	比率(%)	39.4%		53.5%			7.0%																																																																					
卒業者数		就 職		進 学				家事手伝等																																																																																																														
	県内	県外	四年制大学	短期大学	各種専門学校																																																																																																																	
男	34	8	4	8	3	8	3																																																																																																															
女	37	15	1	4	4	11	2																																																																																																															
計	71	23	5	12	7	19	5																																																																																																															
比率(%)	39.4%		53.5%			7.0%																																																																																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">業種</th> <th>農 業</th> <th>林 業</th> <th>漁 業</th> <th>鉱 業</th> <th>建 設</th> <th>製 造</th> <th>水カ電 道ス気</th> <th>通運 信 輸</th> <th>飲小卸 食売売</th> <th>保 金 険 融</th> <th>不 動 産</th> <th>サー ビス</th> <th>公 務</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>性別 県内外</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>男 県内</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>6</td><td></td><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td>1</td><td></td> </tr> <tr> <td>男 県外</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>1</td><td></td><td></td><td>1</td><td>1</td> </tr> <tr> <td>女 県内</td> <td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>3</td><td>1</td><td></td><td>3</td><td></td><td></td><td>6</td><td></td> </tr> <tr> <td>女 県外</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>28</td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td>9</td><td>1</td><td>1</td><td>6</td><td></td><td></td><td>8</td><td>1</td> </tr> <tr> <td>比率</td> <td>7.1%</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>32.1%</td><td>3.6%</td><td>3.6%</td><td>21.4%</td><td></td><td></td><td>28.6%</td><td>3.6%</td> </tr> </tbody> </table>							業種	農 業	林 業	漁 業	鉱 業	建 設	製 造	水カ電 道ス気	通運 信 輸	飲小卸 食売売	保 金 険 融	不 動 産	サー ビス	公 務	性別 県内外														男 県内						6			1			1		男 県外								1	1			1	1	女 県内	2					3	1		3			6		女 県外									1					計	28	2				9	1	1	6			8	1	比率	7.1%					32.1%	3.6%	3.6%	21.4%			28.6%	3.6%
業種	農 業	林 業	漁 業	鉱 業	建 設	製 造		水カ電 道ス気	通運 信 輸	飲小卸 食売売	保 金 険 融	不 動 産	サー ビス	公 務																																																																																																								
	性別 県内外																																																																																																																					
男 県内						6			1			1																																																																																																										
男 県外								1	1			1	1																																																																																																									
女 県内	2					3	1		3			6																																																																																																										
女 県外									1																																																																																																													
計	28	2				9	1	1	6			8	1																																																																																																									
比率	7.1%					32.1%	3.6%	3.6%	21.4%			28.6%	3.6%																																																																																																									
大学・短大・専門学校への進学が5割程度で、就職が約4割程度である。就職先は県内志向が強く、製造・サービスが6割を占めている。																																																																																																																						
11 現状・課題	・少子化等により、生徒数は減少傾向にあるが、小規模校のメリットを活かし、きめ細かい指導を通して、生徒一人ひとりの興味、関心、進路に応じた教育を展開している。																																																																																																																					
	・更に小規模化が進むと多様な教育課程の展開や部活動の種類が限られることが憂慮されるが、今後とも地域に根ざした教育を推進していく必要がある。																																																																																																																					

那賀高等学校を取り巻く状況

1 生徒数の推移

表1は県内、表2は那賀町の中学3年生の生徒数を推計したものです。

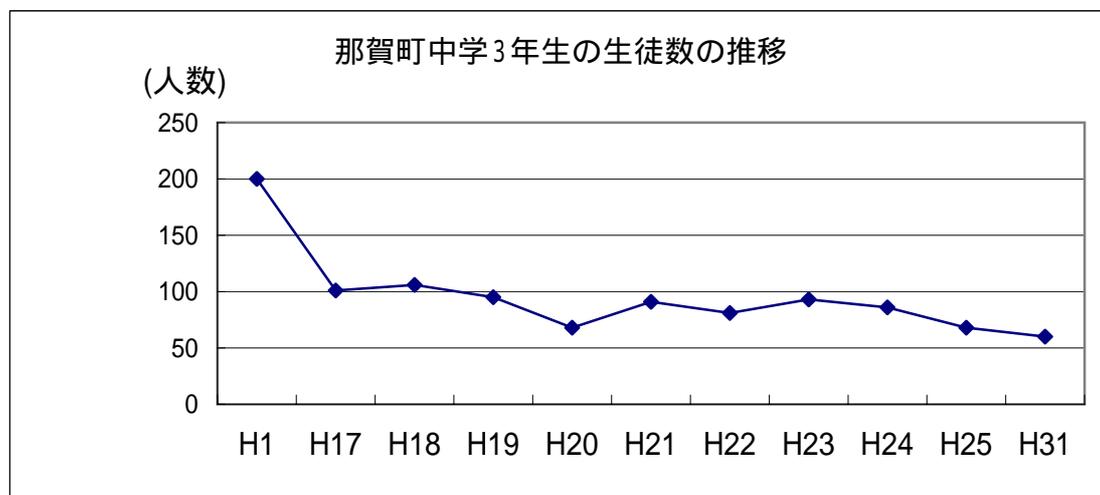
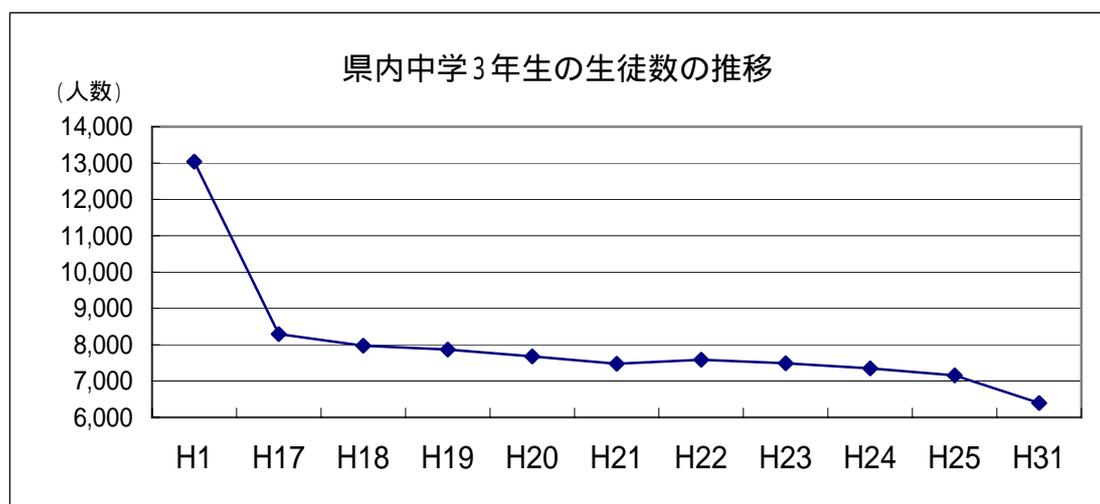
少子化などの影響により、県下全体で生徒数が大幅に減少し、那賀町でも同様の減少傾向が予想されます。

表1 県内中学3年生の生徒数の推移

入学年度	H1	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H31
県全体 中3生	13,040	8,293	7,974	7,868	7,677	7,475	7,584	7,489	7,349	7,156	6,394

表2 那賀町中学3年生の生徒数の推移

入学年度	H1	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H31
那賀町 中3生	200	101	106	95	68	91	81	93	86	68	60

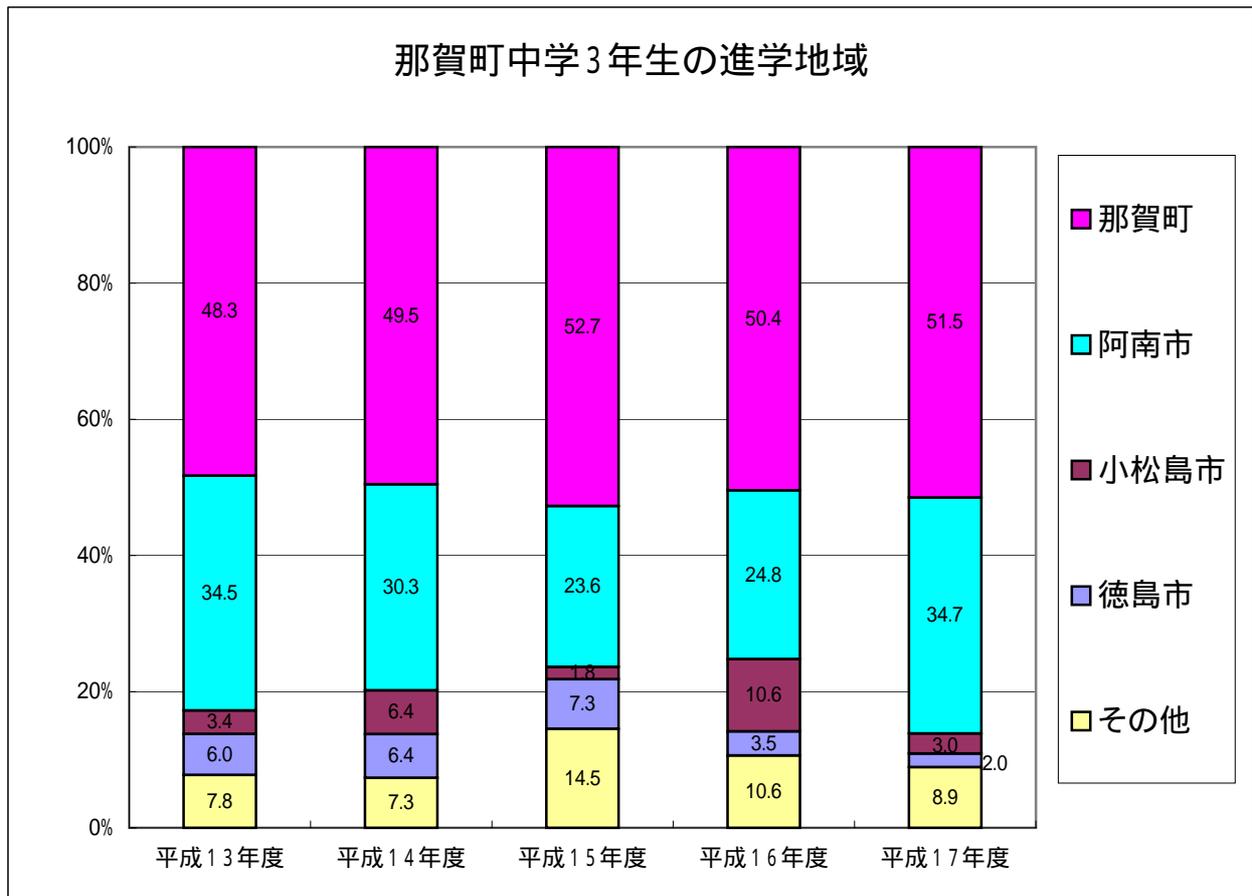


2 那賀町の生徒の進学状況

表3は、那賀町の中学3年生が、どの地域に進学等をしたかを示すものです。
最近5年間では、那賀町中学3年生の約5割の生徒が那賀高校に進学している状況です。

表3 那賀町中学3年生の進学地域

地 域	平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		5年間の平均	
	人数	(%)										
那 賀 町	56	48.3	54	49.5	58	52.7	57	50.4	52	51.5	55.4	50.5
阿 南 市	40	34.5	33	30.3	26	23.6	28	24.8	35	34.7	32.4	29.5
小 松 島 市	4	3.4	7	6.4	2	1.8	12	10.6	3	3.0	5.6	5.1
徳 島 市	7	6.0	7	6.4	8	7.3	4	3.5	2	2.0	5.6	5.1
そ の 他	9	7.8	8	7.3	16	14.5	12	10.6	9	8.9	10.8	9.8
計(卒業生数)	116	100	109	100	110	100	113	100	101	100	109.8	100



3 那賀町の生徒の通学状況

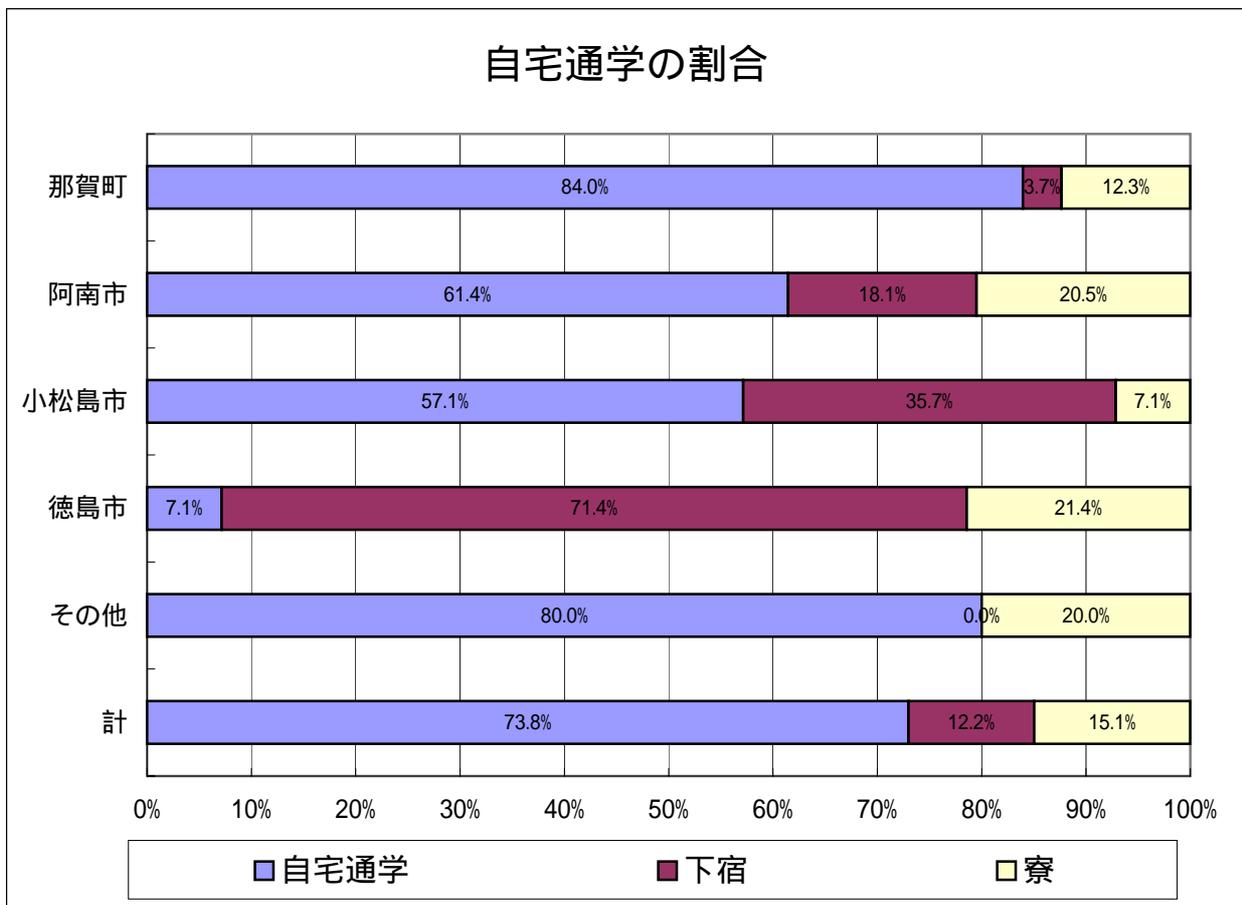
表4は、那賀町の生徒の各高校への通学状況を示したものです。

地元的那賀高校へは自宅通学が約8割を占めていますが、2割近くの生徒は自宅通学できず寮や下宿を利用している状況です。

表4 那賀町から公立高校への通学状況

(平成17年度)

高校の所在地	自宅通学				下宿				寮				合計
	1年生	2年生	3年生	計	1年生	2年生	3年生	計	1年生	2年生	3年生	計	
那賀町	46	44	46	136	2	3	1	6	4	9	7	20	162
阿南市	22	18	11	51	5	3	7	15	5	6	6	17	83
小松島市	2	6	0	8	0	3	2	5	0	1	0	1	14
徳島市	1	0	0	1	1	4	5	10	0	0	3	3	14
その他	2	0	2	4	0	0	0	0	0	1	0	1	5
計	73	68	59	200	8	13	15	36	9	17	16	42	278
比率(%)	71.9				12.9				15.1				100



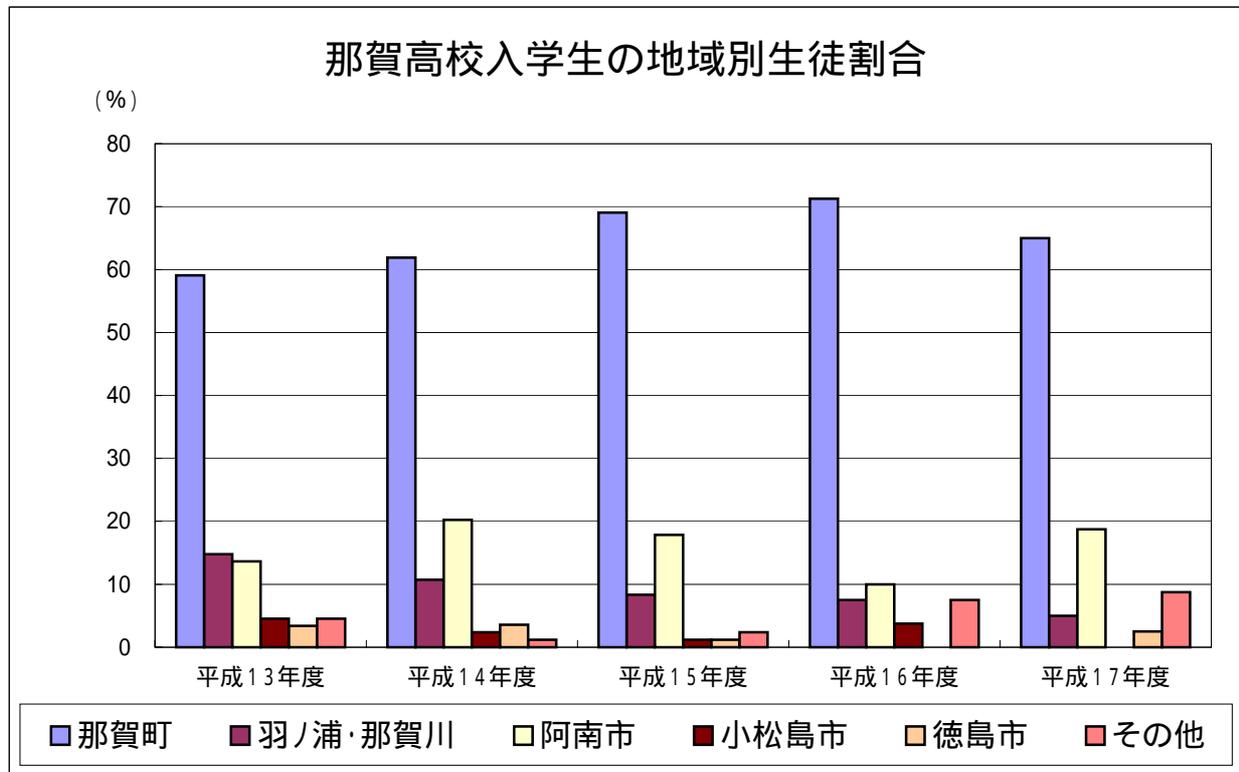
4 那賀高校への入学状況

表5は、那賀高校入学者の出身中学校を地域別にまとめたものです。

最近5年間は、7割近い入学者が那賀町の生徒であり、今年度も52名(65.0%)が那賀町から入学しています。

表5 那賀高校入学者の地域別生徒割合

地域	平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		5年間の平均	
	人数	(%)										
那賀町	52	59.1	52	61.9	58	69.0	57	71.3	52	65.0	54.2	65.1
羽ノ浦・那賀川	13	14.8	9	10.7	7	8.3	6	7.5	4	5.0	7.8	9.4
阿南市	12	13.6	17	20.2	15	17.9	8	10.0	15	18.8	13.4	16.1
小松島市	4	4.5	2	2.4	1	1.2	3	3.8	0	0.0	2.0	2.4
徳島市	3	3.4	3	3.6	1	1.2	0	0.0	2	2.5	1.8	2.2
その他	4	4.5	1	1.2	2	2.4	6	7.5	7	8.8	4.0	4.8
那賀高校入学者数	88	100	84	100	84	100	80	100	80	100	83.2	100



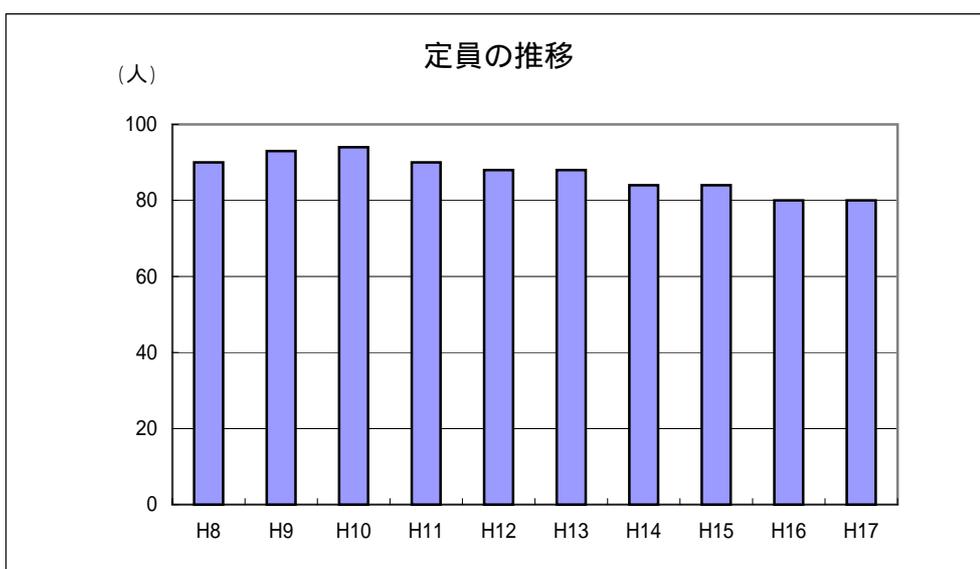
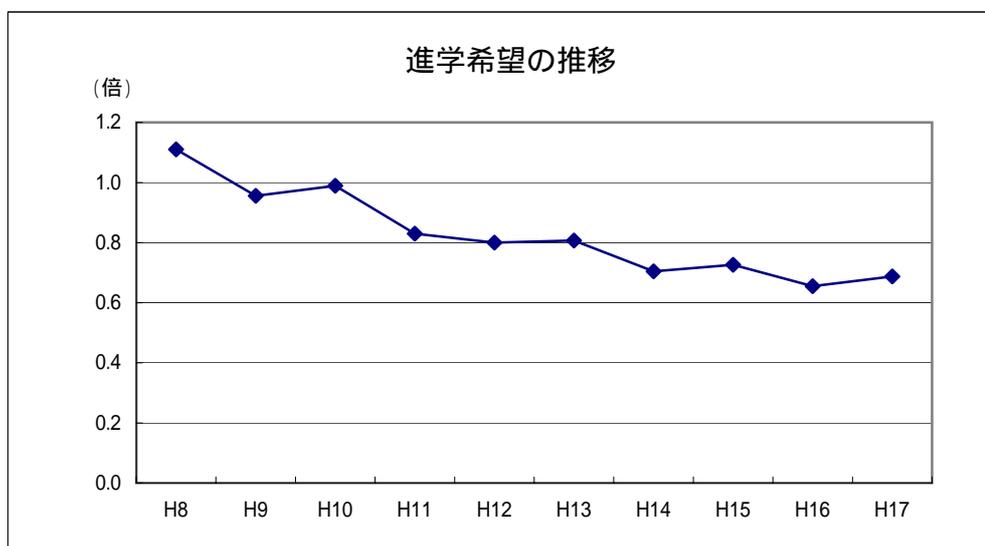
5 那賀高校の定員と進学希望

表6は、那賀高校の定員と進学希望の推移をまとめたものです。
 仮倍率はここ数年間は0.7倍前後で推移しています。

表6 那賀高校の定員と進学希望の推移

入学年度	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
定員	90	93	94	90	88	88	84	84	80	80
希望者数	113	86	92	78	72	71	62	61	55	55
仮倍率	1.11	0.96	0.99	0.83	0.80	0.81	0.70	0.73	0.65	0.69

- ・希望者数は、前年6月実施の中学3年生への進学希望調査によるものです。
- ・仮倍率は前年の定員に対する進学希望者の倍率です。



9. 地域協議会の設置

地域協議会の設置

各地域においては、活力と魅力ある学校づくりや、普通科教育、職業教育など、今後の高校教育のあり方を踏まえ、地域の望ましい再編の姿や中山間地域の高校のあり方を示すものであるが、再編についての考え方は多様であり、地域の実情に応じた再編整備が求められている。

そこで、鳴門市をはじめ5地域では、それぞれの再編の姿をもとに、保護者や学校関係者、地元自治体や地域代表など、住民参加による地域協議会を設置し、各学校が主体となり、新しい学校のあり方や再編に向けた学校間連携を推進していく必要がある。

また、中山間の2地域の高校では、分校化など、それぞれの方向を踏まえながら、住民参加による地域協議会を設置し、各学校が主体となり、魅力ある学校づくりや活性化に向けた地域連携を推進していく必要がある。

この地域協議会については、高校再編についての合意形成を図り、地域の知恵を活かしながら新しい学校づくりを進めていく上で、極めて重要であり、県教育委員会においては、今後、地域協議会の設置や運営はもとより、再編に向けた学校間連携などを積極的に支援していくべきである。

【 参考 】 組織づくりの例示

1 . 構成メンバー

学校長，保護者，学校関係者，市町村，市町村教育委員会，小中学校PTA代表，小中学校長代表，地域産業代表，関係団体代表，県教育委員会など

2 . 取り組み内容

(1)新しい学校づくりのための協議（再編が必要な5地域）

平成18年度から，学校のあり方や学校間連携の事業計画などを盛り込んだ「全体計画」の策定に取り組み，平成20年度以降，学校間連携などを実施する。

検討内容

- ・学校のあり方，教育の基本方針
- ・設置学科，教育制度，教育課程
- ・地域に開かれた学校づくり
- ・地域産業との連携のあり方
- ・教育環境の整備のあり方
- ・地域の高校教育のあり方
- ・学校間連携の事業計画
- ・設置場所，再編時期の要望など

(2)魅力ある学校づくりのための協議（中山間の2地域）

平成18年度に，「活性化計画」を策定するとともに，今後における早急な取り組みを図るため，平成18年度以降，地域連携などの活性化策を実施する。

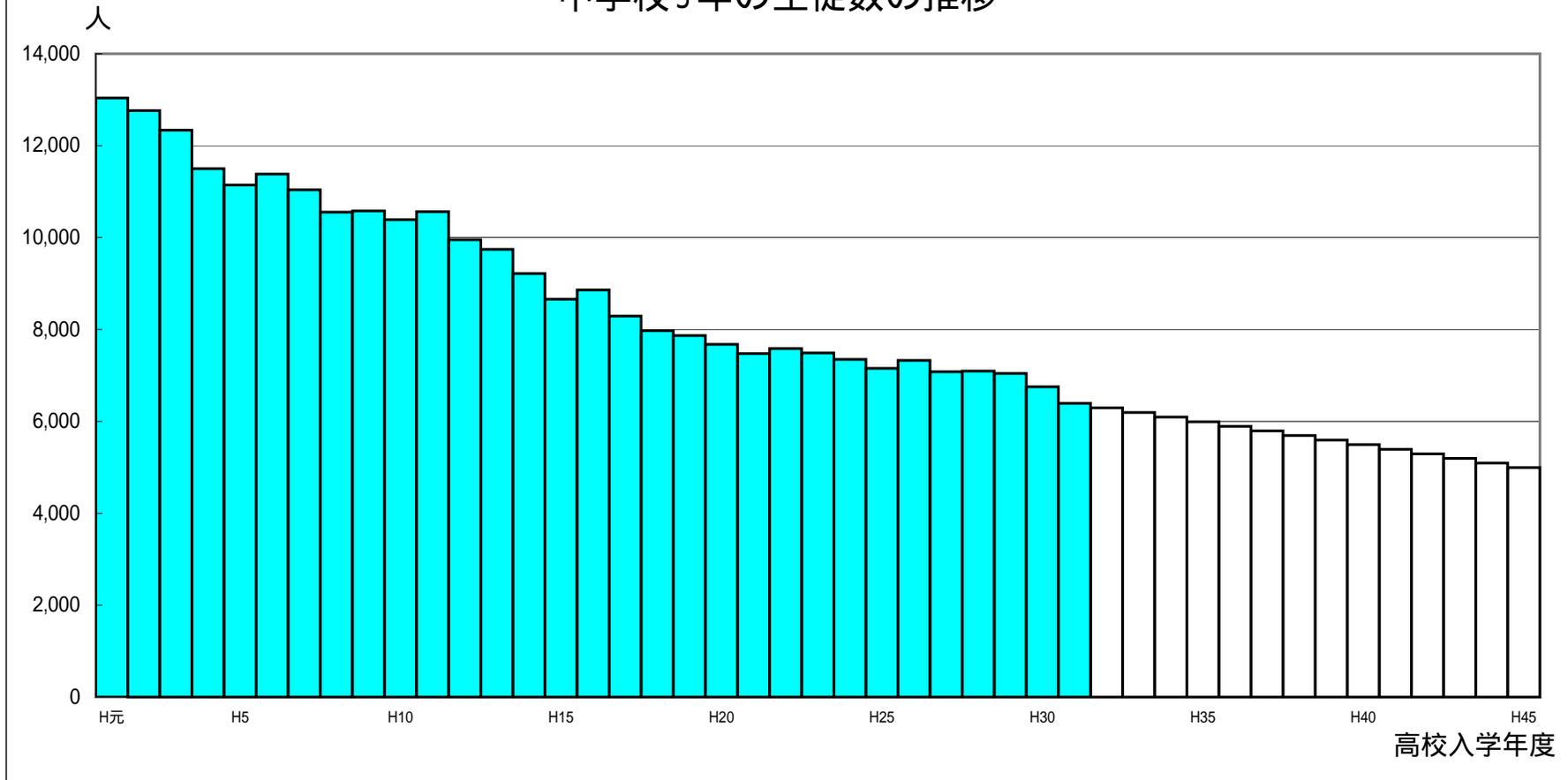
検討内容

- ・小規模校の活性化のあり方
- ・地域に根ざした学校づくり
- ・地元中学校との連携のあり方
- ・地域産業との連携のあり方
- ・学校間連携のあり方
- ・活性化のための事業計画など

10. 再編の視点

(1) 生徒数の減少

中学校3年の生徒数の推移



入学年度	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15
対象生徒数	13,040	12,764	12,337	11,499	11,144	11,382	11,040	10,554	10,579	10,390	10,563	9,954	9,744	9,220	8,660

入学年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
対象生徒数	8,860	8,293	7,974	7,868	7,677	7,475	7,584	7,489	7,349	7,156	7,328	7,081	7,097	7,042	6,752

入学年度	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
対象生徒数	6,394	6,294	6,194	6,094	5,994	5,894	5,794	5,694	5,594	5,494	5,394	5,294	5,194	5,094	4,994

平成32年度以降の対象生徒数は、平成31年度の住民基本台帳の実人員が、毎年100人減少したと仮定し、試算した概数である。

中学校3年の生徒数の推移（地域別：平成16～30年度）

入学年度

地域名	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
海部郡	279	245	263	242	264	220	213	188	211	212	187	202	182	170	161
阿南市・那賀 川町・羽ノ浦町	868	809	746	764	768	756	825	784	763	733	757	780	708	754	687
那賀町	112	101	106	95	68	91	81	93	86	68	79	70	80	76	74
小松島市	468	396	386	366	389	360	394	380	366	371	396	362	380	400	375
勝浦郡	74	71	80	82	69	61	55	59	53	59	48	70	57	55	49
徳島市 徳島東市郡	2,990	2,834	2,757	2,786	2,585	2,524	2,621	2,576	2,506	2,452	2,513	2,361	2,462	2,357	2,356
板野郡	1,106	1,032	941	893	925	900	935	935	917	944	979	976	988	1,011	1,017
鳴門市	653	625	573	555	577	559	606	586	575	575	554	549	567	564	532
名西郡	336	292	307	272	326	294	278	270	290	274	280	276	286	295	222
吉野川市	468	441	473	441	449	388	401	407	382	365	386	346	350	372	330
阿波市	430	404	390	397	397	385	364	355	360	348	369	356	347	326	309
美馬市 つるぎ町	537	450	429	456	388	441	375	379	384	344	345	334	336	313	328
三好郡	539	593	523	519	472	496	436	477	456	411	435	399	354	349	312
県計	8,860	8,293	7,974	7,868	7,677	7,475	7,584	7,489	7,349	7,156	7,328	7,081	7,097	7,042	6,752

中学校3年の生徒数の推移（地域別：平成31～45年度）

入学年度

地域名	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
海部郡	134	132	130	128	126	124	121	119	117	115	113	111	109	107	105
阿南市・那賀川町・羽ノ浦町	636	626	616	606	596	586	576	566	556	546	536	527	517	507	497
那賀町	60	59	58	57	56	55	54	53	52	52	51	50	49	48	47
小松島市	323	318	313	308	303	298	293	288	283	277	272	267	262	257	252
勝浦郡	58	57	56	55	54	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45
徳島市 徳島東市郡	2,284	2,248	2,213	2,177	2,141	2,105	2,070	2,034	1,998	1,962	1,927	1,891	1,855	1,820	1,784
板野郡	985	970	954	939	923	908	893	877	862	846	831	815	800	785	769
鳴門市	456	449	442	435	428	420	413	406	399	392	385	378	371	363	356
名西郡	223	219	216	212	209	206	202	199	195	192	188	185	181	177	174
吉野川市	329	324	319	313	308	303	298	293	288	283	278	272	267	262	257
阿波市	278	274	269	265	261	256	252	248	243	239	234	230	226	221	217
美馬市 つるぎ町	321	316	311	306	301	296	291	286	281	276	271	266	261	256	251
三好郡	307	302	297	293	288	283	278	273	269	264	259	254	249	245	240
県計	6,394	6,294	6,194	6,094	5,994	5,894	5,794	5,694	5,594	5,494	5,394	5,294	5,194	5,094	4,994

中学校 3 年の生徒数の推移

入学年度

番号	市町村名	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
1	徳島市	2,963	2,800	2,731	2,769	2,566	2,500	2,604	2,555	2,486	2,436	2,493	2,348	2,442	2,341	2,343	2,267
2	鳴門市	653	625	573	555	577	559	606	586	575	575	554	549	567	564	532	456
3	小松島市	468	396	386	366	389	360	394	380	366	371	396	362	380	400	375	323
4	阿南市	599	552	527	548	520	517	565	553	523	510	524	535	502	519	468	427
5	吉野川市	468	441	473	441	449	388	401	407	382	365	386	346	350	372	330	329
6	阿波市	430	404	390	397	397	385	364	355	360	348	369	356	347	326	309	278
7	美馬市	424	354	333	352	293	328	275	282	294	276	272	251	263	253	262	246
8	勝浦町	59	62	59	68	59	48	41	48	43	49	37	57	43	41	36	44
9	上勝町	15	9	21	14	10	13	14	11	10	10	11	13	14	14	13	14
10	佐那河内村	27	34	26	17	19	24	17	21	20	16	20	13	20	16	13	17
11	石井町	271	226	256	225	275	249	240	232	239	225	247	246	249	279	195	199
12	神山町	65	66	51	47	51	45	38	38	51	49	33	30	37	16	27	24
13	那賀川町	121	124	107	103	115	104	117	104	113	94	109	107	88	118	104	101
14	羽ノ浦町	148	133	112	113	133	135	143	127	127	129	124	138	118	117	115	108
15	那賀町	112	101	106	95	68	91	81	93	86	68	79	70	80	76	74	60
16	由岐町	30	25	30	33	36	26	29	21	23	30	16	19	20	23	17	12
17	日和佐町	56	53	57	49	46	43	33	38	39	43	35	48	35	33	40	34
18	牟岐町	57	46	46	47	55	39	42	37	51	43	34	42	34	32	30	23
19	海南町	59	49	63	63	58	62	63	42	49	52	53	57	50	45	41	33
20	海部町	37	36	23	17	32	17	16	24	19	23	20	12	15	17	8	8
21	穴喰町	40	36	44	33	37	33	30	26	30	21	29	24	28	20	25	24
22	松茂町	158	157	150	138	144	149	153	148	137	166	162	174	173	169	173	161
23	北島町	241	208	201	177	200	177	199	196	188	201	210	199	211	224	240	218
24	藍住町	409	350	347	340	343	321	351	348	343	342	354	362	367	362	344	376
25	板野町	147	154	124	127	123	130	133	145	149	131	137	120	120	132	140	112
26	上板町	151	163	119	111	115	123	99	98	100	104	116	121	117	124	120	118
27	つるぎ町	113	96	96	104	95	113	100	97	90	68	73	83	73	60	66	75
28	三野町	56	58	61	66	52	59	54	69	53	58	52	45	40	40	31	46
29	三好町	79	89	75	71	69	79	58	67	53	49	63	56	48	58	37	40
30	池田町	166	176	145	135	144	144	127	121	130	116	127	119	90	95	80	84
31	山城町	50	50	47	30	41	37	31	47	47	28	30	38	25	33	23	16
32	井川町	45	57	42	62	38	48	40	43	39	46	41	36	39	24	33	26
33	三加茂町	113	129	126	129	108	98	100	106	114	91	101	88	89	76	81	73
34	東祖谷山村	26	23	20	15	10	23	15	12	13	10	10	7	11	13	11	14
35	西祖谷山村	4	11	7	11	10	8	11	12	7	13	11	10	12	10	16	8
合計		8,860	8,293	7,974	7,868	7,677	7,475	7,584	7,489	7,349	7,156	7,328	7,081	7,097	7,042	6,752	6,394

地域別：将来の学校規模の目安

(平成18年度から平成45年度)

(1) 海部郡

		H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
高 校 名	全 県	8,293	7,974	7,868	7,677	7,475	7,584	7,489	7,349	7,156	7,328	7,081	7,097	7,042	6,752
	地 域	245	263	242	264	220	213	188	211	212	187	202	182	170	161
海 部	全 県	170	163	161	157	153	155	153	150	147	150	145	145	144	138
	地 域		182	168	183	153	148	130	146	147	130	140	126	118	112
水 産	全 県	30	29	28	28										
	地 域		32	30	32										

		H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	H35年度	H36年度	H37年度	H38年度	H39年度	H40年度	H41年度	H42年度	H43年度	H44年度	H45年度
高 校 名	全 県	6,394	6,294	6,194	6,094	5,994	5,894	5,794	5,694	5,594	5,494	5,394	5,294	5,194	5,094	4,994
	地 域	134	132	130	128	126	124	121	119	117	115	113	111	109	107	105
海 部	全 県	131	129	127	125	123	121	119	117	115	112	110	108	106	104	102
	地 域	93	92	90	89	87	86	84	83	81	80	78	77	76	74	73
水 産	全 県															
	地 域															

(2) 阿南市・那賀郡(那賀川町, 羽ノ浦町)

高校名			H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	全	県	8,293	7,974	7,868	7,677	7,475	7,584	7,489	7,349	7,156	7,328	7,081	7,097	7,042	6,752
	地	域	809	746	764	768	756	825	784	763	733	757	780	708	754	687
富岡西	全	県	260	250	247	240	234	238	235	230	224	230	222	222	221	212
	地	域		240	246	247	243	265	252	245	236	243	251	228	242	221
富岡東	全	県	240	231	228	222	216	219	217	213	207	212	205	205	204	195
	地	域		221	227	228	224	245	233	226	217	225	231	210	224	204
阿南工業	全	県	130	125	123	120	117	119	117	115	112	115	111	111	110	106
	地	域		120	123	123	121	133	126	123	118	122	125	114	121	110
新野	全	県	95	91	90	88	85	87	86	84	82	84	81	81	80	77
	地	域		88	90	90	89	97	92	90	86	89	92	83	89	81
富岡東 羽ノ浦	全	県	40	38	38	37	36	36	36	35	34	35	34	34	34	33
	地	域		37	38	38	37	41	39	38	36	37	39	35	37	34

高校名			H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	H35年度	H36年度	H37年度	H38年度	H39年度	H40年度	H41年度	H42年度	H43年度	H44年度	H45年度
	全	県	6,394	6,294	6,194	6,094	5,994	5,894	5,794	5,694	5,594	5,494	5,394	5,294	5,194	5,094	4,994
	地	域	636	626	616	606	596	586	576	566	556	546	536	527	517	507	497
富岡西	全	県	200	197	194	191	188	185	181	178	175	172	169	166	163	160	157
	地	域		204	201	198	195	192	188	185	182	179	175	172	169	166	163
富岡東	全	県	185	182	179	176	173	170	167	165	162	159	156	153	150	147	145
	地	域		189	186	183	180	177	174	171	168	165	162	159	156	153	150
阿南工業	全	県	100	99	97	95	94	92	91	89	87	86	84	83	81	80	78
	地	域		102	101	99	97	96	94	93	91	89	88	86	85	83	81
新野	全	県	73	72	71	70	68	67	66	65	64	63	62	61	60	58	57
	地	域		75	74	72	71	70	69	68	66	65	64	63	62	61	60
富岡東 羽ノ浦	全	県	31	30	30	29	29	28	28	27	27	26	26	25	25	25	24
	地	域		31	31	30	30	29	29	28	28	27	27	26	26	26	25

(3) 那賀郡 (鷺敷町 , 相生町 , 上那賀町 , 木沢村 , 木頭村)

		H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
高 校 名	全 県	8,293	7,974	7,868	7,677	7,475	7,584	7,489	7,349	7,156	7,328	7,081	7,097	7,042	6,752
	地 域	101	106	95	68	91	81	93	86	68	79	70	80	76	74
那 賀	全 県	80	77	76	74	72	73	72	71	69	70	68	68	68	65
	地 域		84	75	54	72	64	74	68	54	63	55	63	60	59

		H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	H35年度	H36年度	H37年度	H38年度	H39年度	H40年度	H41年度	H42年度	H43年度	H44年度	H45年度
高 校 名	全 県	6,394	6,294	6,194	6,094	5,994	5,894	5,794	5,694	5,594	5,494	5,394	5,294	5,194	5,094	4,994
	地 域	60	59	58	57	56	55	54	53	52	52	51	50	49	48	47
那 賀	全 県	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48
	地 域	48	47	46	45	44	44	43	43	41	41	40	40	39	38	37

(4) 小松島市

高校名		H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	全 県		8,293	7,974	7,868	7,677	7,475	7,584	7,489	7,349	7,156	7,328	7,081	7,097	7,042
地 域		396	386	366	389	360	394	380	366	371	396	362	380	400	375
小松島	全 県		235	232	227	221	224	221	217	211	216	209	210	208	199
	地 域	245	239	226	241	223	244	235	226	230	245	224	235	247	232
小松島西	全 県		197	194	190	185	187	185	181	177	181	175	175	174	167
	地 域	205	200	189	201	186	204	197	189	192	205	187	197	207	194

高校名		H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	H35年度	H36年度	H37年度	H38年度	H39年度	H40年度	H41年度	H42年度	H43年度	H44年度	H45年度
	全 県		6,394	6,294	6,194	6,094	5,994	5,894	5,794	5,694	5,594	5,494	5,394	5,294	5,194	5,094
地 域		323	318	313	308	303	298	293	288	283	277	272	267	262	257	252
小松島	全 県		186	183	180	177	174	171	168	165	162	159	156	153	150	148
	地 域	200	197	194	191	187	184	181	178	175	171	168	165	162	159	156
小松島西	全 県		155	153	150	148	146	143	141	138	136	133	131	128	126	123
	地 域	167	165	162	159	157	154	152	149	147	143	141	138	136	133	130

(5) 勝浦郡

		H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
高 校 名	全 県	8,293	7,974	7,868	7,677	7,475	7,584	7,489	7,349	7,156	7,328	7,081	7,097	7,042	6,752
	地 域	71	80	82	69	61	55	59	53	59	48	70	57	55	49
勝 浦	全 県	60	57	57	55	54	55	54	53	52	53	51	51	51	49
	地 域		68	69	58	52	46	50	45	50	41	59	48	46	41

		H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	H35年度	H36年度	H37年度	H38年度	H39年度	H40年度	H41年度	H42年度	H43年度	H44年度	H45年度
高 校 名	全 県	6,394	6,294	6,194	6,094	5,994	5,894	5,794	5,694	5,594	5,494	5,394	5,294	5,194	5,094	4,994
	地 域	58	57	56	55	54	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45
勝 浦	全 県	46	45	45	44	43	42	42	41	40	40	39	38	38	37	36
	地 域	49	48	47	46	46	46	45	44	43	42	41	41	40	39	38

(6) 徳島市・名東郡

		H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
高 校 名	全 県	8,293	7,974	7,868	7,677	7,475	7,584	7,489	7,349	7,156	7,328	7,081	7,097	7,042	6,752
	地 域	2,834	2,757	2,786	2,585	2,524	2,621	2,576	2,506	2,452	2,513	2,361	2,462	2,357	2,356
城 東	全 県	360	346	341	333	324	329	325	319	310	318	307	308	306	293
	地 域		350	354	328	321	333	327	318	311	319	300	313	299	299
城 南	全 県	340	327	322	315	306	311	307	301	293	300	290	291	289	277
	地 域		331	334	310	303	314	309	301	294	301	283	295	283	283
城 北	全 県	340	327	322	315	306	311	307	301	293	300	290	291	289	277
	地 域		331	334	310	303	314	309	301	294	301	283	295	283	283
城 ノ 内	全 県	240	231	228	222	216	219	217	213	207	212	205	205	204	195
	地 域		233	236	219	214	222	218	212	208	213	200	208	200	200
徳 島 北	全 県	360	346	341	333	324	329	325	319	310	318	307	308	306	293
	地 域		350	354	328	321	333	327	318	311	319	300	313	299	299
徳 島 市 立	全 県	360	346	341	333	324	329	325	319	310	318	307	308	306	293
	地 域		350	354	328	321	333	327	318	311	319	300	313	299	299
徳 島 商 業	全 県	315	303	299	291	284	288	284	279	272	278	269	269	267	256
	地 域		306	310	287	281	291	286	279	273	279	262	274	262	262
城 西	全 県	170	163	161	157	153	155	153	150	147	150	145	145	144	138
	地 域		165	167	155	151	157	155	150	147	151	142	148	141	141
徳 島 工 業	全 県	170	163	161	157										
	地 域		165	167	155										
総 合 技 術 高 校	全 県	370				333	338	334	328	319	327	316	316	314	301
	地 域					330	342	336	327	320	328	308	321	308	308
徳 島 東 工 業	全 県	170	163	161	157										
	地 域		165	167	155										

(7) 板野郡 (松茂町 , 北島町 , 藍住町 , 板野町 , 上板町)

		H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
高 校 名	全 県	8,293	7,974	7,868	7,677	7,475	7,584	7,489	7,349	7,156	7,328	7,081	7,097	7,042	6,752
	地 域	1,032	941	893	925	900	935	935	917	944	979	976	988	1,011	1,017
板 野	全 県	215	206	204	199	194	197	194	190	185	190	183	184	182	175
	地 域		196	186	193	188	195	195	191	197	204	203	206	211	212

		H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	H35年度	H36年度	H37年度	H38年度	H39年度	H40年度	H41年度	H42年度	H43年度	H44年度	H45年度
高 校 名	全 県	6,394	6,294	6,194	6,094	5,994	5,894	5,794	5,694	5,594	5,494	5,394	5,294	5,194	5,094	4,994
	地 域	985	970	954	939	923	908	893	877	862	846	831	815	800	785	769
板 野	全 県	166	163	160	158	155	153	150	148	145	142	140	137	135	132	129
	地 域	205	202	199	196	192	189	186	183	180	176	173	170	167	164	160

(8) 鳴門市

高校名		H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		全 県	8,293	7,974	7,868	7,677	7,475	7,584	7,489	7,349	7,156	7,328	7,081	7,097	7,042
鳴 門	地 域	625	573	555	577	559	606	586	575	575	554	549	567	564	532
鳴 門	全 県	350	336	332	324	315	320	316	310	302	309	299	299	297	285
	地 域		321	311	323	313	339	328	322	322	310	307	318	316	298
鳴門第一	全 県	155	149	147	143	140	142	140	137	134	137	132	133	131	126
	地 域		142	138	143	139	150	145	143	143	137	136	141	140	132
鳴門工業	全 県	130	125	123	120	117	119	117	115	112	115	111	111	110	106
	地 域		119	115	120	116	126	122	120	120	115	114	118	117	111

高校名		H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	H35年度	H36年度	H37年度	H38年度	H39年度	H40年度	H41年度	H42年度	H43年度	H44年度	H45年度
		全 県	6,394	6,294	6,194	6,094	5,994	5,894	5,794	5,694	5,594	5,494	5,394	5,294	5,194	5,094
鳴 門	地 域	456	449	442	435	428	420	413	406	399	392	385	378	371	363	356
鳴 門	全 県	270	265	261	257	253	249	244	240	236	232	228	223	219	215	211
	地 域		255	251	248	244	240	235	231	227	223	220	216	212	207	203
鳴門第一	全 県	119	117	115	114	112	110	108	106	104	103	101	99	97	95	93
	地 域		113	111	110	108	106	104	102	101	99	97	95	94	92	90
鳴門工業	全 県	100	99	97	95	94	92	91	89	87	86	84	83	81	80	78
	地 域		95	93	92	90	89	87	86	84	83	82	80	79	77	76

(9) 名西郡

		H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
高 校 名	全 県	8,293	7,974	7,868	7,677	7,475	7,584	7,489	7,349	7,156	7,328	7,081	7,097	7,042	6,752
	地 域	292	307	272	326	294	278	270	290	274	280	276	286	295	222
名 西	全 県	200	192	190	185	180	183	181	177	172	177	171	171	170	163
	地 域		210	186	223	201	190	185	199	188	192	189	196	202	152
城 西 神 山 分 校	全 県	30	29	28	28	27	27	27	26	26	26	25	26	25	24
	地 域		32	28	33	30	29	28	30	28	29	28	29	30	23

		H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	H35年度	H36年度	H37年度	H38年度	H39年度	H40年度	H41年度	H42年度	H43年度	H44年度	H45年度
高 校 名	全 県	6,394	6,294	6,194	6,094	5,994	5,894	5,794	5,694	5,594	5,494	5,394	5,294	5,194	5,094	4,994
	地 域	223	219	216	212	209	206	202	199	195	192	188	185	181	177	174
名 西	全 県	154	152	149	147	144	142	140	137	135	132	130	128	125	123	120
	地 域	153	150	148	145	143	141	138	136	134	132	129	127	124	122	119
城 西 神 山 分 校	全 県	23	23	22	22	22	21	21	20	20	20	19	19	19	18	18
	地 域	23	23	22	22	21	21	21	20	20	20	19	19	19	18	18

(1 0) 板野郡 (吉野町 , 土成町) ・ 阿波郡

高 校 名		H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	全 県		8,293	7,974	7,868	7,677	7,475	7,584	7,489	7,349	7,156	7,328	7,081	7,097	7,042
地 域		404	390	397	397	385	364	355	360	348	369	356	347	326	309
阿 波	全 県	230	221	218	213	207	210	207	204	198	203	196	197	195	187
	地 域		222	226	226	219	207	202	205	198	210	203	198	186	176
阿 波 西	全 県	105	101	100	97	95	96	95	93	90	93	89	90	89	85
	地 域		101	103	103	100	95	92	94	90	96	93	90	85	80
阿 波 農 業	全 県	80	77	76	74	72	73	72	71	69	70	68	68	68	65
	地 域		77	79	79	76	72	70	71	69	73	70	69	65	61

高 校 名		H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	H35年度	H36年度	H37年度	H38年度	H39年度	H40年度	H41年度	H42年度	H43年度	H44年度	H45年度
	全 県		6,394	6,294	6,194	6,094	5,994	5,894	5,794	5,694	5,594	5,494	5,394	5,294	5,194	5,094
地 域		278	274	269	265	261	256	252	248	243	239	234	230	226	221	217
阿 波	全 県	177	174	172	169	166	163	161	158	155	152	150	147	144	141	138
	地 域		158	156	153	151	149	146	143	141	138	136	133	131	129	126
阿 波 西	全 県	81	80	78	77	76	74	73	72	71	70	68	67	66	64	63
	地 域		72	71	70	69	68	67	65	64	63	62	61	60	59	57
阿 波 農 業	全 県	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48
	地 域		55	54	53	52	52	51	50	49	48	47	46	46	45	44

(1 1) 吉野川市

		H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
高 校 名	全 県	8,293	7,974	7,868	7,677	7,475	7,584	7,489	7,349	7,156	7,328	7,081	7,097	7,042	6,752
	地 域	441	473	441	449	388	401	407	382	365	386	346	350	372	330
川 島	全 県	195	187	185	180	176	178	176	173	168	172	166	167	165	159
	地 域		209	195	199	172	177	180	169	161	171	153	155	164	146
鴨島商業	全 県	110	106	104	102	99	100	99	97	95	97	94	94	93	89
	地 域		118	110	112	97	100	102	95	91	96	86	87	93	82

郡 市 名		H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	H35年度	H36年度	H37年度	H38年度	H39年度	H40年度	H41年度	H42年度	H43年度	H44年度	H45年度
高 校 名	全 県	6,394	6,294	6,194	6,094	5,994	5,894	5,794	5,694	5,594	5,494	5,394	5,294	5,194	5,094	4,994
	地 域	329	324	319	313	308	303	298	293	288	283	278	272	267	262	257
川 島	全 県	150	148	145	143	141	138	136	134	131	129	127	124	122	120	117
	地 域	145	143	141	138	136	134	132	130	127	125	123	120	118	116	114
鴨島商業	全 県	85	83	82	81	79	78	77	75	74	73	72	70	69	68	66
	地 域	82	81	80	78	77	76	74	73	72	71	69	68	67	65	64

(1 2) 美馬郡

高 校 名		H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	全 県	8,293	7,974	7,868	7,677	7,475	7,584	7,489	7,349	7,156	7,328	7,081	7,097	7,042	6,752
地 域	450	429	456	388	441	375	379	384	344	345	334	336	313	328	
脇 町	全 県	230	221	218	213	207	210	207	204	198	203	196	197	195	187
	地 域		219	233	198	225	192	194	196	176	176	171	172	160	168
穴 吹	全 県	145	139	137	134	131	132	131	128	125	128	124	124	123	118
	地 域		138	147	125	142	121	122	124	111	111	108	108	101	106
貞光工業	全 県	160	154	152	148	144	146	144	142	138	141	136	137	136	130
	地 域		153	162	138	157	133	135	137	122	123	119	119	111	117
美馬商業	全 県	70	67	66	65	63	64	63	62	60	62	60	60	59	57
	地 域		67	71	60	69	58	59	60	54	54	52	52	49	51

高 校 名		H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	H35年度	H36年度	H37年度	H38年度	H39年度	H40年度	H41年度	H42年度	H43年度	H44年度	H45年度
	全 県	6,394	6,294	6,194	6,094	5,994	5,894	5,794	5,694	5,594	5,494	5,394	5,294	5,194	5,094	4,994
地 域	321	316	311	306	301	296	291	286	281	276	271	266	261	256	251	
脇 町	全 県	177	174	172	169	166	163	161	158	155	152	150	147	144	141	138
	地 域		164	162	159	156	154	151	149	146	144	141	139	136	133	131
穴 吹	全 県	112	110	108	106	105	103	101	99	98	96	94	92	91	89	87
	地 域		103	102	100	99	97	95	94	92	91	89	87	86	84	82
貞光工業	全 県	123	121	119	117	115	114	112	110	108	106	104	102	100	98	96
	地 域		114	112	111	109	107	105	103	102	100	98	96	95	93	91
美馬商業	全 県	54	53	52	51	50	50	49	48	47	46	45	45	44	43	42
	地 域		50	49	48	48	47	46	45	44	44	43	42	41	41	40

(1 3) 三好郡

高校名		H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		全 県	8,293	7,974	7,868	7,677	7,475	7,584	7,489	7,349	7,156	7,328	7,081	7,097	7,042
池 田	地 域	593	523	519	472	496	436	477	456	411	435	399	354	349	312
	全 県	235	226	223	217	212	215	212	208	203	208	201	201	199	191
地 域	207		206	187	197	173	189	181	163	172	158	140	138	124	
辻	全 県	170	163	161	157	153	155	153	150	147	150	145	145	144	138
	地 域		150	149	135	142	125	137	131	118	125	114	101	100	89
三 好	全 県	90	86	85	83	81	82	81	80	78	79	77	77	76	73
	地 域		79	79	72	75	66	72	69	62	66	61	54	53	47

高校名		H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	H35年度	H36年度	H37年度	H38年度	H39年度	H40年度	H41年度	H42年度	H43年度	H44年度	H45年度
		全 県	6,394	6,294	6,194	6,094	5,994	5,894	5,794	5,694	5,594	5,494	5,394	5,294	5,194	5,094
池 田	地 域	307	302	297	293	288	283	278	273	269	264	259	254	249	245	240
	全 県	181	178	175	173	170	167	164	161	158	156	153	150	147	144	141
地 域	122		120	118	116	114	112	110	108	107	105	103	101	99	97	95
辻	全 県	131	129	127	125	123	121	119	117	115	112	110	108	106	104	102
	地 域		88	87	85	84	83	81	80	78	77	76	74	73	71	70
三 好	全 県	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	58	57	56	55	54
	地 域		47	46	45	44	44	43	42	41	41	40	39	39	38	37

(2) 高校の統合基準と適正規模

適正規模・適正配置・統合基準

(1) 適正規模

多様な教育の展開や，学校行事，部活動など高校としての良好な教育条件を確保し，各学校が活力ある教育活動を展開するためには，一定の学校規模が必要となる。

このことを踏まえ，本校としての適正規模を1学年4学級から8学級(1学級40名)とし，その最低規模は定員が240名を下らないものとする。

(2) 適正配置

高校の配置については，統合による学校規模の適正化を図りながら，今後の中学校卒業生数の動向，地理的条件や交通事情，さらには学科の適正配置の観点を持ちつつ，適切に高校を配置する。

(3) 統合基準

本校の入学者が1学年80名を2年連続して維持できない場合は，統合を検討する。

また，統合に伴い地域から高校がなくなり，通学距離，通学時間などからみて，他の高校に通学することが著しく困難な生徒が多数生じるなどの場合には，生徒の進学希望や高校に対する地元の支援等を前提に，一定期間分校として維持する。

分校については，入学者が1学年30名を2年連続して維持できなく，その後も生徒数の増加が見込めない場合は，原則として翌年から募集を停止する。

(4) 統合基準の適用例

海部郡内の日和佐高校及び穴喰商業高校において，小規模化が著しく2年連続して入学者が80名を下回ったため，小規模化している海南高校と統合再編し，平成16年度の入学生より，新たに3学科を持つ海部高校を開校した。

統合基準と関連する法令

公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律

第4条

都道府県は、高等学校の教育の普及及び機会均等を図るため、その区域内の公立の高等学校の配置及び規模の適正化に努めなければならない。(以下省略)

第5条

公立の高等学校における学校規模は、その生徒の収容定員が、本校又は分校の別に従い、本校にあつては240人、分校にあつては政令で定める数を下らないものとする。(以下省略)

公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律施行令

第1条

公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律第5条本文の政令で定める生徒の収容定員数は、次の表の左欄に掲げる分校の区分に応じ、それぞれ同表の右欄に掲げる数とする。

分校の区分	生徒の収容定員の数
すべての学年の生徒を収容する分校	100人

小規模化による影響

学校の教員数は、法律（公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律等）に示す基準をもとに、生徒数を基本として定められている。

そこで、小規模化が進むと、専門の科目に分かれる理科や地理歴史科・公民科において、地学などのように開設されない科目ができるなど、多様な教育課程の展開に支障をきたす可能性がある。

また、一人の教員が分野の異なる科目を担当することになり、専門科目と異なる科目を教えることがあり、芸術などでは、常勤の教員ではなく非常勤の教員が配置されることがある。

小規模化が進むと、在校生が少なくなることから、部活動の種類が限られてくるため、一人ひとりの生徒が、本当に興味や関心を持つ部活動の選択ができない可能性がある。

また、体育部や文化部など個々の部活動において、活力ある活動を展開できなくなる可能性がある。

小規模化が進むと、学校に家庭的な雰囲気生まれる一方、生徒同士が切磋琢磨する機会や多くの友人、教職員とめぐり会う機会が少なくなり、学校行事、生徒会活動等の高校生活において、活気が失われる可能性がある。

(3) 生徒の進学希望と適正配置

進学希望（仮倍率）と地域性

年度は、入学年度

	仮倍率(平均)	地域性
	平成16・17年度	平成16年度
海 部	0.82	93%
水 産	0.34	25%
富岡西	1.47	75%
富岡東	1.35	73%
阿南工業	0.94	66%
新 野	0.60	90%
富岡東羽ノ浦(分)	1.74	35%
那 賀	0.67	71%
小松島	0.65	56%
小松島西	1.18	30%
勝 浦	0.37	26%
城 東	1.80	86%
城 南	1.14	92%
城 北	1.18	83%
城ノ内	0.85	59%
徳島北	1.34	20%
徳島市立	1.13	90%
徳島商業	1.24	69%
城 西	0.74	81%
徳島工業	1.10	72%
徳島東工業	1.44	66%
板 野	1.04	93%
鳴 門	1.07	80%
鳴門第一	0.75	55%
鳴門工業	0.64	50%
名 西	0.73	48%
城西神山(分)	0.58	40%
阿 波	1.23	47%
阿波西	0.69	89%
阿波農業	0.85	43%
川 島	0.88	59%
鴨島商業	0.84	53%
脇 町	1.29	61%
穴 吹	0.58	80%
美馬商業	0.77	90%
貞光工業	1.15	42%
池 田	1.12	87%
辻	1.07	89%
三 好	0.77	97%

仮倍率 : 6月30日実施進学希望調査より

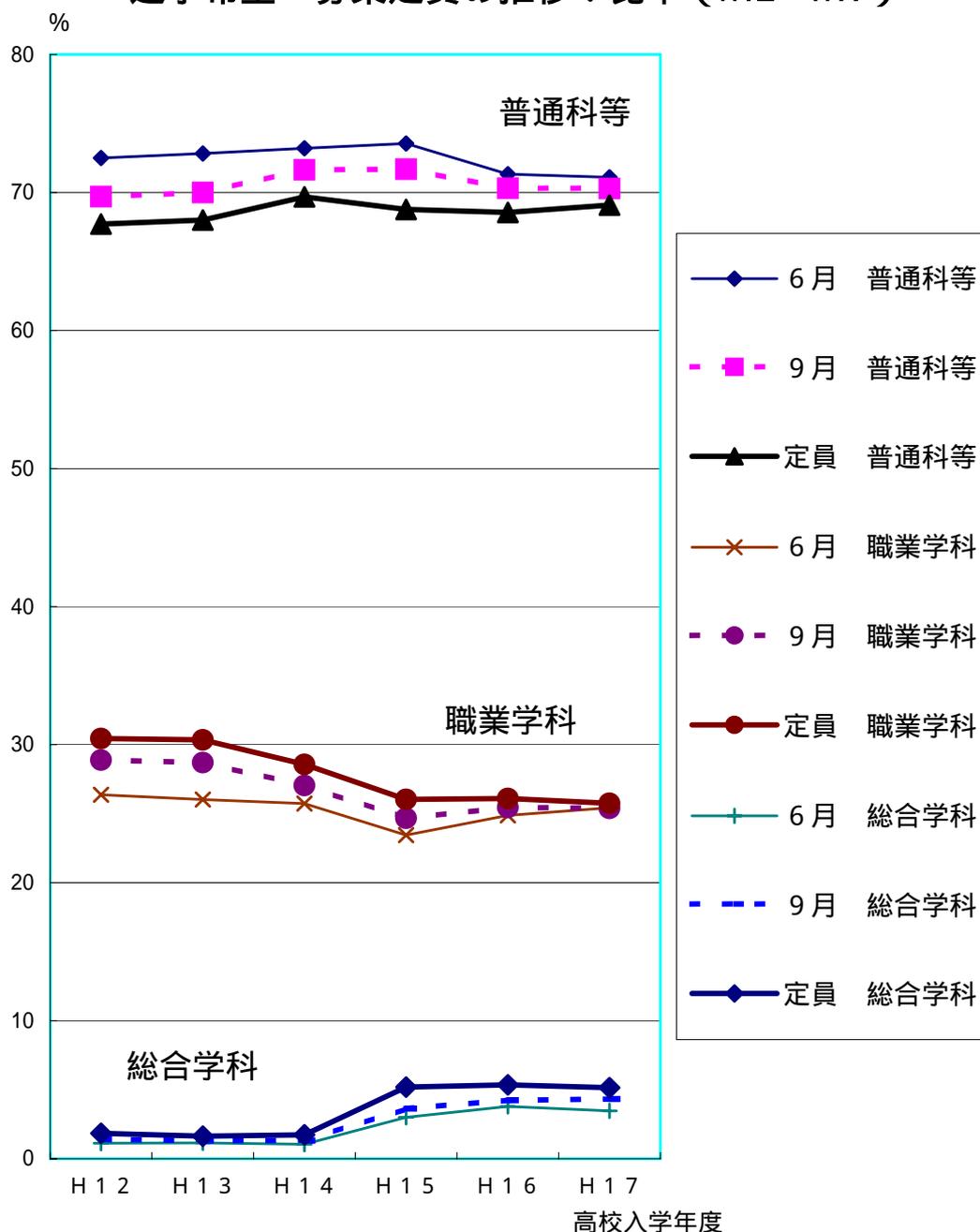
地域性 : 郡市単位の地元進学割合

進学希望・募集定員の推移:比率

入学年度

	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度
6月 普通科等	72.5%	72.8%	73.2%	73.6%	71.3%	71.1%
9月 普通科等	69.7%	70.0%	71.6%	71.7%	70.3%	70.3%
定員 普通科等	67.7%	68.0%	69.7%	68.8%	68.6%	69.1%
6月 職業学科	26.4%	26.0%	25.7%	23.4%	24.9%	25.4%
9月 職業学科	28.9%	28.7%	27.0%	24.7%	25.4%	25.4%
定員 職業学科	30.4%	30.4%	28.6%	26.0%	26.1%	25.8%
6月 総合学科	1.1%	1.1%	1.1%	3.0%	3.8%	3.5%
9月 総合学科	1.4%	1.3%	1.3%	3.6%	4.2%	4.3%
定員 総合学科	1.8%	1.6%	1.7%	5.2%	5.3%	5.2%

進学希望・募集定員の推移：比率（H12～H17）



進学動向

平成16年度：入学生の出身市町村別人数

番号	学校名	城東	城南	城北	城ノ内	徳島北	徳島市立	城西	徳島工	東工業	徳島商	鳴門	鳴門第一	鳴門工	板野	小松島	小松島西	勝浦	宮東羽浦	阿南工	宮岡東	宮岡西	新野	那賀	水産	海部	名西	城西神山	鴨島商	川島	阿波	阿波農	阿波西	穴吹	脇町	貞光工	美馬商	辻	池田	三好			
	地域性	86%	92%	83%	59%	20%	90%	81%	72%	66%	69%	80%	55%	50%	93%	56%	30%	26%	35%	66%	73%	75%	90%	71%	25%	93%	48%	40%	53%	59%	47%	43%	89%	80%	61%	42%	90%	89%	87%	97%			
1	徳島市	293	313	284	114	74	276	145	128	118	229	7	14	18	2	25	89	24	6	4	2	2	2		3	1	52	10	6	8	1	2		6	1				2				
2	鳴門市	5	3	6	27	19	3	2	1	11	14	288	96	72	14		2	1	1		1					1																	
3	小松島市	7	10	1	8		4		1	5	10	1			156	67	19	3	27	22	41	2	3	3																1			
4	阿南市				1			1			2			2	36	22		7	75	129	142	87	8	11	2	1																	
5	勝浦町	1	1							1	2			1	15	5	16	1	1	2	6																						
6	上勝町				3	1				1	1				1	3	1					2																					
7	佐那河内村	1	13		1			1	1		5					2												2															
8	石井町	11	2	18	22	2	4	9	3	10	15	1									2				1	2	95	6	16	5	10	1		3		2				1			
9	神山町	1	7	9	7	3	1	5	5	6						1											11	6															
10	那賀川町						1								16	9	1	1	7	24	31	10	1	3																			
11	羽ノ浦町						1			3					24	5	3	6	14	36	38	2	5	1																			
12	鷺敷町										1								2	7	1		16																				
13	相生町														1	6			5	5	2		19																				
14	上那賀町							1										1	1	1	2		5																				
15	木沢村																		1	1			4																				
16	木頭村								1						1	4								13																			
17	由岐町		1																2	10	5	5	1	2																			
18	日和佐町								1	1					5			1	4	10	5	2	2																				
19	牟岐町																	2	2	2	1					4	43																
20	海南町		1											1					2	2	1					1	51	1															
21	海部町								1											2						1	30																
22	穴喰町																			1	1					2	34																
23	松茂町	10			4	37	12		8	7	9	18	18	13										1					1														
24	北島町	9	1	3	4	106	2	2	8	2	12	21	27	7	8				2							1																	
25	藍住町	5		20	6	142		5	10	2	10	8	17	8	108				2							4	1	2	1	1	9				1	1							
26	板野町	2			5	3	4		3		10	12	2	5	55												2																
27	上板町	1			5	2		1	2	4	5	1	1	1	42							1					9		5		42	13											
28	吉野町						5								1			1									5		9	7	49	9	1				3						
29	土成町				2									1		1											2	1	11	6	36	15	3		1	6			2				
30	市場町													1													3		1	15	18	3	39		7	9	1						
31	阿波町		1					1		3									1								2	2	2	12	10	7	55	2	27	7							
32	吉野川市	4		1	4	3	3	4	5	7	6			1		1		1									26	4	64	127	64	10	12	11	38	30		1					
33	脇町																		3								2		1	19		1		69	65	22	15	4	5				
34	美馬町																										1								13	27	21	29	5	9			
35	半田町																												2					7	11	8	13	3	3				
36	貞光町																										1								9	14	14	7					
37	一字村																																	2	4	1	1						
38	穴吹町																												1	9	1			31	26	8	6						
39	木屋平村							1		1						1		1												2				1				1				1	
40	三野町																																		5	4	4	12	21	9			
41	三好町																																		5	2	23	26	16				
42	池田町																																	2	5	12		30	66	29			
43	山城町																																				10		12	12	13		
44	井川町																																	4	4			19	12	4			
45	三加茂町													1							1						1							4	4	7		36	44	8			
46	東祖谷山村				1						1	1				1												1						1	1		1	1	1	9	6		

(4) 地理的条件と地域バランス

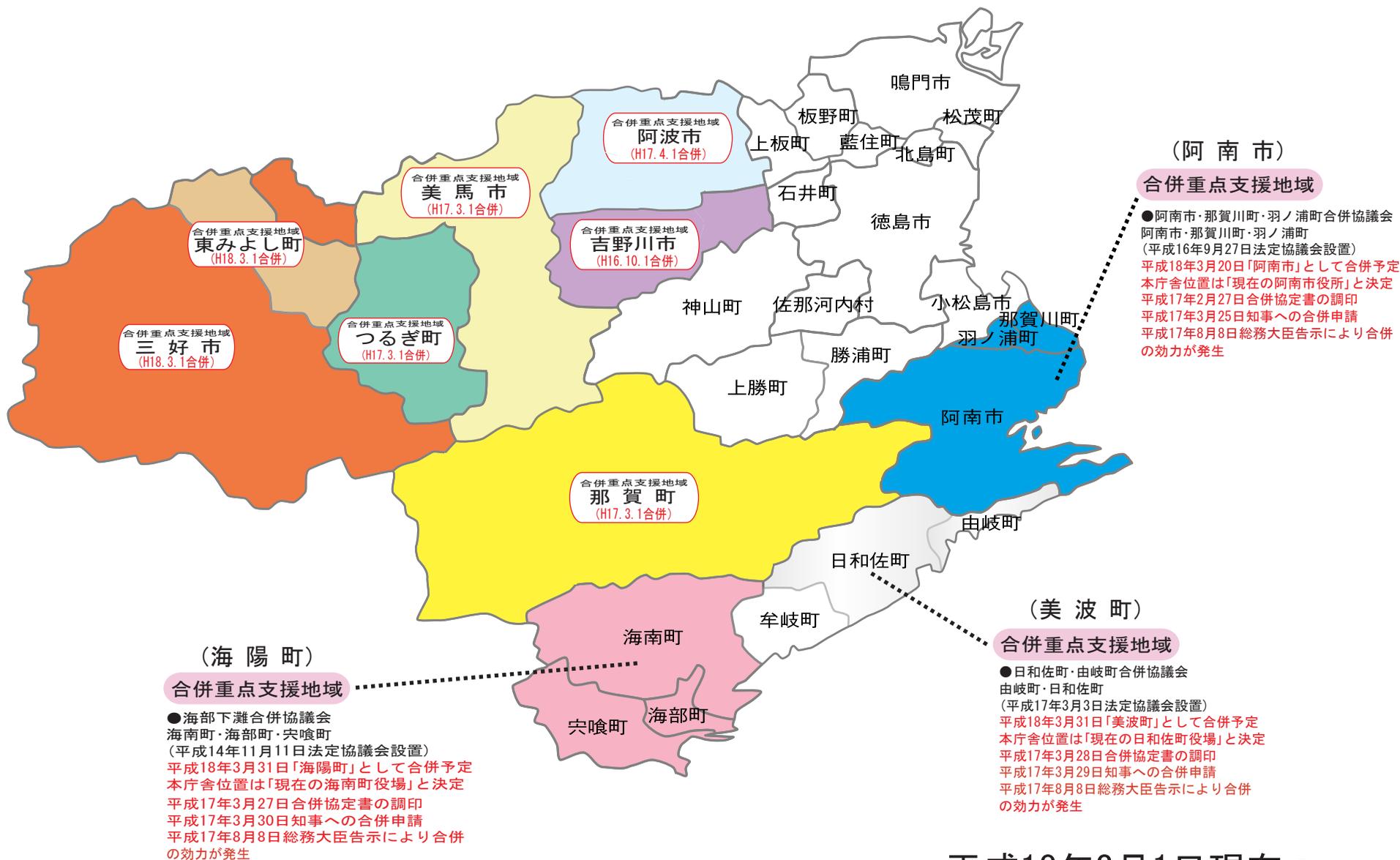
人口・世帯数・面積・人口密度

	人 口	世 帯 数	面 積	人 口 密 度
	人	世帯	km ²	人 / km ²
県 計	816,070	299,808	4,145.48	196.86
(1) 海 部 郡	26,244	10,587	525.00	49.99
由 岐 町	3,315	1,348	23.16	143.13
日 和 佐 町	5,579	2,090	117.69	47.40
牟 岐 町	5,446	2,293	56.57	96.27
海 南 町	6,017	2,448	209.22	28.76
海 部 町	2,378	1,008	26.36	90.21
穴 喰 町	3,509	1,400	92.00	38.14
(2) 阿 南 市・那 賀 川 町・羽 ノ 浦 町	78,347	26,319	279.39	280.42
阿 南 市	55,532	18,592	252.22	220.17
那 賀 川 町	10,644	3,560	18.65	570.72
羽 ノ 浦 町	12,171	4,167	8.52	1,428.52
(3) 那 賀 町	11,188	4,209	694.86	16.10
(4) 小 松 島 市	42,380	14,934	45.11	939.48
(5) 勝 浦 郡	8,481	2,732	179.48	47.25
勝 浦 町	6,459	1,939	69.80	92.54
上 勝 町	2,022	793	109.68	18.44
(6) 徳 島 東 市 郡	270,386	109,908	233.69	1,157.03
徳 島 東 市	267,559	109,071	191.39	1,397.98
佐 那 河 内 村	2,827	837	42.30	66.83
(7) 板 野 郡	95,002	32,653	108.83	872.94
松 茂 町	14,909	5,290	13.10	1,138.09
北 島 町	20,463	7,385	8.77	2,333.30
藍 住 町	31,814	10,991	16.27	1,955.38
板 野 町	14,630	4,822	36.18	404.37
上 板 町	13,186	4,165	34.51	382.09
(8) 鳴 門 市	63,969	22,760	135.45	472.27
(9) 名 西 郡	33,409	11,166	202.14	165.28
石 井 町	26,325	8,577	28.83	913.11
神 山 町	7,084	2,589	173.31	40.87
(10) 吉 野 川 市	46,091	15,778	144.19	319.65
(11) 阿 波 市	41,490	13,125	190.97	217.26
(12) 美 馬 市 づ る ぎ 町	47,975	16,917	562.18	85.34
美 馬 市	35,664	12,197	367.38	97.08
づ る ぎ 町	12,311	4,720	194.80	63.20
(13) 三 好 郡	51,108	18,720	844.19	60.54
三 野 町	5,192	1,724	43.04	120.63
三 好 町	6,034	2,023	54.84	110.03
池 田 町	16,044	6,153	167.80	95.61
山 城 町	5,101	1,940	131.59	38.76
井 川 町	4,940	1,734	44.50	111.01
三 加 茂 町	9,924	3,385	67.74	146.50
東 祖 谷 山 村	2,058	972	228.62	9.00
西 祖 谷 山 村	1,815	789	106.06	17.11

人口、世帯数(H16.7.1 県統計調査課「人口移動調査」)

面積(H16.10.1 国土地理院)

県内の市町村合併の状況



平成18年3月1日現在

(5) 魅力ある学校づくり

総合技術高校

1 統合再編の流れと今後のスケジュール

年 度	項 目
H 1 3	・ 高校教育改革推進本部会議，推進委員会設置 「徳島県高校教育改革推進計画」を策定
H 1 4	・ 総合技術高校（仮称）整備検討委員会設置 「総合技術高校のあり方について」報告書提出
H 1 5	・ 総合技術高校（仮称）整備推進作業部会設置 教育課程の編成，施設整備の検討
H 1 6	・ 総合技術高校（仮称）基本計画検討会，作業部会設置 基本計画書の作成
H 1 7・1 8	・ 基本設計，実施設計
H 1 9～2 1	・ 校舎建築
H 2 1	・ 総合技術高校（仮称）開校予定

2 各高校の現状

項 目 / 学校名	徳島工業高校	徳島東工業高校	水産高校
創立年	明治37年 (1901年)	昭和12年 (1938年)	昭和11年 (1936年)
校舎建築平均年数	34年	34年	28年
設置学科	2類6コース ・ 工業 類 工業デザインコース *1 建築コース 土木工学コース ・ 工業 類 機械コース *2 電子機械コース *3 電気応用システムコース *4	6学科 ・ インテリア科 *1 ・ 機械科 *2 ・ 電子機械科 *3 ・ 電気科 *4 ・ 電子科 ・ 情報技術科	3学科 ・ 海洋生産科 ・ 海洋工学科 ・ 水産食品科 〔専攻科〕 漁業科 通信技術科 機関科
生徒数	510名	515名	91名 (専攻科10名)
募集定員	170名	170名	30名
6月希望仮倍率	1.10倍	1.44倍	0.34倍
所在地	徳島市北矢三町	徳島市大和町	海部郡日和佐町
校 地 面 積	29,192 m ² 第2グラウンド 52,656 m ²	28,417 m ²	34,846 m ²

*1～*4：類似の教育内容を展開するコース・学科

3 新高校の概要

1 設置のねらい

総合技術高校は、徳島工業高校、徳島東工業高校及び水産高校の3高校を発展的に統合し、国際化、情報化などの様々な社会の変化や科学技術の高度化に対応できる人材を育成するため総合型専門高校として設置する。

2 設置場所

徳島県立徳島工業高校敷地

3 設置予定規模

(1) 全日制課程

工業科	9学級程度
水産科	2学級

(2) 定時制課程（夜間部）

工業科

4 教育の基本方針

(1) 多様な生徒，学習ニーズに対応する教育

類・コース制，転科制度の導入
大学進学コースの設置
総合選択制の導入

(2) 工業科，水産科の併設を活かした教育

学科を越えた学習の展開
施設，設備の共用

(3) 産業社会の変化に対応する教育

企業，研究機関等との連携
インターンシップの充実
問題解決型学習の充実

(4) 地域に開かれた学校づくりを推進する教育

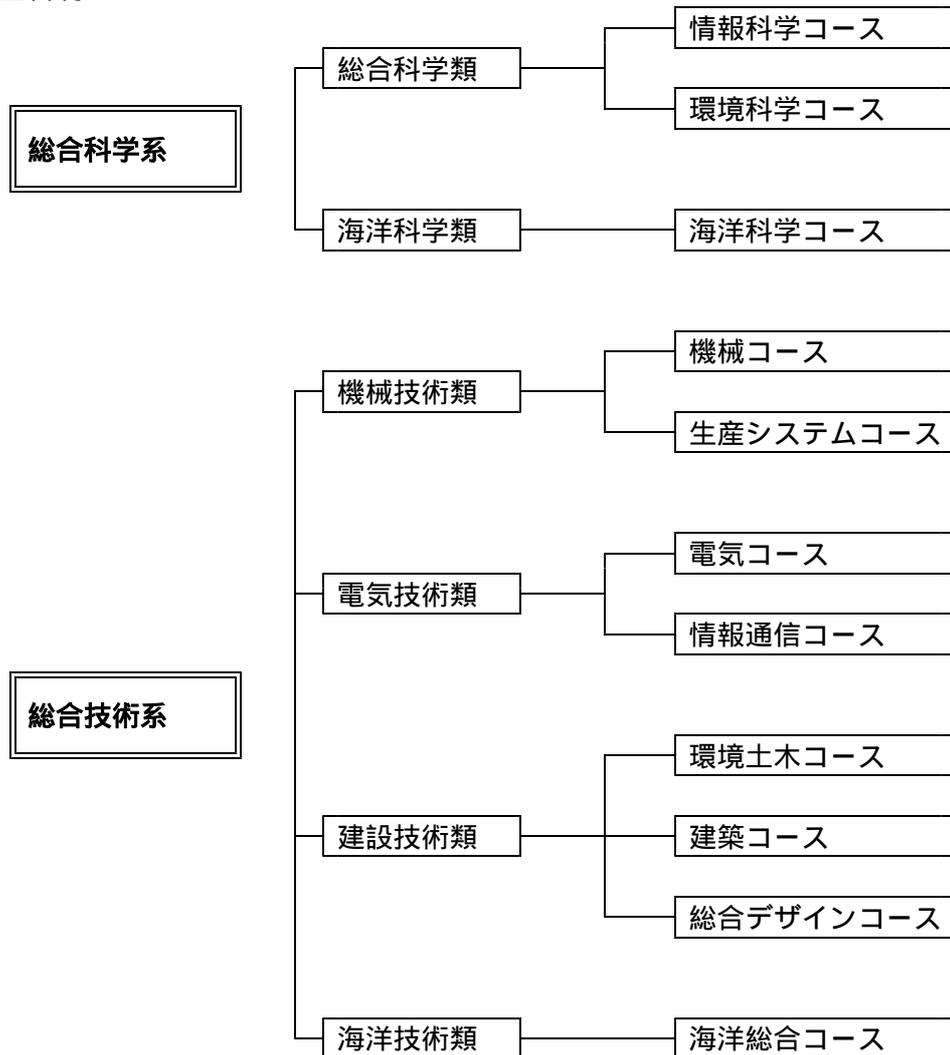
ものづくり教室の開設
地域人材の活用

(5) 拠点校として機能する専門教育

幅広い専門教育の展開
教員研修機会の拡充
活躍の機会の拡大

5 学科編成(案)

全日制



定時制

工業科

全国における総合産業型高校への再編の事例

県名	学校名	設置学科 学級数	実施年度	新学校名, 学科, 学級数等
鳥取	鳥取西工業	工業科	H 1 3	鳥取湖陵高校 工業科 情報科 家庭科 農業科 鳥取西工業高校に設置
	鳥取農業	農業科		
	鳥取西	家庭科		
福岡	田川工業	工業科	H 1 7	田川科学技術高校 工業科 農業科 商業科 田川工業高校に設置
	田川農林	農業科		
	田川商業	商業科		
奈良	奈良工業	工業科	H 1 9	奈良朱雀高校 工業科 商業系 奈良商業高校に設置
	奈良商業	商業科		
香川	多度津工業	工業科	H 1 9	多度津水産高校を廃校とし, 多度津工業に水産科 を併設
	多度津水産	水産科		

再編による学校づくりの考え方

1 新しい教育の展開による学校づくり

本県では、農業科、工業科、商業科などの専門高校を中心に小規模化している状況がある。こうした専門高校の多くは、単独の学科を持つ学校であり、統合再編により複数の学科を併設することで、学科の連携を活かした総合選択制が可能となる。

総合選択制は、学科の枠を越えて科目選択を行うもので、これまでの学科の教育のうえに、興味・関心に応じて、他の専門分野の学習も提供できることになり、生徒の多様な学習ニーズに応えられることになる。

総合選択制の積極的な展開を図ることにより、例えば、生産から流通、消費までを一体として学び、一つの専門分野にとらわれない総合的な知識や技能を持った人材の育成が可能になる。

また、専門学科と総合学科あるいは職業教育を展開する普通科を併設する場合においても、それぞれの学科の教育を活かしながら、異なった専門分野の学習が可能になる。

一方、地域の実情により、専門学科と普通科を併設せざるを得ない場合については、専門学科どうしの併設等に比べ、新たな教育の展開は少ないが、総合選択制により次の教育が可能になる。

専門学科においては、進路目的に応じて幅広く開設された普通科目の中から選択履修を可能にするとともに、普通科においては、体験的・実践的な専門学科の学習を通して職業観を育成することが可能になる。

こうした統合再編の中で、統合前のそれぞれの学校や学科が培ってきた教育システムを活かすとともに、新しい教育システムを構築することなどにより、魅力ある学校づくりを行うことができる。

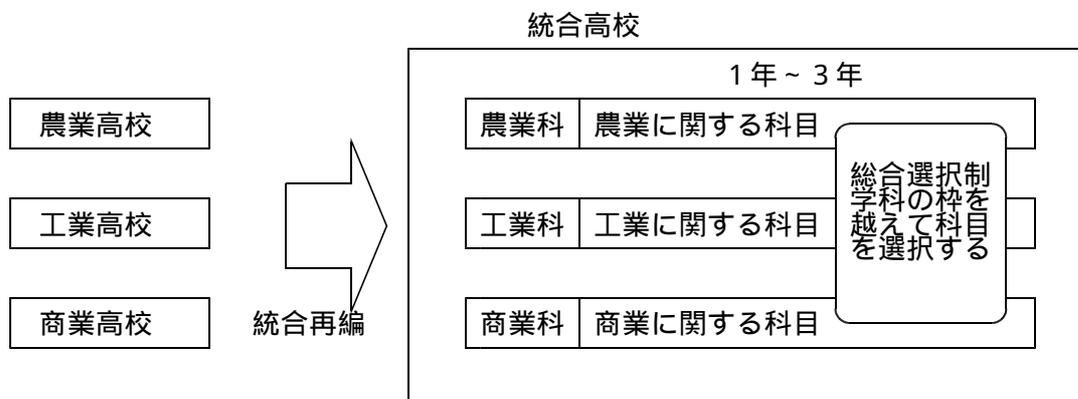
2 学校規模の適正化による学校づくり

統合再編により、学校規模の適正化を通して生徒にとって魅力ある教育環境を整え、学校の活性化を図ることが可能になる。

また、学校規模が拡大することによって、多様な開設科目の中から進路や適性に応じた選択履修が可能になることや、部活動の選択肢が多くなることなどから、生徒が主体的・意欲的に活動できる環境が提供できることになり、より充実した高校生活を可能とする学校づくりを行うことができる。

総合選択制の概念図

例 農業高校、工業高校、商業高校3高校を統合する場合



海部高校

1 所在地	海部郡海南町大里字古畑 5 8 - 2										
	海部高等学校は、海南高等学校の設置場所で開校し、両校の生徒が同一の校舎を用いて教育活動を行っている。										
2 地理的条件 アクセス等	徳島市から南へ約 8 0 km，高知県境へ約 1 0 km の自然環境に恵まれた海南町に所在する。J R の阿波海南駅から徒歩 8 分の距離にあり，路線バスもある。隣接する高知県との交流も古く，東洋町出身の生徒も在学している。										
3 沿革	平成 1 6 年 4 月 高校再編により，日和佐高等学校，海南高等学校，穴喰商業高等学校の生徒募集を停止し，徳島県立海部高等学校を開校										
4 施設 校地面積等	校地面積 4 1 , 0 7 6 m ²										
	現行の校舎，体育館等に加え，海部高等学校開校による生徒数増に伴い，平成 1 6 年度に商業科の実習室を含む新校舎，平成 1 7 年度に小体育館等が整備された。										
5 教職員体制	教 員							事務職員			合計
	校長	教頭	教諭	養護 教諭	実習 助手	講師 ほか	小計	事務 職員	その 他	臨時 職員	
	1	2	3 0	1	1	7	4 2	3	1	2	4 8
	教職員については，海部高等学校，海南高等学校両校の兼務となっている。										

<p>6 教育方針</p>	<p>一人ひとりの人権を尊重し，豊かな心と確かな学力を持ち，社会の変化に主体的に対応できる実践力のある調和のとれた人間を育成します。</p> <p>絆 心のふれあいを大切にして，豊かな人間性を育てます。</p> <p>学 多様な個性と能力を伸ばし，生きる力を育みます。</p> <p>夢 夢を持ち，自己実現に向けて努力する人間を育てます。</p>		
<p>海部高等学校は，絆 学 夢 を基本的なコンセプトとしている。学校としての統一を図るために，両校の学校経営基本方針及び重点目標は同じものとしている。</p>			
<p>7 学科等</p>	<p>普通科</p>	<p>自然科学 コース</p>	<p>自然科学への興味や関心を高め，科学的思考力を育てるため理科や数学を中心に学習する。理系の大学，短大，専門学校等への進学指導を行う。</p>
		<p>人文社会 コース</p>	<p>人文社会への興味や関心を高め，国際感覚を育てるため国語や英語を中心に学習する。文系の大学，短大，専門学校等への進学指導を行う。</p>
<p>情報ビジネス科</p>		<p>情報社会に対応したビジネスの理解力と実践力を身に付けるため，ビジネス情報を中心に専門的な知識や技術を習得する。さらに，各種の資格取得や検定合格を目指した学習をすることにより，進学，就職のいずれにも対応した進路指導を行う。</p>	
<p>数理科学科</p>		<p>自然科学に早い段階から興味や関心を持つ生徒を，21世紀を担う高度技術者や研究者等として活躍する人材に育成する。特に，実験・実習を大切にし，自ら問題を発見し，解決していく能力を養成する。</p> <p>また，理科3科目履修に対応した教育課程を編成し，四年制大学理系学部への進学指導を行う。</p>	
<p>【特色ある教育活動】</p> <p>3学科（普通科，情報ビジネス科，数理科学科）を設置し，選択幅の拡大を図るとともに，習熟度別学習を実施している。</p> <p>学科の枠を越えて単位取得ができる総合選択制を採用している。</p> <p>学科間で弾力的な転科制度を導入している。</p> <p>中学校から高等学校への学習面の接続をスムーズに図るため，基礎・基本を重視した「フォローアッププログラム」を実施している。</p>			

8 生徒数			1年	2年	3年	計		
	普通科	男	64	52	41	157		
		女	46	69	37	152		
	情報 ビジネス科	男	15	15		30		
		女	15	14		29		
	数理科学科	男	10	15		25		
		女	20	20		40		
計		170	185	78	433			
<p>平成16年度より海部高等学校として生徒募集をしている。</p> <p>平成15年度の海南高等学校の3学年の募集定員数の合計が、240名であったものが、平成16年度には、海南・海部高等学校として一挙に350名となり、110名増加している。海部高等学校として3学年が揃う平成18年度には、500名を超える生徒数が予想される。</p>								
9 部活動 (平16年度)	部活動名	海部高	海南高	計	部活動名	海部高	海南高	計
	野球部	20	15	35	書道部	2	2	4
	バスケ	18	15	33	パソコン部	5	0	5
	バレー女	3	12	15	茶道部	4	3	7
	ソフトテニス	0	6	6	科学部	0	2	2
	硬式テニス	23	0	23	写真部	5	15	20
	剣道部	7	7	14	文芸演劇	3	1	4
	サッカー部	18	10	28	郷土芸能	3	11	14
	陸上部	4	4	8	JRC	6	11	17
	卓球部	9	0	9	家庭科研	0	2	2
	美術部	8	8	16	社会問題	0	4	4
	音楽部	8	14	22				
	<p>体育系部活動 9部</p> <p>文化系部活動 12部 計 21部</p> <p>平成16年度の海部高等学校の開校に伴い、女子バスケットボール部男女硬式テニス部、男女卓球部、書道部、パソコン部などの新しい部活動を開設した。</p>							

10 進学・就職 状況	【参考】 海南高等学校 (平成15年度卒業生)						
		卒業生数	進 学			就 職	
		四年生大学	短期大学	各種・専修学校等	県内	県外	自営等
男	38	21	3	6	1	1	6
女	42	9	12	15	1	3	2
計	80	30	15	21	2	4	8
	比率(%)	82%			8%		10%
	海南高等学校は、大学・短大・各種専修学校等への進学者が8割以上で就職が1割程度の進学校で、平成15年度には、13名が国公立大学に、24名が私立大学に合格している。						
11 現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> 海部高等学校は、小規模化が著しい海南高等学校、日和佐高等学校、穴喰商業高等学校を統合し、本年度開校した高等学校であり、平成21年度には、水産高等学校が総合技術高校に統合されるため、海部郡唯一の高校となる。 統合により生徒数・教員数が増加し、3学科設置により多様な教育活動を展開するとともに、部活動数も増え、学校全体が活性化している。 当面の課題としては、海南高等学校、海部高等学校両校の生徒が、学習面や部活動で支障が生じないように学校運営上での配慮が必要である。 将来の課題としては、郡内唯一の高等学校となるため、地域から多様な生徒が入学してくることになる。そのため、生徒一人ひとりの能力や適性、進路希望に対応した教育環境の整備に努めるとともに地域に根ざした学校づくりを行う必要がある。 						

海南海部高等学校：アンケート集計結果（平成17年1月調査）

海南・海部高校は平成16年4月から、海南高校生だけの学校から海南高校生と海部高校生がともに学ぶ学校となり、生徒数が増え学校規模が大きくなりました。

一般的に、学校規模が大きくなることに伴い、次のようなメリットがあると言われております。

- ・生徒数が増えることにより、学校生活全体に活気が出てくる。
- ・各教科の先生が増え、色々なことを学ぶことができるようになる。
- ・部活動数が増えるとともに、各部の部員数も増え、部活動全体が活性化する。
- ・学園祭や球技大会など、学校全体での学校行事が充実する。

このようなことについて、次の問いにお答え下さい。

問1．生徒数が増えることで、学校生活全体に活気がでる。

	あてはまる	ややあてはまる	あてはまらない	分からない
1年生	35.6%	45.4%	4.6%	14.4%
2．3年生	19.5%	42.9%	24.0%	13.6%
合計	28.0%	44.2%	13.7%	14.0%

教職員	43.5%	43.5%	0.0%	13.0%
-----	-------	-------	------	-------

問2．生徒用：各教科の先生が増え、色々なことを学ぶことができるようになる。

教職員用：各教科の先生が増え、生徒の実態やニーズに応じた教育ができる。

	あてはまる	ややあてはまる	あてはまらない	分からない
1年生	24.6%	50.3%	7.8%	17.3%
2．3年生	22.1%	43.5%	22.7%	11.7%
合計	23.4%	47.1%	14.7%	14.7%

教職員	30.4%	65.2%	4.3%	0.0%
-----	-------	-------	------	------

問3．部活動が増えるとともに、各部の部員も増え、部活動全体が活性化する。

	あてはまる	ややあてはまる	あてはまらない	分からない
1年生	44.1%	31.3%	9.5%	15.1%
2．3年生	41.3%	35.5%	9.7%	13.5%
合計	42.8%	33.2%	9.6%	14.4%

教職員	43.5%	39.1%	13.0%	4.3%
-----	-------	-------	-------	------

問4．学校祭や球技大会など，学校全体での行事が充実する。

	あてはまる	ややあてはまる	あてはまらない	分からない
1年生	47.5%	29.6%	10.6%	12.3%
2．3年生	26.3%	34.2%	28.9%	10.5%
合計	37.8%	31.7%	19.0%	11.5%

教職員	39.1%	47.8%	8.7%	4.3%
-----	-------	-------	------	------

問5．学校規模が大きくなることで生じるメリット

生徒

学校全体がにぎやかになり，活気づく。
教科の先生が増えて学習指導が良くなる。
体育祭などの学校行事に活気が出て，盛り上がる。
部活動の人数が増え，活発な活動ができ強くなる。
交友関係に幅ができ，友達との輪が広がる。
異なる学科の色々な能力を持った人と接することができ，刺激が増える。

教職員

教員数が増え，専門性を生かした教育活動の展開が可能となるとともに，よりきめ細やかな指導ができる。
学校行事の規模が大きくなり活気が出て，充実した成果が得られる。
生徒のニーズに応える多様な部活動が行えるとともに，部員数が増え層が厚くなり強くなる。
生徒の選択肢が色々な領域で増える。
生徒のみならず，教員にも幅ができ，活気が出てきた。
教員数の増加に伴い，校務分掌などの負担が軽減された。

問6．学校規模が大きくなることで生じるデメリット

生徒

学校全体のまとまりがなくなり，団結力が弱まる。
学校全体が騒がしくなる。
名前も知らない人が増え，先生が目が行き届かない。
球技大会や体育祭で，出られない生徒や暇になる生徒が増える。
通学列車・通学路・コンビニは混雑をし，体育館は窮屈になる。
ゴミが増える。

教職員

多様な生徒が多く入学することで、教科指導・生徒指導で従来以上に多様な対応が求められる。

多様な生徒が増え、学力幅が大きくなり、教科指導が難しくなる。

生徒が増え、個々の生徒を十分に把握できず、変化を見過ごしやすくなる。

生徒同士の関係が希薄になる。

教職員間の意志疎通が図りにくくなる。

ゴミが増えた。通学路が混雑して危険である。

問7．海南海部高校をより魅力ある学校にするにはどのようにすればよいか。

生徒

全学年が交流できる場を作り、両校の魅力をお互いに出し合う。

海南高校の体育祭や文化祭の伝統を受け継ぐとともに、新しい海部高校の伝統を創る。

あいさつ、服装をきちんとするなど、生徒一人ひとりが自覚を持つ。

生徒数が多くてもできる学校行事を考える。

部活動の種類を増やす。

校舎をきれいにする。

教職員

学校の目標を明確にする。

教科指導の充実と生徒指導の徹底を図る。

生徒間、生徒と教師との一体感や信頼関係を築くための学校行事を充実する。

部活動の活性化を図り、成果を上げ生徒に自信を付けさせる。

国際交流等の機会を増やす（姉妹校提携も含め）。

生徒のニーズにあった進路先確保ために進路先を開拓する。

(6) 効率的な施設整備

施設整備の考え方

各学校の校舎等については、その多くが昭和30年代から50年代にかけて鉄筋化が進められてきた結果、全体的に老朽化しており、順次、改築や耐震改修を実施していく必要がある。

そこで、概ね昭和45年以前（旧耐震基準前）に建設された校舎等については、平成11年度から鳴門高校、小松島高校、城東高校を、改築したところであり、今後、改築が決定しているのは、城南高校、富岡東高校、羽ノ浦分校となっている。

また、南海地震が危惧される中、概ね昭和46年から昭和55年（旧耐震基準）に建設された校舎等については、平成16年度から3年間で、耐震診断を実施し、必要に応じて耐震改修を行う予定である。

高校再編の関係では、海部高校については、既存校舎を耐震改修し、一部校舎等を増築中であり、総合技術高校（仮称）についても、校舎新設と既存施設の活用で対応することとしている。

このように、県教育委員会では、各学校の老朽化の状況などにより、順次、改築、耐震改修を実施することとしているが、厳しい財政状況の中で、より一層効率的な施設整備が求められている。

そこで、全県的な高校再編に合わせ、各学校の老朽化等を考慮しながら、改築、耐震改修を計画的に進めるとともに、既存施設の有効活用を図り、各学校における効率的な施設整備や施設設備の集約化を進めることにより、教育環境の充実を図っていくこととする。

全日制公立高校の施設整備状況（平成16年12月現在）

番号	学校名	平均校舎築年数	整備(予定)の有無	備考
1	海部高校	28		平成17年度完成予定
2	水産高校	28		
3	富岡西高校	29		
4	富岡東高校	35		平成19年度完成予定
5	阿南工業高校	35		
6	新野高校	28		
7	富岡東高校 羽ノ浦分校	31		平成20年度完成予定
8	那賀高校	24		
9	小松島高校	1		平成14年度完成
10	小松島西高校	31		
11	勝浦高校	24		
12	城東高校	0		平成16年度完成
13	城南高校	35		平成20年度完成予定
14	城北高校	35		
15	城ノ内高校	22		
16	徳島北高校	6		
17	徳島市立高校	42		
18	徳島商業高校	29		
19	城西高校	24		
20	徳島工業高校	34		平成20年度完成予定
21	徳島東工業高校	34		
22	板野高校	32		
23	鳴門高校	5		平成14年度完成
24	鳴門第一高校	33		
25	鳴門市立 鳴門工業高校	40		
26	名西高校	27		
27	城西高校 神山分校	20		
28	阿波高校	30		
29	阿波西高校	27		
30	阿波農業高校	23		
31	川島高校	29		
32	鴨島商業高校	30		
33	脇町高校	29		
34	穴吹高校	32		
35	美馬商業高校	26		
36	貞光工業高校	24		
37	池田高校	29		
38	辻 高校	32		
39	三好高校	22		

11. パブリックコメントの概要

パブリックコメント募集要領

【募集の趣旨】

県下の生徒数の減少は、今後とも急速に進み、平成30年度には、平成16年度の中学3年生と比較して、約2,000人の減少が予測されるなど、高校再編は避けて通れない課題となっております。

また、厳しい財政状況の中で、効率的な施設整備を図っていくためにも、より中長期的な視点に立ち、全県的な高校再編を計画的に推進する必要があります。

このため、県教育委員会では、外部有識者等による「高校教育改革再編検討委員会」を設置し、全県的な高校再編のあり方について検討を進めておりますが、先般、再編に向けての基本的事項を取りまとめた中間報告が公表されたところです。

つきましては、この中間報告に対して、県民の皆さんから幅広くご意見をいただきながら、今後、さらに具体の再編検討を進め、高校再編方針を策定する必要があることから、パブリックコメント制度による意見募集を行います。

【募集する意見の内容】

全県的な高校再編のあり方についての中間報告をご覧いただき、ご意見をお願いします。

- ・「基本的な考え方」、「再編の視点」、「再編の方向」などについての意見
- ・「再編が必要となる地域」における具体の高校再編などについての意見

【意見の反映】

お寄せいただきましたご意見は、今後の高校再編方針の策定にあたり、十分検討させていただきます、可能なものについて反映してまいります。

【応募方法等】

応募先	〒770-8570 徳島市万代町1-1 徳島県教育委員会教育改革推進チーム FAX 088-621-2880 メールアドレス kaikakut@mail.pref.tokushima.lg.jp
応募方法	郵便またはファックス、電子メール 様式自由（住所、氏名を明記）
応募期間	平成17年3月7日～平成17年4月6日
お問い合わせ先	徳島県教育委員会教育改革推進チーム 電話 088-621-3153

パブリックコメントの実施結果

実施期間 : 平成17年3月7日～4月6日
 意見提出者数 : 55名
 意見件数 : 93件

意見の内容	件数
1：総論	22
高校再編・教育改革のあり方	11
学校教育・高校再編の周知	3
普通科のあり方	1
学科再編のあり方	5
教員の資質向上	1
小中学校の再編	1
2：阿南市・那賀川町・羽ノ浦町	5
地域の再編のあり方	1
阿南工業高校と新野高校の統合再編	1
新野高校の存続	3
3：那賀町	2
那賀高校の存続・分校化	2
4：勝浦郡	1
勝浦高校の存続・分校化	1
5：鳴門市	3
鳴門第一高校と鳴門工業高校の統合再編	1
3高校の存続	1
鳴門第一高校のあり方	1
6：吉野川市・阿波市	4
阿波農業高校と鴨島商業高校の統合再編	2
阿波農業高校と阿波西高校の統合再編	1
阿波農業高校の存続	1
7：美馬市・つるぎ町	7
貞光工業高校と美馬商業高校の統合再編	2
貞光工業高校の存続	1
脇町高校，穴吹高校，貞光工業高校の存続	1
貞光工業高校の教育の存続	3
8：三好郡	49
地域の再編のあり方	5
辻高校と三好高校の統合再編	2
三好高校の存続	34
三好高校の教育の存続	1
辻高校の存続	5
池田高校の存続	2
合 計	93

1. 総論

	意見の要旨	意見に対する対応
1	高校再編に関し、各高校の活性化、及び生徒数の確保など将来を見据えての判断は必要不可欠なものであり賛同する。これにより徳島県の生徒たちの将来はより良いものとなっていくと思う。	全県的な高校再編を計画的に推進し、生徒たちが夢と希望を持って高校生活を送ることができるよう、教育内容と施設設備の充実を図り、新たな時代に対応した活力と魅力ある学校づくりを進めていきます。
2	少子化が現実に進む中、高校の統合は必然である。	県下の生徒数の減少は、今後とも急速に進むことが予測されており、将来の生徒数の減少を視野に入れながら、平成30年度の生徒数を念頭に、中長期的な視点から再編を進めていきます。
3	本県の生徒数の減少に伴う高校再編の問題は、慎重かつ喫緊の課題である。	将来の生徒数を念頭に、十分な議論を尽くし、平成17年度末を目途に、全県的な再編方針を策定していきます。
4	「多くの先生方に学び、多くの部活動の中から選択できる」など、より充実した高校生活を送るためには、一定規模の大きさの高校が望ましい。そのためにも、高校再編をすることは重要である。	各高校が、将来にわたり多様な教育や部活動を実施し、活力ある教育活動を展開していくためには、一定の生徒数、学校規模が不可欠であり、今後の生徒数の減少に備え、各地域における再編の姿を検討していきます。
5	生徒数が減っているので、高校の統廃合は避けられない。そのとき、子どものためになる統廃合であることを希望する。	再編後の新しい高校については、生徒たちが夢と希望を持って高校生活を送ることができるよう、教育内容と施設設備の充実を図り、新たな時代に対応した活力と魅力ある学校づくりを進めていきます。
6	子どもの数の減少や県の経費などの関係で、高校数の見直しはある程度理解できる。	県下の生徒数の減少は、今後とも急速に進むことが予測されており、厳しい財政状況の中、効率的な施設整備を図っていくためにも、全県的な高校再編を計画的に推進していきます。
7	子ども達に良い高校生活を送らせるにはどうすればよいかという観点に立って教育の環境を整えることが先決であると考え。小規模の学校を点在させるのではなく、多感な年頃の子どものため、大勢の多様な個性をもった人達とのかかわり合いの中で過ごすことも大切な教育の一つではないかと考える。また、多くの先生方とのかかわり合いも必要ではないか。その為には、高校再編を行うことも必要だと思う。	各高校が、将来にわたり多様な教育や部活動を実施し、活力ある教育活動を展開していくためには、一定の生徒数、学校規模が不可欠であります。このようなことから、高校の統合基準を遵守するとともに、各高校が定員80名を確保し、できるだけ多くの高校が適正規模の定員160名を上回るできるよう、小規模化している高校を中心に再編を進めていきます。
8	少子高齢化問題は地方だけでなく都市も共通しているため、生徒数の減少は全国的な趨勢である。徳島県教育委員会は高校教育改革推進計画で、統廃合の基準80名、適正規模160名がどのようにして生まれたものか明確でないままこの数字をかたくなに守り、再編計画を進めようとしている。このような数字にとらわれることなく、学習効果の高い高校教育は如何にあるべきかを真摯に受けとめるべきだ。県教委の計画は真の高校教育のあり方を追求したものであるべきだ。	各高校が将来にわたり、活力ある教育活動を展開していくためには、一定の生徒数、学校規模が不可欠であり、本県の高校の統合基準は、「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に沿った内容となっています。また、本県の高校の適正規模は、全国でも標準的な数値を採用したものとされています。
9	21世紀の国、県並びに地域の維持、発展のためには、地域の住民が自ら考え、計画、実行する必要がある。「高校教育は大学進学がすべてである」とする考え方の徳島県教育委員会の計画は見直すべきである。	豊かな心を育み、生涯にわたる「学び」を実現する教育の創造を基本目標とする徳島県教育振興基本構想に基づき、すべての高校生が誇りをもって生き生きとした高校生活を送ることのできる学校づくりや社会の変化に対応した多様な高校教育の実現を図っていききたいと考えています。

	意見の要旨	意見に対する対応
10	小学校では山間部において休校や廃校になっているところもありますが、高校は学校数も少ないので統廃合は慎重に進めるべきではないか。	高校再編については、地域の教育環境の変化に配慮し、必要最小限に留めることとし、再編後においても、生徒たちができるだけ多くの学科、高校を選択することができるよう、工夫していきます。
11	県教育委員会が平成14年2月公表している「徳島県高校教育改革推進計画」の中味について、高校教育の改革が必要になった背景の4項目は、時代の流れで仕方なくできた現象みたいにとらえているようだが、そうでなく、学校教育全体(義務教育、大学教育)から問題点がでてきたのではないか。各項目を真摯に見直すべきだ。	本県では、少子高齢化などの社会環境の変化や、生徒や保護者の価値観が多様化している状況を踏まえ、新たな時代に対応した学校づくりや多様な教育の実現を図るため、高校再編をはじめとする様々な教育改革を着実に推進していきたいと考えています。
12	専門高校の重要性と役割について、義務教育時代の先生や保護者に充分理解、認識させ、生徒(子ども)の成長に伴う進路指導に過ちのないよう注意されたい。	各高校の教育方針や教育内容を中学生が理解できるように、学校の取り組みについて、体験入学の実施やインターネットの活用などを通して積極的に情報発信していきます。
13	普通高校に入学希望が多く、専門高校に入学希望が少ない理由で統廃合の対象になっているが、原因が十分に検討されていない。特に義務教育の教育内容や生徒の進路指導の在り方を検討してほしい。	生徒の進学希望を尊重するとともに、キャリアガイダンスや職業体験などを通して、生徒一人ひとりの職業意識の向上に努めていきます。
14	新聞で報道された内容は、一部の関係者により検討されているようですが、もっと地域の声を聞きながら進めていくことが必要である。	地域別説明会を開催し、保護者や学校関係者、地域の方々に対し、生徒数の減少や再編の必要性を説明し、幅広く意見を聞くなど、再編に向けて、県民への周知に努めていきます。
15	普通科への進学希望が高いので定員の割合を増やしてもらいたい。	普通科については、生徒の進学希望を踏まえながら、適正規模、適正配置に努めていきます。
16	農業は2次3次産業と比べると落ち込みは少ない。今農業が見直される時期である。徳島県内の農業高校の設備面は悪いと思う。四国の他の3県では魅力のある農業高校が1校はある。徳島県でも県に1校はそんな学校がほしい。	農業科をはじめとする専門学科のあり方については、全県的な高校再編の中で検討し、発展的な統合再編などにより、活力と魅力ある学校づくりを着実に推進していきます。
17	社会情勢により農業従事者が減少している時、徳島県で年間どれほどの就農者がいるのかを把握した上で、農業教育の施設数を考えるべきであると思う。徳島県には農業大学校もあり、県立の農業高校が4校も必要かどうかには疑問を感じる。農業高校を分散するより集中して設備を充実し、優秀な生徒を集め、農業従事者の育成を行うべきであると思う。	全県的な高校再編に当たっては、農業科をはじめとする学科全体の適正配置に努めるなど、将来にわたり生徒たちにより良い教育環境が提供できるよう取り組んでいきます。
18	進学を目的とした画一的教育の普通科高校は数あわせの計画を進めやすいと思われるが、複雑な地域農業・農村の立地や外部の与件を加味した専門教育の高校は、そのあり方を専門家を含め充分研究、検討され、即地域の発展に役立つ専門教育を検討してほしい。教育は国家百年の大計である。	再編の姿は、各地域の状況により異なりますが、普通科については、生徒の進学希望を踏まえながら、適正配置に努めるとともに、小規模化が進む専門学科などについては、現在の学科の存続を基本に、これまで培ってきた教育内容を活かしながら、新しい高校のあり方を検討していきます。

	意見の要旨	意見に対する対応
19	海部高校, 富岡西高校, 小松島高校, 鳴門高校, 阿波高校, 脇町高校, 池田高校の各高校に併設型中学校を開設してはどうか。	併設型中高一貫教育は, 本県における中等教育の一層の多様化を図り, 生徒一人ひとりの個性をより重視した教育の実現をめざすものであり, 平成16年度より城ノ内高校において導入したところ。また, 平成18年度には川島高校において導入を予定しています。
20	鳴門高校に「理数科」を設置して理数系の科目を充実させる。城南高校, 小松島高校, 富岡西高校, 阿波高校, 脇町高校, 池田高校に理数科を設置する。総合技術高校に工業理数コースを開設する。	各高校では, 生徒の興味・関心, 進路等に対応し, その個性の伸長を図るため, 教育の制度・教育方法・教育内容などにより, 特色ある学校づくりを進めています。
21	学科に適した教育能力の高い専門教職員の確保をお願いされたい。	教育内容の充実など生徒にとって魅力ある学校づくりを進めていくには, 教職員としての専門性や指導力の向上が不可欠であり, 総合教育センターでの研修を含め研修内容の充実を図り, 資質の向上に努めていきます。
22	小中の生徒の少子化により, 自分が進みたいと思っても好きな部活に取り組めない。例えば, サッカー, 野球等, こちらの方の再編を先に考えてほしい。	高校とは異なり, 小中学校については, その多くが市町村が設置者であり, 地域の実情も異なります。このようなことから, 小中学校については, まず, 設置者が主体的に検討する必要があり, 県としても, 市町村と連携を図りながら, 地域の教育の在り方について, 議論を進めていく必要があると考えています。

2. 阿南市・那賀川町・羽ノ浦町

	意見の要旨	意見に対する対応
23	阿南市合併協議会では、市町村合併によって、阿南市中心部より遠隔地及び周辺部の諸行政施策に対し強い要望などが続出していた。高校再編は、これらの状況と将来展望をもってとり組まなければならない。阿南市中心部に県立高校3校が一極集中化することは避けなければならないと考える。発想の転換で、1校2キャンパス or 3キャンパスの特性をもった構想も考えられてはどうか。	生徒たちに、より良い教育環境を提供するため、どのような再編の姿が望ましいのか検討する必要があります。その上で、高校の配置に当たっては、高校の現状に加え、交通の利便性、地域バランスなどを考慮するとともに、効率的な施設整備も勘案しながら検討する必要があります。
24	阿南市の高校は、富岡西高校と富岡東高校の2校が普通科で、新野高校と阿南工業高校の2校が専門高校である。4校を3校にするなら、生徒や親の希望から考えると普通科2校、専門高校1校にすべきである。新野高校と阿南工業高校を一緒にして、規模の大きい専門高校をめざすべきである。	再編に当たっては、生徒の進学希望を尊重するとともに、再編後においても、できるだけ多くの学科、高校を選択できるよう、地域の教育環境の変化に配慮しながら適正配置に努めていきます。
25	県南地域に根ざした教育を行っている新野高校を核として、産業振興の人材育成を行う産業教育と情報教育を中心とした学校再編を検討していただきたい。高校が阿南市内の一部エリアに一極集中しないよう住民ニーズにも配慮したバランスある高校教育を推進されることを期待する。	将来の学校数が4校から3校へと高校再編は避けられない状況であり、再編に当たっては、これまで培ってきた教育内容を活かしながら、新しい学校の在り方を検討していきます。
26	新野高校では、生徒が多くの教科から選択ができる総合学科を導入して魅力ある学校として頑張っている。また、近隣には、日亜化学、王子製紙等の企業があり海にも近く、体験学習にも適している。このようなことを考慮しながら、阿南市4高校の再編については、市町村合併の動向や地域のバランスも視野に入れた検討をお願いしたい。	〃
27	新野高校は3年前に総合学科になり、地域の教育力を利用した取り組みを行う発展途上の学校であり、教職員及び生徒の活力がでてきた。また、学校周辺が農地で、大規模校として発展させることも可能である。近郊には、県南部健康運動公園など多くの施設を有している。新野高校の、このような恵まれた環境を認めていただき、存続し、より発展できるようにしていただきたい。	〃

3. 那賀町

	意見の要旨	意見に対する対応
28	那賀高校の地理的条件、交通アクセスなどを考えると、適正規模を画一的にあてはめることには問題がある。連携型の高校であり、地元の生徒は確保できるので、適正規模でなくても存続させていただきたい。那賀高校がなくなれば、時間的、経済的な負担になるため、存続を強く求める。本校としての存続が困難であるなら、是非とも分校としての存続を求めたい。	那賀高校については、中山間地域に設置されており、地域の特性があることから、今後の生徒数の推移のほか、生徒の進学希望、進学実態などを踏まえ、方向性を検討していきます。
29	山間部の那賀高校について、突然に廃校にするのではなく、まだ神山分校とか羽ノ浦分校より生徒数は多いようなので、本校でなくても分校として残してはどうか。	〃

4. 勝浦郡

	意見の要旨	意見に対する対応
30	山間部の勝浦高校について、突然に廃校にするのではなく、まだ神山分校とか羽ノ浦分校より生徒数は多いようなので、本校でなくても分校として残してはどうか。	勝浦高校については、中山間地域に設置されており、地域の特性があることから、今後の生徒数の推移のほか、生徒の進学希望、進学実態などを踏まえ、方向性を検討していきます。

5. 鳴門市

	意見の要旨	意見に対する対応
31	<p>鳴門高校は新校舎が完成しているが、残り2校は、老朽化していたり、面積が狭かったりする。この中で、統合を行うのであれば、実業に直結するような資格の取得の可能な教育内容、設備を整え、以後の就職活動等に優位となる能力を身に付けさせることを目標とするべきである。</p> <p>この観点から見ると、2校を統合するのであれば、面積の広い市立工業高校に、大学進学のみを目指すのではない、特徴のある設備を持った高校を建設し、有能な教員を配することがよいように思われる。</p>	<p>再編に当たっては、効率的な施設整備を図っていく必要があり、鳴門高校の校舎等については、すでに改築を終えております。また、高校の配置に当たっては、高校の現状に加え、交通の利便性、地域バランスなどを考慮し検討する必要があります。</p>
32	<p>鳴門高校に理数科をつくる。鳴門市立鳴門工業高校を県立高校に移管して、総合学科高校にする。鳴門第一高校を普通科高校にする。</p>	<p>将来の学校数が3校から2校へと高校再編は避けられない状況であり、再編検討の中で、特色ある学校づくりを進めていきます。</p>
33	<p>「徳島県立鳴門第一高等学校」を「徳島県立撫養高等学校」に学校名を改称して、普通科の単独高校にする。</p>	<p>生徒たちに、より良い教育環境を提供するため、どのような再編の姿が望ましいのか検討する必要があります。その上で、高校名や学科の詳細についても検討する必要があります。</p>

6. 吉野川市・阿波市

	意見の要旨	意見に対する対応
34	生徒たちは普通科への進学が多くなってきているので、専門学科を統合する方が良いのではないかと。吉野川市と阿波市で考えるとすれば、阿波農業高校と鴨島商業高校の2つの専門学科を1つの学校に統合すると効率的で、しかも、4校にしても専門学科はそのまま残せる。	再編に当たっては、生徒の進学希望を尊重するとともに、再編後においても、できるだけ多くの学科、高校を選択できるよう、地域の教育環境の変化に配慮しながら適正配置に努めていきます。
35	このままでは小規模化が進み、特に阿波農業高校への希望者は激減するでしょう。早い年度に鴨島商業高校へ統合し、鴨島実業高校(仮称)としての再出発を望む。また、45年度までに阿波西高校は阿波高校へ、鴨島実業高校(仮称)は川島高校へ統合し、普通科高校2校に再編することが望ましい。	再編に当たっては、小規模化が進む専門学科などについては、現在の学科の存続を基本に、これまで培ってきた教育内容を活かしながら、新しい学校の在り方を検討していきます。また、具体の統合再編は、地域の教育環境の変化に配慮し、必要最小限に留めることにしています。
36	地域的に考えると、阿波高校と阿波農業高校が隣接にあり一考を要する。環境、進学希望また地域バランス等を配慮しながら高校の配置を考える必要があると考える。生徒たちにとって魅力ある学校づくりが望まれる。阿波農業高校を阿波西高校へ統合する方向に持っていければと考える。	生徒たちに、より良い教育環境を提供するため、どのような再編の姿が望ましいのか検討する必要があります。その上で、高校の配置に当たっては、高校の現状に加え、交通の利便性、地域バランスなどを考慮するとともに、効率的な施設整備も勘案しながら検討する必要があります。
37	希望が少ないのは阿波農業高校だが、希望が少ない理由だけで廃止するのは問題だ。徳島県に充実した農業高校が1校はあるべきだ。他の地域になれば何とか阿波農業高校を存続し充実してほしい。また阿波西高校はこれからの学校で魅力があり、残したいが、上記の農業高校を残すとなれば数字的には無理になるので、農業高校は全県的視野から考えてほしい。	将来の学校数が5校から4校へと高校再編は避けられない状況であり、再編に当たっては、これまで培ってきた教育内容を活かしながら、新しい学校の在り方を検討していきます。

7. 美馬市・つるぎ町

	意見の要旨	意見に対する対応
38	高校のあり方・役割が今後課題になってくるのではないかと。それぞれに魅力ある学校として生き残るために工夫がいるように思う。貞光工業高校と美馬商業高校について、両校が小規模校となり、勢いがなくなる前に発展的な再編を進めるべきである。幸いにも両校は実績をあげており、元気なうちに新しい学校をつくるというのも1つの方法である。	再編に当たっては、それぞれの高校で培ってきた特色ある教育や良き伝統を継承し、発展させながら、新しい高校をつくることを目指し、活力と魅力ある学校づくりを推進していきます。
39	現状を維持できないのであれば、貞光工業高校と美馬商業高校を統合して、新しいスタイルの学校をつくってもらいたい。	今後の再編を、統合のみに終わらせるのではなく、生徒たちが夢と希望を持って高校生活を送れるよう、新しいタイプの学校を設置するなど、魅力ある学校づくりを進めていきます。
40	徳島県西部にある貞光工業高校が、廃止あるいは遠く離れた徳島市内の工業高校に統合するとしたらこれは大問題になりかねない。子どもから孫の時代へと世は移り変わっても県西部唯一の工業高校の光を消すことなく、今まで通りの存続をお願いする。	将来の学校数が4校から3校へと高校再編は避けられない状況であり、再編に当たっては、これまで培ってきた教育内容を活かしながら、新しい学校の在り方を検討していきます。
41	阿波市の住民の立場から、旧美馬郡の脇町高校、穴吹高校、貞光工業高校の希望者は多い。是非将来とも残してほしい。	〃
42	生徒数の減少に伴う高校再編といった取り組みの趣旨はよくわかるが、県西部では工業高校は1校しかなく、今後の再編については、その工業高校の持つ特色が失われることのないような再編が必要かと考える。高校再編の趣旨はよくわかるし、その方向で考えざるをえないとも思うが、その高校の良い面は絶対に残すべきと考える。伝統は継承しながら新しいものを取り入れ発展させていかなければならないと考える。	再編に当たっては、これまで培ってきた教育内容を活かしながら、新しい学校の在り方を検討していきます。
43	学校が再編されると、これまで築き上げてきた学校の校風はなかなか維持できないのではないかと。貞光工業高校は資格試験において高い合格率を維持しており、進学、就職活動においても大変優遇されている。県西部において、貞光工業高校のこの特色は存続すべきものである。	〃
44	貞光工業高校は、これまで培ってきた多くの実績とノウハウを活かし、電気科など4科が連携し、貞光工業高校独自の取り組みをしている。生徒は、高度な資格取得、工業高校でしか学ぶことができない知識や技術の習得などの目的意識を持って進学している。県西部にとっては、工業科は、将来にわたり、必要であると考えます。	〃

8. 三好郡

	意見の要旨	意見に対する対応
45	郡内に3つの高校を残し小規模化するより、きちんとした大きさのある高校を2つ残すべきである。	各高校が、将来にわたり多様な教育や部活動を実施し、活力ある教育活動を展開していくためには、一定の生徒数、学校規模が不可欠であり、今後の生徒数の減少に備え、各地域における再編の姿を検討していきます。
46	三好郡3高校の教育内容が継続できるような学校づくりを進めること。	将来の学校数が3校から2校へと高校再編は避けられない状況であり、再編検討の中で、特色ある学校づくりを進めていきます。再編に当たっては、これまで培ってきた教育内容を活かしながら、新しい学校の在り方を検討していきます。
47	時代の流れを先取りした学習効果の高い教育を行うために、専門高校は廃止どころか拡充・強化し魅力ある学校づくりこそが必要な時代ではないだろうか。今度の県教委の計画は時代錯誤であると言える。再考をお願いしたい。	再編に当たっては、それぞれの高校で培ってきた特色ある教育や良き伝統を継承し、発展させながら、新しい高校をつくることを目指し、活力と魅力ある学校づくりを推進していきたいと考えています。
48	三好高校は県西部地域に唯一設置されている専門高校である。この地域の現状を見ると専門高校の定員は1学年40～50名程度とし、多くの学科や高校を選択できるように、統合基準、特に専門高校の1学年定員の見直し再検討を願いたい。	各高校が、将来にわたり多様な教育や部活動を実施し、活力ある教育活動を展開していくためには、一定の生徒数、学校規模が不可欠であることから、今後とも高校の統合基準を遵守し、できるだけ多くの高校が適正規模を確保し、魅力ある学校づくりができるように努めていきます。
49	県教委は学校統合の基準を一学年80名としているが、編成の基準は専門職の育成、更に地域や産業、農村社会の存続、必要性を考慮しながら、学科を編成し、特色を活かした柔軟な対応をすべきである。	〃
50	辻高校と三好高校を、特色ある学科を備えた高校として統合し、その充実を図るべきである。交通の利便性などを考慮すると辻高校と一緒にしたらよい。	今後の再編を、統合のみに終わらせるのではなく、生徒たちが夢と希望を持って高校生活を送れるよう、魅力ある学校づくりを進めていきます。
51	三好郡において辻高校の商業科を三好高校に移したことは、あまり良かったとは思えない。現在、辻高校では、多くの生徒が進学するのではなく、2年生になって進路別に、情報科と呼ばれるコースを設けているが、これこそ辻・三好の商業科を一体化し、もっと高度な情報科を設置することで生徒のニーズに応えられるのではないか。	生徒たちに、より良い教育環境を提供するため、どのような再編の姿が望ましいのか検討する必要があります。その上で、学科の詳細についても検討する必要があります。
52	三好高校の卒業生は、地域社会のリーダーとして地元貢献している。今後の地域の農林業振興のためにも、県西部の専門高校を三好高校に存続すべきである。	将来の学校数が3校から2校へと高校再編は避けられない状況であり、再編に当たっては、これまで培ってきた教育内容を活かしながら、新しい学校の在り方を検討していきます。
53	心配される食料難時代に備え、また汗を流して働き、共に喜ぶという協調時代の再構築のためにも、三好高校は必要であり存続すべきである。	〃

	意見の要旨	意見に対する対応
54	県下、県西部での農林業の振興、そして若者が自然の大切さを認識しながら意欲的に農林業に取り組むための知識と能力が学べる環境を作り残していくことができるよう、県西で唯一、専門教育の殿堂として、総合的見地を持って三好高校の存続をお願いする。	将来の学校数が3校から2校へと高校再編は避けられない状況であり、再編に当たっては、これまで培ってきた教育内容を活かしながら、新しい学校の在り方を検討していきます。
55	食料自給率を向上させるとの国の施策が打ち出されているが、三好高校は生物資源類で第一次産業の人材育成に大きな役割を果たしており、三好高校がなくなれば国の施策にも逆行することになる。三好高校は存続すべきである。	〃
56	三好高校の卒業生は郡内へ定住する率が他校より高く、三好郡の担い手の役割を果たしており、三好高校が再編されれば若者の流出に拍車がかかる。中山間地域の第一次産業の先駆的役割を果たしてもらうためにも三好高校の存続を希望する。	〃
57	三好高校は環境ISOを取得するなど環境に対する教育も行っている。今後、温室効果ガスの削減や水資源など環境問題は重要な施策として位置づけられている。三好高校のように特色ある学校教育が必要とされているので存続を希望する。	〃
58	三好郡は農、林、畜産業の盛んな地域であり、三好高校は地域の農村振興のキー校としての役割を、現在も大きく果たしているが、より一層の農、林、畜産教育の発展のために是非三好高校の存続をお願いしたい。	〃
59	自然を壊す時代は終わり、自然と共に生きていく時代になった。こんな時に三好高校は拠点となり、未来に向けて大切な存在となっていくと思うので、三好高校の存続を希望する。	〃
60	三好高校は、先生方と生徒のコミュニケーションがとれており、また地域の方々や先輩方、保護者との交流がたいへん良い形でとれており存続を希望する。	〃
61	三好高校は、これまで、地域と共存してきた。三好高校外の多くの人々が、三好高校に依存している部分も多々ある。それほど個性的で大切な高校は他にないと思うので存続すべきである。	〃
62	三好高校の立地は四国中央部に位置し四国四県に通じている。このような観点から、山間農業、農村の担い手を育成する質の高い専門高校としての三好高校(農業と商業の殿堂)の拡充・強化を地域住民と共に強く要望する。	〃
63	県立三好高校は西部の拠点校である。特に、農業高校より続いている大型動物等、林業の樹木などは、『現今 重要なり』、強く認識され存続を願いたい。	〃
64	教育現場で、食に関する教育(食農教育)が必要に迫られている。我が国の自給率は50%を割り、社会状況の変化や輸入禁止等による食料事情に対応するために、義務教育から農業、林業の重要性を認識させる教育を推進し、継続して学習できる場と、解決に向けた取り組みのできる三好高校の存続を要望する。	〃

	意見の要旨	意見に対する対応
65	将来、農産物や木材の自給、環境問題で農林業は重要な役割を担う。県西部での三好高校の校舎及び実習施設を活かした教育が重要性を増すと考えられるので、生徒数が減少しても三好高校は存続すべきである。	将来の学校数が3校から2校へと高校再編は避けられない状況であり、再編に当たっては、これまで培ってきた教育内容を活かしながら、新しい学校の在り方を検討していきます。
66	三好高校は地域の農業後継者を育てる学校として地域的に必要である。存続をお願いする。	〃
67	IT産業がもてはやされている昨今であるがその対極にある農業の存在を、将来の財産として残すべきだ。その為には三好高校は数少ない農業高校として是非その一翼を担う為に存続をお願いしたい。	〃
68	三好高校は、少子化による生徒数の減少で、数字の上では不必要に思われるが、三好高校が無くなることは、三好・美馬地区にとって後継者を無くするのと同じである。田畑もいらない、林業もいらない、全く原野になってしまう。生徒数の少ない学校を無くするのではなく、再編により専門高校の必要性を重視し、専門高校に普通科高校を統合し、四国の中央で絶対必要な三好高校を存続してほしい。	〃
69	三好高校卒業生は、県下全域、特に地元、三好・美馬の農業農村後継者の中堅として農林業や商工業などの自立経営に従事し、地域の行政並びに農林業、商業など諸団体のリーダーや職員の大部分は三好高校の卒業生が占め、地域社会や産業維持・発展の原動力となって頑張っているため、三好高校を存続させてもらいたい。	〃
70	四国の中央の臍として、四国・阿讃の両山系の豊かな資源の利活用を考えた産業による村づくりや人づくりの専門教育の殿堂として、三好高校を存続し発展させていただこう強く陳情する。	〃
71	三好高校は緑豊かな県西部を作る拠点校であり、豊かな水を蓄える徳島県に、心休まる、安心のできる徳島県にすることができる学校であり存続を希望する。	〃
72	三好高校卒業生の大半は地元で直接業務に関わっている。そのため地域に立脚した未来を先取りした施設、設備等近代的な教材を整備し存続を希望する。	〃
73	地域農業・農村社会の維持、発展に貢献している専門高校の三好高校であるにもかかわらず、県教育委員会はそれを無くするような計画をたてている。そして、その計画を報道機関で公表し、これに対し、地域住民の意思表示がない場合は、承認されたものとして統廃合を一方向的に進めようとしている。三好高校の創立は住民のニーズと地域の資産を投じて設立したものである。このような経緯や、地域の農業・農村の実態を無視した計画は、地域住民の怒りは買っても賛同を得ることはない。断固反対である。	少子高齢化などの社会環境の変化や、生徒や保護者の価値観が多様化している状況を踏まえ、新たな時代に対応した学校づくりや多様な教育の実現を図るため、様々な教育改革を進めています。高校再編に当たっては、それぞれの高校で培ってきた特色ある教育や良き伝統を継承し、発展させながら、新しい高校をつくることを目指していきたいと考えています。

	意見の要旨	意見に対する対応
74	卒業生がそれぞれの立場で助け合い、学び舎の発展に努めてきた実態を把握することなく、県西部の農業振興の拠点と情報発信基地を破壊することは、当地域の産業や農村社会の存在を否定し、非常識で無謀な計画といわざるをえず、三好高校の存続を希望する。	少子高齢化などの社会環境の変化や、生徒や保護者の価値観が多様化している状況を踏まえ、新たな時代に対応した学校づくりや多様な教育の実現を図るため、様々な教育改革を進めています。高校再編に当たっては、それぞれの高校で培ってきた特色ある教育や良き伝統を継承し、発展させながら、新しい高校をつくることを目指していきたいと考えています。
75	高校教育改革推進計画によると、三好高校にある生物資源類は、阿波農業高校の農業科へ、6年前、辻高校から併合して間もないビジネス類は、他校へそれぞれ再編することとしているが、やめてもらいたい。	生徒たちに、より良い教育環境を提供するため、どのような再編の姿が望ましいのかを検討する必要があります。その上で、学科の詳細についても検討する必要があります。
76	林業や土木、造園、園芸などの技術は環境保全と利用を目的とし生活環境を豊かにする役割を担っている。地域育成を図っていくにはなくてはならない学科である。本校としての存続を願いたい。	将来の学校数が3校から2校へと高校再編は避けられない状況であり、再編に当たっては、これまで培ってきた教育内容を活かしながら、新しい学校の在り方を検討していきます。
77	三好高校は、交通面にも恵まれ、素晴らしい環境の元、勉学に励んでおり、また発酵部門にも着手し、地域の特性を活かした方面にも専門性の幅を広げ躍進し続けている。また山地農場では、近辺の保育所の子供達に家畜を見学させてくれ大変喜ばれている。地域に密着した他校には真似のできない高校であり、是非存続を希望する。	〃
78	こらからの時代に向け、普通高校より専門高校の方が必要性が高くなってきている。ビジネス類では、全国レベルまで躍進してきた。その他、何度もマスコミにもとりあげられ数多くの話題を私たちにピーアールしてきた。三好高校は地域と密着しているので存続を希望する。	〃
79	今日、山林は非常に荒廃している。生物資源類の卒業生の中で山林を生き返らせたいと思う生徒が一人でも多くでてきてもらいたいと願っている。今日本の食料の大部分は外国に依存している。将来、食料自給率の向上を目指す為にも三好高校のような高校が必要だと考える。	〃
80	地元の高校で身につけたことを、そのまま社会に活かすことができるのは、ビジネスにおいても、農林業においても子ども達だけの願いではないと思う。過疎における今後の県西部を担っていく主となる人材を育てるためにも三好高校の存続を希望する。	〃

	意見の要旨	意見に対する対応
81	三好郡内には普通科2校と三好高校があるが、三好高校がなくなれば普通科のみになる。郡外に行けば、通学費、下宿・寮費等の余分な経費がかかり家計を圧迫するので三好高校の存続を希望する。	将来の学校数が3校から2校へと高校再編は避けられない状況であり、再編に当たっては、これまで培ってきた教育内容を活かしながら、新しい学校の在り方を検討していきます。
82	普通科に進学し、大学・専門学校に進み専門教育を学ぶ方法もあるが、学費・生活費等の教育費に莫大なお金が必要であり、親の経済状況によっては子ども達に専門的知識をつけさせることができなくなるので三好高校の存続を希望する。	〃
83	三好高校は、位置的にも四国の中央であり、他県からの優秀な希望者の意志をかなえるためにも存続してほしい。	〃
84	三好高校が再編でなくなれば郡内には普通高校しか残らない。子ども達にとっても選択肢が狭くなる。ビジネス類や生物資源類はこれからの日本の未来にとって絶対必要だと思うので、三好高校の存続をお願いする。	〃
85	三好高校は、県西部で唯一、農業・林業などの専門学科があるところなので存続してほしい。	〃
86	三好高校は現在、生物資源類、ビジネス類の一般的には今ひとつ、内容のわかりにくい編成となっている。今一度、農林業を中心とした専門校としての再編をお願いする。食料難、食の「安心・安全」、学校給食をはじめ地産地消の取り組みが、なされている。今一度、農業の重要性を考慮し、三好高校に「農業科」の設置の必要性及び、環境問題を通して、農林業の重要性を再認識させる教育が重要であり、その役割を三好高校に担っていただき、施設設備等、近代的な機械教材を導入し、現場での学習を重視しながら、林業後継者の育成を考慮した「林業科」を設置する必要性を強く希望する。	〃
87	近年、「教育、スポーツ、本来の高校生姿である生徒育成」に力を注がれ着実な実績を上げられ注目を集めている辻高校の廃校には特に絶対反対であり存続を希望する。	〃
88	いろいろな面で人気のある辻高校を残してもらいたい。同校は地理的条件もいいし、交通の利便性もとてもいいので今まで通り続けていってもらいたい。	〃
89	三野町や三好郡東部の三加茂町、三好町、井川町から通学の利便性を考えたとき、辻高校がなくなり、池田高校、三好高校だけとなると生徒や親にかける負担がとても大きくなる。特に、三好高校に通学する場合は、徳島線から土讃線への乗り換えが必要となるうえ土讃線は普通列車の便が極端に少なく不便なので辻高校の存続を希望する。	〃
90	最近の中学生の進路希望でも辻高校への希望が多いことや三好郡では東部の中学生数が多いこと、また辻高校は三好郡でもっとも歴史と伝統のあることなどを考えても、辻高校を統廃合する理由がないので存続を希望する。	〃

	意見の要旨	意見に対する対応
91	<p>辻高校の普通科を全廃することには賛成できない。辻高校に行っても進学が出来るという道も子ども達には残してやりたいものだ。三加茂町においては普通科なら脇町、池田、辻の3校を考慮に入れていますが、三好高校においては交通の便が悪く、3年間ほとんど送迎した保護者がいますが、必ずしもどの家庭でも送迎できるわけでない。その為に進学の選択肢から外される状況は、教育の機会均等という点から、再編にあたって考慮しなければならない。</p>	<p>将来の学校数が3校から2校へと高校再編は避けられない状況であり、再編に当たっては、これまで培ってきた教育内容を活かしながら、新しい学校の在り方を検討していきます。</p>
92	<p>進学希望者が非常に多くなっているため、普通科高校は必要だ。大学進学率も高く、実績もあると思われる池田高校は残すべきである。</p>	<p>〃</p>
93	<p>伝統のある池田高校を西阿の名門として復活させるべきだ。そして優秀な生徒は脇町高校等に流出しないような魅力ある学校づくりをするべきだ。</p>	<p>〃</p>

12. 地域別説明会の概要

1 地域別説明会の概要

(1)目的

全県的な高校再編に当たり，再編が必要となる7地域の方々を対象に，生徒数の減少や再編の必要性などを説明し，再編に向けて幅広く意見を聞くため，地域別説明会を開催した。

(2)説明内容

生徒数の減少と再編の必要性
再編の考え方と方向

再編の視点と将来の学校数
地域の現状と課題

(3)開催状況 平成17年5月13日～6月7日，鳴門市など県下7地域

	開催日時	開催場所	関係高校	参加者数
1	5月13日(金) 午後7時～9時	鳴門高校多目的ホール	鳴門高校，鳴門第一高校 鳴門工業高校	189名
2	5月16日(月) 午後7時～9時	脇町高校体育館	脇町高校，穴吹高校 美馬商業高校，貞光工業高校	211名
3	5月20日(金) 午後7時～9時	阿南市市民会館ホール	富岡西高校，富岡東高校 阿南工業高校，新野高校	145名
4	5月24日(火) 午後7時～9時	阿波高校松契会館	川島高校，鴨島商業高校 阿波高校，阿波西高校 阿波農業高校	212名
5	5月29日(日) 午後1時30分 ～3時30分	鷲敷中学校体育館	那賀高校	176名
6	5月30日(月) 午後7時～9時	池田高校体育館	池田高校，辻高校 三好高校	208名
7	6月7日(火) 午後7時～9時	勝浦高校体育館	勝浦高校	127名
		合 計		1268名

(4)参加者内訳

	鳴門市	阿南市 那賀川町 羽ノ浦町	吉野川市 阿波市	美馬市 つるぎ町	三好郡	勝浦郡	那賀町	計
1 児童生徒の保護者	115	86	126	119	79	38	84	647
2 小中学校の教職員等関係者	23	21	41	36	32	11	42	206
3 高校関係者	12	13	26	27	30	31	25	164
4 自治体，教育委員会関係者	30	20	17	22	26	35	18	168
5 一般参加者	9	5	2	7	41	12	7	83
計	189	145	212	211	208	127	176	1268

(5)参加者の意見・感想

意見・感想提出者内訳（回収率：67.1%）

	鳴門市	阿南市 那賀川町 羽ノ浦町	吉野川市 阿波市	美馬市 つるぎ町	三好郡	勝浦郡	那賀町	計
1 児童生徒の保護者	107	71	95	100	61	38	76	548
2 小中学校の教職員等関係者	18	16	22	28	21	11	32	148
3 高校関係者	6	1	7	10	15	12	16	67
4 自治体，教育委員会関係者	4	4	1	2	5	14	2	32
5 一般参加者	9	2	1	5	20	12	7	56
計	144	94	126	145	122	87	133	851

地域別説明会で、特に関心があった内容は何か。

	鳴門市	阿南市 那賀川町 羽ノ浦町	吉野川市 阿波市	美馬市 つるぎ町	三好郡	勝浦郡	那賀町	計
1 生徒数の減少と再編の必要性	45	23	30	43	36	20	26	223(26.2%)
2 再編の視点と将来の学校数	32	25	30	28	24	10	20	169(19.9%)
3 再編の考え方と方向	53	31	49	54	40	31	50	308(36.2%)
4 地域の現状と課題	14	13	15	18	19	20	34	133(15.6%)
5 その他		2	2	2	3	6	3	18(2.1%)
計	144	94	126	145	122	87	133	851(100.0%)

活力と魅力ある学校づくりに当たっては、特に何が大切であると考えますか。(複数回答)

	鳴門市	阿南市 那賀川町 羽ノ浦町	吉野川市 阿波市	美馬市 つるぎ町	三好郡	勝浦郡	那賀町	計
1 多くの生徒や教職員が集い、多様な教育、部活動など、活力ある教育活動を展開すること。	74	41	58	45	21	12	42	293(34.4%)
2 生徒や保護者の進学希望を尊重するとともに、生徒たちの興味、関心、進路に応じた学習ができるよう、教育内容の充実を図ること。	112	68	73	99	67	42	69	530(62.3%)
3 再編を契機に、改築、耐震改修を計画的に進め、施設設備の充実など教育環境の整備を図ること。	50	24	15	21	14	3	13	140(16.5%)
4 学校、家庭、地域社会が、生徒にとって望ましい高校のあり方を、共に考えながら進めていくこと。	54	43	66	70	79	67	90	469(55.1%)
5 その他	1	3	7	5	3	2	6	27(3.2%)

2 質疑応答, 意見・感想の件数

	質疑応答	意見・感想				計
		再編の 必要性と考え方	活力と魅力ある 学校づくり	存続, 再編など 高校のあり方	その他	
鳴門市	10	12	10	6	3	41
阿南市 那賀川町 羽ノ浦町	18	15	11	5	12	61
吉野川市 阿波市	14	12	3	12	9	50
美馬市 つるぎ町	9	13	8	8	11	49
三好郡	20	23	6	11	1	61
勝浦郡	12	8	4	9	6	39
那賀町	13	12	4	12	1	42
計	96	95	46	63	43	343

質疑応答

1. 鳴門市

	質疑・意見の要旨	質疑に対する対応
1	魅力ある学校づくりの中で体育科を設置して頂きたい。鳴門市は、スポーツが盛んで昨年度も、鳴門工業高校と鳴門第一高校が甲子園に出場している。地域との一体化という点でも、体育科の設置は重要である。施設としては鳴門工業高校の敷地・施設を活用してはどうかと思う。	活力と魅力ある学校づくりに向けて貴重な意見を頂いた。体育科の設置について、今後検討していきたい。
2	具体的に、どのような形で県民の意見を集めようとしているのか。	一つはパブリックコメントという形で、中間報告についての意見を頂いた。また、再編が必要となる地域で、説明会という形で意見を頂いている。
3	学校が小規模化すると学校の活力がなくなるということだが、実際は小規模校の方が、大規模校より活力があるということも言えるのではないか。	多様な教育や十分な部活動を行うために教職員の配置を考えた場合、生徒数は、大きな要因とならざるを得ない状況である。
4	海部高校のデメリットについても説明して頂きたい。	海部高校のデメリットについて、学校全体にまとまりがなくなり団結力が弱まる、学校全体が騒がしくなるなどが生徒の意見として出ていた。
5	再編の視点から教員の適正配置が抜けているのではないか。	教員の適正配置は、魅力ある学校づくりの中の要素であると認識している。
6	統合再編をすることになれば、3校から2校になるということだが、鳴門第一高校は、募集人員が155名であるが、小規模校のままではなく、再編を機会に環境が良くなるよう考えて頂けるのか。	まずは、どのような2校にするかを検討して、次に募集定員を、どれぐらいにするのかを考えていかなければならない。その際、鳴門市の生徒数も勘案し、学校規模の検討をしていきたい。
7	統合する場合、その学校の募集停止はどれぐらい前から知らせて頂けるのか。中学生が高校に入学して部活動などを頑張っている時に、次の年に新しい入学生が入って来ないことがわかるという状況は生じないようにして頂きたい。	再編に関する情報はできるだけ早くお示しし、生徒の進学に支障が生じないように努めていきたい。なお、統合再編で新設の場合、5年前には知らせることができる。
8	高校卒業後、就職するという生徒は、技術を身につけ資格が取れるような高校に行きたいと考えている。鳴門市の2校のうち1校は、しっかりした技術・資格を身につけられるような学校を作るようにして頂きたい。	生徒の進学希望の7割が普通科希望であることから、普通科高校1校と専門教育が学べる高校1校になると考えている。どのような学科がよいのかについては、卒業後の進路も踏まえ検討していきたい。
9	高校の1クラスの定員枠は、将来的にも40人で行くのか、30人学級にするということとは検討の中に入っているのか、聞かせて頂きたい。	高校の場合、1クラスの定員は、基本的には国で定められた40人であるが、本県の場合、地域や学校の実態により1学級の生徒数は、必ずしも40人ではなく、一律には考えていない。
10	学ぶのは子供だから子供から直接意見を聞くのも良いのではないかと思う。	まずは、このような地域別説明会で、子供たちの意見も含め、保護者や学校関係者の皆さんからご意見を頂きたいと考えている。今後とも様々な形でご意見を頂ければと考えている。

2. 阿南市・那賀川町・羽ノ浦町

	質疑・意見の要旨	質疑に対する対応
1	海部高校のアンケートでは、約 30 %の生徒が不満足と言っているが、そのアンケートはいつ行ったのか。また、不満足と答えた生徒達に、どのように満足を与える改善を行ったのか。	アンケートは昨年度に実施した。高校再編に関しては、デメリットばかりに目を向けるのではなく、前向きに考えていきたい。そして、不満足と答えた生徒には、新しい学校ができてよかったと思えるよう今後とも努力をしていきたいと考えている。
2	高校の適正規模について、他県では、どのような適正規模をもとに統廃合が行われているのか。	適正規模の基準については、47 都道府県のうち 28 県が、1 クラス 40 人として、1 学年 4 ～ 8 クラスを適正規模としている。四国では、香川県が 5 ～ 8 クラス、本県を含む残り 3 県が 4 ～ 8 クラスとしている。
3	若者が、夢と希望を持って生き生きと通う学校とはどのようなものかを考えて頂きたい。小規模校であろうが教育効果をあげる施策を考えて行かなければならないのではないかと思う。また、再編を考える前に、教員の資質向上を考えて頂きたい。	生徒数の減少により、各高校がさらに小規模化する前に、活力と魅力ある学校づくりを検討する必要があると考えている。
4	高校再編は、少子化の流れの中、仕方がないと思っている。高校再編では生徒が興味関心のあるコース・クラス、特色ある学校が作られるのか。	活力と魅力ある学校づくりをどうしていくのが大事であり、その中で、阿南市にどんな学科や学校づくりが必要かということを考えることが大切である。
5	1 年間留学したい子供がいた場合、海外の高校で同じように単位が取れる制度があるのか、伺いたい。	海外への留学は、どの学校でも行える。海外での単位を認定し卒業できる制度である。
6	全国的に増えている中高一貫教育の流れが、県南部にもあるのか、伺いたい。	県下二校目の併設型中高一貫教育が、川島高校で平成 18 年度からスタートするので、そのような状況を見ながら、考えていく必要がある。
7	来年度に受験する子供が、本県の高校のホームページや他県の高校のホームページを見ているが、その子供が、県南の高校に魅力がないので、他県の高校を受験したいと言っている。ホームページからは、どんな学校生活をしているのかが分からず、魅力が感じられないのだろうと思う。	ホームページの充実を図っていききたいと考えている。
8	学校や行政サイドから言えば、魅力ある学校づくりについては、南海、東南海地震が心配されているので、環境と防災を合わせて、環境防災科などを設置してはどうかと考えている。	
9	適正規模の考えが間違っているとは言わないが、必要な地域には必要な高校をおくべきではないかと考える。中山間地域の 2 地域に、現状での存続が困難との報告が出されているが、果たしてそうなのか考えてみなければならない。高校再編の方向として、各地域に高校教育の空白地域を作ってはならないと思う。	
10	那賀高校が魅力ある学校であれば、存続可能なのか、それができないのならば分校体制がとれるのか。子供達にとって、何が魅力ある学校と考えているのか、伺いたい。	地域の学校として必要ならば、本校としての存続は困難でも、分校としての存続は可能だと考えている。魅力ある学校とは、子供達が夢と希望のもてる学校、自分の存在感が認められる学校と思う。しかし、小規模化すると、部活の存続ができない、また、教師の数が少ないから自分の選びたい教科が選べない。このように、学校規模がなければ、本当の魅力ある学校にはならないのではないかと感じている。

11	学校は県下各地にあるが、徳島市内の高校については、全県からの受け入れ態勢を整備するというのには考えていないのか。通学区域の流入率 8 %を増やすことは考えていないのか。	地域の高校を育てるという観点では、通学区域を設けたことにより、成果が現れていると思う。通学区域は、長年検討してきた結果、現在の形になっており、しばらくの間は、このままで行きたいと考えている。
12	平成 21 年度になると、日和佐町から高校がなくなり、生徒の中には日和佐町から海南町まで通学することとなるが、そのあたりは、どのように考えて、再編したのか。	由岐、日和佐町から通学する生徒の学校生活に支障が生じないように、また、海部高校と海南高校の校時を同一にするため、通学用の専用バスを運行している。
13	福祉科について、ニーズがあるので、設置の検討をしてはどうか。	今後どういう学校づくりがよいのかを検討する中、福祉という面も考えていかなければならないと思う。
14	今後、意見交換の場があるのか、伺いたい。	今後、どのような形で地域の声を聞いていくのかという点については、より具体の再編を進めた上で、改めて検討をしていきたい。
15	地域別説明会で意見を聞く前には、広く情報を知らせる必要があると思う。	説明会の広報については、学校を通じて、全保護者に開催案内を配布した。高校関係者は高校から、地域の方々には、新聞・テレビ・県のホームページで広報を行っている。
16	新野高校には、県下 3 校目の総合学科が設置されているが、現在、学校の特色を活かして、魅力ある学校づくりに鋭意努力している。県教委も、この再編問題とあわせて、引き続きご指導、ご配慮頂けるよう要望する。	
17	新しく再編された高校は、現在の学科をそのまま統合するというのではなく、高齢化に伴う福祉問題に対応するとか、国際化の中で外国語の学習を専門的に行うとか、魅力ある高校を創って頂きたい。また、一カ所に集中して高校があるというのではなく、地域に分散して高校を配置するという考え方を持って再編に当たるよう要望する。	
18	教育はその地域のマンパワーの醸成に繋がる。中山間地域における子供の減少による再編は、教育の機会均等に外れている。そこは分校として存続できるのであれば、教員の人事交流をして、優秀な教員を投入することを要望する。	

3. 吉野川市・阿波市

	質疑・意見の要旨	質疑に対する対応
1	1 学級 40 名については、多いと考えるのか、少ないと考えるのか、伺いたい。	現在、国では 1 学級 40 名を標準としている。本県については、地域や学校の実状に応じて、幅広く対応している。40 名が多いか少ないかについては、その時代時代で考えが異なると思う。
2	地域、家庭等が連携して特色ある高校づくりをしていくという説明があったが、そのとおりに取り組んでほしい。こういった説明会が地域で展開されることを望んでいる。	
3	少子高齢化で子どもも減ってきており、再編もやむを得ないことは理解できる。しかし、子どもが安心して食べられる食物を生産するためにも、専門的な知識が必要である。今後、阿波農業高校の存続をあらゆる面から検討してほしい。	農業の重要性は認識しているが、産業構造の変化の中で、農業経営は厳しい時代を迎えている。今後の農業高校のあり方については、全県的な再編の中で検討していきたい。
4	海部高校のアンケートのデメリットについて、具体的に知りたい。	統合のデメリットは、例えば、学校生活全体に活気がでるという質問に対して、あてはまらないが 13.7%、分からないが 14.0%であった。
5	平成 30 年度には 5 校から 4 校になり、さらに、平成 45 年度には 4 校から 3 校になるということか。	吉野川市、阿波市の学校数については、5 校から 4 校とし、将来にわたりにできるだけ現在の教育環境を維持して行きたいと考えている。
6	「地理的条件と地域バランス」という再編の視点は、市町村合併とどのような関係にあるのか、伺いたい。	再編を検討する際には、郡市単位を基本に市町村合併の動向も勘案しながら、各地域の学校数を示している。
7	市外から阿波市、吉野川市に生徒が来れば、募集定員が増えるので再編は必要ない。5 校を 4 校にするのではなく、どれだけ他地域から生徒を呼んでくれるかを考えればよい。教育委員会は、魅力ある学校づくりのできる優秀な教員を配置してほしい。	各高校では、それぞれ特色ある学校づくりを進めており、積極的に生徒募集を行っていることを、地域の方々にご理解頂きたい。また、教員配置においても、それぞれ配慮しているところである。
8	中学生が、高校へ行くとき、160 名以上の高校を選ばなければならないのか。小規模の学校があって、少人数で教育を受ける機会を選択できることがあってもいいのではないのか。地元の子どもの地元に集めるだけではなく、いろんなところから集まってくるような学校をつくることも大事である。	中山間地域では、地域の特性を踏まえ、分校として存続することも可能である。また、将来 4 校体制を維持するために幅広い地域から生徒募集ができるよう魅力ある学校づくりを進める必要がある。
9	高校の再編に関しては、仕方ないことだと思う。しかし、現在、志願者、入学者が少ないという理由で学校を再編することは、やめてほしい。魅力ある学校づくりは、学科でも、学校の特色でもないと思う。子どもを大事にする学校や、悩みをきちんと聞いてくれる学校が、魅力のある学校と思う。子どもを生かせる学校づくりを要望する。	
10	生徒が減るから、国の基準により先生も減るということだが、一番損するのが生徒である。勉強はもちろん大切だが、子どもと一緒にスポーツができる先生、文化活動ができる先生の採用を要望する。	
11	部活動や学校行事という大切な活動ができなくなる現実が迫ってきている。1 校減ることに執着するのではなく、地域にとって魅力ある学校をつくれる機会であるので、これを機会に、全県に誇れる学校づくりを要望する。	

12	自分が行きたい高校へ行ける子どもはいい。しかし、自分の行きたい学校に行けなかった子供たちを、引き受ける高校が必要である。	
13	参加者の色々な意見を聞いて良かったと思う。このような会を1回だけではなく、数回開いてほしい。先生方、子どもたち、保護者、地域の人たちが連携をとってこのような会で、話し合えるような機会ができることを望んでいる。	
14	少子化に伴い学校数を減らすということのみ考えるのではなく、専門の先生がいない学校が、専門の先生がいる学校とITなどを使って連携し、授業を受ける方法はどうか。	各高校では、生徒の進路、興味・関心につながる授業、教育を行っている。このような多様な教育を展開していくために、本県の高校では、1学年160名という適正規模を設けている。このことが中学校と高校の大きな違いである。

4. 美馬市・つるぎ町

	質疑・意見の要旨	質疑に対する対応
1	海部高校のアンケートに関連して、生徒たちが考えるデメリットとはどのようなものか。	海部高校のアンケートで、生徒達が挙げているデメリットは、学校全体のまとまりがなくなり団結力が弱まる、学校全体が騒がしくなる、などである。
2	単に財政的、少子化のみの視点から再編を進めるのではなく、地域に根ざした高校づくりにも重点を置いて、再編を考えて頂きたい。また、再編が過疎化に拍車をかけていく面もある。地域の活性化という意味で、県の施策とともに再編を考えて欲しい。	
3	高校は、預かった生徒をいかに成長させて卒業させるかをテーマとしている。教育委員会では、何を持って教育効果が上がったと判断するのか。小規模校でも教育効果を上げるために頑張っている。その日常を見に来て欲しい。	卒業後、その高校で培ったもの、自分が得た事柄がよかったと思える、また、それを卒業後に活かせる生徒が多い学校は、教育効果が上がったと言えるのではないかと思う。
4	障害児教育諸学校の再編はどうなるのか。特別支援コーディネーターを全県立学校に配置したということだが、どのような教員が配置されたのか。	障害児教育諸学校の再編については、「障害児教育改革検討委員会」において検討を進めている。特別支援コーディネーターは、特別に配置するのではなく、各学校で、教員の中から1名を任命している。
5	平成17年度末を目途に高校再編方針を策定するとあるが、あと半年で結論を出さなければ間に合わないと思う。教育委員会としては、具体的にどこどこを再編するという案を、あらかじめ持っているべきだと思うが、今の考えを知りたい。	将来の生徒数の減少を考えると、この地域の学校数は4校から3校となる。現時点では具体的な再編案は持ち合わせていない。地域の方々の意見を聞きながら、どのような統合再編が良いのか考えていきたい。
6	旧美馬郡内の4高校は、全国に誇る色々な実績を上げ、魅力ある学校づくりに取り組んでいる。高校再編は避けて通れないが、このような素晴らしい取り組みを生かし、統合を進め、さらに素晴らしい高校になるようにして頂きたい。	長年それぞれで培ってきた特色ある教育や伝統を継承し、発展させながら新しい高校づくりを進めてまいりたい。
7	少子化の数値を確認して、今回の再編は仕方ないと感じた。高校再編により、生徒が、今以上に目的、目標が見え、やりがいのある高校生活を送れるようにして頂きたい。また、専門性を高められる学科の検討を要望する。	
8	美馬市に2校残ったと仮定すると、生徒の人气が集中する高校とそうでない高校が存在することが考えられる。普通科が2校になる場合、委員会としてどのように展開していくのか。同じ地域で生徒の希望に大きな偏りがあることは好ましくない。再編を契機に、それを解決する方向性を見つけ出して欲しい。	普通科高校は、可能であれば各地域に複数おき、適正配置に努めていきたい。その際、単位制高校、総合選択制、コース制などにより特色化を図ることも大切である。
9	普通科では高校間隔の隔たりをなくし、脇町に居たから脇町高校へ行った、穴吹に居たから穴吹高校に行ったと言えるような学校づくり、美馬市の中で、統合した高校になれば、レベルの違ったメンバーと一緒に勉強することが、これからの教育であると思う。	県教委においては、1人でも多くの生徒が行きたい学校に入学できるよう入試制度の改善などを行っており、今後、再編の中で魅力ある学校づくりを進めていくことが課題である。

5. 三好郡

	質疑・意見の要旨	質疑に対する対応
1	<p>高校再編を教育の面からだけで見てもいいのか。なぜ、人口が減っているのかを説明してから議論して欲しい。林業も農業も衰退している。それが人口や生徒数が減少している一番の理由であり、もし、国や県が力を入れていけばこのような事態にならなかったと思う。県教委は、3校から2校という前提で話を進めているが、やり玉に挙がるのは三好高校である。</p>	<p>人口の減少には様々な要因がある。高校教育は、将来の進路、興味・関心に応じて多様な教育を行うことが求められており、小規模化すればそれが難しい状況になる。生徒数の減少を考えると、三好郡では3校体制が難しい状況であり、どの高校が無くなるということではなく、どんな学校が必要なのかについて、地域の皆さんと共に考えるためにこの説明会に臨んでいる。</p>
2	<p>各高校が小規模化するので、どのように活力を持たせるかという議論なら分かるが、生徒が減ったから学校を減らすという説明なら誰にでもできる。もう少し頭を使ってはどうか。</p>	
3	<p>三好高校の卒業生は、地域の発展のために、中心となって活躍している。専門教育の重要性を、義務教育からきちんと教えるべきではないか。今までの小・中・高・大の教育が悪かったのではないか。教育委員会が考えている再編の方向をこの説明会で見直すのか、教育委員会の姿勢なり考え方を聞きたい。</p>	<p>教育改革を推進するに当たっては、常に児童生徒の視点が求められており、高校再編においても、単なる数合わせではなく、子供達にとって、活力と魅力ある学校づくりを進めていきたい。</p>
4	<p>美馬郡が4校から3校にとどまり、三好郡の人口が多いのに3校から2校になるのは、なぜか。</p>	<p>両地域の生徒数は同程度であるが、将来の学校数については、工業高校の設置など、現状の学校数を踏まえ提示している。</p>
5	<p>三好郡の発展を考えると、農業とか林業とか商業の地場産業の担い手、後継者の育成が大事になるが、地域の特性や要望に応じた教育をして頂けないのか。</p>	<p>県教委では、これまでも時代の流れの中で、学科再編などを通じて、新たな時代に対応した学校づくりを進めてきた。</p>
6	<p>「80人を2年連続して下回ると統合を検討する。」とあるが、実業高校では、80名を緩和して、60名程度にしていただけないか。</p>	<p>三好郡では、3校体制の中、農業科商業科の併設により三好高校の学校規模を維持してきたところである。</p>
7	<p>愛媛県では14校に農業科があるのに、徳島県は阿波農業高校だけになるのはなぜか。</p>	<p>愛媛県は、本県より多くの人口を要しており、学校数も多いが、愛媛県の農業高校についても課題があると認識している。</p>
8	<p>パブリックコメントでたくさんあった意見は、尊重していくのが民主主義のセオリーではないか。</p>	<p>パブリックコメント制度は、アンケートや住民投票のように単に賛否や意見の多い少ないを問うものではなく、多数意見も少数意見も一意見として扱うことになっている。</p>
9	<p>我々過去の人間が、とやかく言ったところで、少子化は着実に進んでいる。生徒や保護者がどういふニーズを持っているかが大切ではないかと思う。</p>	
10	<p>井川中学校は164名だが、今年のバレーボールでは、県下で準優勝した。生徒数が少ないから、教育効果は上がらないというのはおかしい。三好郡がおかれた地域性を頭に入れてほしい。山の上に住んでいて、駅まで遠く、美馬郡へ行くことは難しい。</p>	<p>小中学校とは異なり、高校が小規模化すると、多様な教育の展開が難しくなり、部活動においても十分なサポートができない状況が生じる。</p>
11	<p>三好高校に林業科を設置してほしい。三好高校の卒業生は地域で活躍しているが、今、国をあげて環境への取り組みが求められているときであるので、三好高校に林業科であるとかバイオであるとか地域で活かせる専門教育を要望する。</p>	

12	本当に、子どもたちが何をしたいのか、どのような学校へ行きたいのか。大人の意見だけでなく、子どもたちの意見が大切であると思う。	まずは、このような地域別説明会で、子供たちの意見も含め、保護者や学校関係者の方々からご意見を頂きたいと考えている。
13	縮みのスパイラルではなく、伸びのスパイラルにしていく努力、つまり、三好郡に今までのように 3 校をおいて、人数が増えるような、地域が活性化し、発展させるような努力をする考えがあるのかどうか聞きたい。	農林業の発展については、県をあげて取り組むべき重要な課題と認識している。教育委員会としては、今後の生徒数の減少を踏まえ、これから高校生活を送る子供達のことを考えて行かなければいけないと思っている。地元の高校を選択する子供達が増えるような観点から、新しい学校づくりを考えて行きたい。
14	将来の道州制を考えれば三好郡は四国の中央である。農業科と商業科のある三好高校を残すのが当たり前である。	
15	三好郡の 3 校は全て必要であると考え。なぜなら、農業の経験のない者が、三好郡を支えることはできない。また、普通科も伝統があり、統合するのは非常に難しい。	
16	私は、2 時間もかけて歩いて三好高校に通った一人であるが、教育の機会均等という観点から三好高校の存続をお願いする。	
17	私は、三好高校の役員をしていたので、この説明会の開催を知った。あまりにも、広報がお粗末ではないか。	説明会の広報については、学校を通じて、全保護者に開催案内を配布した。高校関係者は高校から、地域の方々には、新聞・テレビ・県のホームページで広報を行っている。
18	県教委は、三好郡の将来の学校数を 2 校体制にするとしているが、見直す気があるのかないのか。	三好郡において、3 校から 2 校という考えに変わりはない。どこの高校が無くなるとか、統合されるということではなく、どんな教育が必要なのか。また、求められるのか、地域の方々と考えていきたい。
19	我々は、三好高校の存続を言っている。なぜ、存続を検討しなすと言えないのか。	生徒が減るということは、それぞれの高校において、今までの教育ができないということになる。生徒数も、教育内容も共に重要であり、総合的に考えていく必要がある。このまま、3 校体制で行くと、池田高校も含めて地域の高校の活力が失われてしまう。
20	一番知りたいのは、私達の子供達が高校に行くときに、高校の姿がどうなっているかである。県として、いつ頃までに、再編を進めるつもりなのか、伺いたい。	高校再編は、平成 30 年度までに、段階的に進めることにしている。全ての地域が一緒というわけではなく、それぞれの地域の状況により異なってくる。

6. 勝浦郡

	質疑・意見の要旨	質疑に対する対応
1	私は、勝浦高校の卒業生として高校の存続を要望する。上勝町勝浦町にとって、若者定住は課題となっており、高校が地域にあるということは大きい。また、勝浦高校は地域に根ざした教育も行っており、生徒を大事にしてくれる学校である。勝浦高校教育振興会としても、今後ともバックアップしていきたいと考えている。	勝浦高校は勝浦郡にとって唯一の高校であり、地域振興上も大きな意義を持っているが、地元からの進学率が低い状況にある。
2	勝浦高校は、地域の心臓である。もし廃校になると、地域から生徒の姿が消え、ミカン農家の衰退や若者の農家離れを招く恐れがある。私達は、高校の存続の署名活動を行い、6,369名の署名を集めた。	今後の生徒数の減少などから、「現状の存続は困難」となっており、地域の方々の意見も参考にしながら、地元生徒の進学動向などを踏まえ、総合的に検討していくこととしている。
3	勝浦高校などの定員を減らさないため、徳島市中心部の定員を絞ればよい。小さい学校はダメというのは、金の論理であり、教育の論理ではない。小規模校は小規模校なりの特色を作ればよい。	生徒募集の設定については、生徒数の増減、生徒・保護者の進学希望状況等を勘案し設定している。
4	具体的な知恵を出しあって、勝浦高校を活性化させられるなら、他の市町村から入学を希望する人数も増え、勝浦郡内から外部へ流れる生徒も減り、存続も充分に考えられると思う。	
5	勝浦高校は、小規模校だったからこそ子供の良いところを引き出せたのだと思う。大きい学校も小さい学校もあり、子供が選択できることが大事だと思う。大きい学校で、切磋琢磨して学ぶこともあるが、小さい学校で何かを磨いていく力を身に付けることもできる。	勝浦高校の場合、小規模校になり、希望者数も減ってきている。地元の中学校の入学者数もだんだんと減ってきており、子供も親も地元高校の良さは認めながら、行きたい学校を選択している状況である。
6	勝浦高校で、日本の伝統芸能の指導を行っているが、学校が無くなると、小松島まで行って指導は難しいので、後継者育成ということからも、存続して欲しい。	
7	現在の入試は、成績の優秀な生徒にとっては、みんなより早く合格が決まっているかもしれないが、前期、後期、二次募集に落ちて、15の春に泣いている生徒もいる。行きたい生徒が行きたい高校に全員が入れるようにするのが、教育の在り方だと思う。	
8	今日は、勝浦高校をなくすための説明会ではないということ、理解する必要がある。募集定員の60名を増やす方法は、6月・9月の進路希望を多くし、70名になれば県教委も考える。高校は希望する生徒がいる限りなくならない。PTAと保護者が納得しない限り、なくすことはできない。	
9	医療福祉専門学校は難しく、入学したい生徒もたくさんいるから、勝浦高校に来れば医療福祉専門学校に進学できると、全県的にアピールすれば、進学希望者も増えると思う。	

10	地元自治体としては、勝浦高校を存続させて欲しいと思っている。教育の基本は、数や学力だけでなく、おもいやりや優しい心である。そうしたことを基本とし、地域のバランスに配慮した再編であって欲しい。	
11	都市部に何もかも集中するのではなく、政策的に定員の多いところを少なくすればよい。今は国際化社会であり、開発途上国から 2 割でも 3 割でも生徒を招けば、国際貢献もできる。	
12	私は、教育委員会への要望ではなく、住民の皆さんへのお願いをしたい。私達は子供が小中学校の頃からもっと教育に関心を持って、勝浦高校への進学率を上げることが必要である。そして、子供達が勝浦高校に行きたい、親が行かせたいという高校にすれば、教育委員会も方向性をきっと変える。だから、お願いだけでなく、私達が、もっと教育に関心を持っていくべきではないか。	

7. 那賀町

	質疑・意見の要旨	質疑に対する対応
1	高校再編に関しては、教育の機会均等という観点から、最低限のことは県が行う必要があると思う。確かに、適正規模でのメリットも、小規模でのデメリットも良くわかるが、那賀高校が驚敷からなくなるということになれば、子供達や保護者に負担がかかることになる。そのようなことも考慮していただきたい。	那賀高校は、旧丹生谷地域にある唯一の高校であり、地域の特殊性は認識している。
2	那賀高校から国公立大学へ行くようになると、人は集まってくると確信している。日亜化学など地元には素晴らしい企業があり、ここに入れるぐらいの学力をつけて頂きたいと思う。	
3	那賀高校は那賀町唯一の高校であり、阿南市へ通学するとなると、鉄道がないのでバスで通学することになる。遠距離で、経済的にも負担が大きいので、再編を検討する場合には、地域の特性に十分に配慮して頂きたい。	地元生徒の50%を越える50数名の方々が那賀高校に進学している状況である。地理的条件や交通の利便性などから今後の方向性を検討する必要がある。
4	那賀町的那賀高校というニュアンスだが、阿南市・那賀郡の中での那賀高校の位置づけはどうなっているのか。また、阿南市・那賀郡の中での再編を考えないのか。	那賀高校は基本的に那賀町の子供達の高校教育の場であるという認識である。仮に、阿南市を含めて考えた場合、那賀町の生徒が阿南市の高校に吸収されるといった不利な状況も予測される。
5	再編に当たっては、地域バランス、交通の利便性などに配慮するとともに、市町村合併の動向も勘案しながら、高校の配置を検討する必要があるとしているが、那賀高校の位置づけを、伺いたい。	中山間地域については、進学希望、進学実態等を踏まえながら、その方向性を検討していく必要がある。この地域に関しては、他の地域と異なり、地理的条件を勘案しながら、再編を考えて行くこととなる。
6	統合基準について、80名を遵守するのはどうかと思う。将来的には、70名60名と、動く数字であり、そういう数字にとらわれて再編するというのは、納得がいかない。那賀町は、県下の6分の1という広大な地域を有しているため、経済的な理由から高校に行けない子供が出てくる心配がある。	1学年80名の統合基準については、国の基準に沿った内容であり、1学級40人のクラス編成については、本県の場合、弾力的に運用している。
7	6月の進路希望調査がどの高校に行きたいを示した数字だということがよく分かる。しかし、家庭状況等を勘案した、9月あるいはそれ以降の希望調査の方が、より正確になっているのではないか。	進路希望調査は、6月、9月の2回行っており、そのうち、6月については、生徒の意向が最も表れた数字であると認識している。
8	生徒がどのような顔をして学校生活を送っているかを見て、その学校が魅力ある学校なのかどうかを判断して、それを再編の視点に加えて頂きたいと思う。	那賀高校の生徒を拝見し、礼儀正しさや対応の素晴らしさを感じたところである。
9	説明会は、ここだけでなく、那賀町は70キロ余りの距離があるので、2カ所3カ所で開催していただき、広く意見をとり上げて頂きたい。	まずは、このような地域別説明会で、保護者や学校関係者の方々からご意見を頂きたいと考えている。今後とも様々な形でご意見を頂ければと考えている。
10	那賀高校を見ていると、少人数を活かすことによって、高校が活性化しているような気がする。統合基準をもう一度考え直して頂けないのか。	現在は小規模化しているものの、80名の生徒数があり、活力もある。しかし、やがて60名50名となる。そうすると、本当に、生徒の興味・関心、進路の希望に応じた多様な教育が展開できるのか疑問である。
11	那賀高校は木沢・木頭の人にとっては、大切な学校なので少人数であったとしても存続をお願いしたい。	那賀高校が魅力ある学校づくりを行い、活力を維持し、希望する生徒が増えていくことが、地域にとっても望ましい方向であると考えている。

12	徳島県の教育財政問題と高校再編の関連はあるのかどうか、また、どのように動いているのかを教えてください。	厳しい財政状況の中で、高校の施設・設備については、校舎改築、耐震改修も含め、順次整備する必要がある、高校再編の状況を見極めながら、教育環境の充実強化を進めていくこととしている。
13	那賀高校は、中学校が即、高校になったような学校と思う。数は少ないけれども、いろんなタイプの生徒が学んでいる。那賀高校がなくなると、高校進学が閉ざされてしまう生徒が増えていくのではないかと思います。地元として、しっかり支えていくので、そのようなことも考慮して頂きたい。	那賀高校と地元中学校では、連携型中高一貫教育を実施しており、地域に根ざした学校づくりを進めて頂いている。生徒数は減少していくが、今後とも、地元の方々と共に、魅力ある学校づくりを進めていきたい。

意見・感想

1. 鳴門市

(1) 再編の必要性と考え方

1	今後の再編に当たっては、子供達が多様な教育を受けることができるよう子どもの視点に立って進めて欲しい。
2	鳴門市における高校再編は必要であると思う。新しい高校の開校時期、学科、コース等、早期に示すことが重要であると思う。
3	全県的な高校再編を考えるこの機会に、再編に組み入れられなかった高校についても、魅力ある学校づくりを検討し、実施して欲しい。
4	1学級の生徒数を30人にすれば、160名募集の高校では、4学級から5学級となり、教員数も増えるし、生徒に対する目配りも効くようになる。
5	学校規模、適正規模もさることながら、地域性にも配慮し、地域の児童生徒の進学希望がかなえられるよう検討をお願いする。
6	3校を2校にという、狭く小さい考え方から全県一区的な視野に広げ、魅力ある高校を創るという考えでやって欲しい。
7	再編の時期について、わかり次第、できるだけ早期に具体的に知りたい。
8	段階的に高校再編を進めるとのことだが、その順位を検討する場合には、東南海、南海地震等の危機管理の点についても一考されたい。
9	説明は分かりやすかった。今後、再編が身近なものとなるよう情報を知らせて欲しい。
10	鳴門市以外からの入学者が半数を占めている高校について、地域別での説明会で十分なのかと思う。
11	パブリックコメントは、どういう形で取ったのか。市役所などにアンケートを置くべきだ。
12	鳴門市も広いので、2カ所に分けて説明会を開いて頂ければ、より多くの意見が出ると思う。

(2) 活力と魅力ある学校づくり

1	国体などへの競技力の底辺拡大のためにも体育科設置は必要と感じる。
2	資格取得という視点から、看護科の設置の検討をお願いしたいと思う。
3	専門学科を充実させて、魅力ある高校にしていけば、他の校区から子供達が集まり活力が出ると思う。
4	鳴門市は、渦潮などの観光や「第九」日本初演の地なので、そのようなことが学べる学科があってもよいのではないかと思う。
5	再編は仕方ないと思うが、食物や介護のように将来資格を持って就職できる学校、魅力ある学校を設置して欲しい。
6	高校の授業の中で、あらゆる資格が取得できるようにして欲しい。
7	市立鳴門工業高校で培ってきた工業教育の側面を残して再編し、再編を機会に、特色を生かした学校づくりをお願いしたい。
8	普通科高校の充実を図るという視点から、再編されない高校は、進学校としてのレベルアップに努めて貰いたい。
9	中高一貫教育校については、城内内高校には、少し距離があるので、検討をお願いしたい。
10	市立鳴門工業高校の機械コース及び環境コースについては、再編後、総合技術高校で対応すべきである。

(3) 存続，再編など高校のあり方

1	現行の，特徴ある高校3校は，残して欲しい。
2	再編後は，普通科高校1校，専門高校1校で良いと思う。
3	再編について，鳴門市で3校より2校になるというのは，少子化の流れの中では，仕方ない。その際，工業科は残して欲しい。また，新設高校の設置場所は，市立鳴門工業高校の敷地が良いのではないかと思う。
4	鳴門第一高校の改築は，現状の敷地では無理がある。市立鳴門工業高校との統合がチャンスである。
5	市立鳴門工業高校と鳴門第一高校を統合することにより，新しい高校を新設して欲しい。鳴門市2校の中で互いにがんばる必要がある。
6	新しい高校の校名には，地元の地名（鳴門）をぜひ入れて欲しい。

(4) その他

1	地域性を尊重することは必要だが，どうしても徳島市内の高校が優遇されているような印象を受ける。中学校から高校に進学する場合，通学区域で募集することなく，全県一区として，公平に機会を与えるべきと思う。
2	再編と高校入試のあり方を合わせて見直す必要がある。
3	再編の有無に関わらず，生徒は先生を選べないので，先生の質も考えて欲しい。

2. 阿南市・那賀川町・羽ノ浦町

(1)再編の必要性和考え方

1	再編については、妥当であると思う。この方向で改革を期待したい。
2	少子化のため、学校の再編は、当たり前の話だと思う。少人数で好きなスポーツもできなくなるなど、再編の必要性があるのは、必然であると思う。前向きな考えをしていかなければいけないと思う。
3	生徒数を満たすためだけの高校再編になってほしくない。子どもたちが生き生きと活動できる高校・学科に再編して欲しい。
4	生徒数が減るから統合するというのではなく、少人数でも教育効果のある高校運営や地域の中で高校を育てるという視点で考えて欲しい。
5	生徒数が少なすぎても、多すぎても困ると思うが、適正規模の160人ぐらいなら問題ないと思う。また、1クラス40人を25～30人ぐらいに減らした方がよいのではないか。
6	保護者としては、少人数では競争もできないし、ある程度競争がないと子供も伸びないと思う。
7	少子化の進行の中で適正規模も見直されるべきではないかと思う。
8	できるだけ地元の高校に通学できるよう、必要と認められる高校は、残して欲しいと思う。
9	再編により、通学が困難になる事について十分考える必要がある。
10	家計の負担、子どもの体力的負担、時間の有効活用ができるよう、考慮していただきたい。
11	海部郡の生徒達が海部高校を選ばず、阿南地区に流れる場合、阿南地区の生徒があぶれ、希望の所へ行けず汽車通学をせざるを得ない状況がある。
12	4校から3校への統合再編は、生徒数の減少からやむを得ないと思う。
13	阿南市の4校について、今後どのような再編になるのか、具体的に示して欲しい。親も子供も一番に知りたいのはそこだと思う。
14	高校再編の具体的時期について知りたい。
15	地域別説明会を設けて下さっているのに、参加者が少ないのは残念だ。こういう機会に大勢の人に意見交換をして貰いたい。

(2)活力と魅力ある学校づくり

1	生徒数が減少する中での再編は仕方ない。魅力ある学校づくりとして、福祉科などの教育を考えて頂けたらと思う。
2	食物科は、小松島西高校1校だが、南にもできないか。
3	国際化に対応するため国際英語科のような特色のあるクラスをつくって欲しい。
4	阿南市には多くの企業があり、企業と連携する中で生徒を育てる、ものづくり学科のような学科があれば良いと思う。
5	再編する場合、普通科ばかりを重視するようなことのないよう検討して欲しい。
6	普通科高校が、それぞれで独自の特色ある分野を出せるような高校になればいいと思う。
7	落ちこぼれをできるだけケアするような学校、誰も不合格にならない学校を作ってはどうか。
8	高校の施設設備の良い学校、安心して通学できる学校を希望する。
9	再編においては総論賛成、各論反対というよりも、県教委の強いリーダーシップにより、進めていかなければならないと思う。そのために、学校(生徒)・保護者・地域などと連携し、適切な処理を行って欲しい。
10	高校再編に当たっては、保護者や子供達の意見を参考に学科を見直し、子供達が自信を持って選べる高校にして欲しい。
11	新しい学校づくりを進めるに当たっては、保護者だけでなく、教育経験者、一般企業の人、地域の方々などの意見を聞くようにするのもいいと思う。

(3) 存続，再編など高校のあり方

1	阿南市には，海部郡，小松島市，勝浦郡から流入する生徒も多い現状があり，生徒数の減少のみで学校数を減らすのは避けるべきであると思う。現状の4校の存続を希望する。
2	専門学科が大切という参加者の意見があるが，普通科の方がもっと大切だと思う。普通科2校はぜったい残していただきたい。
3	生徒の進学希望の7割が，普通科希望であることから，普通科2校，専門学科1校で，願います。
4	富岡西高校，富岡東高校が，皆が行きたい学校となっていると思う。阿南工業高校，新野高校の再編を行い，普通科に負けない学校を作って欲しい。
5	阿南工業高校と新野高校を核に新しい学校づくりを進め，富岡東高校の商業科も含めて考えてはどうか。工業科，農業科，商業科の教育を1つの学校で学べる総合高校ができると思う。

(4) その他

1	素晴らしい先生の授業をインターネットで自宅で受講したりして，卒業認定を行うことはできないのか。
2	親の立場から，子供を産み育てることの大切さを教育に取り入れて欲しい。
3	徳島市内の普通科高校などを自由に受験できるチャンス子供達に与えて欲しい。
4	地域を1つの枠として，学校の枠を越えた部活動の展開はできないのか。
5	体育系の部活動をしている場合，顧問の先生の人事異動があり，専門的に教えることができる先生が高校にいない場合がある。人事面の配慮を希望する。
6	理数系の先生が文系教科を教えるなどということはなくして欲しい。生徒指導の教員を増やして欲しい。
7	再編の検討と共に，やる気のおきる教育行政，特に校長に責任のある教育実践ができるよう格別の配慮をいただきたい。
8	小規模校の教員について，教員派遣制を行うなどの工夫はできないのか。
9	教員の適性に配慮し，教職員の資質の向上を第一に考えて欲しい。
10	高校再編も必要だが，先生の指導力アップ教育も必要だと思う。
11	他県の高校のホームページを参考に，高校をアピールしてくれることを期待する。
12	高校生や高校を卒業したばかりの若い人達の声を反映させる場があればと思う。

3. 吉野川市・阿波市

(1)再編の必要性と考え方

1	高校再編は、単に生徒数減少に対応するためではなく、個々の高校を今以上に充実させるために行って欲しい。
2	高校再編は 15 年スパンだけでなく、30 年スパンでみるなど長期的な視野を持って検討すべきではないでしょうか。
3	児童数の減少に伴い、高校再編は仕方がないという事が、理解できた。各高校の特色を残したままで、いい状態の再編を希望する。
4	行財政優先で小規模校が存続できない動きに危機感を持っている。小規模校のメリットとして、一人一人の生徒が主役になり、教師や友達と人間的なふれあいが深められる教育を大切にしていきたい。
5	1 学年 80 名ではなく、60 名 2 年連続維持できない場合に統合を検討したらどうか。
6	行きたい希望の多い高校を残してはどうか。そうすれば納得できると思う。
7	普通科偏重が解消できない限り、高校再編は難しいと思う。
8	再編はしかたないと思うが、保護者として一番に考えるのは、再編により、交通の便が悪くなることである。部活動で遅く帰って来るのが心配である。
9	生徒数が減少する中、学校数を減らすのは理解できるが、子供のことを一番に考えて、行って欲しい。
10	高校の数が減るのは仕方がない事で、進め方が大事である。
11	十分な意見をもらい、時間をかけて進めていくべきだと思う。上から下への流れで、学校をつくるのではなく、必要に応じたものをつくるべきと思う。
12	説明会が開催される段階では、すでに再編ありきである。問題提起型の話し合いから始められないのか。

(2)活力と魅力ある学校づくり

1	高校卒業後の就職等を考えると、調理師などで外食産業への就職は、魅力的である。農業との連携で、地産地消の観点から、食物科の設置はどうか。
2	専門学科と専門学科を一緒にした学校を作れば、生徒の幅広い関心に応えることができる新高校ができると思う。
3	地域が学校を育て、地域が子供を理解し、自己実現を支援することが大切であると思う。

(3) 存続，再編など高校のあり方

1	阿波農業高校は子供達にとっては必要な学校なので，そのことを頭に入れて，再編の検討をしていただきたい。
2	高校の統合は仕方がないと思うが，旧阿波郡から阿波西高校がなくなってしまうと，通学が不便になる。
3	連携型中高一貫教育を行い地域に密着している阿波西高校はなくさないで欲しいと思う。
4	阿波高校を残して欲しい。
5	阿波農業高校を残して欲しいとの意見があるが，私は普通科の方がもっと大切と思う。
6	生徒が減っているので，5校を4校にすべきである。吉野川市2校，阿波市2校で考えて欲しい。
7	阿波市吉野川市の高校数は，5校から4校ではなく，早く5校から3校にすべきであると思う。
8	普通科3高校と専門学科高校1校でバランスが良いと思う。
9	農業高校の存続は，国家的な政策であり，残して欲しい。その場合，商業高校との統合がよいと思う。
10	5校が4校になるということで，学校規模，教育内容を考えると，鴨島商業と阿波農業を統合して農業科商業科を持つ高校を作っていただきたい。
11	希望の多い阿波高校と中高一貫教育の川島高校，阿波西高校の3高校で普通科教育を行っていただきたい。
12	阿波高校と阿波農業高校が連携をしてはどうか。生徒数が少なくなるのであれば両校を1校にして校舎はそのまま使用するなど工夫をしてはどうか。

(4) その他

1	進学先が高校までか，それより先を目標にしているかで，高校の選択肢は変わる。子どもたちの力を伸ばし，子どもたちの希望をかなえてくれるような教育を望む。
2	前期後期選抜について，前期合格率低く設定する必要があるのかと思う。又，一般企業では経費削減が言われている中で，二度の受験は経費が必要となり，世間の考えとは矛盾しているように思う。
3	公立高校がほとんどを占める本県であるが，毎年募集定員と希望人数に大きな差があり，涙をのむ子がいる。もっと募集定員を増やしてはどうかと思う。
4	通学区域に関係なく，子供が希望する高校を受験できるようにして欲しい。
5	中学校でも，多くの部活動が廃部になっており，中学生を高校がバックアップするような体制を整備してはどうか。
6	授業や部活動において，それぞれの専門の教職員を配置して欲しい。
7	小規模校に対応して，専門教科の先生が数校を兼任することはできないかと思う。
8	世界史，地理，日本史の専門科目は，それぞれ専門教員が3校間を移動して受け持てばよいと思う。
9	プロフェッショナルとしての教員を育成して欲しい。教職員のレベルが低下している。教員採用試験のあり方に問題がある。

4. 美馬市・つるぎ町

(1)再編の必要性和考え方

1	子供達の立場に立って、子供達が本当に行きたい高校に再編して頂きたい。
2	高校は、教職員の為でも、親の為でも、町の為でもなく、生徒の為に存在するということを忘れず、生徒達の未来創りに向けて、取り組んで頂きたい。
3	生徒数が少ないから十分な教育ができないと言うのはおかしいと思う。良いところが残せるように、いろいろと考えて欲しい。
4	美馬市、つるぎ町の中学校では、ほとんど1クラス30人程度なので、きめ細かい指導ができればよいように1クラスの生徒数を減らすべきだと思う。
5	大規模校もあり、小規模校もあり、いろいろな形態の学校があっても良いのではないか。
6	県西部の地域に住んでいる者としては、高校数が減って選択の幅が少なくなるのは、少し不安である。地方に住んでいる者にとっては、近くの高校へ行きたい希望があるので、そのあたりを考慮して欲しい。
7	県下の地域を小さいエリアで考えるのではなく、もっと広い範囲で高校再編について考えるべきではないか。
8	自分が行きたい学校への交通の便が悪く、あきらめてしまうという事を聞いたことがある。交通の利便性等も考えて欲しい。
9	教育委員会は、県の財政が苦しいことを前面に出すことが大切だと思う。
10	再編後の跡地利用等について、地域に役立つものに作り替えるなど、校舎や敷地をそのまま放置することのないようにして欲しい。
11	4校から3校へはやむを得ない。
12	子供達にとって、より選択肢が多いことが理想であり、高度な専門性が身に付けられる5～6校の高校を設置すべきである。
13	高校再編をするのであれば、早く対応して実行してもらいたい。

(2)活力と魅力ある学校づくり

1	統合再編の際、中高一貫教育や、総合学科や福祉科の設置を考えて欲しい。
2	社会に適應できる子供を育成するために、看護科など職業学科を持つ高校を設置してはどうかと思う。
3	教育の幅を広げるため、商業科と工業科を統合させ、生産から販売・経営まで学べる産業経営科を設置して欲しい。
4	統合再編された場合、新たな部分も欲しいが、今までの特色も残して欲しい。就職につながる専門学科の設置を検討していただきたい。
5	現状の各学科はできる限り残しながら統合を考えるべきだと思う。普通科、工業科、商業科を残すと共に、ニーズに対応した学科を新設してはどうか。
6	生徒のやる気や目標を引き出せる、生徒の個性を生かす教育ができる高校を目指して欲しい。
7	高校再編は、しかたない事だと思うが、その際、生徒のために最新の施設設備を整備して欲しい。
8	魅力ある学校づくりについて、ある程度具体的な構想を示し、保護者、生徒、教職員、地域の方々の意見を聞く方が良いのではないかとと思う。

(3) 存続，再編など高校のあり方

1	貞光工業高校について，就職・進学ともに実績があり，社会からも，認められている。県西部の工業高校の中心校として全学科の存続と，施設整備の充実をお願いする。
2	美馬市・つるぎ町でも，貞光工業高校は多方面から来ているので，4校存続も可能なのではないかと。
3	生徒の希望が多いため，地域に2つの普通科高校が必要である。
4	受験する生徒のことを考えた場合，美馬市に普通科高校が2校も必要なのか。
5	美馬市・つるぎ町では，普通科高校1校，総合学科高校1校，専門学科高校1校の3校体制が望ましい。
6	貞光工業高校に美馬商業高校をもって行き，新しい総合産業型の高校を作るべきであると思う。脇町高校，穴吹高校，新高校の3校体制で進めてはどうか。
7	脇町高校は，これまでも進学の実績があり，今後も生徒や保護者の期待に応えるべきであると思う。普通科高校は2つ必要であり，もう一校は貞光工業高校と美馬商業高校の統合再編を望む。
8	長期的に考えると，美馬市・つるぎ町では，普通科高校1校と総合高校1校が適当ではないかと。その際，脇町高校と穴吹高校で普通科高校1校として，貞光工業高校，美馬商業高校で工業科商業科の高校1校が考えられる。

(4) その他

1	フリーターの若者達が増える中，将来何になりたいかを真剣に考え，目標を持って3年間過ごせる学校を作って欲しい。
2	学力格差が広がらない方法を考えて下さい。
3	美馬市・つるぎ町の学校をすべて単位制にし，各高校の持つ教科を選択できるようにすればどうか。
4	教育活動について，民間に委託できる部分は委託してはどうか。
5	少子化の中で，再編しか道がないように思うが，社会人枠を設けて，高校中退者の受け入れを考えてはどうか。
6	地域の中で自分の希望する高校に行けるように入試制度の見直しを希望する。
7	生徒たちが希望する高校に行けるようにしていただきたい，無理して希望もしていない高校に進学しなくてもよいように考えて欲しい。
8	行きたい高校に行けることは，素晴らしいことだと思う。そのための努力も必要であり，格差がなくなるとは思えない。
9	小中学校だけでなく，高校も個に応じた教育をすべきだと思う。そのために教員数を増やして欲しい。
10	学校の設置のあり方よりも，教職員の資質をどのように向上させて行くのか心配である。
11	高校だけでなく，これからの少子化に向けて，小中学校のあり方も考えなければならない。

(2)活力と魅力ある学校づくり

1	環境，福祉問題などは，国はもとより世界的な問題であり，環境科学，福祉科学等の学科が必要である。
2	県西部に，5年制の看護科の設置を早急に行っていただきたい。
3	三好高校に林業科を再度設置していただきたい。
4	地域の特色を活かした学科を新設して欲しい。
5	勉強は出来ないがスポーツは出来る生徒がいると思うので，体育を主とする高校を作って欲しい。
6	少子高齢化時代ではあるが，せめて，教育だけは，素晴らしい環境設備の中で学習させて欲しいと思う。

(3)存続，再編など高校のあり方

1	三好高校は，必要である。高校を希望する子どもが存在する以上なくすべきではない。
2	三好郡には3高校が是非とも必要であり，存続を強く希望する。
3	現状の3校を残す形で，進学対応の普通科，商業科，農業科，その他の専門学科という形で学校を作って頂きたい。
4	三好郡の3高校は，各々が個性，特性を発揮していると思うので，3高校を2高校に精選することは難しいと思う。
5	三好郡の子供達が，普通科，商業科，農業科，工業科を選択できる教育環境を維持してもらいたい。
6	教育内容も大切だと思うが，一定の生徒数も必要と感じる。地元の子供たちが行きたいと思う学校づくりのために再編を進めるなら賛成である。私は，普通科高校1校と普通科と専門学科を組み合わせた1校の2校体制がベストと思う。
7	生徒数が減っていくことが分かり，3校は維持するのが困難と思った。子供の7割が普通科を希望しているため，その希望に沿った再編であって欲しい。
8	少子化が進む今日，再編は避けて通れないが，三好郡は，普通科高校が2校，専門高校が1校であるので，地域的な点から専門高校も残して欲しい。
9	三好郡に2校残るとすれば，池田高校，辻高校の2校とする。
10	三好郡の高校は，海部郡のように，1校にして，農業科，商業科，普通科の3学科を持つ総合大規模校をつくるのがベストである。
11	将来に展望のない池田高校こそ再編するべきである。

(4)その他

1	地域に根ざした特色ある教育を行うためには，地域の人材に協力依頼し，地域で子どもを育てて行く事が必要ではないか。
---	---

6. 勝浦郡

(1)再編の必要性和考え方

1	県教育委員会は、意見を聞くのも大切だが、子供達の教育に最良の方法を、責任を持って検討してもらいたい。
2	生徒が増えれば高校を増やし、減れば統合する。教育不在の感がある。
3	数の論理はやむを得ない。税金は有限である。町民は何もしないで要望ばかり述べるのはおかしい。
4	6月、9月の進学希望調査については、中学生は、「行きたい学校」ではなく、「行くのに便利」だから決めているのではないか。
5	県立高校は、一定の範囲内から、どれだけの生徒が通学しているかという考え方に立つべきである。県下各地の高校を平準化することなく、オンリーワンの高校をめざすべきである。
6	少子化が進む中、子供の教育は重要である。県の予算の中で、他を切りつめて、教育予算をもっと増やせないのか。
7	経済的な理論も大切だが、個に応じた教育を充実させていくことの大切さも感じた。
8	将来的に存続が困難であることは理解できる。ただ、統廃合については在校生の教育環境の確保について考慮して頂きたい。募集停止については、新入学生がそのことを理解したうえで勝浦高校を選択できるようにして頂きたい。

(2)活力と魅力ある学校づくり

1	食料の安定供給のため、農業科の存続は必要であると思う。
2	農業の専攻科をもうけ、勝浦の地域産業に若い力を呼び戻せるようにしてはどうか。
3	バイオ技術等の修得などオンリーワンの高校を目指して欲しい。
4	福祉関係の専門学科をつくり、医療福祉専門学校へのコースなり、介護福祉士等の資格取得を目指してはどうか。

(3) 存続，再編など高校のあり方

1	小規模校の教育にはメリットが多く，存続の方策をぜひ検討していただきたい。特に，将来の農業（園芸）を考えた存続策を検討する必要がある。
2	勝浦高校は，子供を大切にしてくれる高校であり，自然と共に生き，責任を持った労働をする事が出来る高校であり，このような高校を残して欲しい。
3	基本的に高校教育とはそこが必要だからそこへいきそこで学ぶものだと思う。人数が減ったから，なくすのではなく必要な者がいる限り続けて欲しいと思う。勝浦高校が行っている保育所から老人ホームまで幅広い人とのふれ合いは，人格の形成に大変役立っていると思う。
4	一人一人を大切にしている教育を実践している勝浦高校は，徳島県の誇りである。大規模校では埋もれてしまって，能力を發揮できない子どもも，勝浦高校の教育環境の中で，のびのびと成長できていると実感する。存続できるように，考えて欲しい。
5	農業における専門的な教育内容を，バイオ研究や遺伝子研究に変え，高等専門学校にしてはどうか。
6	不登校気味の生徒を，勝浦高校に受け入れていくというのも一つの方向ではないか。
7	勝浦高校を農業の専門校として，分校として存続して欲しい。
8	少人数であっても，小松島高校の分校として残すべきである。
9	高校がなくなると町がさびれるので，分校として存続はできないのかと思う。

(4) その他

1	勝浦町民がもっと教育に関心を持ち，勝浦高校の学力レベルを上げるべきである。そうすれば，勝浦中学校から勝浦高校に進学することになる。
2	上勝町，勝浦町では，中学校に町費の ALT が常勤し，子供達は国際感覚を身に付けてきており，高校でも引き続き行って欲しい。
3	後期の試験で，募集定員を増やして，中学浪人がないようにして欲しい。
4	高校入試では，どのような生徒を育てるかという説明がない。高校再編を行う場合は，そのような方針を先に決定してから行うべきでないか。
5	特色をアピールして町外からの入学者を確保して欲しい。また，町内の子供達が進学するよう，地域や保護者が一丸となって子供達に勝浦高校の素晴らしさを伝えていきたい。
6	勝浦高校では，民芸部が活躍し，勝浦座の後継者育成にも貢献している。徳島の文化を消さないで欲しい。

7. 那賀町

(1)再編の必要性と考え方

1	地元中学校が統合した際に、その再編のメリットを経験しており、学校が小規模化し、少人数のために、生徒の素晴らしい力が発揮できないようなことになってはいけないと思う。
2	那賀高校は生徒数の減少により統合基準を下回ることが予測されるため、統合せざるを得ないと受け取れた。地域の実状にあった基準も考えてもらいたい。
3	那賀高校は、小中学校とも交流があり、地元にとって大切な高校である。適正規模をかざして、画一的に高校再編を行うのはやめてもらいたい。
4	小規模校を、生徒数や予算だけで無くすような高校再編であってはならない。他府県の高校再編の実態も調査し、地域性に十分配慮した再編をお願いしたい。
5	地域との関係が密な学校と、そうでない学校を同じように考えないでほしい。地理的要因は大きいと思う。
6	那賀町全体を考え、地理的条件と地域バランスの課題を重視してもらいたい。
7	那賀町1町で一つの地域になっているが、阿南市・那賀川町・羽ノ浦町との関係が深いのでその地域も含めて、考える必要がある。
8	都市部の高校と郡部の高校をひとまとめにして、高校再編を考えてほしくない。交通の利便性など地域差を考えて欲しい。
9	那賀町ばかりでなく、阿南市等から来る生徒の動向をどのようにとらえているか。町外の生徒がたくましく、大きく成長している実績もある。
10	自宅から通学できることが他の地域では、当たり前だから、自宅から高校に通学できるように、通学距離、通学時間を考えた高校再編をして欲しい。
11	都市部で数校ある内の1校が消えることとは意味が異なり、地域のただ1校の学校が消えることは、その地域の衰退を意味する。
12	できるだけ多くの人のために、地域や学校での説明をしてほしい。

(2)活力と魅力ある学校づくり

1	那賀高校のような連携型中高一貫教育など、地域に根ざした高校教育というのは非常に重要なことであると思う。
2	高校を選ぶ理由は、自宅から近い事、進学に力を入れてくれる事などであり、そのことから、那賀高校は少ない生徒数でも、応用クラスをおき、魅力ある教育を行い、いかに、よい大学に行けたかにより、生徒を集めてはどうかと思う。
3	存続させるためには学校規模を維持することが必要であり、地元の多くの生徒を那賀高校へ進学させ、高校は魅力ある学校となるよう努力する必要がある。
4	学校、家庭、地域社会が、学校を存続させるために、もっと考えていかないといけない。今の状況では、学校がなくなっても仕方がない。

(3) 存続，再編など高校のあり方

1	少子化にあたり，那賀高校の再編の必要性は理解できるが，できるだけ現在のままお願いしたい。
2	阿南市内の生徒は 3 高校のいずれにも通えるというのに，那賀町に住む生徒は唯一の選択肢も取り上げられるということか。自宅からしか高校に行けないという那賀町の子供達がいる限り，那賀高校は必要だと思う。
3	地元の高校に進学し，家庭の状況も考えながら，将来は進学なり就職なりするという生き方を否定してしまう様な方向は困る。那賀高校の存続を希望する。
4	那賀高校がなくなることは，那賀町の遠方の生徒にとっては大変なことである。教育内容の充実を図り，存続できるような再編をお願いしたい。
5	広大な面積を有する那賀町から高校をなくすことがないように，那賀高校の存続を要望する。
6	那賀高校がなくなり，阿南市の高校へ進学しなければならなくなった場合，どれくらいの生徒が，経済的な事情で高校進学をあきらめなければならないのかを考えていただきたい。
7	中学 3 年生の子供が，那賀高校がなくなるのだったら高校へ行くのはやめようかと言い出した。分校でもいいから，那賀町に 1 校は残して欲しい。
8	再編は国の基準だけで決めるのではなく，地理的条件など地域の現状を考慮するべきである。最悪の場合，分校のような形になっても，存続できればと思う。
9	那賀高校を基本に，阿南市，小松島市など周辺高校と統合することも考えて欲しい。
10	那賀高校が，もっと魅力ある学校になるために，人数だけでなく何が足りないのか考え，質の向上をお願いする。那賀高校をなくすことには反対だが，変わることは必要である。
11	那賀高校で，中学校の時に不登校であった生徒，活躍できなかった生徒が，生き生きと活躍している姿を見て，地元だけでなく，周辺の地域にとっても，なくてはならない学校だと思った。
12	那賀高校では，バレーボールがしくて進学してきた生徒達，また，カヌーがやりたくて他県から来た生徒がいる。このように，目的を持って入学してくる生徒達のこと考え，再編を進めていただきたいと思う。

(4) その他

1	那賀町在住の有識者を高校再編の議論に加えて欲しい。存続か廃校かの議論ではなく，よりよい方向を探っていく議論をすべきである。
---	---

13. 用語解説

用語解説

あ

・インターンシップ

在学中に自らの興味・関心，将来の進路希望に関連した企業等で就業体験を行うこと

か

・学校間連携

再編における学校間連携は，統合されるまでの間，統合される高校間で行う開校準備や活性化策，生徒の学習機会の拡大を図るために行う連携

・学校設定科目

学校が学習指導要領に示す教科に属する科目以外に，地域，学校及び生徒の実態，学科の特色等に応じ，名称，目標，内容，単位数などを独自に設定した科目

・キャリア教育

望ましい職業観や勤労観及び将来に関する知識や技能を身に付けさせるとともに，自己の個性を理解し，主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育

・コース制

学科の中で，特定の分野を重点的に学習できるように編成された制度

例えば，普通科の商業コースなどでは，商業科などの専門教科をある程度の単位数取り入れ，その分野に重点をおいた教育を行う。

さ

・専攻科

修業年限1年以上の課程で，高等学校の専門学科での3年間の学習を終え，さらに専門的な知識・技術を深めたり，あるいは職業に関する資格を取得するため，より専門的な学習を希望する生徒の継続教育の場として設置されている。

・専門学科

専門学科には，農業，工業，商業などの職業教育を主とする専門学科と，芸術，理数，外国語など普通科に近い専門教育を主とする専門学科があり，便宜上，前者を職業学科，後者を普通科系専門学科という。

・総合学科

普通科，専門学科に並ぶ第3の学科であり，幅広く開設された選択科目の中から，生徒一人ひとりが自分の興味・関心，将来の進路に合わせて主体的に選択履修でき，普通教育と専門教育を総合的に学習できる学科である。

・総合選択制

学科やコース・類型等における学習を基本にしながら，その枠を超えた科目の選択を認めるなど幅広い科目選択ができる制度

た

・単位制

学年の区分がなく，入学から卒業までに決められた単位を修得すれば卒業できる制度

・中高一貫教育校（連携型・併設型）

連携型 市町村立中学校と都道府県立高等学校など，設置者が異なる学校間で教育課程の編成や教員・生徒の交流等の連携を深める形で中高一貫教育を実施ものである。

併設型 高等学校入学者選抜を行わずに，同一の設置者による中学校と高等学校を接続する形で中高一貫教育を実施するものである。県が実施するためには，県立中学校を設置することになる。

・昼夜間定通独立校

昼間および夜間に授業を行う定時制と自宅で自学自習を基本とする通信制の2つの課程を持った独立した学校である。生徒の生活に合わせた自由な学習時間帯が選べるのが特長である。

な

・2学期制

現行の3学期制と異なり，1年間の前期後期の2期に区分する制度で，週5日制のもとでは，授業時間の確保に有効であるとともに前期・後期に分けたカリキュラム編成も可能

・ネットワーク化

自校で学習できない専門分野の教育を相互に補完し，新しい教育や多様な教育を可能にするために行う学校間の連携

14. 審議經過

(1) 審議日程

審議日程

回	日 程	内 容
第 1 回	平成 1 6 年 8 月 6 日	1 . 本県の高校教育の現状について 2 . 高校再編の視点について
第 2 回	1 0 月 2 7 日	1 . 高校の現状説明 ・海部高校 ・勝浦高校 2 . 総合技術高校の開校について
第 3 回	1 2 月 2 1 日	1 . 将来の学校数について
第 4 回	平成 1 7 年 2 月 1 日	1 . 中間取りまとめについて
第 5 回	4 月 2 8 日	1 . パブリックコメント実施結果について 2 . 地域別説明会の開催について
第 6 回	8 月 1 日	1 . 地域別説明会の実施結果について 2 . 活力と魅力ある学校づくりについて
第 7 回	1 0 月 2 5 日	1 . 高校教育のあり方について 2 . 新学科の設置について
第 8 回	1 2 月 2 2 日	1 . 具体の高校再編について 2 . 地域協議会のあり方について
第 9 回	平成 1 8 年 2 月 1 日	1 . 最終取りまとめについて

(2) 審議内容

中間報告に至る審議内容

1. 基本的な考え方

協議内容	論点整理
<p>高校再編は、学校数を減らすだけの議論ではなく、生徒数が減少する中で、高校教育をどう行うかがテーマである。その際、一定の学校規模、教育環境がなければ、十分な教育ができないと考えている。</p> <p>高校再編に伴い、生徒数、部活動が増え、より良い教育環境が提供できれば、地域の方々などの理解も得られるのではないかと考えている。</p> <p>学校数については、地域の教育環境の変化に配慮し、必要最小限の再編を念頭に置いたものであり、具体的な再編においても、生徒たちができるだけ多くの学科、学校を選択することができるよう、工夫していく必要がある。</p> <p>普通科高校については、そこを目指す生徒の希望を考慮しながら、再編を検討すべきである。</p> <p>高校再編は、小規模化している高校を対象にすべきであり、現在職業学科の高校に小規模化した高校が多い状況があるため、そのあたりを中心に、検討することになる。その際、仮に職業学科を統合再編する場合は、現在有している学科はそのまま存続させるということを基本において進めていきたいと考えている。</p> <p>今後の統合再編の中で、商業科、工業科などの教育内容を高度化するなど、時代に対応したものにすることが必要である。</p> <p>異なる学科を持つ高校再編の場合は、異なった専門分野の学習を提供することにより、多様な生徒の学習ニーズに応えられる教育が可能となる。さらに、時代に対応した新しい学科を設置し、特定の専門分野に限定されない知識や技術を持った人材の育成を目指すこともできる。例えば、工業、商業両方の専門分野を学び、ものづくりからビジネスまで一貫した商品についての知識や技術をもった幅広い職業人の育成を目指す新しい学科が考えられる。</p> <p>統合再編にあたっては、統合前のそれぞれの学校や学科が培ってきた教育システムを生かすとともに、新しい教育システムを構築し、魅力ある学校づくりを目指す必要がある。</p> <p>本来、中山間地域に唯一設置された高校は、地理的条件や交通の利便性から、他地域への通学が困難な状況があるため、生徒や保護者の進学希望に応え、高校教育の機会を確保するという観点から設置されたものである。しかし、最近では、生徒や保護者のニーズの多様化に伴い、公共交通機関の利用や道路事情等の改善などにより、以前より多くの生徒が、他地域の高校に進学する状況がある。こうしたことから過疎化や少子化などにより、小規模化が著しい高校については、地域に1高校しかない場合であっても、法律に基づく統合基準により、統廃合を検討する必要がある。</p> <p>高校再編では、教育の多様性を確保するとともに、地域性にも十分に配慮すべきである。</p>	<p>高校再編の考え方</p> <p>普通科高校のあり方</p> <p>小規模化する高校・学科のあり方</p> <p>魅力ある学校づくり</p> <p>中山間地域の高校のあり方</p>

2. 再編の視点

協議内容	論点整理
<p>生徒数の大幅な減少は、全県的な高校再編を検討する上で大変重要な要素である。そこで、生徒数の減少が、高校ごとの募集定員の推移などに、どのような影響を与えるのか検討しながら進める必要がある。</p> <p>高校の適正規模を4学級～8学級と考えており、今後の高校再編においては、適正規模の最低ラインである160名を下回る高校に、主に視点を当てて検討する必要がある。</p> <p>募集定員の設定では、生徒に行きたい学校を選択してもらおうということを大きな目標とすべきである。進路希望はできる限り生かす必要がある。募集定員の設定では、色々な状況があるなかで徳島県の高校教育をどうすべきかを考えながら行う必要がある。</p> <p>現状では、普通科等と職業学科・総合学科の比率は概ね7対3ではあるが、募集定員の設定では、普通科等と職業学科・総合学科の比率は特に決めることなく、生徒の希望を優先した設定に努めている。</p> <p>進学希望の状況を判断し、翌年度の募集定員を設定している。要素はそれだけではないが、進学希望は可能な範囲で配慮する必要がある。</p> <p>職業学科の定員設定では、生徒の進路希望と産業構造との関連をどう判断すればよいかを考える必要がある。</p> <p>生徒の進学希望があり、進学・就職などが安定している、あるいは将来的に伸びる可能性のある専門学科については、政策的に優遇することも必要である。</p> <p>通学は毎日のことで、近い場合は自転車で行けるが、遠距離は通学費がある。その費用が少ない方が保護者としてはよいと考えている。</p> <p>学校の周辺地域にはどれくらいの生徒がいて、どれくらいの経済的な活動をしているかなど、地域の特徴も加えて高校の配置を考えていく必要がある。</p> <p>海部郡での統合再編に際して、なぜ海部郡だけがその対象になるのか、全県公平にすべきではないのかという指摘があったように、地域の公平性の観点・バランスは持つ必要がある。</p> <p>徳島県には、県西部、県東部、県南部の3つの地域で一つの固まりがある。高校再編を考える際、この3つのブロックで考えてもよいのはいいか。特に、県下の職業学科をどのように再編するかを考える際、この3つのブロックで考える必要がある。</p> <p>今回の統合再編を一部の地域の教育改革として捉えるのではなく、徳島県全域の教育改革として捉え、これを機に、それぞれの高校が将来にわたって活力ある教育活動を展開し、生徒の夢の実現が図れるような、学校づくりを行うべきである。</p> <p>城西高校など3高校に設置している総合学科については、新しい制度であり、導入については、3高校の成果を見ながら、県下全体の統合再編の中で、検討していく必要がある。</p> <p>統合再編では普通科に職業学科的なものを加味して考えることも多くなるが、その際、本県の総合学科の現状と将来を考える必要がある。</p> <p>特色ある・魅力ある学校には、保護者は、お金がかかっても子供を入学させる。例えば、同じ商業科にしても今の時代にあった個性のある商業科など、各学科で特色を打ち出していく必要がある。校内で、いかに特色ある・魅力ある学校にしていくのかということを考えていく必要がある。</p> <p>高校教育は高度化する状況に対応していく必要がある。その際、特に職業教育において高度化への対応や特色ある教育を考える必要がある。それを実現するために、必要な教育環境はどういうものかを考える必要が</p>	<p>生徒数の減少</p> <p>高校の統合基準と適正規模</p> <p>生徒の進学希望と適正配置</p> <p>地理的条件と地域バランス</p> <p>魅力ある学校づくり</p>

協議内容	論点整理
<p>ある。</p> <p>農業科，工業科などでより専門的に学んでいく期間を設け，生徒達を作りあげる教育をこの再編の中で考えてはどうか。例えば，看護科などの専攻科では，高校3年間だけではなく，後2年専攻課程を設置している。専攻科の設置も高校再編の一つの方向ではないかと考える。</p> <p>生徒数が減って学校数を減らすということは，経営効率を良くすることであると思うが，その際，ある地域では学校数を減らし，別の地域では新しく施設整備しながら再編を進めるべきである。</p> <p>高校再編の視点には財政的な面もある。しかし，一番に考えているのは，生徒により良い教育環境を提供するということである。その次に，施設整備なども考えることになる。老朽化に伴う改築，統合再編に伴う改築，さらに財政状況も勘案し進めることが必要である。</p>	<p>効率的な施設整備</p>

3．将来の学校数

協議内容	論点整理
<p>具体的な高校再編を検討するに当たって，まずは，全県的な再編についての全体像とも言うべき，各地域における将来の学校数を検討し，それを踏まえ，各地域における具体的な統合再編のあり方の議論を進める必要がある。</p> <p>勝浦高校については，地域の生徒の進学希望の結果，高校における地元生徒割合が3割程度と，半数を大きく下回り，かつ，地域全体の高校生の多数が他地域の高校に自宅通学している実態があることを考慮し，検討を進めていく必要がある。</p> <p>勝浦高校は，ほとんどが徳島市などから通学をしている状況があり，はたして地域の高校といえるのかと考える。</p> <p>農業教育にとって，本当に勝浦高校で農業教育を行う必要があるのか，ほかにも農業教育を専門としている高校があり，本当に農業などを学びたいと希望している生徒に対して，例えば，学校の教員，施設，設備などの様々なハード・ソフトを集中し，特化した教育環境を整備，提供するという考え方もある。</p> <p>勝浦高校は，地域の受け入れ体制が整っていれば，園芸分野を生かして山村留学ができるような特色のある高校にすることができると思うし，そうすれば反響があるのではないかと考える。</p> <p>勝浦高校の場合は，別の高校で定員を確保するというでもいいのではないかと考えるが，県全体の専門教育の方向性も求められる。</p> <p>勝浦高校がなくなる方向になったとしても，そこでの教育内容等が他の高校に受け継がれば良いのではないかと考える。</p> <p>勝浦高校については，今後の生徒数の減少を考えると，現状での存続は難しい状況にあると考えられる。</p> <p>那賀高校，勝浦高校は，地元にとって，それぞれ重要な教育施設であり，特色ある学校づくりを行っているところであるが，一方，生徒数の減少，遠距離通学等の状況などがあり，総合的に判断する必要がある。</p> <p>地元生徒の進学割合が，那賀高校の場合は7割で連携型中高一貫教育を実施しており，勝浦高校の場合は3割となっている。今後，それぞれの現状を踏まえ，パブリックコメント等を通して幅広い意見もいただきながら，方向性を出していきたいと考える。</p>	<p>学校数と再編の姿</p> <p>勝浦高校</p> <p>那賀高校，勝浦高校</p>

協議内容	論点整理
<p>那賀高校については、今後の生徒数の減少を考えると、現状での存続は難しい状況にあると考えられる。</p> <p>美馬商業高校は来年度80名を切るため、再編について考えなければならない状況であり、仮に統合再編する際には、学校の良さを残す統合再編にする必要があると考える。</p> <p>県西部の美馬商業高校と貞光工業高校については、新しい高校を創るという考え方の中で、統合再編について検討していく必要がある。</p> <p>高校再編と合わせて、学校の施設整備をすることとしているが、阿南工業高校のように築年数の古い高校には、早く取りかかる必要がある。</p> <p>阿南市4校について、中長期的な視点に立ち、普通科と職業学科等の割合を考慮した場合、阿南工業高校と新野高校の統合再編を考えていけばよいと考える。特に、阿南工業高校は、校舎が老朽化している上に、土地が広いので、そこに、職業学科等を設置してはどうか、新野高校の総合学科の農業関係の系列にも十分に対応できると考える。</p> <p>鳴門市から、今後の生徒数の減少や学校施設の現状、さらには、市の財政状況等から、全県的な高校再編の中に鳴門工業高校を含めて検討するよう、県及び県教育委員会に要望書の提出があったため、今後、鳴門工業高校を含めた議論を行う必要がある。</p> <p>三好郡の生徒たちが行きたいと思う学校づくりのために再編を進める必要がある、辻高校と三好高校を統合再編し、普通科高校1校と普通科と専門学科を組み合わせた1校の2校体制が望ましいと考える。</p> <p>分校については、入学者が1学年30名を2年連続して維持できなく、その後も生徒数の増加が見込めない場合は、原則として翌年から募集を停止するという基準を設けており、今後とも、この基準を遵守し、適切に対応していく必要がある。</p>	<p>那賀高校</p> <p>美馬商業高校</p> <p>美馬商業高校と貞光工業高校</p> <p>阿南工業高校</p> <p>阿南工業高校と新野高校</p> <p>鳴門工業高校</p> <p>辻高校と三好高校</p> <p>分校の統合基準</p>

4. 再編の方向

協議内容	論点整理
<p>再編の対象となる地域では、統合再編後に、どう変わるのかということに関心があり、夢とか希望とかが盛り込まれていないと、地域の納得は得られないのではないかと考えている。</p> <p>統合再編をすることにより、学校が活性化する、生徒に元気がでる、教育サービスが向上するという要素の議論が今後必要になる。</p> <p>地域別の学校数とあわせて、高校再編の方向性とか、新しい高校のあり方、夢と希望のある学校づくりなどを出していく必要がある。</p> <p>高校再編を考える際に、細かい内容を取り除いて高校を配置してみるという考え方もあるのではないかと考えている。</p> <p>今後、再編の検討にあたっては、各地域ごとに、魅力ある学校づくりの視点も加えて、どのような再編が可能なのかということについて、検討していく必要がある。</p> <p>統合再編について、現状の数字合わせに終わらせるのではなく、生徒や保護者、教職員が、将来の夢や希望を託せるような学校づくりを行う必要があると同時に、地域の評価にも耐えられるものとする必要がある。</p> <p>海南・海部高校のアンケートでは、統合再編による新しい教育環境を、生徒達が肯定的に評価していることが分かるが、今後の具体化の中で、新しい要素を加え、生徒達が意欲を持って学べる魅力ある学校づくりを行う必要があると考える。</p>	<p>再編の方向</p>

協議内容	論点整理
<p>近くの高校へ行くという発想だけではなく、自分が勉強したいと思う高校で勉強ができる条件を整備するという発想もあると考える。</p> <p>かつてのように専門高校を卒業すれば就職できるという状況ではないので、各地域に商業高校1つ、工業高校1つ、農業高校1つを設置することは時代に合わないと考える。</p> <p>職業学科への進学希望が低い状況ではあるが、県内で、それぞれの職業学科の核になる高校を一つは残すという考え方が必要である。</p> <p>農業科、工業科などについて、選択と集中により集約化し、教育内容を高度化するなど、より良い教育環境が提供できるシステムを作ることが重要であると考えます。</p> <p>高校への進学は、まず普通科へ希望者が集まり、その次に工業科、商業科に集まり、最後が農業科という現状がある。農業の大切さを小さい頃から理解し、自ら農業高校に行くという状況をつくる必要がある。</p> <p>普通科高校でも、職業学科的な教育を行っているところがあり、今後の再編の中で、その必要性を位置づけることが重要であると考えます。</p>	<p>学校・学科の再編</p>

5. 期間

協議内容	論点整理
<p>平成30年度を基本としている理由は、今年1歳を迎える子どもが中学3年生になる年に当たるためである。</p> <p>平成45年度を設定している理由は、現在から30年度までが約15年であり、その後15年経過した平成45年度ということで設定した。</p> <p>施設整備の関係では、30年から35年程度経過した建物について改築している。平成45年度は、ほぼ30年先であり、施設整備とも関係してくる年数である。</p>	<p>期間</p>

6. 周知

協議内容	論点整理
<p>高校再編を進めるにあたっては、まず地元自治体や教育関係者などに現状説明をする必要がある。</p> <p>統合再編になる場合、学校の意見を聞き、それぞれ高校のメリットを生かすとともに、各学校の教育資産を残す統合再編にして欲しいと考えている。</p> <p>再編の全体像とも言うべき、各地域の将来の学校数などを協議した段階で、中間取りまとめを行い、パブリックコメントや地域別説明会などを通じて、県民から幅広く意見を聞く必要がある。</p> <p>中間報告の周知については、一方的に情報公開するのではなくて、中間報告について理解をいただくために、十分に説明する必要があると考える。</p> <p>高校再編にあたっては、受験する生徒達が早い段階で知り得るように、周知期間を十分にとるべきであると考えます。</p>	<p>周知</p>

最終報告に至る審議内容

1. パブリックコメント・地域別説明会

協議内容	論点整理
<p>再編により地域から学校が減ることについては、理解が進んできており、パブリックコメントでは、その際の具体的な再編に関する意見が出てきている。今後それを生かしていく必要がある。</p> <p>当委員会は、今後、パブリックコメントの内容、地域別説明会での県民の声を踏まえて、検討を進める必要がある。</p> <p>パブリックコメントでは、魅力ある学校づくりという視点で再編を見ていると思う。今後そういう点で議論していかなければならないと思う。</p> <p>特定の高校を存続する声に対しては、地域別説明会において、生徒数の減少や高校再編の趣旨などについて十分に説明し、理解を求めていく必要がある。</p> <p>地域別説明会において、地域の方々が、夢を持って協力できるような体制とか、地域の方々の理解、協力の中で、新しいタイプの学校づくりを行うことを説明すれば理解が得られると考える。</p> <p>地域別説明会に本当に参加してほしいのは、児童生徒の保護者や地域の方々であり、開催日程については、そのことを考慮すべきである。</p> <p>パンフレットの内容は、中間報告の内容を分かりやすくしたものであり、高校教育の現状と課題を入り口として、高校教育のあり方、活力と魅力ある学校づくりを出口として考えている。</p> <p>パンフレットでは、活力と魅力ある学校づくりの部分が重要である。この再編はマイナスイメージが強いので、再編を進める場合は、地域の方々の知恵を借りながら活力と魅力ある学校づくりに力を入れる必要がある。</p> <p>地域別説明会では、参加されている方の地域の学校への愛着心、地域が支えている実態を聞かせていただき、改めて委員としての責任を感じた。</p> <p>地域別説明会では、地域の方々が、地域の学校のことをいろいろな角度から考えているということを感じた。全般的には、再編をすることは仕方がないという、前向きな意見が多かったと思う。</p> <p>一部の地域別説明会では、地域の教育を考えているのかと思えるような、少々逸脱した意見があったように思う。</p> <p>一部の地域別説明会では、感情論が先行し、熱い議論になったが、それだけ、各高校の卒業生、地域の方々が再編について興味関心を持っているということであり、その気持ちを無にしてはいけないと考える。</p> <p>地域別説明会では、生徒数の減少から再編を捉えていることがよく説明でき、分かって貰えたと思う。</p> <p>地域別説明会では、小さいお子さんの保護者の方の意見が少なく、それぞれに立場のある方の意見が多かったのが少し残念だったが、やらなければならないことへの理解が深まったのではないかと思う。</p> <p>地域別説明会では、生徒数の減少や、統合再編に関して何らかの方向を考えなければいけないということは理解いただけたと思う。</p>	<p>パブリックコメントへの感想</p> <p>地域別説明会の実施方法等</p> <p>地域別説明会への感想</p>

2. 活力と魅力ある学校づくり

協議内容	論点整理
<p>生徒たちが夢と希望を持って高校生活を送れるというだけではなく、地域の方々にとっても夢と希望を持てるような高校づくりを行う必要があると考える。</p> <p>再編は、これからの児童生徒にとって重要なことであり、当委員会では、卒業生の体面とかにとらわれた意見には左右されず、これからの児童生徒のための再編を考えなくてはならないと思う。</p> <p>地域別説明会での意見や、提出していただいた感想・意見の結果から、今後、教育内容の充実に視点を置いて、地域からいただいた要望を踏まえながら、再編による活力と魅力ある学校づくりの議論を行う必要がある。</p> <p>活力と魅力ある学校づくりは、生徒はもとより、地域にとっても、必要ではないかと考える。</p> <p>地域別説明会では、全ての地域が活力と魅力ある学校づくりについて、期待感をもっていると感じた。今後そのことを踏まえて協議を進めていく必要があると考える。</p>	<p>活力と魅力ある学校づくり</p>

3. 高校教育のあり方

協議内容	論点整理
<p>生徒数が減少する中、県の将来を担っていく人材を育成するという視点で統合再編を考えることが、高校教育に課せられた課題であると考えている。</p> <p>高校教育のあり方では、産業構造の変化や高度化に、高校教育はどう対応していくのか、また、そのことに再編はどう対応していくのかが課題である。</p> <p>活力と魅力ある学校づくりでは、魅力ある職業学科の高校をどの地域にどう設置するかが重要である。その際には、進学先、就職先も踏まえた検討をしないと、保護者、地域住民の期待に応えられないのではないかと考える。</p> <p>具体的な再編に当たっては、それぞれの地域の普通科、職業学科において、どのような教育を行うかなど、踏み込んだ検討を行う必要がある。</p> <p>地域別説明会では、高校再編だけで高校教育を考えていいのかという疑問がわいた。これからの高校教育のあり方、特に普通科教育とか職業教育のあり方をどのようにしたらいいのかということを考える必要がある。</p> <p>現在、各学校では特色ある学科、コースを設定して教育が行われているから、それを地域にどう存続させていくのか、或いは組み合わせていくのか、それが今後のテーマになると考える。</p> <p>各地域で、普通科高校と新しく再編した職業高校を設置するという内容を提示した方が議論として進んでいくのではないかと思う。</p> <p>現状の中で高校教育のあり方を考えると、再編までの間、充実できる場所もあると思う。再編される高校の教育内容を疎かにしないということも必要である。</p> <p>再編すると、生徒数が増えるから、生徒に目を配れなくなるというのではなく、すべての生徒にきめ細かく気を配れるような体制というのが必要ではないかと思う。</p>	<p>高校教育のあり方</p>

協議内容	論点整理
<p>学校を統合する際には、どういう学校をつくるかが、問われると思う。曖昧なきれい事だけでは済まされない状況になる。再編の問題は整理統合していく問題であり、その際に、こういう学校にしたいというのを検討しておく必要があると考える。</p> <p>教育内容が充実していれば、それに惹かれて生徒は行くのではないかと考える。その為に、各地域に目玉になる学科を、地域の方々々と協議しながら設置する必要がある。</p> <p>専門学科と専門学科を統合、併設、或いは今までの形にとらわれない専門学科の展開の議論を、柔軟な発想の中で進めて行かなければいけないと思う。地域を含めた中では、学科等の統合とか、新しい学科の設置とかが、さらに議論されるものと考えられる。</p> <p>普通科、専門学科等の配置について、普通科教育はもとより、できるだけ多くの職業教育が選択できるように、県内全体にバランスよく配置していく必要がある。</p> <p>職業学科どうしの統合や総合学科との統合によって、新しい高校に再編されると思うが、農業科、工業科、商業科などが、教育の説明責任を果たしていかなければいけないと考える。</p> <p>工業科と商業科では、就職の6割、7割がその専門を生かした就職をしており、再編後においても、必要な職業教育を進めていく必要がある。</p> <p>職業教育では、生徒が減少する中、各地域の特性等を踏まえ、基礎・基本の部分は各校で学びながら、機能分担とネットワーク化の中で、それぞれの学科間で連携を行い、相互補完を進めていく必要がある。</p> <p>職業教育では、農業、工業、商業がそれぞれ単独でなく、例えば工業と商業を一つの学校の中に併設することによって、より幅広い教育を考えていく必要がある。</p> <p>地域別説明会では、農業科を残してほしいという切実な意見が出ていた。農業を学んで生計を立てていくということは困難だが、人間が生きていく際は、他のどの学科よりも農業科は大事ではないかと考える。</p> <p>今は農業と関係のない民間企業が、ビジネスとして農業をやっている状況である。農業教育には農業後継者の育成という視点もあるが、会社組織による農業経営とか、これからの科学技術を取り入れた農業を考えて、魅力ある学校づくりを行ってはどうかと考える。</p> <p>高校再編では、職業教育のあり方を打ち出さないと、県民に対して説明責任が果たせたとはいえないと考える。</p>	<p>新学科の設置</p> <p>普通科専門学科等の設置</p> <p>職業教育のあり方</p> <p>農業教育のあり方</p>

4. 地域の望ましい再編の姿

協議内容	論点整理
<p>鳴門市では体育科の設置という要望があったが、鳴門市は、体育施設とかグラウンドが整っており、そういう施設があるところに設置した方が県下から生徒が集まりやすく良いのではないかと考える。</p> <p>鳴門市では、鳴門高校が普通科教育を担うこととし、鳴門第一高校と鳴門市立鳴門工業高校を再編し職業教育等を担い、体育科を新設することが望ましいと考える。</p> <p>阿南市・那賀川町・羽ノ浦町では、富岡西高校、富岡東高校が普通科教育を担うこととし、阿南工業高校と新野高校を再編し職業教育等を担い、ものづくり科を新設することが望ましいと考える。</p>	<p>鳴門市</p> <p>阿南市・那賀川町・羽ノ浦町</p>

協議内容	論点整理
<p>鴨島商業高校と阿波農業高校は、阿波中央橋を挟んでいるが、距離的にはあまり遠くはなく、農業高校に実習用のバスがあるので、それを活用する方法もあると考える。</p> <p>吉野川市・阿波市では、川島高校、阿波高校、阿波西高校が普通科教育を担うこととし、鴨島商業高校と阿波農業高校を再編し職業教育等を担い、食物科を新設することが望ましいと考える。</p> <p>美馬市・つるぎ町では、脇町高校、穴吹高校が普通科教育を担うこととし、貞光工業高校と美馬商業高校を再編し職業教育等を担い、産業経営科を新設することが望ましいと考える。</p> <p>三好郡では林業科の設置という要望があったが、時代の要請を考えると、森林環境なら理解できる。</p> <p>三好郡では、池田高校が普通科教育を担うこととし、辻高校と三好高校を再編し職業教育等を担い、森林環境科を新設することが望ましいと考える。</p> <p>三好郡では、池田高校、辻高校、三好高校を1つの高校に再編し、しっかりとした総合高校をつくり、そこに併設型中高一貫教育を導入することも考えられる。</p> <p>三好郡を1校にすると、三好郡の生徒にとって、地元での高校選択が狭まることとなり、地域の教育環境に大きな変化をきたすことになる。</p> <p>新学科の設置について、当委員会としては、こういう方向で行ってほしいという考えを示すべきであり、それぞれの地域で検討する必要があると思う。</p> <p>今後の新学科の設置については、より魅力ある学科名を考えていく必要があると考える。</p>	<p>吉野川市・阿波市</p> <p>美馬市・つるぎ町</p> <p>三好郡</p> <p>新学科の設置</p>

5 . 中山間地域の高校のあり方

協議内容	論点整理
<p>勝浦高校と那賀高校については、特別な地域の状況があり、それをどう調整していけばいいのかを考える必要がある。</p> <p>中山間の学校に関しては、進学を断念しなければならない子どもとか、下宿しなければ通学できない子どもとかが生まれないように慎重な検討をする必要がある。</p> <p>教育展開で懸念される分校のマイナス部分について、学校間連携などによって、できるだけ是正していく必要がある。</p> <p>勝浦高校について、将来の園芸のことなどを考え、農業の分校として、存続策を検討する必要があるのではないかと考える。</p> <p>那賀高校について、地域が広いという認識があり、また、地域との結びつきが強いことから、存続という方向が基本になると考える。</p> <p>今までの分校を、名称などで工夫をすることにより、実質的に分校であっても、活性化が図れるのではないかと思う。</p>	<p>中山間地域の高校のあり方</p> <p>分校における教育</p> <p>勝浦高校 那賀高校</p> <p>分校の名称</p>

6 . 地域協議会の設置

協議内容	論点整理
<p>全県的な高校再編について一定の方向が出た後に、学校関係者、保護者、地域代表の方が参加して改めて地域の意見を聞きながら、より具体的な学校づくりを考えていく必要がある。</p> <p>新しい高校のあり方を検討する際、当委員会の協議では限界があるのではないかと。そこで、一定期間、各地域に協議会的なものを設置し、地域や学校の代表の方々の意見を聞きながら、新しい高校のあり方を検討するような進め方を考えてもいいのではないかと。再編を一方向的に進めるのではなく、地域にとって望ましい再編の姿をもとに、例えば、来年には、住民参加による地域協議会のようなものを立ち上げ、私たちの検討を引き継ぎ、地域ごとに具体化していくことが必要ではないかと考える。</p> <p>当委員会では、各地域ごとの大枠を決めることになり、それを引き継ぐ組織があれば良いと考える。地域で、再編に対して、充分練るという状況がない中で、決めてしまうということは、強引という思いがある。再編のあり方を示す中に、そういう組織の考え方も入れられたらと考える。地域協議会では、それぞれの地域エゴ、都合ではなく、地域の特性や要望を踏まえた新しい高校のあり方を検討する必要がある。</p> <p>地域協議会は、いろいろな方が集まりいろいろな意見を言う地域別説明会のような会ではない。この協議会がどういう位置づけになるのか、どういう役割を担うのかをはっきりさせておく必要があると思う。</p> <p>地域協議会の運営は、当委員会が高校再編のあり方を議論して得た結果を踏まえた上で、今後のあり方を検討していくという運営にすることが大事であると思う。そこを押さえておかないと、また1からの議論を行うことになる。県教育委員会では、そのことを踏まえた指導をお願いしたいと思う。</p> <p>地域協議会は、できるだけ速やかに設置していただきたいと思う。特に設置場所、学校名、再編の時期、スケジュールなどの協議内容は、早く詰めて計画的に進めていただきたい。また、中山間の2地域については18年度から活性化に入れることが重要と思う。</p> <p>地域の高校のあり方は、再編後も考えていかなければならないことなので、地域協議会のような組織が、長くその高校のことを考えていく組織になって行けば素晴らしいと考える。</p> <p>地域協議会が、短期間で円滑な協議ができ、早期に再編の形が見えるように、取り組んでいただきたい。元に戻ることがないようにと考える。</p> <p>地域協議会では、様々な意見を出してもらい、その上で、今まで以上の高校を創る再編を行っていただきたいと考える。</p> <p>地域協議会には、保護者や学校関係者、地域代表の方々が参加し、新しい学校のあり方などについて、地域の意見を取り入れながら検討を進めていけば良いと考える。</p> <p>地域協議会の委員は、地域ごとに、必要性に応じて、柔軟に選考するのが良いのではないかと考える。</p> <p>統合までの間、相当、期間があると思う。県教育委員会は、再編に向けた学校間連携など何らかの支援措置を図っていくべきであると思う。</p>	<p>協議会の必要性</p> <p>協議会のあり方</p> <p>協議会の構成メンバー</p> <p>支援措置</p>

7. その他

協議内容	論点整理
<p>再編で学校が減ると空き施設ができる。それを地域でどのように活用していくか考える必要がある。知事部局と連携し、視野を広くして、いろいろな検討をしてほしいと考える。</p> <p>2つの高校を再編すると、1つの高校の跡地が残るが、その有効活用を図ることが大切であり、今後の課題とする必要があると考える。</p> <p>高校再編では、いつまでに、どのようなことをするかという目標を持つことも必要であると考え。</p> <p>地域協議会や具体の再編整備などについて、スケジュールの概要を示すべきであると考え。</p> <p>今回の全県的な高校再編が、今後の本県の高校教育のレベルアップに寄与することを望むものであり、そのような視点を持って、地域で検討を進めていただきたいと考える。</p> <p>再編される高校は、別の高校に吸収されるという考えではなく、よき伝統を継承し、再編によって新たな高校として再生されるという考えを持っていただきたいと考える。</p> <p>教育環境の整備は、ハード、ソフトの両面があるが、新学科の設置や学科再編とともに、教育の高度化に対応できる教員の養成、教員の資質向上がこれまで以上に必要であると考え。</p> <p>再編の方向を尊重する必要があるが、平成30年には現状と異なる状況も考えられるので、新しい時代の要請に応じて、柔軟に対応する必要があると考える。</p>	<p>跡地等の活用</p> <p>再編のスケジュール</p> <p>高校教育と高校再編</p> <p>再編計画の柔軟性</p>

(3) 設置要綱・委員名簿

高校教育改革再編検討委員会設置要綱

(設 置)

第1条 少子化の進行など社会環境の変化を踏まえ、中長期的な高校再編のあり方について検討することを目的として、高校教育改革再編検討委員会（以下「検討委員会」という。）を設置する。

(任 務)

第2条 検討委員会は、高校再編について総合的に検討し、教育委員会に検討結果の報告を行う。

(組 織)

第3条 検討委員会は、検討委員12名程度で構成する。

2 検討委員は、高校再編について優れた識見を有する者及び公募により選ばれた者を、教育委員会が委嘱する。

3 委員長は、検討委員の互選により選出する。

(会 議)

第4条 検討委員会の会議は、委員長が招集し、運営する。

2 委員長は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求めその意見を聴くことができる。

(庶 務)

第5条 検討委員会の庶務は、教育改革推進チームにおいて処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営に関し、必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

1 この要綱は、平成16年 8月 6日から施行する。

2 この要綱は、検討委員会の任務終了後は、その効力を失う。

委員名簿

氏 名	役 職 等	備考
齋 藤 昇	鳴門教育大学教授	委員長
栗飯原 一 平	東海運株式会社代表取締役社長	
秋 山 恵美子	一般公募	
金 久 博	P T A 連合会代表(小中学校,南部地域)	
桑 原 恵	徳島大学教授	
佐々木 茂	N H K 徳島放送局長	
椎 野 武 徳	徳島新聞社論説委員長	
高 畑 富士子	株式会社ときわ専務取締役	
徳 元 月 美	一般公募	
深 来 百合子	P T A 連合会代表(小中学校,西部地域)	
増 金 賢 治	徳島県町村会常務理事	
松 崎 美穂子	N P O 法人 子育て支援ネットワークとくしま理事長	